

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12

平成 7 年度発掘調査報告
(第 1 分冊)

平成 8 年 3 月

鎌倉市教育委員会



北条小町邸（北条泰時・時頼邸）跡



宇摩宮辻子幕府跡

序 文

鎌倉市教育委員会
教育長 米 倉 雄二郎

近年、鎌倉の街は、古い家屋や店舗の建て替えが相次いでいます。その中で、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事も多くなりました。このため昭和59年度からは国庫・県費の補助を受け、個人専用住宅等については鎌倉市教育委員会が独自に発掘調査をするようにしてきました。

しかし急速な再開発が進む中で、調査が順調に進んできたとはいえません。郷土の文化財を守るという事は国民の責務でありますから、当市のように市街地の中心と遺跡の中心が全く重なってしまうという条件のもとでは、特に市民の皆様のご理解なくしては、埋蔵文化財の保存や発掘は不可能であるといえましょう。皆様のご協力を願い申し上げるしだいです。工事計画策定に当たってはできるだけ早くから当委員会との協議を行い、文化財保護の方策を煮つめていって頂きたいと思います。

本書は平成6年度に、国庫・県費補助を受けて、鎌倉市教育委員会が実施した個人専用住宅・店舗併用住宅建設等に伴う発掘調査の記録です。本書が鎌倉の歴史を明らかにするために少しでも役立つ事を祈念すると共に、調査実施に際してお世話になった調査員・事業者・工事関係者をはじめ多くの方々に、心からお礼を申し上げます。

例　　言

1. 本書は平成7年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係わる発掘調査報告書（2分冊）である。
2. 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表のとおりである。
3. 現地調査及び出土資料の整理は鎌倉市教育委員会文化財保護課が実施した。
4. 出土遺物及び写真・図面等の資料は、鎌倉市教育委員会文化財保護課が保管している。
5. 各調査内容の詳細は、各々の報文を参照されたい。

総 目 次

(第1分冊)

序文	II
例言	III
平成7年度の概要	VI
1. 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下字天神前562番29地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	4
第二章 調査の経過	4
第三章 遺構と遺物	4
第1節 検出した遺構	4
第2節 検出した遺物	8
2. 北条高時邸跡 (No.281) 小町三丁目426番3地点	
第一章 調査地点の位置と歴史的環境	24
第二章 調査の概要	28
第三章 調査結果	30
第1節 各遺構面の概要と層序	30
第2節 検出遺構と出土遺物	32
第四章 まとめ	83
附編 北条高時邸跡の花粉分析	90
3. 宇津宮辻子幕府跡 (No.239) 小町二丁目389番1地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	127
第二章 調査の経緯	130
第1節 調査の経過と概要	130
第2節 層序	135
第三章 検出遺構と出土遺物	136
第1節 中世の遺構と遺物	136
第2節 小町大路確認トレンチの遺構と遺物	198
第3節 中世以前の遺構と遺物	202
第四章 まとめ	208
第1節 中世	208
第2節 中世以前	216
附編 宇津宮辻子幕府跡の花粉分析	256

(第2分冊)

4. 淨妙寺旧境内遺跡 (No.408) 淨明寺三丁目6番3外地点	
第一章 地理的・歴史的環境	5
第二章 調査方法と堆積土層	5
第三章 検出遺構	7
第四章 まとめ	8
5. 覚園寺旧境内遺跡 (No.435) 二階堂字平子412番外地点	
第一章 調査地点周辺の環境	16
第二章 調査の概要	19
第三章 検出された遺構と出土した遺物	22
第四章 調査のまとめ	34
6. 鶴岡八幡宮旧境内遺跡 (No.56) 雪ノ下二丁目75番16地点	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	53
第二章 調査の概要	54
第三章 検出された遺構	57
第四章 出土遺物	63
第五章 まとめ	68
7. 倉久保遺跡 (No.226) 山崎字清水塚1550番1外地点	
第一章 遺跡の立地と歴史的環境	85
第二章 調査の経過	87
第三章 基本順序	87
第四章 検出した遺構	87
第五章 出土遺物	94
第六章 まとめ	104
8. 北条小町邸跡 (泰時・時頼邸) (No.282) 雪ノ下一丁目377番7地点	
第一章 調査地点概観	125
第二章 調査の概略	125
第三章 検出遺構と出土遺物	136
第1節 概要	136
第2節 各節	139
第3節 人名木簡について	254
第四章 花粉分析	261
第五章 まとめと考察	271
第1節 遺構	271
第2節 遺物	275
特論 御所と北条氏邸	282

平成7年度調査の概観

平成7年度の緊急調査実施件数は先年度からの継続も含め13件で、対象面積は1,099m²である。前年度の10件、903m²と比較し、件数・面積共増加している。景気の後退現象を反映してか、共同住宅等との個人住宅の併用は新規の相談はない。それに対し、史上最低といわれる低金利を背景としてか、専用住宅建設は大きな変化はみせていないようである。埋蔵文化財包蔵地内での住宅建設等に係わる相談件数は537件と相変わらず多いが、従来集合住宅を建設するに適していると判断される土地取引・開発が、専用住宅建設として窓口相談を受けている状況である。今年度は9月～11月に現地調査が入らなかった時期があったが、例年のとおり梅雨の時期と年末から年度を越しての冬から春の時期、すなわち調査条件の悪い時期に調査が集中している。

調査原因の内訳は、集合住宅の建設に関するものが、前年度の継続のもの1件のみであり、今年度の特徴である。そのほか、個人住宅に係わる車庫造成が5件、専用住宅建設が4件、個人住宅建設ならびに宅地造成が1件、店舗併用住宅が2件であった。

平成6年度の特記事項としては天神山城で古代末から中世初頭の池の跡及び溝を検出した事や、永福寺跡で僧坊跡を確認した事、材木座町屋遺跡・若宮大路周辺遺跡群等で倉庫と考えられる遺構を確認した事、下馬周辺遺跡で現在の地形には全く兆候を残さない低地を発見し、そこに板壁建物を検出した事、台山遺跡で大規模な近世の造成地と道路・堀跡等を確認した事等が挙げられる。以下、各地点の調査に至る経過と調査成果の概要を紹介する。

1 天神山城 (No.384)

北野天神社を頂部に祀る天神山の南麓に所在する。平成5年9月、開発申請に伴う事前相談があり、試掘調査を実施したところ近世～古代に至る遺構面を確認した。このため2月13日から自己用区域を対象として調査を開始したが、基盤を形成している土層が流土化していたため調査が難航し、8月31日終了した。調査の結果近世の絵図に表された畠や溝、中世の池や溝、古代の堅穴住居や柱穴等を検出した。中世の池・溝は鎌倉時代の初期に埋め立てられており、平安時代末期に池が存在したことが推定され、永福寺以前に東国に池を持つ施設があった事が確認された。古代遺構は規模の大きな掘立柱建物で、瓦が出土している事から寺院の可能性がある。

2 覚園寺旧境内遺跡 (No.435)

覚園寺が所在する薬師堂ヶ谷に位置する。平成7年1月、自己用住宅建設に伴う事前相談があり、試掘調査の結果により車庫区域を対象に3月22日～4月10日まで発掘調査を実施した。調査の結果、14世紀後半～15世紀にかけて築造された掘立柱建物跡などが検出した。

3 極楽寺旧境内遺跡（No.291）

極楽寺旧境内の内、月影ヶ谷と呼ばれる谷の開口部に位置する。平成7年3月、確認申請にともなう個人専用住宅建設の事前相談があり、基礎が鋼管の杭打ち工法であるため埋蔵文化財に対する影響が予想されたため、試掘調査を実施した。調査の結果、地表下30cm以下に2面に及ぶ遺構面を確認した。このため事業者と協議したところ地盤が軟弱であるため設計変更は不可能である事が判明したため、文化財保護法第57条の2の届出を指導し、県文化財保護課の指導により、平成7年6月12日～同月30日まで発掘調査を実施した。その結果、中世の削平面・柱穴と共に古代の柵列と思われる溝を検出した。

4 台山遺跡（No.29）

台の集落が存在する谷の最奥部に位置する。平成7年4月、自己用住宅・地下車庫建設に伴う事前相談があり、掘削が深いため試掘調査を実施したところ、地表下170cmに岩盤を削平した遺構を確認した。このため事業者と協議し、工事の実施により遺構が損傷する事が避けないと判断したため、文化財保護法第57条2の届出を指導し、平成7年6月19日～7月6日まで車庫区域を対象に発掘調査を実施した。調査の結果、近世の道路・溝・堀・建物跡などを検出した。

5 材木座町屋遺跡（No.261）

材木座地区の大部分を占める平坦地に位置する砂丘上の遺跡である。平成7年4月、確認申請にともなう個人専用住宅建設の事前相談があり、基礎の掘削が深いため埋蔵文化財に対する影響が予想されるので、試掘調査を実施した。調査の結果、地表下84cm以下に2面に及ぶ遺構面を確認した。このため事業者と協議したところ、3階建てであるため設計変更は不可能である事が判明した。よって文化財保護法第57条の2の届出を指導し、県文化財保護課の指導により、平成7年6月19日～7月29日まで発掘調査を実施した。その結果、13世紀後半～14世紀にかけて築造された倉と考えられる方形堅穴状遺構や井戸跡など検出した。

6 永福寺跡（No.61）

国指定史跡永福寺跡の北東部に位置する谷の中央部に存在する遺跡である。平成7年2月、確認申請にともなう住宅建設及び宅地造成の事前相談があり、造成にかかる掘削が深いため埋蔵文化財に対する影響が予想されるので、試掘調査を実施した。調査の結果、地表下70cm以下に3面に及ぶ遺構面を確認した。このため事業者と協議したところ、設計変更の意志なく、また個人専用住宅の建設である事が判明した。よって文化財保護法第57条の2の届出を指導し、県文化財保護課の指導により、平成7年7月7日～8月31日まで発掘調査を実施した。その結果、13世紀後半～14世紀にかけて築造され永福寺の僧坊跡と考えられる礎石建物跡や井戸跡などを検出した。

7 極楽寺旧境内遺跡（No.291）

極楽寺旧境内の内、月影ヶ谷と呼ばれる谷の中央西側の壠塙状平地の先端に位置する。平成7年1月、確認申請にともなう個人専用住宅・車庫建設の事前相談があり、埋蔵文化財に対する影響が予想されるた

め、試掘調査を実施した。調査の結果、地上下135cm以下に3面に及ぶ遺構面を確認した。このため事業者と協議したところ地下駐車場の計画を断念する旨の申し出があり、地下駐車場がない形で文化財保護法第57条の2の届出が提出された。ところが6月になって計画変更があり、車庫を造成する事になった。このため文化財保護法第57条の2の届出の再提出を指導し、県文化財保護課の指導により、平成7年7月19日～8月2日まで発掘調査を実施した。その結果、中世の土丹積みの石垣状遺構を検出した。

8 十二所稻荷小路遺跡（No.321）

市の東部、武藏国六浦莊に通じる朝夷奈切通に近い、滑川南岸の平坦地の先端部に位置し、敷地の北端は滑川に接している。平成7年7月、地下室を伴う個人専用住宅並に車庫造成の事前相談があり、試掘調査を実施したところ地表下160cmで中世の岩盤削平面と溝を検出した。このため文化財保護法第57条の2の届出を指導し、県文化財保護課の指導により、平成7年8月4日～同月26日まで発掘調査を実施した。その結果、14世紀後半～15世紀にかけて造成された岩盤削平面と川に流れ落ちる溝や近世の井戸跡などを検出した。

9 建長寺旧境内遺跡（No.397）

市の中央部北側、山ノ内地区の南東部に位置する。鎌倉五山第一位の建長寺の旧境内地で、鎌倉街道中ノ道（山ノ内道）に面している。平成6年10月、一階が鉄筋コンクリート、二階が木造の個人専用住宅建設の事前相談があり、試掘調査を実施したところ地表下20cm以下に中世の地形層及び岩盤削平面と見られる層を確認した。このため文化財保護法第57条の2の届出を指導し、調査の打ち合わせを行ったが、建設計画が遅延し、平成8年2月1日付けで届出があった。このため引き続いて協議を行ったが、計画が再度延期され、同年5月15日付けで調査依頼があった。これにより調査方法・調査開始時期等の協議を行ったところ、事業者の意向により梅雨明け後に調査を開始する事で協議が整った。このため平成7年7月20日～8月31日まで発掘調査を実施した。その結果、14世紀～15世紀にかけて造成された地表面と掘立柱建物跡や井戸跡などを検出した。

10 若宮大路周辺遺跡群（No.242）

若宮大路の西側、六地蔵に近接した区域にあり、旧大町大路とされる道に北面した砂丘上に位置している。道の北側には佐助川が流れ、河岸段丘状に低くなっている。平成7年8月、建築確認申請に基づく個人専用住宅の建設ならびに車庫造成の事前相談があり、試掘調査を行って遺構確認を実施したい旨事業者と相談したが、敷地が狭く、既存家屋があるため試掘調査は解体後に行わざる終えない状態である事が判明した。このため近隣の調査結果から埋蔵文化財に影響が出ると判断し、文化財保護法第57条の2の届出を指導したところ、平成7年8月14日付けで届出があった。このため県文化財保護課の指導を得て事業者と協議し、解体後直ちに発掘調査を実施する事になった。よって平成7年12月18日～同12月29日まで調査を行い、倉庫と推定される方形堅穴状遺構等を検出した。

11 下馬周辺遺跡（No.200）

若宮大路の西側、六地蔵の南側に由比ヶ浜通りに北面して存在する。平成7年7月、RC造3階建店舗併用住宅建築の事前相談があり、試掘調査を行ったところ、地表下140cm以下の14世紀代の4面以上の中世地業面を確認した。このため設計変更をして遺跡を保存できないか協議したが、地盤が軟弱であるため設計変更ができない事が判明した。このため文化財保護法第57条の2の届出を指導し、調査方法等を協議したが、基礎工事の掘削が浅いため上留めを打つ計画がなく、敷地境界から安全後退距離を取って調査せざるを得ない状況であった。このため県文化財保護課の指導により、自己用住宅区域について平成7年12月11日～平成8年1月14日まで発掘調査を実施し、14世紀代の基礎構造が残る板壁建物や井戸等を検出した。

12 米町遺跡（No.245）

鎌倉地区の中央部南側、大町四ツ角の南側に位置する。調査地は逆さ川の南岸、砂丘の北斜面に位置し、調査地の北側の逆さ川縁には米町の碑が建てられている。平成7年11月、軽量鉄骨造3階建ての自己用店舗併用住宅の事前相談があり、試掘調査を実施したところ、地表下30cmで方形堅穴状遺構を確認した。このため文化財保護法第57条の2の届出を指導を、調査の打ち合わせを行ったが、建設計画が遅延し、平成8年2月7日付けで届出があった。このため引き続いて協議を行ったが、計画が再度延期され、同年3月18日から調査を実施する事で協議が整った。

13 名越ガ谷遺跡（No.231）

鎌倉地区の中央部の南東側にある名越大谷の中央部に位置する。調査地は逆さ川の南岸、川から3m程高い平地で、調査地前面で大谷へ入ってきた道が祇園堂切通（トンネル）へ向かう道と、谷奥から名越切通に向かう道とに分岐している。平成7年9月、自己用住宅・地下車庫建設に伴う事前相談があり、掘削が深いため試掘調査を実施したところ、地表下80cm以下に4面の13世紀～14世紀代の地業層を確認した。このため事業者と協議し、工事の実施により遺構が損傷する事が避けられないと判断したため、文化財保護法第57条の2の届出を指導したところ、平成7年10月31日付けで届出があった。引き続き調査の打ち合わせを行ったが、建設計画が遅延し、平成8年2月15日から調査を開始する事となった。

平成7年度発掘調査地点一覧

No.	遺跡名	所在地	調査原因	種別	面積	調査期間
1	天神山城 (No.384)	山崎字宮回 763番	集合住宅 (専用住宅)	城郭 散布地	120m ²	H7.2.13 ～8.31
2	覚園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字平子 412番	自己用住宅に 係る車庫造成	寺院	25m ²	H7.3.22 ～4.10
3	極楽寺旧境内遺跡 (No.291)	極楽寺三丁目 320番1	個人専用住宅	寺院	100m ²	H7.6.12 ～6.30
4	台山遺跡 (No.29)	台字西ノ台 1627番	自己用住宅に 係る車庫造成	集落址	56m ²	H7.6.19 ～7.6
5	材木座町屋遺跡 (No.261)	材木座三丁目 364番1外	個人専用住宅	都市	100m ²	H7.6.19 ～7.29
6	永福寺跡 (No.61)	二階堂字獅子舞 603番1	宅地造成・ 個人専用住宅	寺院	130m ²	H7.7.7 ～8.31
7	極楽寺旧境内遺跡 (No.291)	極楽寺三丁目 355番3	自己用住宅に 係る車庫造成	寺院	30m ²	H7.7.19 ～8.2
8	十二所稻荷小路遺跡 (No.321)	十二所字宇佐小路 740番2外	個人専用住宅	都市	54m ²	H7.8.4 ～8.26
9	建長寺旧境内遺跡 (No.397)	山ノ内字白黒小路 1489番1外	個人専用住宅	寺院	107m ²	H7.7.20 ～8.31
10	若宮大路周辺遺跡群 (No.242)	由比ヶ浜一丁目 118番7	自己用住宅に 係る車庫造成	都市	15m ²	H7.12.18 ～12.29
11	下馬周辺遺跡 (No.200)	由比ヶ浜二丁目 107番1	店舗併用住宅	都市	40m ²	H7.12.11 ～8.1.14
12	米町遺跡 (No.245)	大町二丁目 391番1	店舗併用住宅	都市	140m ²	H8.3.18 ～4.12
13	名越ガ谷遺跡 (No.231)	大町四丁目 1736番2外	自己用住宅に 係る車庫造成	都市	182m ²	H8.2.15 ～5.18

本誌所収の平成6年度調査地点一覧

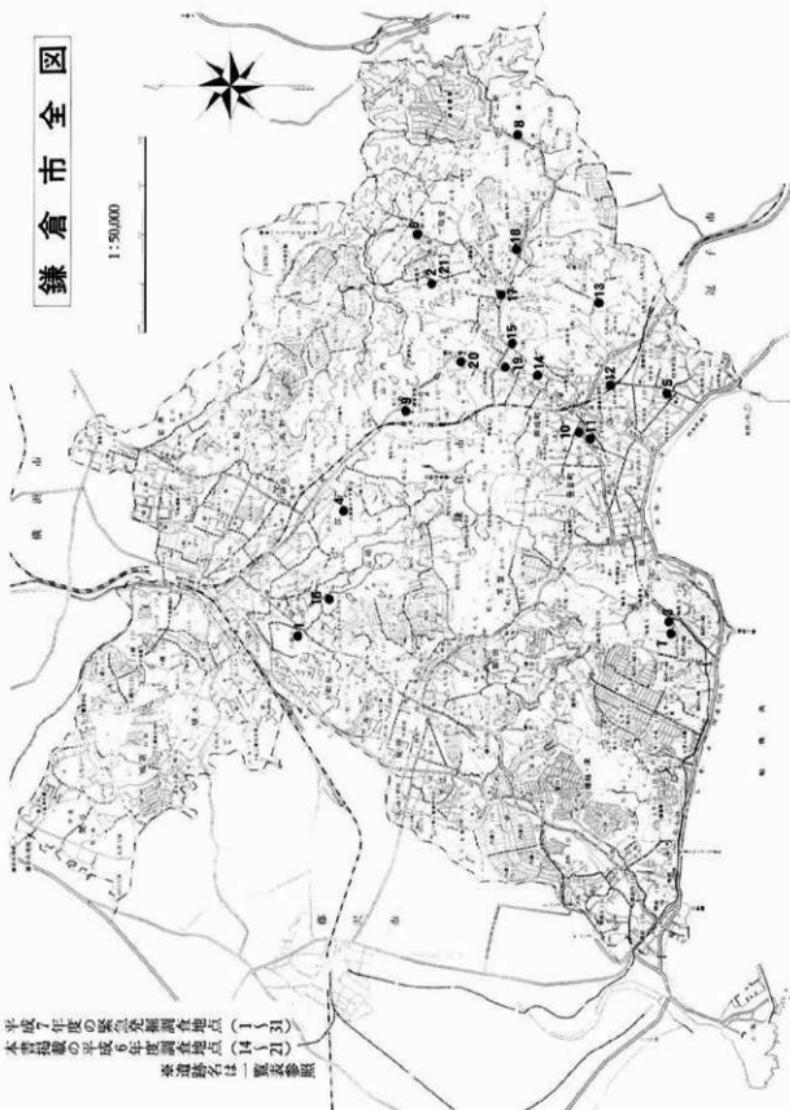
(調査実施順)

No.	遺跡名	所在地	調査原因	種別	面積	調査期間
1 ⑭	宇都宮辻子幕府跡 (No.231)	小町二丁目 389番1	個人専用住宅	官	150m ²	H6.3.28 ～6.28
2 ⑮	北条高時 (No.281)	小町二丁目 426番3	自己用診療所 併用住宅	城館	70m ²	H6.7.25 ～9.8
3 ⑯	倉久保遺跡 (No.226)	山崎字清水塚 1550番1外	自己用住宅に 係る車庫造成	集落址	340m ²	H6.7.27 ～10.7
4 ⑰	大藏幕府周辺遺跡群 (No.49)	雪ノ下字天神 562番29	個人専用住宅	都市	30m ²	H6.8.8 ～9.8
5 ⑱	淨妙寺旧境内遺跡 (No.408)	淨明寺三丁目 6番3外	自己用住宅に 係る車庫造成	寺院	18m ²	H6.12.6 ～12.20
6 ⑲	北条小町邸跡(泰時 時頼邸) (No.281)	雪ノ下一丁目 377番1	自己用店舗 併用住宅	城館	52m ²	H7.1.2 ～2.28
7 ⑳	鶴岡八幡宮旧境内 遺跡 (No.56)	雪ノ下二丁目 75番16	自己用住宅に 係る車庫造成	寺院	35m ²	H7.2.9 ～3.11
8 ㉑	覺園寺旧境内遺跡 (No.435)	二階堂字平子 412番1外	自己用住宅に 係る車庫造成	寺院	25m ²	H7.3.22 ～4.15

* 丸数字は調査地点を示す

鎌倉市全図

1:50,000



おおくらばく ふしゅうへんい せきぐん
大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)

雪ノ下字天神前562番29地点

例　　言

1. 本報は、大蔵幕府周辺遺跡群内の鎌倉市雪ノ下字天神前562番29の一部における緊急発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は専用住宅建設範囲と一部車庫範囲の30m²を対象とし、平成6年8月8日～同年9月6日にかけて鎌倉市教育委員会によって実施された。
3. 本報の執筆は第1章－遺跡の位置、第2章、第3章－遺構、第4章を福田　誠が、第1章－歴史的環境、第3章－遺物を菊川　泉、第3章－遺物を神山晶子が分担した。編集は福田が行った。
4. 本報の資料整理は、福田、菊川、神山、本城　裕、小西さつきがあたった。
5. 本報に使用した写真は、福田、菊川、神山が撮影した。
6. 調査体制は以下の通りである。
調査主体 鎌倉市教育委員会
主任調査員 福田　誠（鎌倉市教育委員会嘱託）
調査員 菊川　泉、神山晶子、大坪聖子
調査補助員 本城　裕、小西さつき
7. 出土遺物、図面、写真等は鎌倉市教育委員会で保管している。

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	4
第二章 調査の経過	4
第三章 遺構と遺物	4
第1節 検出した遺構	4
a. 1区で検出した遺構	4
・第1面の遺構	4
・第2面の遺構	8
柱 穴	8
土 壤	8
溝	8
・第3面の遺構	8
・第4面の遺構	8
b. 2区で検出した遺構	8
・第1面の遺構	8
・第2面の遺構	8
・第3面の遺構	8
・第4面の遺構	8
井 戸	8
第2節 出土した遺物	9
a. 1区の遺物	9
b. 2区の遺物	12
第四章 まとめ	13

図版目次

図1 位置図	5
図2 調査地点設定図	5
図3 1区遺構平面図	6
図4 2区遺構平面図	7
図5 土層断面図・井戸エレベーション図	9
図6 1区で出土した遺物	10
図7 2区で出土した遺物	11
図8 2区で出土した遺物(石臼)	13

写真図版

図版1 1区全景	14
図版2 2区全景	15
図版3 1区で出土した遺物	16
図版4 2区で出土した遺物	17

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

本調査地点は、鎌倉市雪ノ下字天神前562番29の一部に所在する。大蔵幕府周辺遺跡群の東南隅に位置する。六浦道の岐れ道交差点より東に100mほど行った所にある、関取橋脇のT字路交差点北側にある。遺跡地は六浦道に面し、現道路面より敷地は約2.3m程高い。岐れ道交差点脇の鎌倉市3級基準点の標高は12.109m、これを基準に求めた関取橋交差点脇の鎌倉市4級基準点の標高は10.582m、遺跡地基準点の標高は12.886mである。岐れ道から第2小学校までの間、六浦道の南側は滑川に沿って地盤が低く、北側一帯は1段高くなる。

当遺跡地の南側にある関取橋は、かつてこの付近において関銭を取った事に由来する名前と言われている。『荏柄天神社文』天文十七年（1548）十二月二十七日付文書によると、小田原城主北条氏康が荏柄天神社の再興・造営のため関所を置き、六浦道を通る商人から品物によって関銭を取ることを定めている。また往来の僧侶、庶民、里民からは関銭を取るべからずとも定めている。この事からこの関取橋一帯をかつて関取場と称したという。

第二章 調査の経過と層序

調査の経過

本調査は、大蔵幕府周辺遺跡群（県遺跡No.49）の一角、鎌倉市雪ノ下字天神前562番29の一部に計画された、専用住宅建設範囲と一部車庫範囲にかかる計30m²を対象に、平成6年8月8日～同年9月6日にかけて鎌倉市教育委員会によって実施した。8月8日に表土掘削を開始し、1ヶ月の予定で調査を進めた。事前に実施した試掘調査の結果から、地表下30cmで遺物包含層、50cmで最初の造構面が検出された。造構面（生活面）は地表下115cmまで達していることが確認されて、この試掘調査の結果を基に本調査を実施するに至った。

層序

地表下50cmまでは、近現代の土と遺物包含層である。地表下115cmで地山面（第4面）を確認している。地山面上には、目混じりの砂を1cm程の厚さで均一的に敷き詰めている状況が検出されている。この地山面の上に、約30cmの厚さで土丹を突き固めた地業面（第3面）があり、更に第2面、第1面を構成する地業面が続く。

第三章 遺構と遺物

第1節 検出した遺構

a. 1区で検出した遺構

・第1面の遺構

第1面は全面に渡って土丹地業の硬化面が広がる。地業の厚さは約10～12cm。茶灰色土に3cm大の土丹粒、炭化物、かわらけ片が含まれる。調査区の東端で南北方向の浅い溝状の落ち込みを検出した。

图2 火山口喷发带图

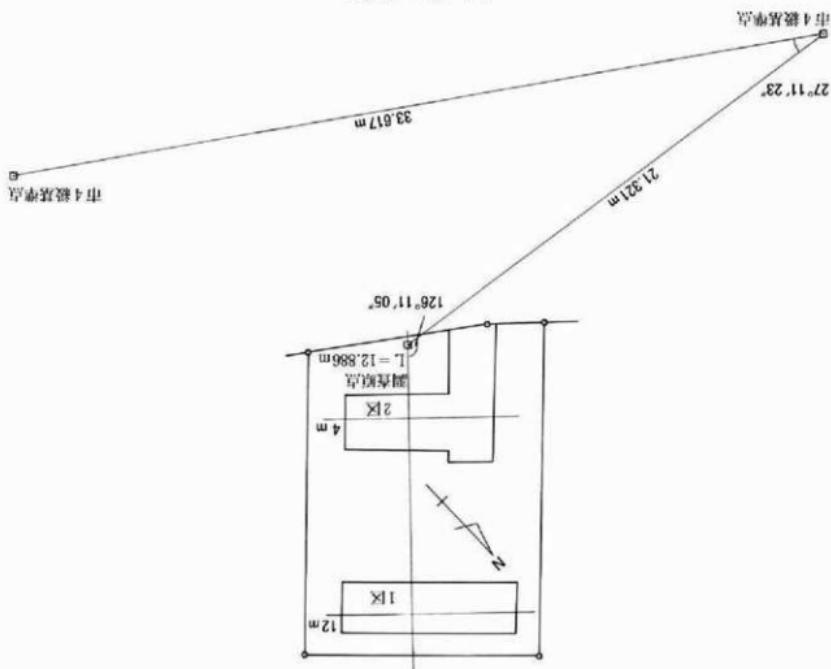


图1 位置图



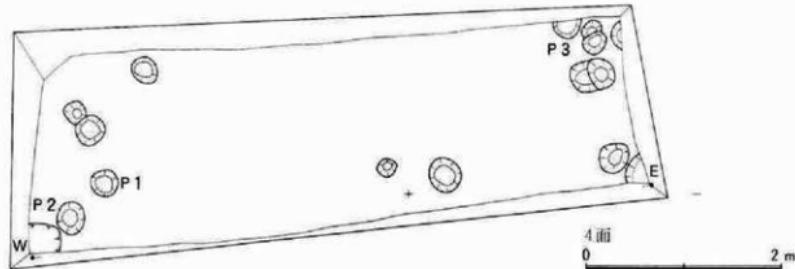
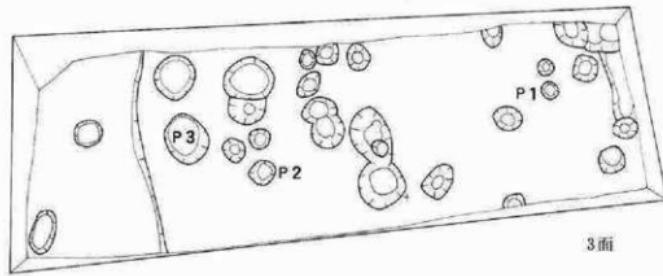
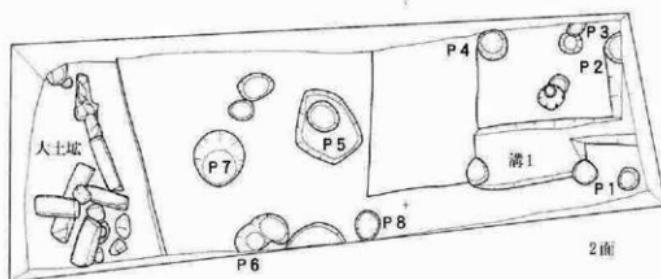
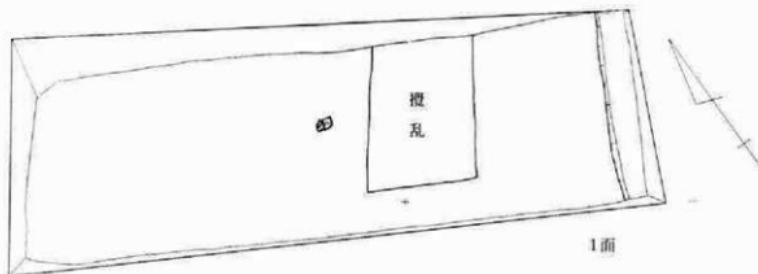


图3 1区平面图

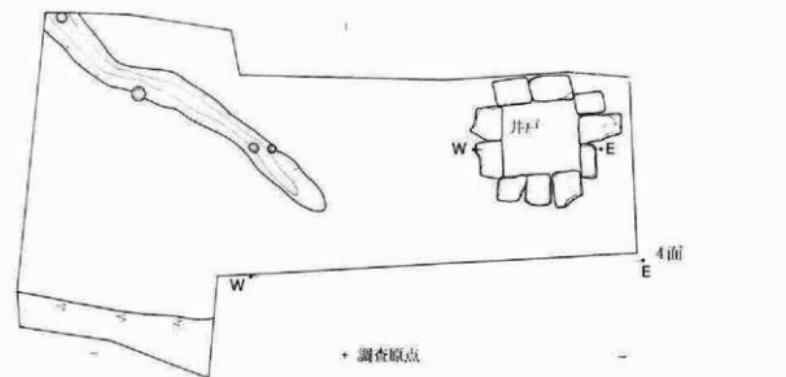
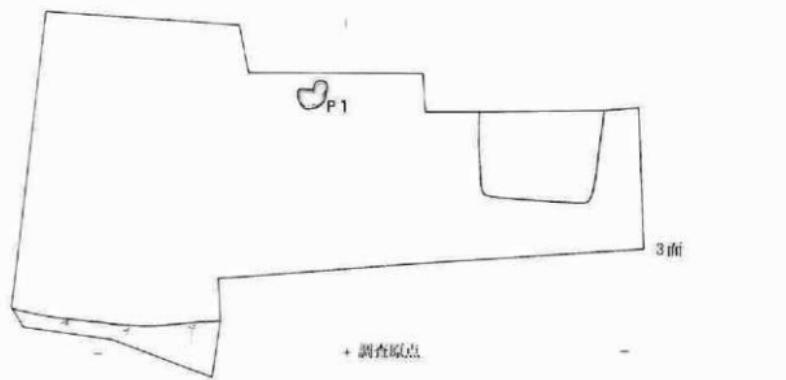
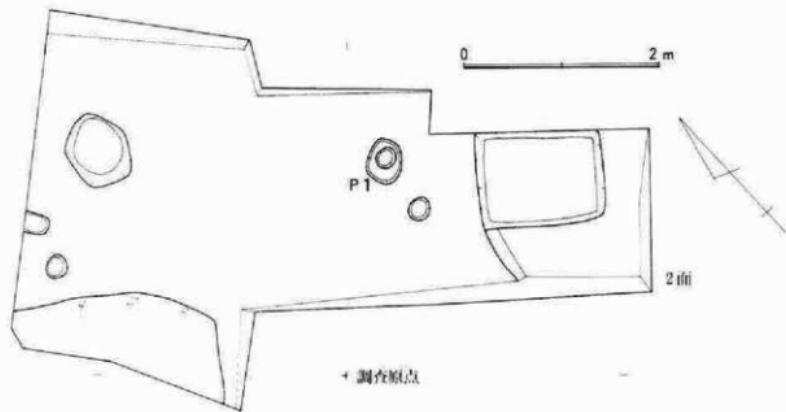


図4 2区平面図

- ・第2面の遺構

- 柱穴

計18の柱穴を検出したが、各柱穴に規則性はない。この内Pit3・5・6でかわらけ、青磁が出土している。

- 土壙

調査区の西側で検出した土壙である。南北方向に真っ直ぐ伸びる土壙の検出状況と、比較的平らな土壙底面内に散乱していた鎌倉石の切石、30cm大の安山岩、土丹塊から、建物の基礎等、何らかの施設を廃棄した後埋め戻した状況であると考えられる。土壙の規模等は不明である。三足香炉、瓦質燈台？が出土している。この土壙を埋め戻してから、調査区の南西隅に深い遺構が掘り込まれている。井戸の可能性もあるが範囲が狭いため委細不明である。

- 溝

L字に曲がる溝というより窪みである。攪乱部分で断ち切られ、これより西側には伸びないようである。

- ・第3面の遺構

土丹を堅固に突き固めた地業面上に計30の柱穴を検出した。検出した柱穴の径は、20~50cmと様々であり、規則性は認められない。地業面は土丹版築とも呼べるもので、下部は粗い土丹塊で、上面は細かい土丹を叩き締めていた。短期間に地業されたものなのか遺物の出土はほとんどない。

- ・第4面の遺構

淡茶灰色粘土質の地山面になる。地山面上には海砂が厚さ1cm程敷き詰められていた。面上からは柱穴が計15検出されている。調査区の西と東側にかたまっているようにも見受けられるが規則正當は不明である。

b. 2区で検出した遺構

- ・第1面の遺構

調査地点の一段低い所を南側を東西に六浦道が通る。このためか敷地の南側の削平が激しく、2区では1区で確認された第1面は確認されなかった。

- ・第2面の遺構

地業面上に計5の柱穴と調査区の東側で一辺1m程の方形の落ち込みを検出した。柱穴には規則性は認められなかった。

- ・第3面の遺構

1区と同じ様相を呈している。検出した遺構面はほぼ平坦で、土丹を堅固に突き固めた地業面上には、遺構と呼べるものは認められなかった。

- ・第4面の遺構

- 溝

調査区の北西隅から斜めに伸びてくる幅約30cm程の溝で、調査区の中央付近で消滅してしまう。

- 井戸

調査区東側で検出した東西約80cm、南北約70cmの地山を掘り抜いた井戸である。井戸枠は使用せず、縁は計10個鎌倉石の切石を使い、四角形の枠組みを作っていた。2面で確認した方形の落ち込みは、井戸が埋められた後の落ち込みだと確認された。

井戸は埋め戻された時に、多量の人頭大的土丹塊と割れた挽き臼が投げ込まれていた。井戸枠もなく、崩落の危険があったため、調査は2mまで掘り下げたところで中止せざる終えなかった。出土した様々な遺物から、井戸の埋め戻された時期は、15世紀前半と考えられる。

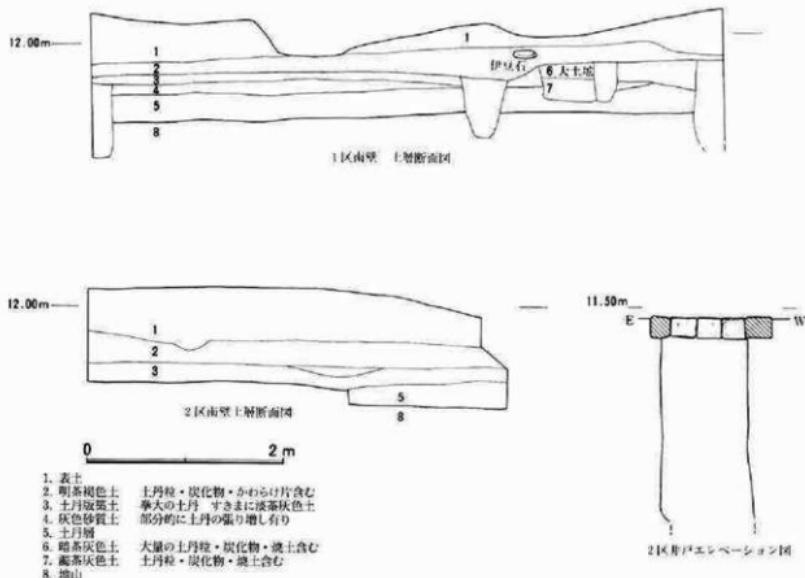


図5 土層断面図・井戸エレベーション図

第2節 出土した遺物

a. 1区の遺物

1~4は1面上層遺物包含層より出土したもの。

1は、手捏ね成形のかわらけ。口径8.8cm、器高2.3cm。明赤灰色を呈し焼成は良好である。底部の器肉は厚く、口縁部にかけて薄く形成されている。外体部の横ナデは比較的弱い。

2は輥轆成形によるかわらけ。口径8.3cm、底径6.5cm、器高1.6cm。胎土は砂を多く含む。明赤灰色を呈し、焼成は良好である。薄手で、体部の立ち上がりが直線的な器形。

年代は1が概ね13世紀中葉、2が13世紀後葉と思われるが、これをもって第1面の年代を論じられないのは、これより下層で15世紀代の製品と考えられるものの(5)が出土している為である。

3は青磁。鉢の口縁部片である。釉は淡青緑色で不透明。胎土は灰白色を呈し、ごく精良で緻密。

4は砥石。黄灰色を呈する凝灰岩製で、3面が砥面として使用されている。

5~8は2面上層より出土したもの。

5は輥轆成形のかわらけ。口径7.2cm、底径5.2cm、器高2.1cm。明赤灰色を呈し、胎土は比較的粗い。焼成はやや弱く軟質。深手で器壁が厚く、外部の立ち上がりが直線的である。

6はやはり輥轆成形のかわらけ。口径7.3cm、底径5.5cm、器高2.2cm。明茶灰色を呈し、胎土は比較的精良。焼成はやや弱く軟質。器肉の厚みが均一で、体部の立ち上がりは丸みをもつ。14世紀前葉の製品か。

7は瓦質の火舎。復元最大径14.2cm、器高6.3cm。上体部には文花のスタンプが施され、その上下は褐

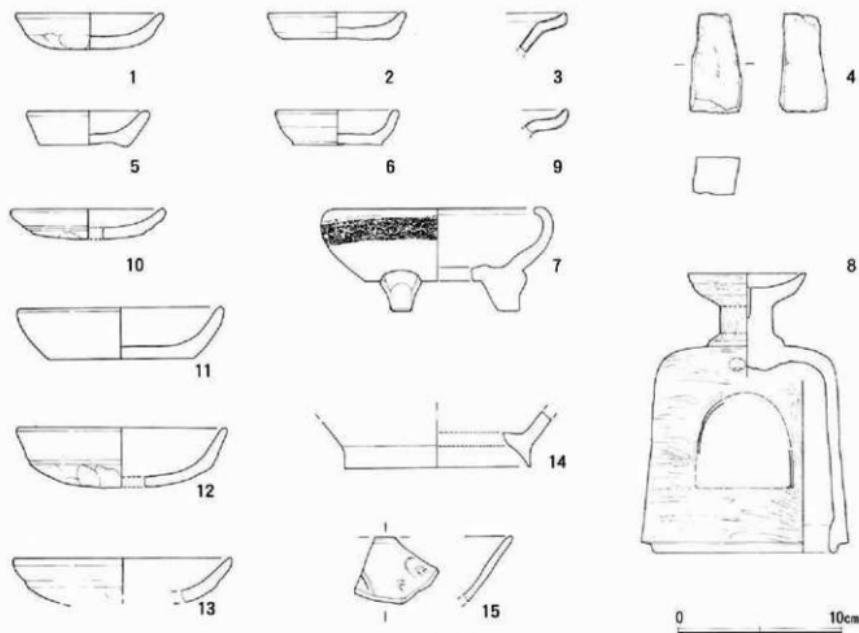


図6 1区の遺物

く横方向にヘラ磨きされている。二次焼成を受けているものと思われ、色調は明赤灰色ないし黒灰色を呈す。

8は⁽¹⁾瓦燈。瓦質で二次焼成を受けており、色調は赤灰色ないし黒灰色を呈す。内面頂部は中心で絞った布目痕が明瞭に残る。内面肩部より下は横方向に指ナデが施され、外体部はヘラ磨きで仕上げられている。最大径12.7cm、器高17.1cm。瓦燈は燈具の一種で、本来はここに示した釣鐘様の蓋の底部に环状の台を備えて用いられる。平常は蓋の頂部の受け皿に燈明皿をのせ、就寝時には燈明皿を台の中に移し、蓋をして光量ををとすといった具合に使用されたようである。鎌倉市内の遺跡での出土は稀である。

9は2面pit5より出土した青磁鉢の口縁部片。釉は淡青緑色で不透明。胎土は灰白色を呈し、ごく精良で緻密。

10は2面pit6より出土したもので手捏ね成形によるかわらけ。復元口径9.1cm、器高1.9cm。明茶灰色を呈す。胎土は砂を多く含み、焼成は良好である。浅手で外体部の横ナデは比較的弱い。13世紀前葉の製品か。

11は2面pit3より出土したもの。埴輪成形のかわらけ。復元口径12.3cm、底径8.8cm、器高3.1cm。明赤灰色を呈す。粗いクサリ跡を少量含むが素地はさめ細かく緻密である。焼成は良好。浅手で、器肉の厚みは均一的。体部の立ち上がりは丸みをもつ。14世紀前葉の製品か。

12・13は2面溝1覆土より出土したもの。いずれも手捏ね成形のかわらけである。

12は復元口径12.6cm、器高3.7cm。明茶灰色を呈し、胎土は少量砂を含むが精良で、焼成は良好であ

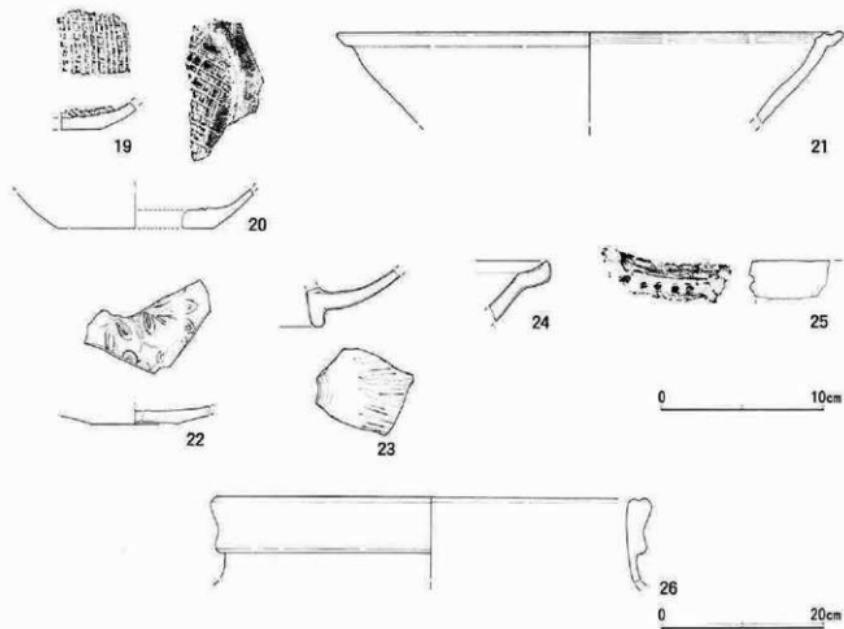
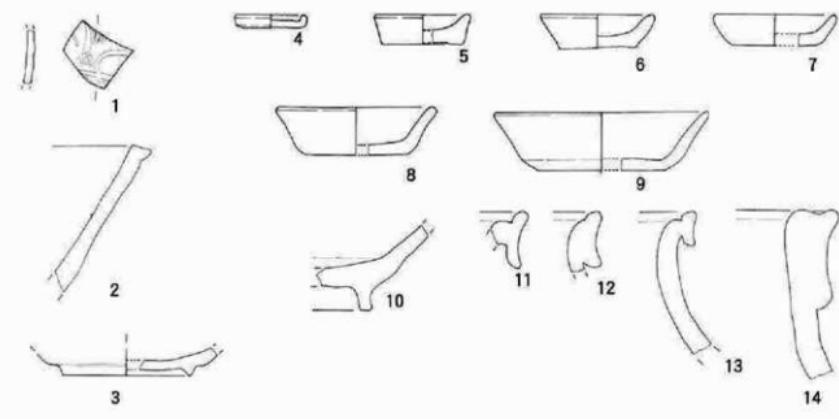


図7 2区の遺物

る。やや深型で器肉は均一的な厚みを持つ。外体部の横ナデは弱い。13世紀中葉の製品か。

13は復元口径13.2cm。明赤灰色を呈し、胎土は精良、焼成も良好で硬質。浅く、口縁が広く開く器形で、口縁部外面は弱く横ナデされている。13世紀前葉の製品か。

14は2面pit6より出土したもの。山茶碗窯系捏鉢の高台部片である。推定高台径は11.4cm。明灰色を呈し、胎土は粗い長石粒が多く含み、緻密。下体部を横方向にヘラ削りしており、高台は張り付けの後体部との境を丁寧になでている。

15は3面より出土した青磁。劃花文碗の口縁部片。釉は緑茶灰色を呈し、透明。胎土は明灰色を呈し、ごく精良で緻密である。

b. 2区の遺物

1は2面pit2より出土した青白磁梅瓶片である。牡丹文と思われる文様が施されている。素地は灰白色で細かく、焼成も良好である。

2、3は4面より出土した遺物である。

2は常滑捏鉢の口縁片。素地は細かく2mm代の長石を多く含む。器肉はさほど厚くなく、焼成も良好である。

3は須恵器底部片。高台径7.85cm。素地は精良緻密である。見込み部分に重ね焼きの痕跡が認められる。

4～26は井戸覆土より出土した遺物である。

4は耳皿。口径4.1cm、底径3.3cm、器高8mm。輪轆成形の底部を持ち、不利は内側に折れ曲がる。13世紀末から14世紀前葉の製品か。

5～9はいずれも輪轆成形のかわらけである。

5は口径5.6cm、底径4.9cm、器高1.8cm。体部は底部から垂直に近い角度で立ち上がり、器壁が厚い。

6は口径6.6cm、底径4.7cm、器高2cm。体部は直線的に立ち上がり、器壁は厚く均一である。

7は口径7.2cm、底径5.2cm、器高1.9cm。全体的に器肉は均一だが、口縁に向かってやや丸みを帯びる。この中ではやや古い様相を呈し、14世紀前葉の製品か。

8は口径9.4cm、底径6.25cm、器高2.9cm。

9は口径12.9cm、底径7.8cm、器高3.55cm。2点とも均一な器肉を持ち、口縁に向けて外反する。

以上のかわらけはほぼ15世紀中葉以降のものが主流だが、5は更に新しく16世紀をくだらないものと思われる。

10は山茶碗窯系捏鉢底部片である。素地は細かく緻密だが、3～5mmの大いな小石、2～3mmの大いな長石を含み、明灰色を呈する。高台は張り付け高台である。

11～18・26は常滑の製品である。11～14・26は豐口縁部片。

11・13は頸部より離れたN字状の縁帶を有する。

12の縁帶は前述の2点よりやや幅を持つ。14・26は更に幅が広がり、頸部に密着する。

26は復元口径50.5cmの大甕である。15・16は甕底部片。16の内側底部には降灰軸がかかる。

17・18は鉢の底部片及び、口縁部片。

17は長石を含むが素地精良緻密。淡赤灰色を呈する。

18は口径19.5cm。口縁がやや三角に外側に突出する形態のもので、素地は小砂を含むがよく締まっている。

19～21は瀬戸の製品。

19、20はおろし皿。いずれも素地精良緻密。20は底径9.5cm、見込み部分にわずかに自然軸が付着する。

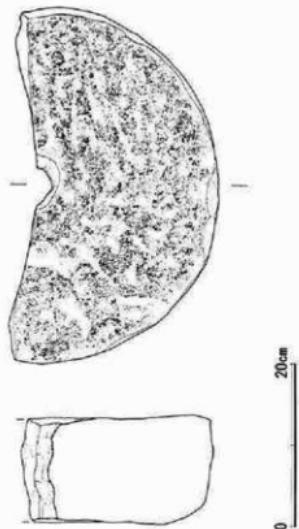


図8 石臼

21は盤。復元口径30.8cm、口縁は外側に突出する。内外面ともに灰釉が施されている。

22~24は舶載陶磁器である。

22は白磁皿底部片。見込み部分に印文花が施される。素地は粘性があり堅く締まり、灰白色を呈する。釉は潤灰白色。

23は青磁天目台か。素地はやはり粘性があり、硬質、灰白色を呈する。釉は緑色、外体部には櫛搔き蓮弁文と思われる文様が施される。

24は青磁折縫鉢口縁片。内面に蓮弁文が施され、釉は暗茶緑色。素地は精良緻密で、淡茶灰色を呈す。

25は瓦当片。残存部には珠文が巡る。萼部分は薄利、素地は精良、淡赤灰色。

図8は石臼である。直径約44cm、厚さ中央に約4.5cmの穿孔を施す。安山岩を成形下もので、石臼としては大きいものである。淡灰色を呈する。

(1) 瓦燈は江戸期に下級階層にはかなり普及していたと思われるが、中世の遺跡から出土した例として、一乗谷朝倉氏遺跡が挙げられる。(『一乗谷朝倉遺跡発掘調査報告』1988年等)ここでは室町期の寺院や武家屋敷跡から出土している。

第四章　まとめ

本遺跡は、第4面で井戸が検出された以外、際だった遺構がないことが特徴といえる。各面では柱穴が僅かに検出されたのみであり、数も少なく規則性も見いだせないのである。これは発掘調査と呼ぶには、あまりにも狭い範囲の調査であることも要因の一つと考えられる。幅約2mの調査区では、柱穴を検出しても建物の規模及び広がりを想定することが難しいのである。

しかし、地山面上を堅く叩き締めて築いた、3面に分けることが出来る地業面と、遺構の少ない各地業面から考えて、この地点は遺構の密度の少ない少ない、屋敷内の空間部分にあたるのではないかとも推定される。

数少ない遺物の内、注目されるものとして、「瓦燈」があげられる。一乗谷朝倉氏遺跡で出土している「瓦燈」に類似し、鎌倉市内の遺跡からの出土は初めてである。

戦国時代に栄えた一乗谷で出土する瓦燈は、江戸期の遺跡では多く出土している、13世紀~15世紀にかけて栄えた鎌倉では、これまで出土していない事を考えると、今回出土した瓦燈は、16世紀半ばに置かれた闇取場に関係する遺物であると推察される。同じく井戸から出土している一番新しからわけも、16世紀をくだらないものと考えられる。

地山直上の、第4面から検出された井戸内の遺物が、16世紀を下らない時期のものと考えられるところから、当遺跡において鎌倉~室町時代の遺構は、16世紀半ばに闇取場を設けたことによりおそらく削平されているものと考えられる。この稀な遺物が、中世以降の鎌倉の姿を垣間見せてくれたのである。

図版1



▲第1面全景

▼第3面全景



1区全景



▲第2面瓦壙の出土した土塊



▲第2面全景



◀ 第2面全景

▼ 第3面全景



▼ 第3面の井戸と第4面

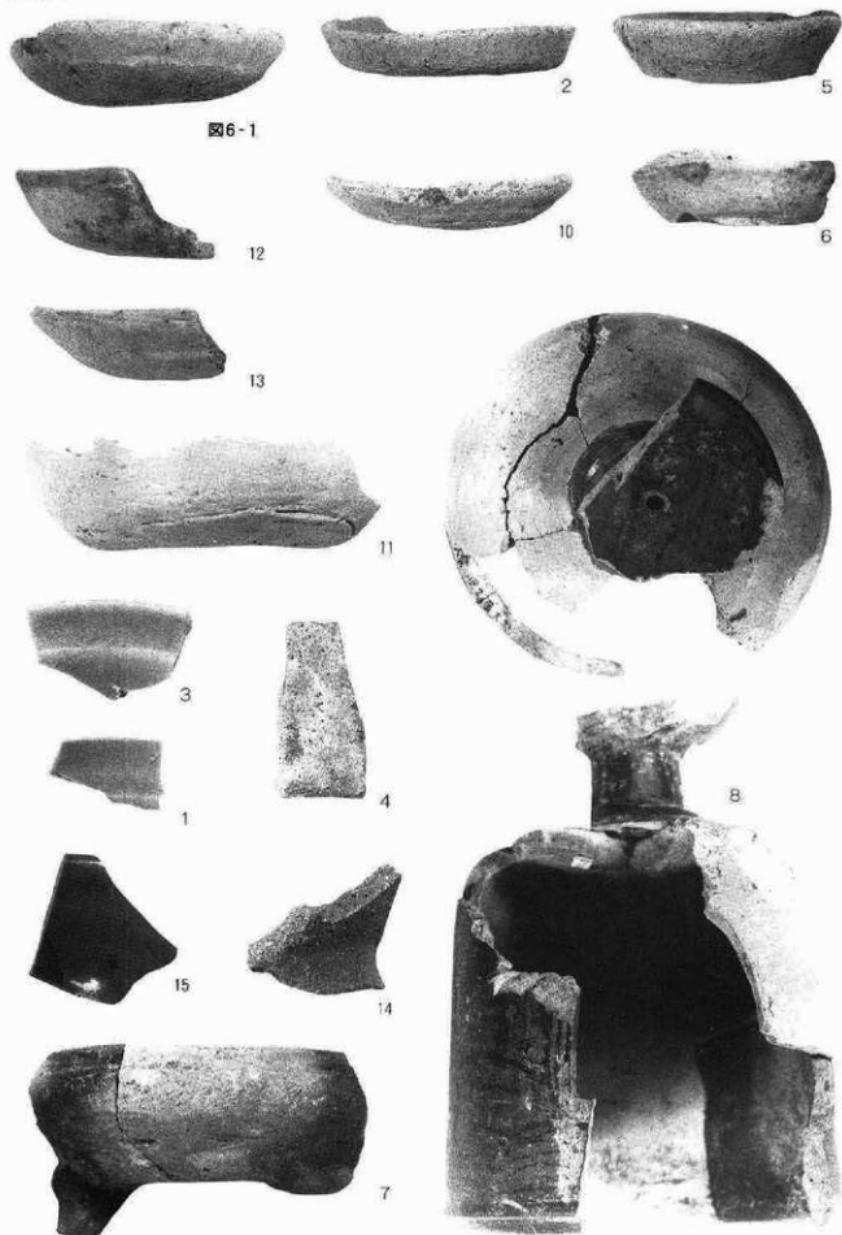


▼ 土層断面

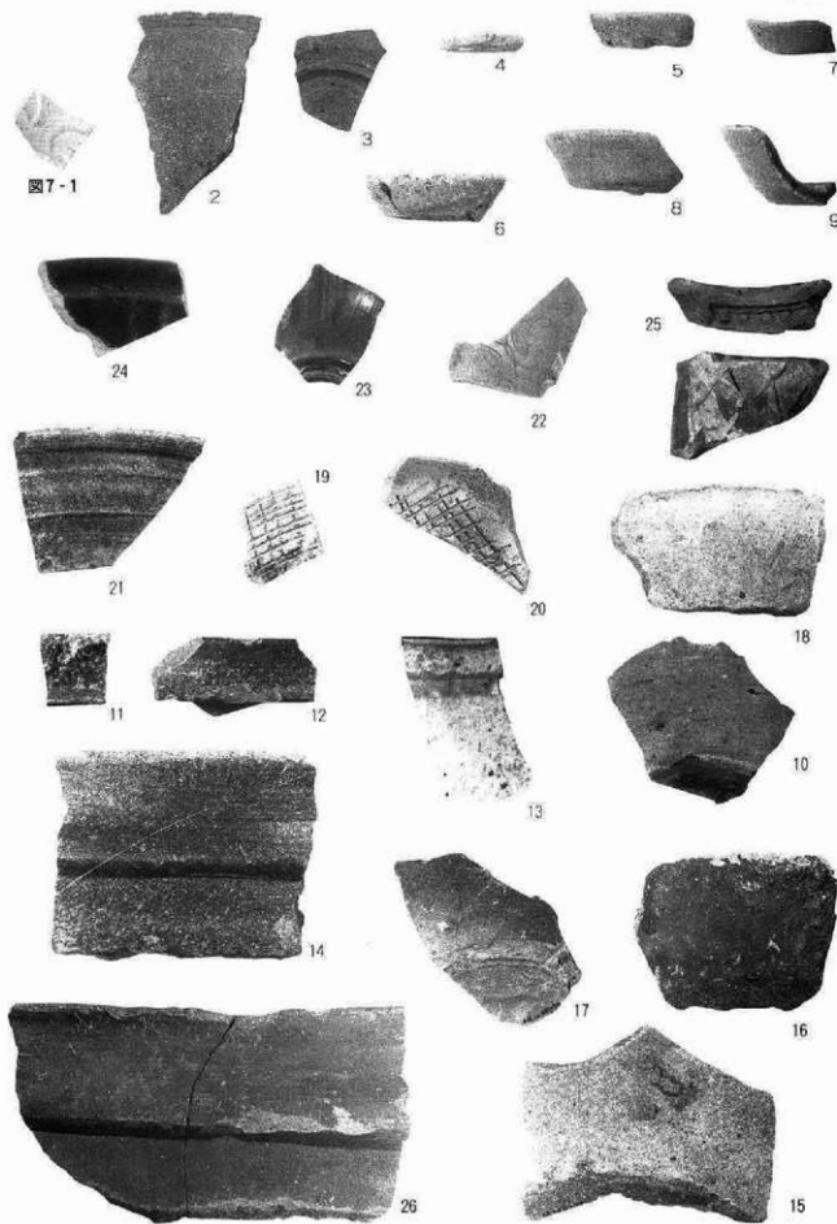


2区全景

図版3



1区で出土した遺物



2区で出土した遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきょううちょうさほうこくしょ						
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書						
副書名							
卷次							
シリーズ名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書						
シリーズ番号	12						
編集者名	福田 誠						
編集機関	鎌倉市教育委員会						
所在地	〒248 神奈川県鎌倉市御成町18番10号						
発行年月日	西暦1996年3月						
ふりがな 所収遺跡	しょざいち 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 ...	東緯 ...	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
おおくらばくふしゅう へんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市雪ノ下562番17地点	204	49		940808～ 940901	30	自己用住宅
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
大倉幕府周辺 遺跡群	中世都市遺跡	14～16世紀	柱穴・土塙 井戸	かわらけ・常滑船載 陶磁器・瀬戸・砥石・ 瓦礫	大きな区画の中のようである。 遺構の密度は少ないが、大規模な地業が成されている。 市内遺跡で始めて出土した瓦礫が注目される。		

ほうじょうたかときていあと
北条高時邸跡 (No.281)

小町三丁目426番3地点

例　　言

1. 本報は、北条高時邸跡、遺跡内の鎌倉市小町三丁目426番3地点における自己用診療所併用住宅建設に伴う発掘調査の報告書である。

2. 発掘調査は、平成6年(1994)7月25日から9月8日にかけて、鎌倉市教育委員会が実施した。

3. 調査地点の土壤花粉分析は、㈱パレオ・ラボの鈴木茂氏に分析を委託した。

4. 調査体制は、下記の通りである。

担当者 原 廣志

調査員 木村美代治・佐藤仁彦・小林重子

調査補助員 須佐直子・中村一夫

調査協力者 渡辺鉄雄・箕田孝善・安藤種夫・長島三男

協力機関 ㈲鎌倉市高齢者事業団シルバー人材センター・鎌倉考古学研究所

5. 本報の執筆は、第3章第2節1・2面を小林重子、3・4面を須佐直子、その他を原が分担し、これを原が編集した。また遺物実測・トレース・図版作成には、佐藤・小林・須佐・原があたった。近世陶磁器は九州陶磁資料館の大橋康二氏から御教示を受けた。

6. 本報掲載写真の内、遺構全景写真は木村美代治がポール式高所撮影装置を用いて撮影し、他の遺構は佐藤・原・小林・須佐があたり、遺物写真は小林・須佐が撮影した。

7. 現地調査及び資料整理の段階において次の方々から多大な御教示、御指導を賜った。記して深謝の意を表する(敬称略)。

大三輪龍彦・河野眞知郎・菊川英政・瀬田哲夫・玉林美男・手塚直樹・永井正憲・福田誠・馬渕和雄・松尾宣方・大橋康二

8. 本発掘調査における出土遺物・図面等の資料は、鎌倉市教育委員会が保管している。

本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	24
第二章 調査の概要	28
第三章 調査結果	30
第1節 各遺構面の概要と層序	30
第2節 検出遺構と出土遺物	32
第四章 まとめ	83
〈附篇〉北条高時邸跡の花粉分析 鈴木 茂	90

挿図目次

図1 鎌倉市全國と調査地点の位置	23
図2 遺跡周辺図	25
図3 宝成寺周辺の古絵図	26
図4 調査地のグリット設定図	28
図5 グリット配置図	29
図6 1A面全測図	31
図7 近世土壤1~3	32
図8 近世土壤1出土遺物	33
図9 近世土壤2・3出土遺物	34
図10 1面柱穴出土遺物	35
図11 近世合わせ口かわらけ	35
図12 1面出土遺物(1)	36
図13 1面出土遺物(2)	37
図14 1B面全測図	38
図15 墓基礎状遺構	39
図16 墓基礎状遺構出土遺物(1)	40
図17 墓基礎状遺構出土遺物(2)	41
図18 2面全測図	46
図19 2面道路・溝4	48
図20 2面溝4・柱穴出土遺物	49
図21 2面塀基礎状遺構下出土遺物	50
図22 3面全測図	55
図23 3面出土遺物	57
図24 3面溝5	58
図25 3面P76・かわらけ溜り	59
図26 3面柱穴・溝5出土遺物	59
図27 3面かわらけ溜り出土遺物	60
図28 3面玉石細溝	61
図29 3面古手側溝	62
図30 4面全測図	69
図31 4面溝6・7・8	71
図32 4面溝6・7出土遺物	72
図33 4面柱穴・土壤出土遺物	73
図34 北壁トレチ出土遺物	79
図35 北壁トレチ・出土地不明出土遺物	80
図36 南壁・拡張トレチ出土遺物	81
図37 遺構変遷図	84
図38 調査地点周辺図	85

表目次

表1 近世土壤1出土遺物	41
表2 近世土壤2出土遺物	42
表3 近世土壤3出土遺物	42
表4 1面柱穴出土遺物	42
表5 1面出土遺物(1)	42
表6 1面出土遺物(2)	43
表7 1面出土遺物(3)	44
表8 墓基礎状遺構出土遺物(1)	44

表9	塀基礎状造構出土遺物(2)	45	表23	古手側溝出土遺物	67
表10	2面出土遺物(1)	51	表24	4面出土遺物(1)	75
表11	2面出土遺物(2)	52	表25	4面出土遺物(2)	76
表12	2面柱穴出土遺物	53	表26	4面溝6出土遺物	76
表13	塀基礎下出土遺物(1)	53	表27	4面溝7出土遺物	76
表14	塀基礎下出土遺物(2)	54	表28	4面柱穴出土遺物(1)	77
表15	3面出土遺物(1)	60	表29	4面柱穴出土遺物(2)	78
表16	3面出土遺物(2)	62	表30	4面土壌出土遺物	78
表17	3面出土遺物(3)	63	表31	北壁トレント・出土地不明遺物(1)	81
表18	3面出土遺物(4)	64	表32	北壁トレント・出土地不明遺物(2)	82
表19	3面柱穴出土遺物(1)	64	表33	南壁・拡張トレント出土遺物	82
表20	3面柱穴出土遺物(2)	65	表34	出土遺物器種構成(1)	88
表21	3面溝5出土遺物	65	表35	出土遺物器種構成(2)	89
表22	3面かわらけ溜り出土遺物	66			

図版目次

図版1	1. 調査地点近景(北西を望む)	105	図版8	1. 溝6・溝7	112
	2. 調査前の状況			2. 溝7・溝8	
図版2	1. I区1面全景	106	図版9	3. 溝7底面出土かわらけ	
	2. 近世合わせ口かわらけ			1. 拡張トレントA	113
	3. II区I面全景			2. 拡張トレントB	
	4. 北壁トレント			3. 拡張トレントA・Bと西壁土層堆積	
	5. 塀基礎		図版10	1. 1面出土遺物	114
図版3	1. I区2面全景	107	図版11	2. 近世合わせ口かわらけ	115
	2. I区3面全景			3. 近世土壌1	
	3. 3面かわらけ溜り			4. 近世土壌2	
図版4	1. I区4面全景	108		4. 近世土壌3	
	2. 4面柱穴		図版12	1. 2面出土遺物	116
	3. 南壁トレント上層堆積		図版13	1. 3面出土遺物	117
	4. I区4面遺構			2. 3面柱穴	
図版5	1. 溝4	109		3. かわらけ溜り	
	2. 溝5			4. 溝5	
	3. 溝4・5南壁土層堆積			5. 古手側溝	
図版6	1. 2面道路上層	110	図版14	1. 4面出土遺物	118
	2. 2面道路下層			2. 溝6	
	3. 3面道路上層			3. 溝7	
図版7	1. 3面道路下層玉石組溝・溝5検出状況	111		4. 土壌	
	2. 玉石組溝完掘状況			5. 4面柱穴	
	3. 玉石組溝掘り方		図版15	1. 各トレント・搅乱出土遺物	119

鎌倉市全図

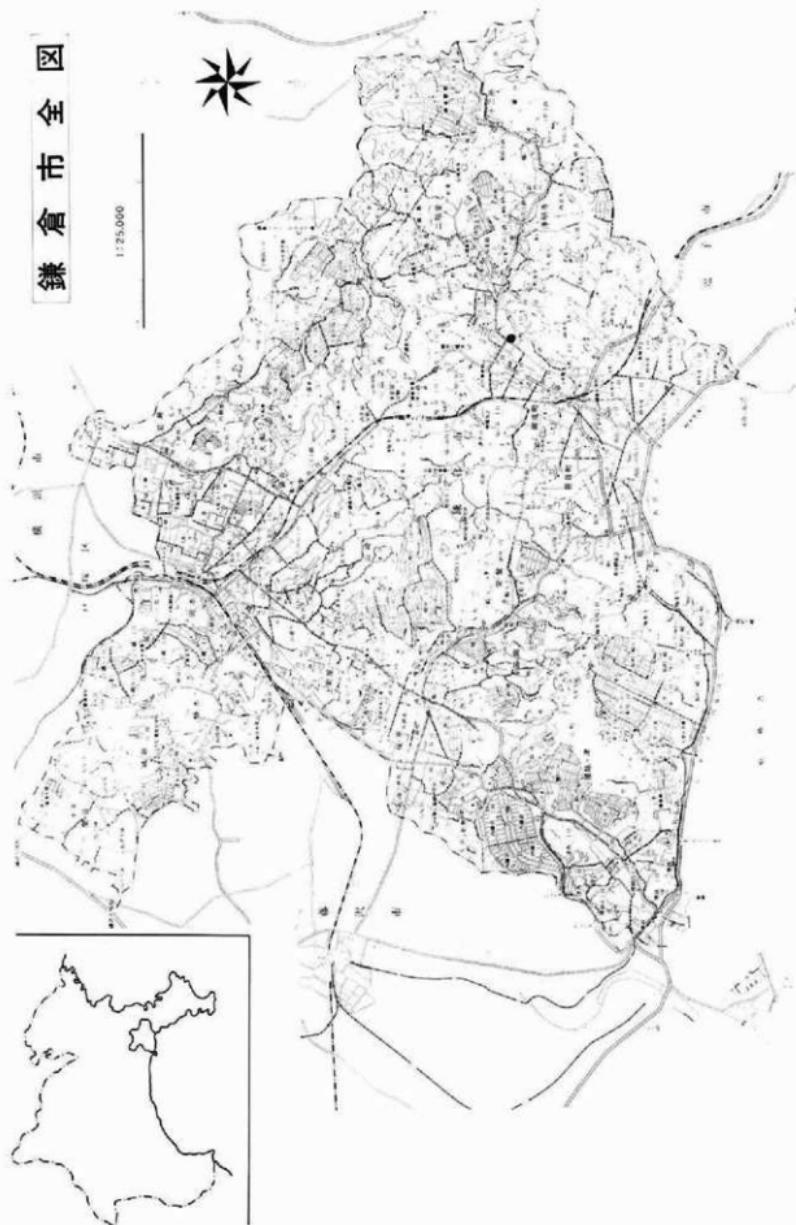


図1 鎌倉市全図と調査地点の位置

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

本調査地点は、「北条高時邸跡」として、神奈川県遺跡台帳No.281に記載されている区域の小町大路西沿い北部に位置し、地番は鎌倉市小町三丁目426番3に所在する。この辺はもと北条高時の邸跡の地であるとされ、元弘三年(1333)東勝寺で自刃した北条高時の菩提を弔うために、高時の旧宅に後醍醐天皇が建立したという宝戒寺旧境内の一角、現参道の南築地に隣接したところである。小町大路を挟んで西側には「北条泰時・時頼邸跡」(同台帳No.282)や「若宮大路幕府跡」、また宝戒寺門前で小町大路に直交する横大路の北側城には「鶴岡八幡宮」と「政所跡」(同台帳No.247)の区域が括がっている。「政所跡」の内、東辺の調査はこれまでに2箇所の地点で実施され、その調査結果から当時の小町大路は横大路とほぼ直交すると推定され、現在の小町大路が東に振れている事が確認されている。邸の背後にあたる東には滑川が流れている。現地表面の海拔は約10.1mであり、小町大路沿いの日蓮社説法碑(同約7.9m)から北に向かって、鶴岡八幡宮社頭(同9.8m)から横大路を東に向かって、それぞれ高くなっている。中世基盤層とされている黒褐色粘質土の上面標高を比較しても、150m南の地点(北条泰時・時頼邸跡雪ノ下一丁目935番地点)で8.3m、若宮大路東沿い紅谷用地(本報の雪ノ下一丁目番地を参照)で約8.1m、本地点で9.0~9.1mであり、滑川右岸に形成された微高地の一角を占めていることがわかる。

小町大路の初見は、「吾妻鏡」建久二年(1191)3月4日の条、南風が烈しく丑の刻に小町大路の辺が失火し、義時・時房などの邸以下人屋數十軒が焼亡、鶴岡八幡宮、大倉幕府も炎にかかり焼けたとある。さらに同書嘉祐元年(1235)6月29日の条には、明王院に供養のため將軍頼経が宇津宮辻子御所の南門を出て小町大路を北に行き、塔ノ辻を東に行ったという記事がある。ところで小町の名は、経済統制のため何箇所かに限って町屋免許を与えた建長三年(1251)、文永二年(1265)の二度の鎌倉幕府追加法令(註1)に登場することでも有名である。免許は小町の他、大町・米町(穀町)・亀谷辻・和賀江・大倉辻・氣和飛坂(化粧坂のこと)山上・魚町・武藏大路下・須地賀江橋(筋変橋)などに与えられ、そこでは日常的に商品売買の取り引きが行われていたのであろう。本地点西沿いを南北に走る小町大路は、これらの「町屋」の多くと連なり、鶴岡八幡宮前を東西に走る横大路、若宮大路を挟んだ幕府の政治中枢から貿易港和賀江津、六浦路から朝比奈越えて外港六浦津へと繋がる経済的動脈でもあった。また調査地の東側を流れる滑川も往時は夷堂橋付近に船着き場があり、荷揚げをしていたという伝承もあり、舟運に重要な役割を果していたと考えられる。従って、小町大路は鎌倉を支える経済主幹路であり、横大路と交差するこの付近一帯は幕府の政治的中枢であると共に、人や物資が盛んに往来し、集散し、中世都市鎌倉の中で最も繁華な地域であったと推測される。最近の論稿で松尾剛次氏の著書よれば、中世以来連續と続く鎌倉祇園会を支えた町衆に注目され、商人や職人によるその販いは鎌倉幕府滅亡後もしばらく絶えなかったという(註2)。北条高時の邸については、「吾妻鏡」によると南・北・西の三箇所に門(註3)があったという。市史では「幕府が……宇津宮辻子に移ってからは西門が表門であった。すなわち南門の東西の脇には尾藤太郎と同平左衛門尉らの家があり、北門は土門でその東西には万年右馬允・安東左衛門尉らの家……西門が表門であったことは文応元年3月宗尊親王の室が時宗の亭から親王の御所へ移られるときに西門から出ていることでも推測できる」と述べている(註4)。『太平記』の高時滅亡の記事によると、安東聖秀が高時邸も焼けたと聞き、自分の屋敷から小町口を臨んで塔ノ辻で下馬したとある。下馬したのは西門の前のことであろう。宝戒寺は高時邸の跡地に建立されたことは

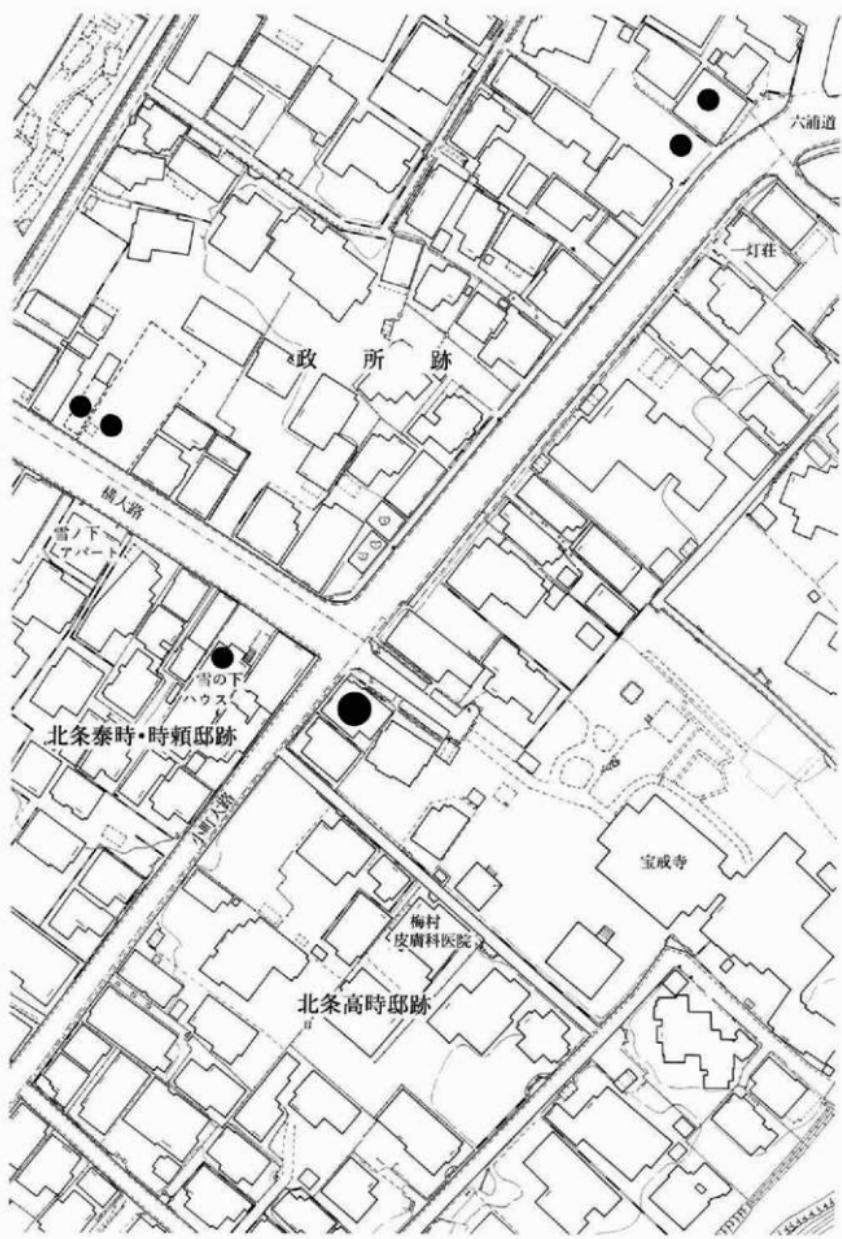
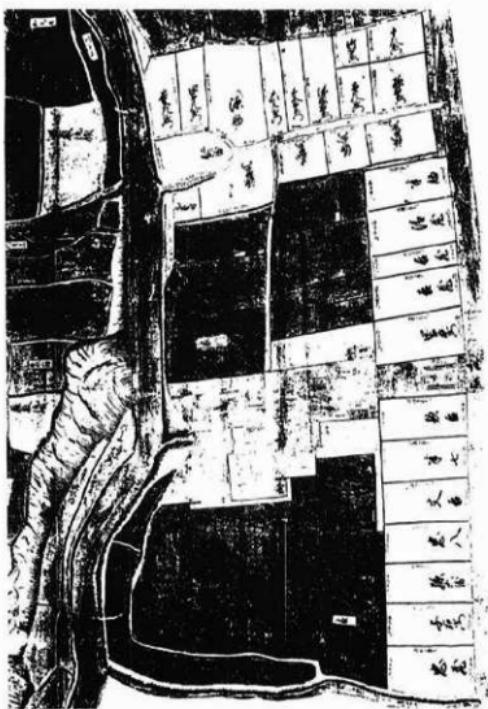


図2 遺跡周辺図



▼ 河南省立博物館 動物部(第一回) 67

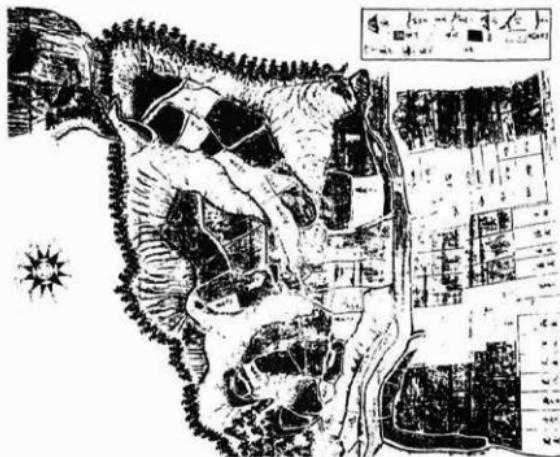


図3 宝戒寺周辺の古絵図

龜	古	万	佐	清	龜
吉	古	吉	吉	蠻	吉
四	廬	右	龜	門	四
廊	右	龜	門	廬	廊
數	七	七	手	文	數
古	古	古	吉	吉	古
七	八	八	兵	蟲	七
七	八	八	兵	蟲	七
龜	蠻	蠻	蟲	蟲	龜
龜	蠻	蠻	蟲	蟲	龜

▲同左圖の部分（近畿寺境内及び門前聚落）

文久3年(1861)製作の墨書き図

述べたが、宝成寺所蔵『惟賢瀧頂授与記』には塔ノ辻宝戒寺との記載があり、塔ノ辻は宝成寺の前で横大路と小町大路との交差点であることがわかる。宝戒寺はもと上野寛永寺末、いまの比叡山延暦寺末で、金竜山駅満院円頓宝戒寺と号し、開山は円觀慧鎮である。建武2年(1335)3月28日には相模国金目郷半分を足利尊氏が寄進しており、建武中興失敗後も庇護を受けていた(註5)。このように宝戒寺は足利氏との関係もあって、南北朝期から室町期にかけて最も栄えた時期であったと思われる。本尊の木造地蔵菩薩坐像は、正平二十(貞治四)年(1365)三条法印憲円の作で、通称「唐仏地蔵」と呼ばれている。この他、彫刻では宝成寺第二世で足利尊氏二男と伝える木造の惟賢和尚坐像や秘仏で衣文に大型土紋を配す木造歡喜天立像、普川同師入定窟出土という古瀬戸壺などがある。境内には聖徳太子を祀る太子堂があり、毎年1月22日に市内の職人衆が集い太子講が行われている。

ところで、最盛期の寺觀はいかなるものであったのだろうか。近世には火災を受けているが、宝成寺に境内領地図なる古絵図が所蔵されている(図3)。この絵図について三浦勝男氏は「図は嘉永頃(1848~54)の作と思われるもので、宝成寺諸堂を下方に配置し、その周囲に門前屋敷・畠を、背後の谷地には土地の所有者および永高を明示している」(註6)。従って、この絵図からは14・15世紀当時の宝成寺の様子を知る手掛かりになるとはいひ難いが、参考のためにその様子を略述すれば、小町大路側に表門があり、門内には右に庚申塔・太子堂、左に稲荷社・徳崇(得宗)社・歡喜天・山王社がならび中央には地蔵堂、その後ろに客殿と書院庫裡が廊下でむすばれており、近世末の宝成寺の寺容が描かれている。さらに図には、表門の左右に12軒の門前屋敷が描かれている。それによると、左側には惣吉・半七・文吉・忠八・孫兵衛・与右衛門・忠藏、右側には四郎右衛門・吉藏・吉蔵・清藏・吉蔵・半助とあり、各屋敷の規模はほぼ20間に9間であったようである。調査地点はおそらく表門右側で四郎右衛門の屋敷の一部に当たっていると思われる。

〈本文註〉

- 註1 国史大系『吾妻鏡』「建長3年12月3日条・文永2年3月5日条」吉川弘文館
- 註2 松尾剛次『中世都市鎌倉の風景』吉川弘文館 1993
- 註3 国史大系『吾妻鏡』「建保元年5月2日条・嘉祐二年12月19日条」吉川弘文館
- 註4 高柳光芳『市史』總説編吉川弘文館 1976
- 註5 高柳光芳『市史』社寺編吉川弘文館 1976
- 註6 三浦勝男『鎌倉の古絵図(Ⅲ)』鎌倉国宝館 1969 同書には同一製作によるとと思われる宝成寺境内領地図2幅が記載されており、1幅は大仏家所蔵である。

〈参考文献〉

1. 日井水二編『鎌倉辞典』東京堂出版 1986
2. 貫 達人「北条氏邸址考」「金沢文庫研究紀要第8号」1971
3. 菊川英政「北条泰時・時賴跡雪ノ下一日目35番地点」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 1989
4. 手塚直樹・宮田真『政所跡』政所跡発掘調査団 1991
5. 濱田哲夫「政所跡(No.247)」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 1992

第二章 調査の経緯

I. 調査の経過

本調査は、北条高時邸跡（No. 281）の遺跡地の一角に位置した鎌倉市小町三丁目429番3に所在する自己診療所併用住宅用地内の建築申請に係る区域70m²を対象にして実施された緊急発掘調査である。本調査に先立ち、鎌倉市教育委員会文化財保護課は北条高時邸跡内に所在する申請地において事前の埋蔵文化財確認調査（試掘トレンチ調査）を行い、濃密な中世・近世に属する遺構と遺物が発見された。その結果、本格的な調査による埋蔵文化財の記録保存が不可欠であると認められた。これを受け、文化財保護課と建築施工との協議の末、今回の発掘調査を実施するに至った。

現地調査は、平成6年7月25日に開始された。同年に鎌倉市教育委員会文化財保護課の手で行われた試掘調査の結果に基づき、現地表下30cm内外まで堆積していた近現代の擾乱・客土層を重機により除

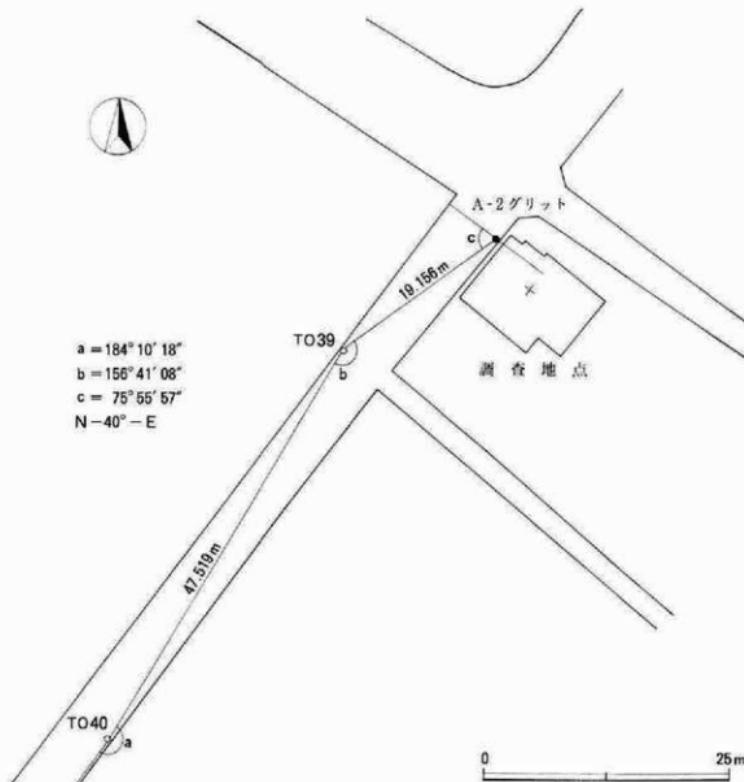


図4 調査地のグリット設定図

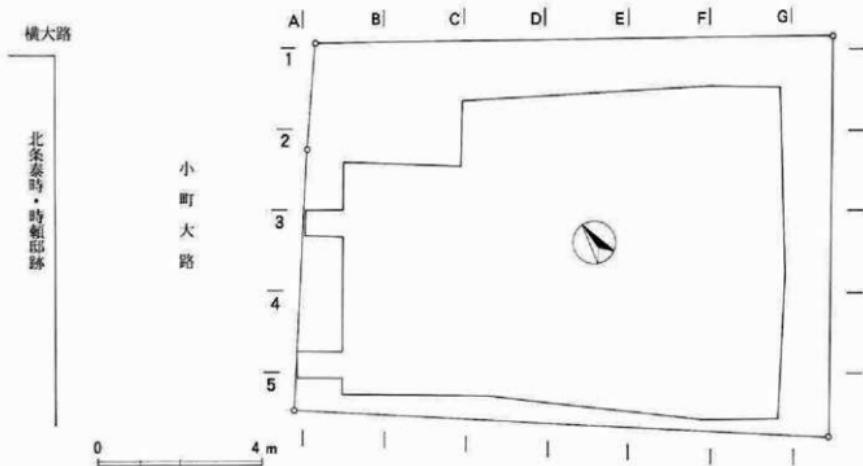


図5 グリット配置図

去し、以下を入力によって掘削した。調査面積は70m²であるが、本調査前に先行して打たれた建物基礎杭の障害や、残土処理の関係上、調査区北側の基礎杭が密な部分にまず先行トレンチを設定し、調査区内の土層堆積や造構の在り方を確認した。その結果に基づいて残土処理の問題を含めて検討し、調査区を東西に分割し、東側(Ⅰ区)の調査を先行して平成6年8月10日迄、ついで西側(Ⅱ区)に移行し同年9月8日をもって全調査区の現地調査を終了した。

II. 調査の方法

調査に当たっては、図5のように調査区内を4mグリットに区画した。鎌倉市内遺跡では、文化財独自の測量基準杭・点などが今だ設置されておらず、各調査地点ではそのつど別個にグリットを設定しており、中世都市鎌倉の町割全体を統一的に把握する上で大きな障害となっている。そこで鎌倉市道路管理課が設置した鎌倉市3級基準点(南からT041・T040・T039)を調査地点周辺から探し出し、基準点との位置関係を明らかにすることによって、遺跡のより正確な位置をつかむことにした。

図4は調査区西側で現小町大路上の鎌倉市3級基準点のT041・T040・T039をそれぞれ角度と距離とを測量して連結したもので、調査区外西に任意の点を設定し、現小町大路の軸方位に合う形で東と南に向かって4mおきの軸線を配した。グリットは、南北方向に西からアルファベットを、東西方向に北から算用数字を付し、各区画のグリット名称は北西隅の交点杭を当てた。また報告文中の方位の呼称は、特に断りのない場合このグリットに合わせ、北東方向を北と呼称している。南北軸方位はN-33°-Eで現小町大路とほぼ平行関係である。

第三章 調査結果

第1節 各遺構面の概要と層序

鎌倉市教育委員会文化財保護課が実施した試掘調査の結果を基に、現地表下30cm内外まで堆積していた近現代の客土や攪乱を重機で除去し、以下人力で掘り下げて遺構検出を行い、試掘調査時の第5層で黄褐色砂質土を1面とした。1面は標高9.8m前後で、この面での検出遺構には、近世土壙3基・塀柱穴18口・近世胞衣皿の合わせ口かわらけが確認され、近世建物基礎の掘り方もある。この面の上層には関東大震災後の整地面や、それ以前の近代・近世の版築面が残っており、従って1面で検出した遺構のうち近世遺構は掘り方の深いものが遺存していた。これらの遺構は、第一章で述べたように江戸時代の宝戒寺門前屋敷であったことを思わせ、出土遺物の年代とともにそれを裏付けていよう。この面で検出した遺構の年代は17～19世紀である。

1面構成土は、北側では貝砂主体の黄褐色砂質土で、南側は土丹と貝砂を含んだ弱い地業層で、これを10～20cm程掘り下げたところでやはり貝砂と、その上面に関東ローム層のような黄褐色土の薄い層の面の拡がりが現れたので、これを2面とした。2面は標高9.6mで、この面で検出した遺構は、溝4条・道路2時期・柱穴21口である。また貝砂面の切れたE・Fライン間では南北に走る溝状の落ち込み肩が検出され、先行して調査した北壁トレンチでもほぼ同じ位置で確認されている。西側では堅牢な土丹版築面が現れ、面上を精査したところ一部に轍の跡と思われる細い溝状ものが検出され、土丹版築による道路舗装であることが判明した。道路面は薄い間層を挟んで少なくとも3時期の補修や張り増しが確認された。2面で検出した遺構は13世紀後葉～15世紀前半頃の年代が考えられる。

2面を掘り下げたところ、調査区東側には厚さ5cm程のしっかりとした土丹版築による地業層が認められ、層位的にはその僅か上に薄く堆積する炭化物層が拡がっていた。土丹地業層と炭化物層を剥がし約5cm程下げたところにやや硬化した面が捉えられたので、上層の地業面と合わせてこれを3面として調査した。また西側では小町大路と思われる土丹版築の舗装した道路面と、その側溝が確認された。3面は標高9.4mで、この面で検出した遺構は、溝1条・玉石組溝1条・道路2時期・かわらけ溜り1ヶ所・柱穴10口などである。この面は13世紀後半に比定したいところである。

調査区東側では3面下20cm前後を掘り下げると、中世基盤層である黒褐色粘質土が現れた。調査区西端では現小町大路にほぼ平行して南北に走る3時期（古い時期の溝の方が西に寄っており、溝8は軸方位も東に少し振れている）の側溝を検出したが、調査区内では道路の状況が確認できないため、さらに西方へ2箇所の拡張トレンチを設定した。トレンチ内では上層で確認された土丹舗装の道路面は西側が高く、側溝方向の東に向かって緩やかな傾斜を持っていた。一方、中世地山面は調査区東側と同じく黒褐色粘質土であったが、上面は硬化していたものの上層道路のようなしっかりした土丹版築等の舗装は発見できなかった。4面は標高9.1～2mで、この面で検出した遺構は、土壙4基・溝3条・柱穴50口などである。

以上の土層堆積の詳細については、北壁トレンチ土層図（図30）と調査区南壁土層図（図30）を参照してほしい。

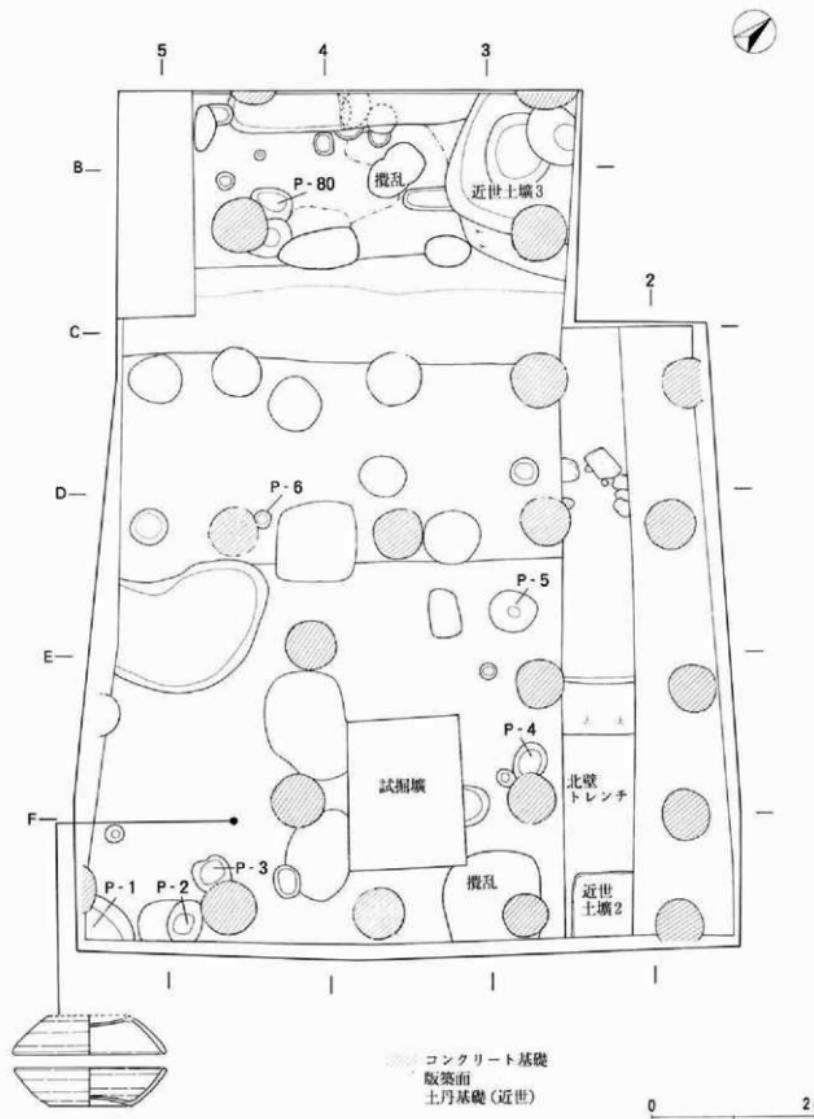


図6 1A面全測図

第2節 検出遺構と出土遺物

I. 1面遺構と出土遺物

1面は、標高9.8m前後のところで、近世土壤3基・柱穴18口を確認した。柱穴はそれぞれ径50cm、深さ20cm～50cm程のもので、建物などの柱穴列としての関連性は認められない。この他に大小12基の土丹を敷き詰めた近世建物の基礎が検出されている。

a. 土 壤 (図7～9、図版2・11、表1～3)

近世土壤1 (図7) E-5グリットに位置し、南側は調査区南壁にかかる。形状は不整円形を呈した大形の土壤で、規模は長径190cm、短径140cm、深さ27cmと浅く、上面は削平を受けている可能性が高い。覆土は褐色土で締まりがない。

近世土壤1 (図8・表1) 出土遺物1・2は肥前系磁器、3は灯明皿、4は女瓦 (平瓦)、5は石製品で、18～19世紀の製品が主体である。

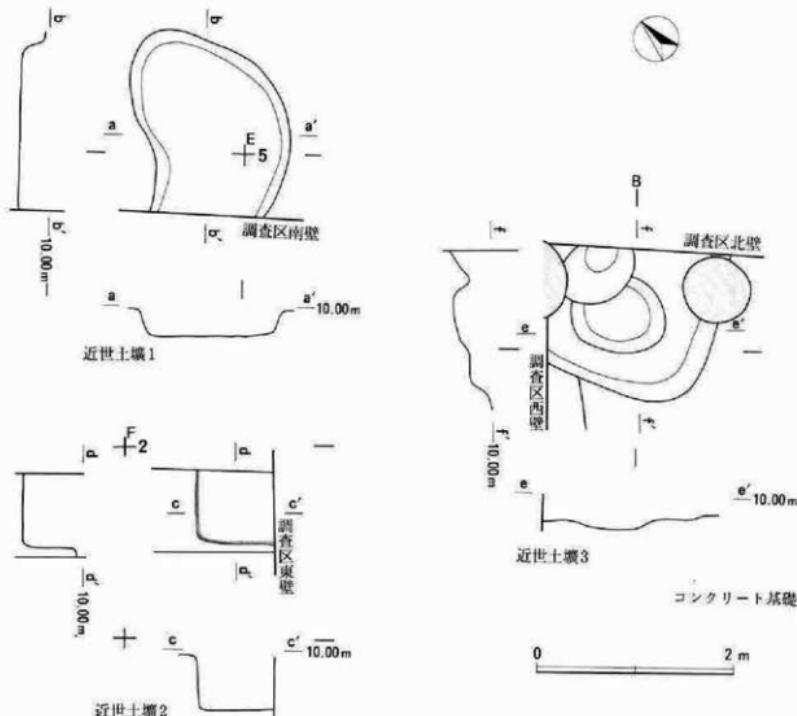


図7 近世土壤1～3

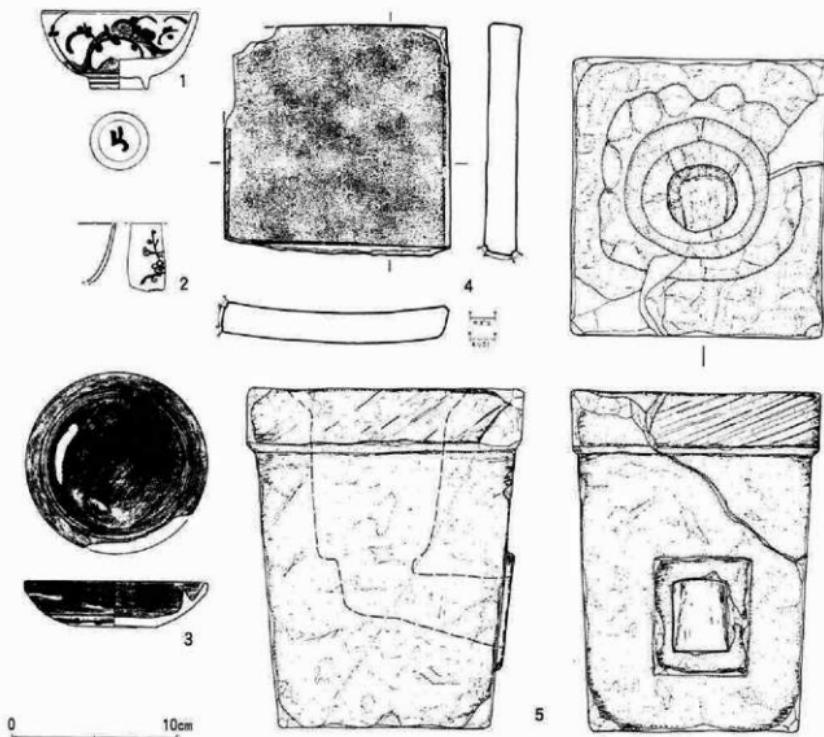


図8 近世土壤1出土遺物

近世土壤2(図7)

F-2グリットに位置する。東西トレンチ内で確認され、東側を調査区壁、北側はトレンチ壁にかかる。推定形状は方形を呈すると思われ、深さ55cmを測る。覆土は締まりのない茶褐色土が主体である。

近世土壤2出土遺物(図9・表2) 6・8・9・12・13は瀬戸窯製品、7は鎌瓦(軒丸瓦)、10は青白磁、11は志戸呂窯皿、14は常滑窯鉢鉢、15は瓦質の移動式へっつい、16は刀の锷である。

近世土壤3(図7)

B-3グリットに位置し、北側と西側は調査区壁にそれぞれかかり全貌は不明である。形状は隅丸方形を呈したものと思われる。深さは20cmと浅く、底面中央に小さな規模のピット2口が確認された。

近世土壤3出土遺物(図9・表3) 17は瀬戸・美濃窯端反碗、18は小柄の柄部分である。この他、図示しなかったが中世所産の手づくねかわらけや近世陶磁器の小片が出土している。

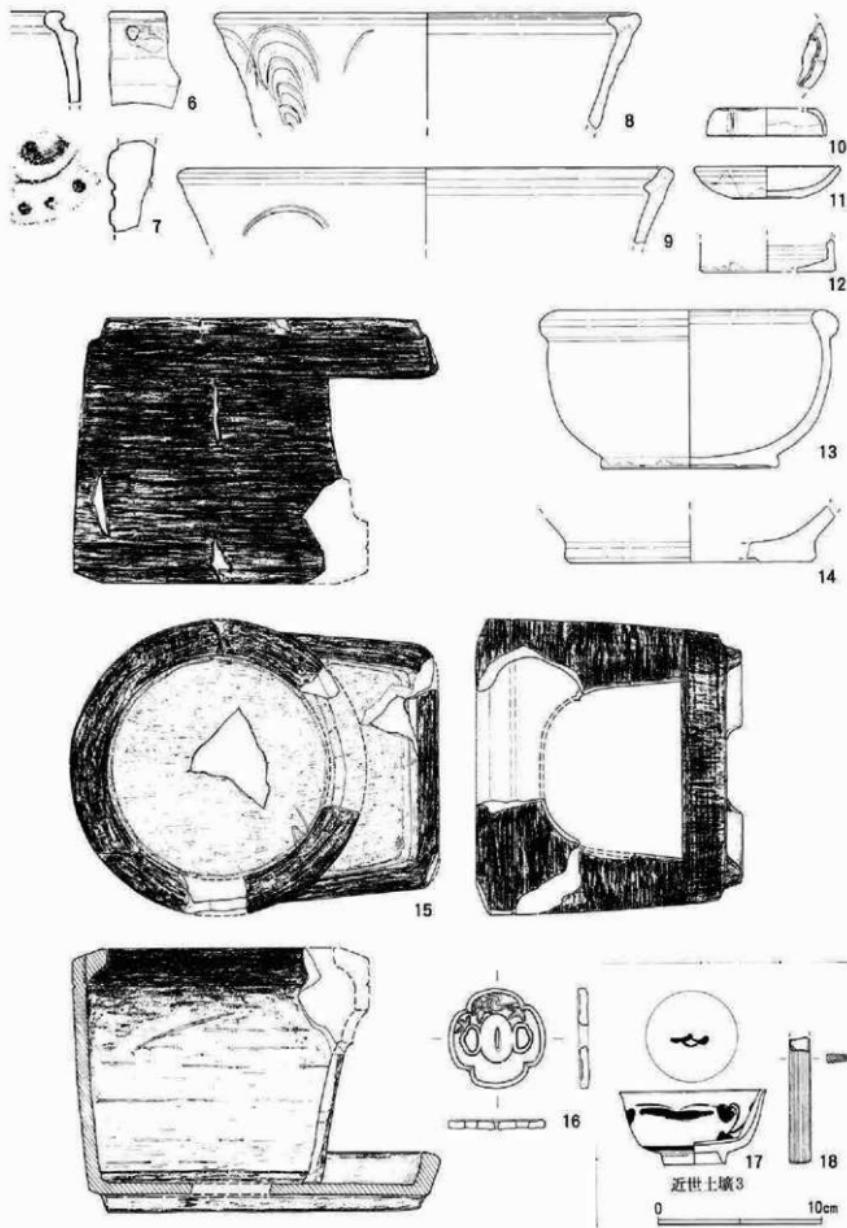


图9 近世土壤2+3出土遗物

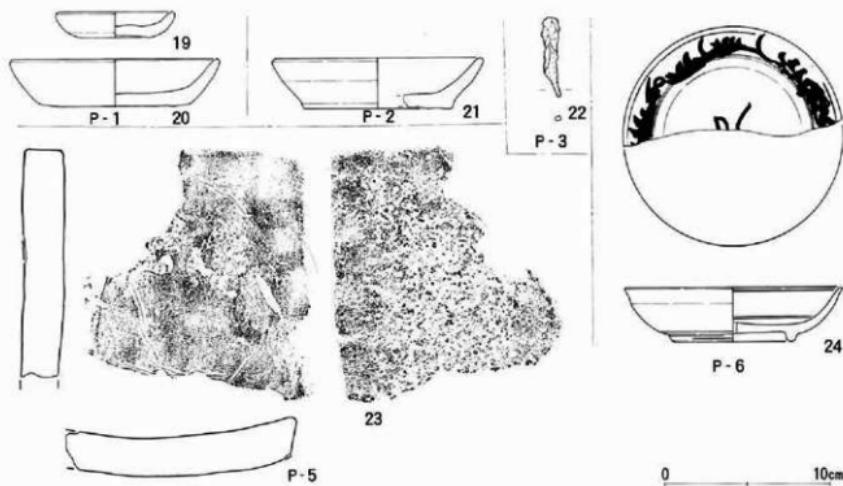


図10 1面柱穴出土遺物

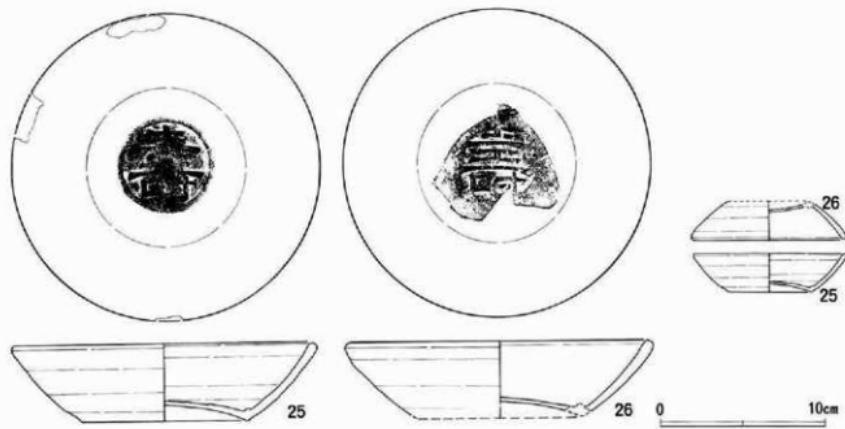


図11 近世合わせ口かわらけ

b. 塙基礎状造構（図15～17、図版2・10、表8・9）

位 置 C～E-1～5グリット

調査区 中央を南北方向に走る主軸方位N-40°-E

規 模 幅約250cm 確認面からの深さ130cm

概 要 調査区北端の先行トレンチ（北壁トレンチ）掘削時、80cm程掘り下げたところで鎌倉石切石組の一部を確認していたので、当初は石組み溝かと思われた。掘り方は上方が開いたV字形の断面で南

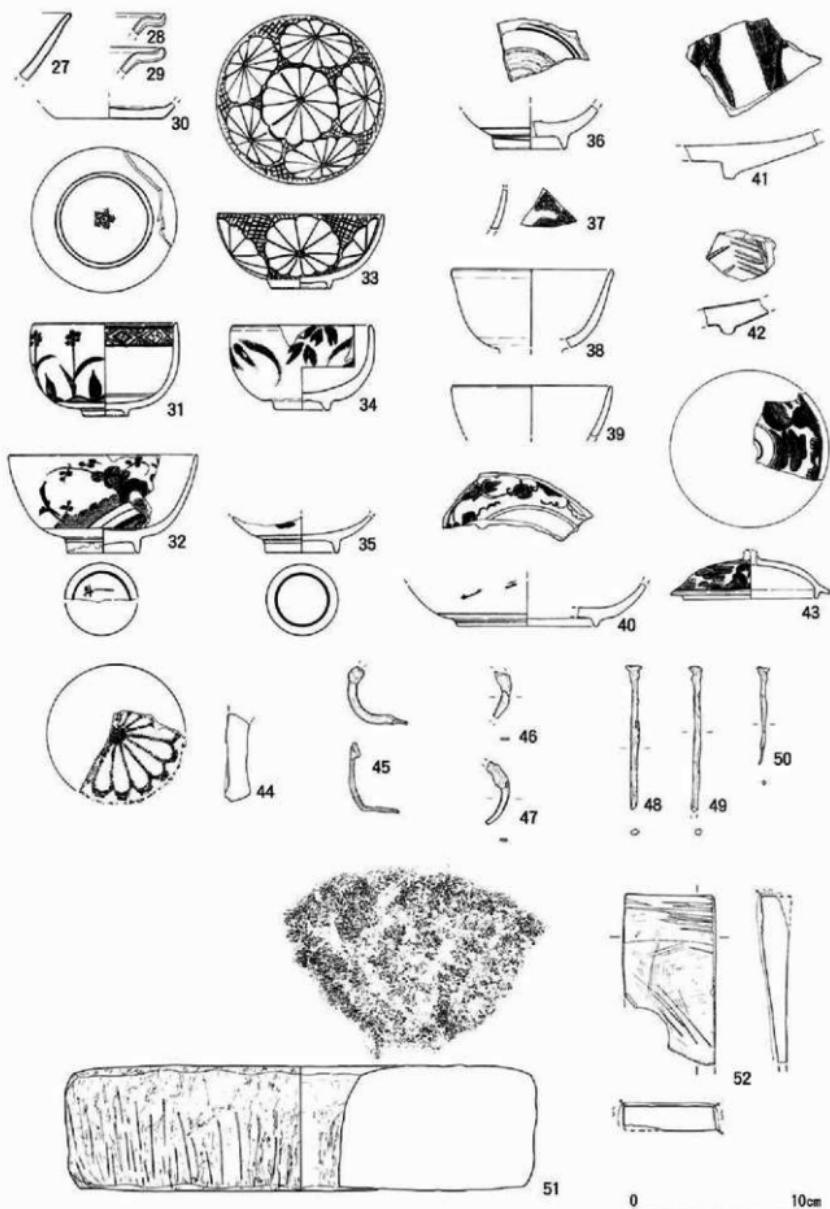


図12 1面出土遺物 (1)

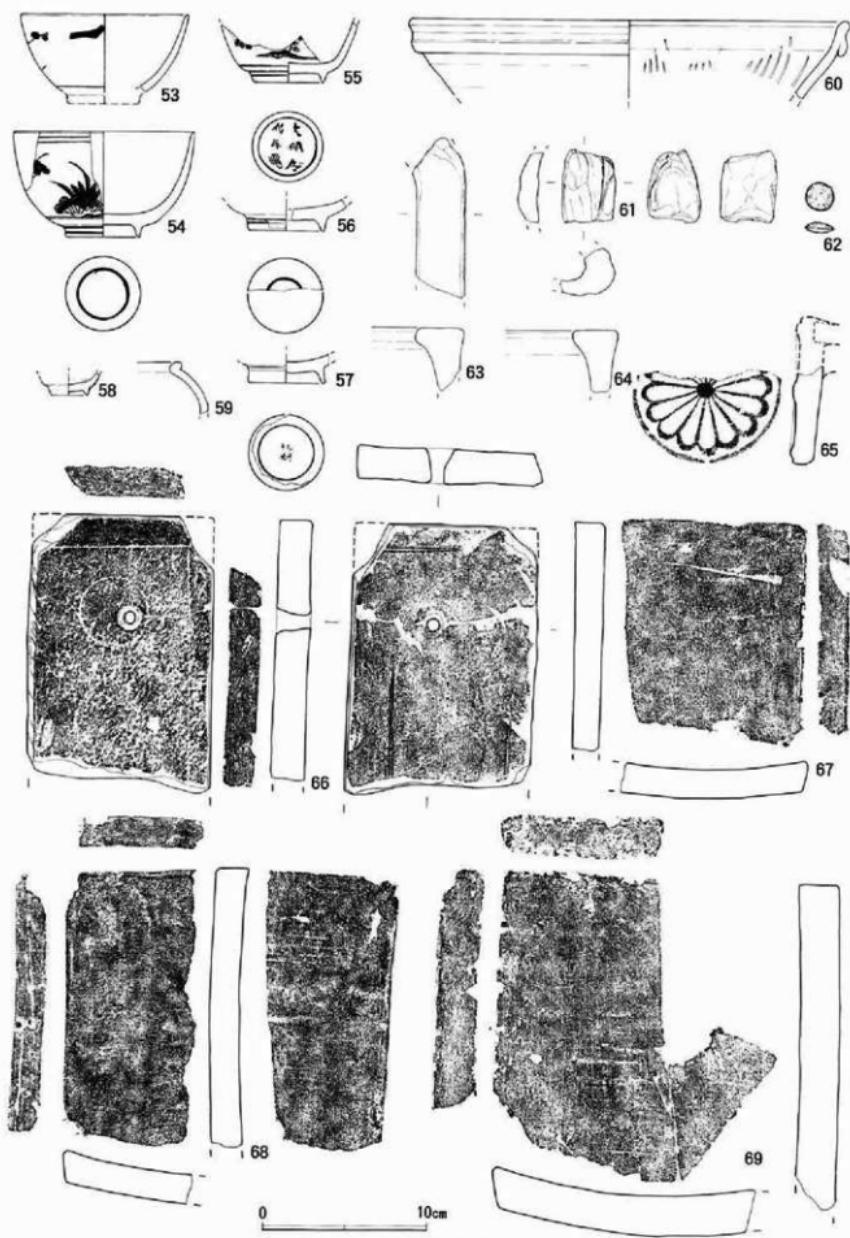


図13 1面出土遺物 (2)

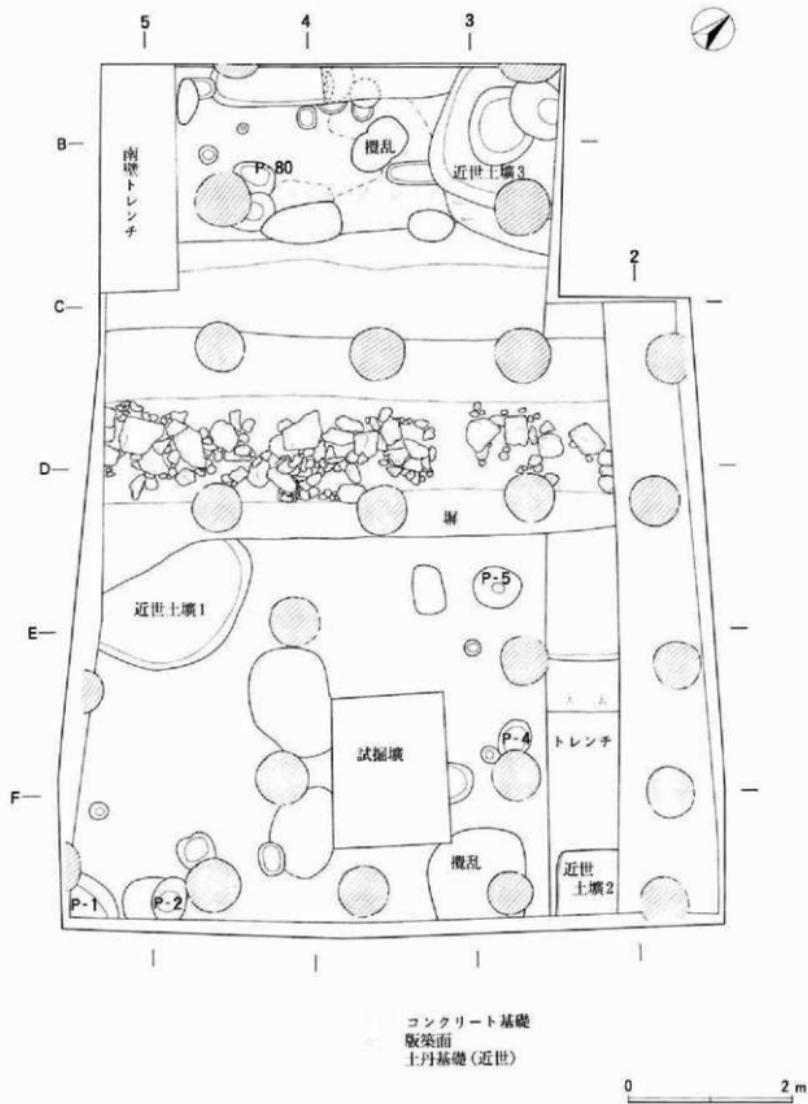


図14 1B面全測図

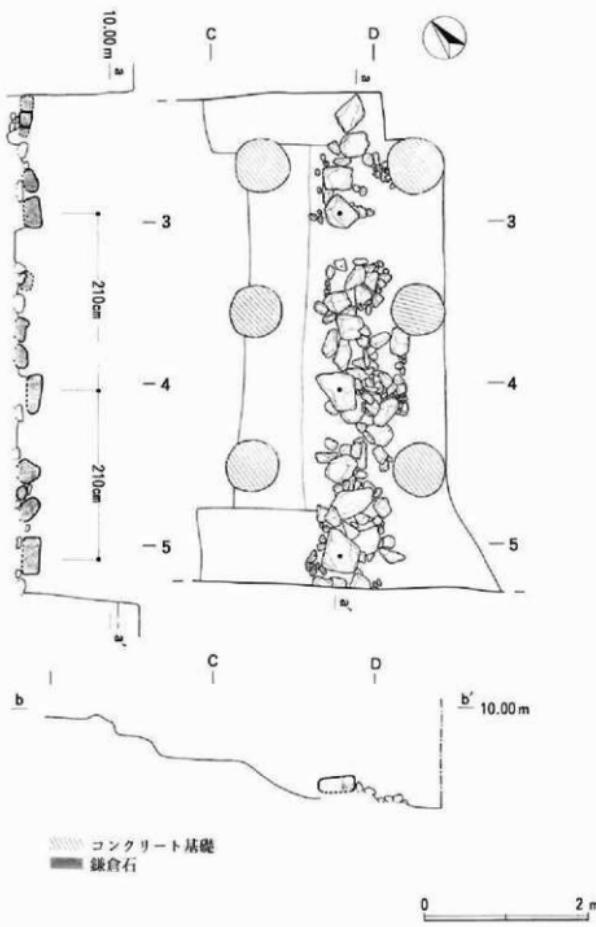


図15 基礎状遺構

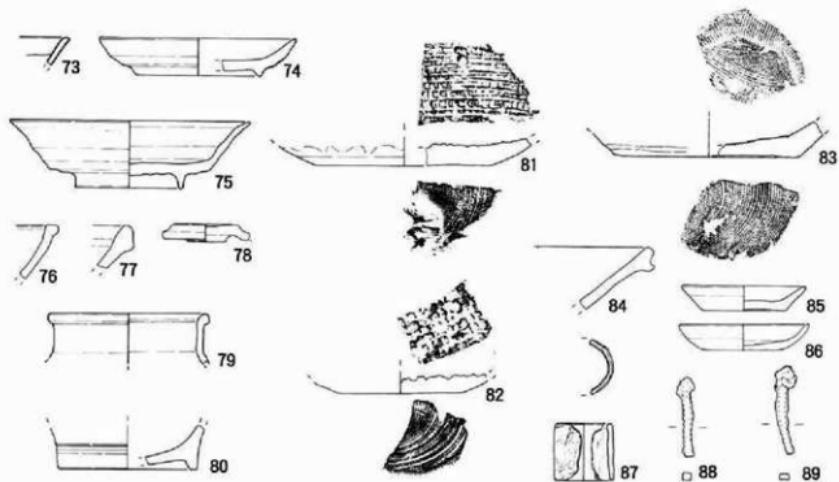
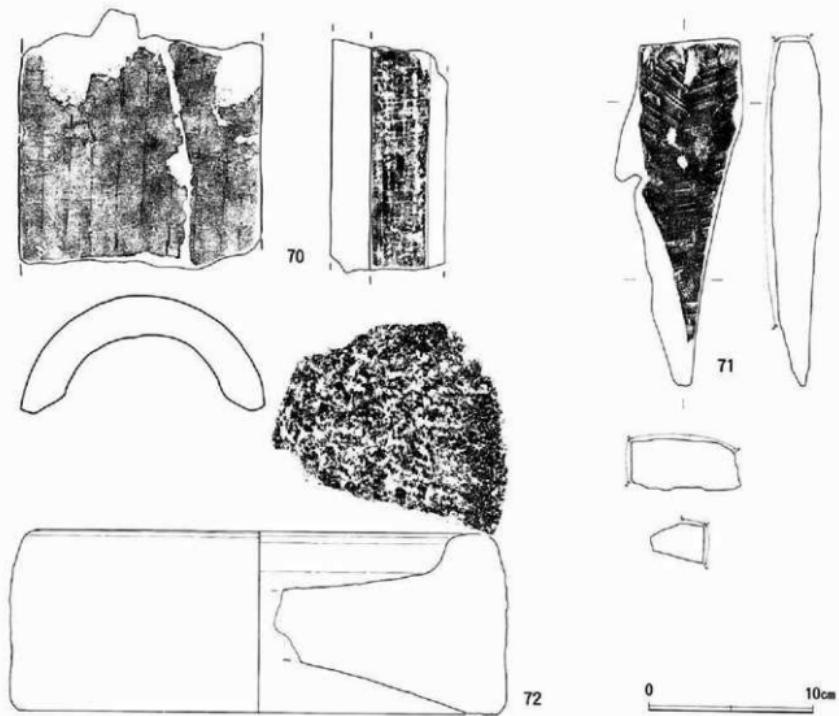


图16 塔基基础状遗物出土遗物 (1)

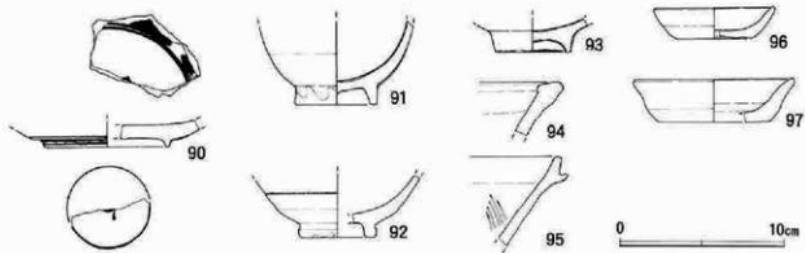


図17 塙基礎状遺構出土遺物（2）

北方向に走る溝状を呈するもので、現小町大路に平行して調査区外に延びている。覆土は小さな土丹塊を含む褐色粘質土で、底面には鎌倉石・伊豆石（安山岩）・土丹塊破片による基礎の根石が亂雑に埋めされ、その上に「鎌倉石切石」が置かれていた。この「鎌倉石切石」は厚さ15cm～20cmの不整形なもので、調査区内では210cmの間隔で配置されていた。

塙基礎遺構出土遺物（図16・17、表8・9） 70は男瓦（丸瓦）、71は石製鏡、72は石臼、73は白磁端反碗、74～84は瀬戸窯及び瀬戸美濃窯製品である。74は所謂ねすみ志野皿、85・86・96・97はロクロ成形かわらけ、87は鉄製品、90～93は肥前系磁器、94・95瀬戸美濃窯の描跡である。

c. 各柱穴出土遺物（図10、表4）

19～21はロクロ成形のかわらけで19は小皿、20・21は大皿、22は鉄釘、23は女瓦（平瓦）、24は肥前系の染付皿である。

d. 1面出土遺物（図12・13、図版10、表5～7）

図12～25・26は大型の近世かわらけである。成形は底部と体部を接合したもので、型作りである。内低に「壽」の文字が押捺されている。出土状況は26のかわらけの上に、25のかわらけが潰れた形で検出され、合わせ口にしたかわらけである。本資料は合わせ口かわらけであり、内低に「壽」を持つことから胞衣皿に用いられた可能性が考えられる。27～29・42は青磁、30は白磁、34と42を除く31～43は肥前系磁器の染付碗、34は上絵碗、44は棟飾り瓦、45～47は灯明具の銅製品、48～50は鉄釘、51・52は石製品である。図13～53～57は肥前系磁器の染付碗、58は肥前系白磁のぐい呑み、59・60は瀬戸美濃窯の製品、61・62は土製品で61については人形の肩部分であると思われる。63・64は土器質手培り、65は棟飾り瓦、66は質斗瓦、67～69は女瓦（平瓦）である。

1 肥前系磁器 染付碗	法量 口径9.5cm 高台径3.5cm 器高4.8cm 文様 外面に雪輪梅樹文 高台部に二重線	胎土 黒色砂粒 外底部「大明年製」	色調 淡灰色 軸 くすんだ灰白色 備考 梶佐見系か？ 18c中～末？
2 肥前系磁器 色絵小皿	胎土 堅緻 備考 19cか？	色調 乳白色 軸 やや青味かかった透明釉	文様 梅樹文 枝は長須、梅花は赤絵
3 灯明皿	法量 口径11.2cm 底径5.3cm 器高2.7cm	成形 外底面へラ削り	軸 蒜頭色の鉛輪
4 女 瓦	法量 縦14.2cm 横14.0cm 厚1.9cm 胎土 磁砂 精良土 下端 左端は両面から刃物で切り込みを入れた後削り、右端は刃物で横面に荒く削り整える	色調 黒色 志 灰褐色 燐成 硬質	備考 後瓦（觸切瓦や質斗瓦）に使用したものか？
5 舛状石製品	法量 幅幅17.1cm 横幅15.5cm 高さ20.8cm 孔深14.0cm 線帯幅4.0cm	石材 済灰岩	

表1 近世土壤1出土遺物

6	瀬戸香炉?	胎土 微砂 気孔 色調 淡灰白色 軸 暗赤茶色(斑に黒色)
7	鎧 瓦	胎土 微砂多量 色調 黒色 志 灰褐色 條成 良好 備考 巴頭: 大きく丸い 外区に大粒の珠文
8	瀬戸 盤?	法量 口径 25.8cm 胎土 微砂 白色粒 気孔 色調 淡黄白色 軸 緑黄色透明 買入あり
9	瀬戸 盤?	法量 口径 29.2cm 胎土 微砂 気孔 色調 淡黄白色 軸 淡緑黄色透明 買入あり
10	青白磁 合子 蓋	法量 口径 7.4cm 顶部径 6.3cm 器高 1.7cm 胎土 微砂 堅微 色調 白色 軸 青白色透明 頂部の文様不明 備考 輪花状になる
11	志戸呂皿	法量 口径 8.8cm 底径 4.0cm 器高 2.0cm 胎土 微砂 白色粒 色調 灰褐色 軸 暗茶褐色(錯粒)
12	瀬戸 美濃	法量 底径 7.8cm 胎土 微砂 雲母 色調 黄白色 軸 淡緑黄色
13	瀬戸 鉢	法量 口径 16.1cm 底径 10.7cm 器高 9.7cm 胎土 微砂 白色粒(微量) 色調 極色 軸 淡緑褐色
14	常滑 描跡	法量 底径 14.8cm 胎土 砂粒 白色粒 黒色粒 色調 淡赤褐色 軸 極色
15	へつつい	成形 輪積 外面: 丁寧な磨きで整形 内面: 輪積み痕 側面: 雲形に透し彫 胎土 瓦質 石粒 砂粒 色調 外側面: 黒褐色 内側面: 黑灰色 茶灰色 燃成 良好
16	鉢	法量 幅 6.2cm 厚 0.5cm

表2 近世土壤2出土遺物

17	瀬戸 美濃 端反襷	法量 口径 8.9cm 高台径 3.8cm 器高 4.5cm 毛彫
18	小 柄	小柄の柄の部分と思われる 外面: 銅製 厚 0.1cm前後 中に鉄製の中子を確認

表3 近世土壤3出土遺物

19	かわらけ	法量 口径 7.0cm 底径 4.1cm 器高 1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒 色調 淡橙色
20	かわらけ	法量 口径 12.6cm 底径 9.1cm 器高 2.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂(黑色砂) 雲母 白針 赤色粒 色調 淡暗橙色
21	かわらけ	法量 口径 12.5cm 底径 9.0cm 器高 3.1cm 成形 ロクロ 胎土 微砂(黑色砂) 雲母 白針 赤色粒 色調 淡暗色
22	釘	法量 長 4.9cm 厚 0.35cm×0.2cm
23	女 瓦	四面 丁寧なナデで滑らかな仕上がり 凸面 肌が荒れて凹凸 胎土 砂粒 粉質 色調 黑灰色 志 灰褐色 燃成 ややあまい
24	肥前系磁器 豆付皿	法量 口径 13.2cm 高台径 7.5cm 器高 3.3cm 胎土 黒色微砂粒多 気泡 色調 淡灰色 軸 白濁 呉須の発色悪い 燃成 悪い 文様 萩菊唐草文

表4 1面柱穴出土遺物

25	かわらけ	法量 口径 18.7cm 底径 10.3cm 器高 4.8cm 成形 型 胎土 白色鉢物 霧母(金雲母も含む) 色調 橙色 備考 内底面「謹」スタンプ 合わせ口かわらけの上部
26	かわらけ	法量 口径 18.8cm 底径 10.2cm 器高 4.7cm 成形・胎土・色調は25と同質 合わせ口かわらけの下部
27	青磁 瓢	胎土 微砂 気孔 堅微 色調 灰白色 軸 暗緑黄色透明 備考 運弁文 龍泉窯系
28	青磁 折縁鉢	胎土 微砂 堅微 色調 淡灰白色 軸 淡青緑色失透 備考 内側に運弁文
29	青磁 折縁鉢	胎土 微砂 若干の気孔 堅微 色調 白色 軸 淡青緑色半透明

表5 1面出土遺物(1)

30	白磁 盆	法量 口径6.6cm 脱土 若干の気孔 ややきめが咀い 色調 淡灰白色 軸 淡緑灰色半透明
31	肥前系磁器 染付碗	法量 口径8.9cm 高台径2.7cm 器高5.7cm 脱土 夾雜物殆ど無し 堅緻 色調 淡灰白色 軸 薄青白色 文様 外面:草花文 内面:口縁に菱形文 18c末~19c初頭
32	肥前系磁器 染付碗	法量 口径11.7cm 高台径4.4cm 器高6.0cm 脱土 若干の気孔 堅緻 色調 灰白色 軸 灰色気味 にくすんだ白色 舌須の発色悪い 文様 外面:雪輪梅樹文 外底面に「年製」 18c前~中
33	肥前系磁器 染付碗	法量 口径10.2cm 高台径3.7cm 器高4.6cm 脱土 夾雜物少々 堅緻 色調 乳白色 軸 薄青白色 舌須の発色にいい 文様 内外面:12弁菊花文、間に網目文様
34	上色繪付碗	法量 口径9.6cm 高台径3.4cm 器高5.2cm 脱土 夾雜物無く軟質 色調 黄灰白色 軸 黄色 文様 外面:草花文を上繪付で施す 陶胎上繪付 備考 京焼系か瀬戸美濃産か?
35	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.3cm 脱土 夾雜物無し 堅緻 色調 淡灰白色 軸 薄青白色透明 舌須の発色良好 文様不明
36	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.3cm 脱土 黒色粉粒 やや軟質 色調 灰白色 軸 濁灰白色 文様 波佐見系五弁花 18c中~末
37	肥前系磁器 染付碗	脱土 黒色粉粒 堅緻 色調 淡灰白色 軸 白色透明 内外面に細かな貫入 文様 梅花文
38	肥前系磁器 無文碗	法量 口径9.9cm 脱土 陶胎 色調 明茶灰色 軸 黄味を帯びた肌色 鉄シブ色 17c後~18c初
39	肥前系磁器 碗	法量 口径9.6cm 脱土 夾雜物殆ど含まない 堅緻 色調 乳白色 軸 白色半透明 備考 白磁か染付か不明
40	肥前系磁器 染付皿	法量 高台径8.6cm 脱土 夾雜物無し 堅緻 色調 淡灰白色 軸 青味がかかった白色透明
41	肥前系磁器 染付大皿	脱土 夾雜物少量 色調 暗灰色 軸 白色透明 高台盤付部のみ露胎 文様 山水文 舌須の発色悪い
42	青磁 瓢	法量 高台径4.0cm 脱土 微砂 堅緻 色調 白色 軸 淡緑青色半透明 文様不明
43	肥前系磁器 染付 盖	法量 口径8.2cm 最大径9.8cm 気孔(2.7)cm 脱土 精良 色調 乳白色 軸 やや青味を帯びた透明軸 舌須の発色良好
44	棟飾り瓦	法量 瓦頭径8.6cm 脱土 砂粒多 色調 灰黒色 燐成 良好 瓦頭 16弁菊花文 弁が四弁の菊丸で外縁(衆縁)をもたない 瓦頭裏 指頭痕 横位ナデ
45	鰐製品	搔き立て(灯芯押さえ)の一部か?
46	鰐製品	同 上
47	鰐製品	同 上
48	釘	法量 長9.3cm 厚0.5cm×0.3cm
49	釘	法量 残長9.0cm 厚0.4cm×0.3cm
50	釘	法量 長5.9cm 厚0.2cm×0.2cm
51	石 白	法量 直径28.9cm 孔径4.7cm 高7.8cm 石材 安山岩系 色調 赤味を帯びた灰色
52	砥 石 仕上砥	法量 残長10.6cm 幅5.7cm 厚1.6cm 石材 粘板岩 色調 緑がかかった灰白色 片面のみ使用

表6 1面出土遺物 (2)

53	肥前系磁器 染付碗	法量 口径10.1cm 胎土 夾雜物殆ど無し 堅緻 色調 白色 軸 薄青白色透明 18c
54	肥前系磁器 染付碗	法量 口径11.0cm 高台径4.6cm 器高6.5cm 胎土 黒色粉粒 色調 淡灰白色 軸 白濁した乳白色 文様 外面：草花文 1660年～1690年
55	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.3cm 胎土 夾雜物殆ど無し 堅緻 色調 乳白色 軸 薄青白色透明 文様 外面：梅樹文 外底面「大明成化年製」銘 1650年～1660年
56	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.7cm 胎土 夾雜物殆ど無し 堅緻 色調 淡灰白色 軸 白濁して青味がかる 1640年～1660年
57	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.6cm 胎土 黒色粉粒少量 堅緻 色調 乳白色 軸 白濁色 外底面：一重線内に「大明年製」
58	肥前系磁器 ぐい呑み	法量 高台径2.2cm 胎土 黒色微砂 色調 灰白色 軸 青味を帯びた透明軸
59	瀬戸 美濃 小壺	胎土 堅緻 色調 淡黄灰白色 軸 茶褐色の鉛釉
60	瀬戸 美濃 搖鉢	法量 口径27.2cm 胎土 黒色粒や多 色調 明黄灰色 軸 茶褐色の鉛釉
61	土人形？	胎土 微砂 織密土 色調 淡橙色 備考 人形の肩の部分か？
62	土製品	法量 直径1.8cm 厚0.7cm 莳石状
63	手焼き	胎土 土器質 微砂 雲母 白色粒 赤色粒 色調 暗淡橙色 備考 四角または五、六角形になると思われる
64	手焼き	胎土 土器質 微砂 雲母 白色粒 赤色粒 気孔 色調 暗黒色 芯 暗橙褐色 備考 外面横位ヘラミガキ
65	棟飾り瓦	法量 瓦頭径9.0cm 瓦頭側面厚1.2cm 胎土 黒色砂 雲母 白色粒 色調 黑灰色 芯 灰色 文様 弁が四弁の菊丸 外縁（周縁）を設けない 江戸前期か？（17c？）
66	蟻斗瓦	法量 残長17.0cm 残幅11.3cm 厚2.1cm 胎土 砂粒 白色粒 色調 灰色 芯 淡灰色 塗成 軟質
67	女瓦	法量 厚1.8cm 凹面 横位のナデ 細砂離れ砂付着（若干） 凸面 若干の微砂付着 丁寧な整形 胎土 微砂 雲母 白色粒 色調 灰色 芯 淡灰色 塗成 軟質
68	女瓦	法量 厚1.9cm 凹面 横位のヘラナデ整形 細砂の離れ砂付着（若干） 凸面 振叩き 微砂の離れ砂付着 胎土 黒色砂 白針（微量） 色調 黑灰色
69	女瓦	法量 厚2.6cm 凹面 横位のヘラナデ整形 微砂の離れ砂付着 凸面 ハラナデ整形 微砂の離れ砂付着 胎土 砂粒 白色粒 色調 黑灰色 芯 灰色 塗成 やや軟質

表7 1面出土遺物（3）

70	男瓦	法量 厚2.4cm 四面 端面に平行した糸切り痕 若干の布目痕 線位のヘラ整形 凸面 線位のヘラナデ整形 側縁を斜めに切り落とす 胎土 黒色砂 白色砂 小石 色調 黑灰色 芯 灰色
71	硯石	法量 残長21.3cm 幅6.4cm 厚3.2cm 石材 玄武岩 色調 灰黒色 備考 加工途中のノミ痕
72	石臼	法量 口径27.0cm 底径29.4cm 高11.1cm 石材 安山岩系 色調 灰色
73	白磁 端反碗	胎土 微砂 堅緻 色調 淡灰白色 軸 淡灰綠色透明
74	瀬戸 美濃 おひら志野皿 い貫入	法量 口径12.1cm 高台径7.6cm 器高2.3cm 胎土 精良 やや軟質 色調 灰黒色 軸 灰黒色 芯 黄
75	瀬戸 美濃 灰釉皿 貫入多	法量 口径14.6cm 高台径6.5cm 器高4.1cm 胎土 若干の気孔 色調 淡黄灰白色 軸 乳白色の灰釉

表8 塙基礎状遺構出土遺物（1）

76	瀬戸 鍤?	胎土 微砂 白色粒 気孔 色調 淡黄白色 軸 淡黄茶色
77	瀬戸 鍤?	胎土 微砂 白色粒(若干) 気孔 色調 明黄白色 軸 黒茶色
78	瀬戸 小壺蓋	法量 口径5.2cm 顔高3.8cm 器高1.1cm 胎土 きめ細かい 色調 黄灰色 軸 淡灰緑色
79	瀬戸 美濃 香炉	法量 口径9.8cm 胎土 鉄分多 色調 灰白色 軸 焙茶色(鉄軸) 17c中~後か?
80	瀬戸 美濃 花器か?	法量 高台径8.4cm 成形 ロクロ 高台 削り出し 胎土 微砂 白色粒(共に微量) 気孔 色調 黄白褐色
81	瀬戸 鉢皿	法量 底径10.7cm 胎土 きめ細かい 色調 灰色 軸 淡灰緑色
82	瀬戸 鉢皿	法量 底径7.4cm 胎土 ややきめが粗い 色調 黄灰色 軸 灰綠色
83	瀬戸 美濃 擂鉢	法量 底径11.4cm 胎土 気孔 極質 色調 明黄灰色 軸 暗赤褐色 備考 底部斜切り痕
84	瀬戸 鍤?	胎土 微砂 白色粒 気孔 色調 淡黄白色 軸 黒褐色
85	かわらけ 沙質	法量 口径7.5cm 底径5.0cm 器高1.5cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雪母 白針 白色粒 赤色粒 色調 淡黄橙色 備考 近現代のものと思われる 胎土が硬質で長石、石英粒が混入
86	かわらけ 沙質	法量 口径7.9cm 底径4.6cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雪母 赤色粒 色調 淡黄白色
87	不明端状装飾品	法量 径3.6cm 内径2.8cm 高3.55cm
88	釘	法量 長4.9cm 厚0.55cm×0.5cm
89	釘	法量 長5.5cm 厚0.5cm×0.3cm
90	肥前系磁器 染付皿	法量 高台径7.4cm 胎土 黒色微砂 色調 灰白色 軸 青味を帯びた透明軸 細かな貫入 文様 五瓣花?
91	肥前系磁器 青磁瓶	法量 高台径5.0cm 胎土 黒色粉粒 やや粘性の高い堅緻土 色調 乳白色 軸 淡緑色半透明 荒い貫入 備考 全体に粗い造りをした製品
92	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.7cm 胎土 黒色微砂 色調 灰白色 軸 緑がかかった不透明軸 18c後半
93	肥前系磁器 青磁碗	法量 高台径4.6cm 胎土 黒色微砂 色調 灰白色 軸 薄いオリーブ色 失透 気泡多 18c後半 備考 波佐見か?
94	瀬戸 美濃 擂鉢	胎土 微砂 壓縮 色調 明黄白色 軸 黒褐色
95	瀬戸 美濃 擂鉢	胎土 微砂 色調 明黄白色 軸 茶褐色(鉄輪)
96	かわらけ	法量 口径7.3cm 底径4.6cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雪母 白針 小石 色調 橙色
97	かわらけ	法量 口径9.7cm 底径6.8cm 器高2.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雪母 白針 色調 淡橙色

表9 塚基遺跡出土遺物(2)

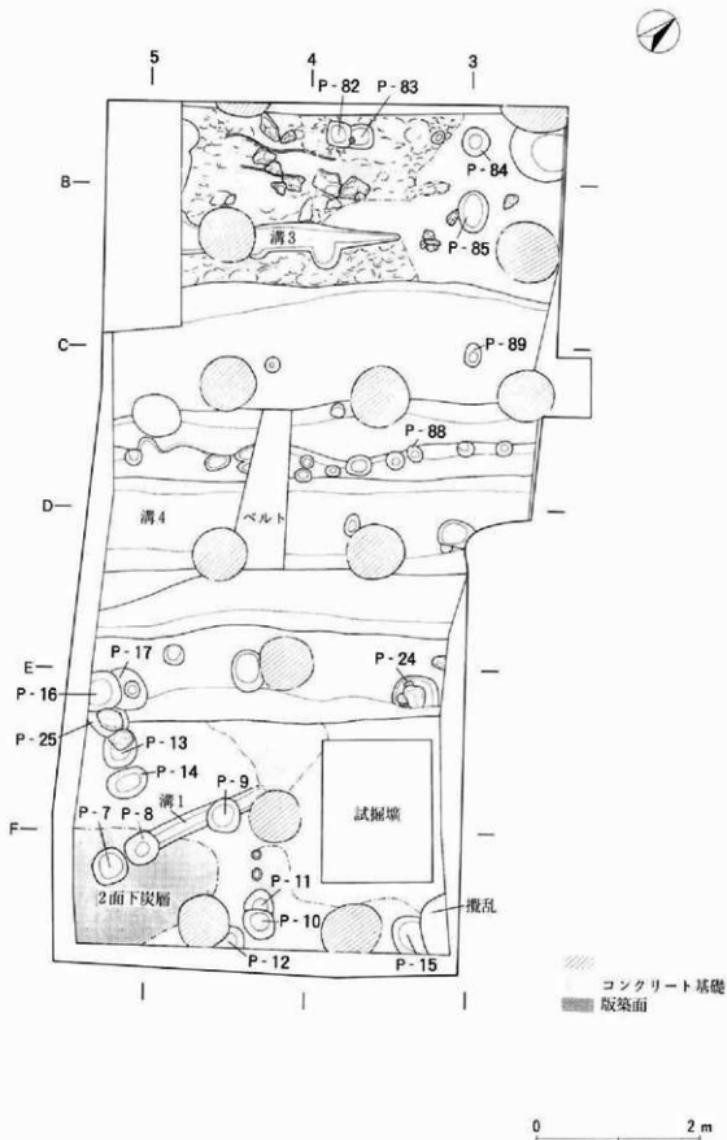


図18 2面全測図

II. 2面の遺構と遺物

a. 溝4 (図19・20、図版5)

位置 C・D グリット調査区中央を南北方向に走る

主軸方向 N-40°-E

確認 標高9.5m 規模幅1.5m 確認面からの深さ80cm以上

概要 1面の堀基礎状遺構の下から検出された。2面道路遺構の側溝と考えられる。覆土の大半は、原形を留めた広葉樹の葉を多く含んだ腐食土（褐色粘質土から還元部分は暗青灰粘質土）で、この覆土中からは殆んど遺物らしきものは見られなかった。西側肩にピットが並んでいるが、覆土から本溝に伴うものではなく、削平による残穴もしくは溝4とは別時期の遺構に伴う可能性が強い。

溝4出土遺物 (図20、表11) 45~48はかわらけでクロ成形の小皿、49は常滑窯の口縁片である。溝4の他には、溝1と溝3の2条が検出された。溝1はF-4グリットに位置し、主軸方位がN-20°-E、残長120cm、幅25cm、深さ5cm程の浅い溝である。溝3はB-4グリットの道路上に位置し、主軸方位N-40°-Eで溝4に平行する。残長272cm、南端は調査区外に延びている。覆土は褐色粘質土の一層で構成される。

b. 2面道路 (図19、図版6)

調査区西側の溝4に平行に走る。道路の舗装面はやや粗な土丹版築で、厚さ15cm程度である。3・4間ラインから北に向かって近世の削平を受けて版築面が弱くなる。この版築面を剥がしたところ、薄い間層を挟んだその下から土丹版築の舗装面がさらに検出された。この道路面は細かく碎いた土丹を緻密に版築し、固く叩き締めた舗装であった。道路上面は摩滅しており、残長120cm~450cm、幅5cm、深さ3cm程の撤らしき浅い溝状の痕跡が確認されている。土丹版築は溝4の肩付近では薄く、調査区東壁に向かうにしたがって厚く盛り上がるようになっており、道路からは図示できるような遺物は出土していない。

c. その他の遺構 (図18、図版13)

柱穴21口で、規模は径30~55cm、深さ10~30cm、それぞれ建物や柱穴列といった関連性は認められなかった。先述したように溝4肩に径20cm~30cm、深さ15cm程の小穴が認められた。また堀基礎状遺構の下にも溝状の遺構が両調査壁セクションで確認されたが、平面的な遺構の拡がりとしては捉えきれていない。

2面出土遺物 (図20、図版12、表10・11) 1~19はかわらけでクロ成形、1は内折れのミニかわらけ、2~11は小皿、12~19は大皿、20~28は手づくね成形のかわらけ、20~23は小皿、24~28は大皿、29はクロ成形の白かわらけである。30は青磁碗、31は常滑窯盤、32は山茶窯窯の程鉢、33は擦りかわらけ片である。34~37は墓石、38・39は瓦器碗、40~44は鉄釘である。

柱穴出土遺物 (図20・表12) 50~56はロクロ成形のかわらけで、54は大皿、他は小皿である。57~58は手づくね成形のかわらけ、57は口径の大きい器高の低いタイプ、58は小皿、59は端面に擦り痕をもつかわらけ片である。60~61はかわらけでロクロ成形の小皿。62は鉄釘、63・64は手づくね成形のかわらけで、63は小皿、64は大皿である。65は白磁碗。66は鉄釘である。

堀基礎状遺構下出土遺物 (図21、図版12、表13・14) 67~81はロクロ成形のかわらけである。67~78は小皿、79・80は中皿、81は大皿である。82~88は手づくね成形のかわらけ、82は内折れ、83~85

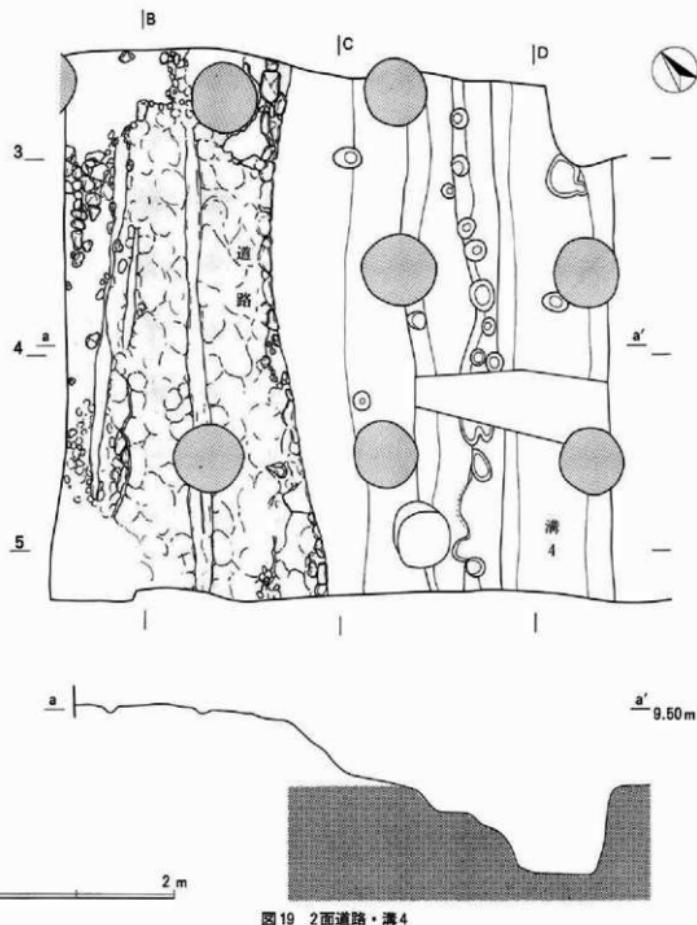


図 19 2面道路・溝4

は小皿、86～88は大皿である。89は白磁皿、90は白磁碗、91は山茶碗窯の捏鉢、92・93は常滑窯豊口縁片、94は擂鉢、95～97は手焼りで、96は脚部片である。98は産地不明の土器片、99は石硯、100・101は瓦、102は石製品であるが用途不明である。

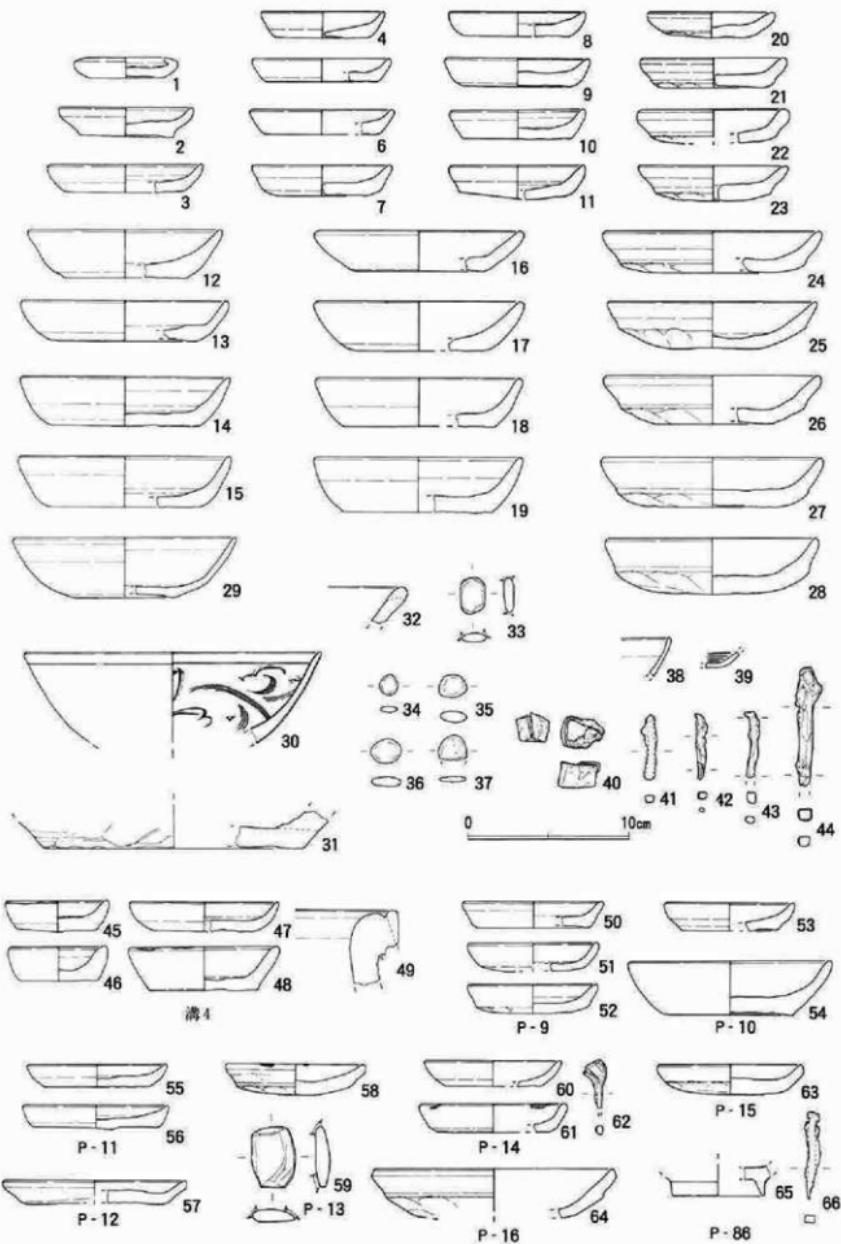


図20 2面満4・柱穴出土遺物

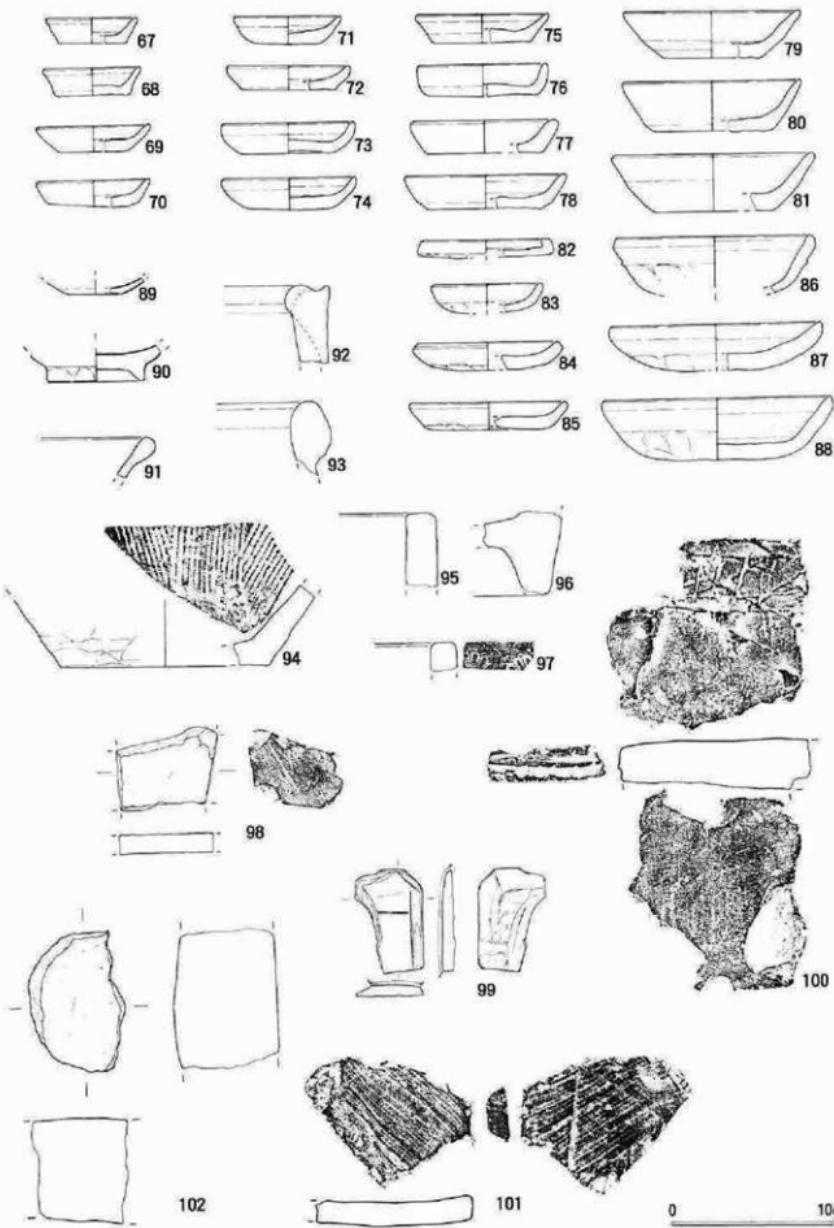


图21 2面塔基础下出土遗物

1	かわらけ	法量 口径4.8cm 底径4.5cm 器高1.5cm 色調 淡橙灰色	成形 内折れ ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
2	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径5.8cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 橙色
3	かわらけ	法量 口径9.3cm 底径7.1cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙灰色
4	かわらけ	法量 口径7.4cm 底径5.6cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
5	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径6.9cm 器高1.4cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
6	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径6.9cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙色
7	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径5.6cm 器高1.9cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
8	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径6.6cm 器高1.5cm 色調 淡褐色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒
9	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径6.7cm 器高1.7cm 色調 淡黄橙色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
10	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径6.7cm 器高1.8cm 色調 暗橙灰色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
11	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径7.1cm 器高2.1cm 色調 淡茶灰色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
12	かわらけ	法量 口径11.7cm 底径7.5cm 器高3.0cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
13	かわらけ	法量 口径12.5cm 底径8.1cm 器高2.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
14	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径9.0cm 器高3.0cm 色調 暗橙色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
15	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径9.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
16	かわらけ	法量 口径12.5cm 底径6.9cm 器高2.5cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
17	かわらけ	法量 口径12.4cm 底径8.8cm 器高3.1cm 色調 淡橙色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒
18	かわらけ	法量 口径12.3cm 底径9.3cm 器高3.0cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡暗橙色
19	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径9.1cm 器高3.4cm 色調 淡黄灰色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
20	かわらけ	法量 口径7.5cm 底径5.8cm 器高1.6cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色
21	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.5cm 器高1.9cm 色調 淡黄褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
22	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径7.8cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙色
23	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径7.1cm 器高2.2cm 色調 淡黄橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
24	かわらけ	法量 口径13.3cm 底径11.4cm 器高2.6cm 色調 淡黄橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
25	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径11.5cm 器高2.8cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 橙色

表10 2面出土遺物(1)

26	かわらけ	法量 口径13.0cm 底径11.3cm 器高3.0cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
27	かわらけ	法量 口径13.3cm 底径11.7cm 器高3.1cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄橙色
28	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径12.0cm 器高3.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
29	白かわらけ	法量 口径13.4cm 底径5.9cm 器高3.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白色粒 精良 色調 明肌色 備考 外底部へラ整形
30	青磁 菓	法量 口径18.3cm 胎土 藏密 色調 暗灰色 軸 灰綠色透明 備考 刻花文
31	常滑 麦	法量 底径15.8cm 成形 織模 成形目 残存部に綴級へラ状具による整形痕 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分 気孔 織密土 色調 赤褐色 芯 淡灰色
32	山茶碗 黒程鉢	胎土 砂粒 白色粒 色調 灰色 口縁部:ほぼ直線的に立ち上がるが、外面に若干の窪みができる 口唇部:内外面からナデ上げ、端部を丸く仕上げる
33	握りかわらけ?	法量 長2.2cm 幅1.5cm 厚0.6cm
34	萩 石	法量 長径1.3cm 短径1.1cm 厚0.35cm 色調 暗灰色
35	萩 石	法量 長径1.7cm 短径1.4cm 厚0.7cm 色調 緑灰黑色
36	萩 石	法量 長径1.9cm 短径1.5cm 厚0.6cm 色調 暗灰色
37	萩 石	法量 径1.8cm 厚0.3cm 色調 灰黒色
38	瓦器 瓶	胎土 微砂 雲母 精良 色調 灰黑色 芯 暗灰色白色
39	瓦器 菓	胎土 微砂 雲母 精良 色調 灰黑色 芯 暗灰色白色 備考 内面に横位暗文
40	銅製品	輝か?
41	釘	法量 長4.0cm 厚0.6cm×0.45cm
42	釘	法量 長4.1cm 厚0.4cm×0.4cm
43	釘	法量 残長4.1cm 厚0.5cm×0.7cm
44	釘	法量 残長7.3cm 厚0.7cm×0.6cm
45	かわらけ	法量 口径6.2cm 底径5.0cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 暗黄灰色 備考 灯明皿
46	かわらけ	法量 口径5.9cm 底径6.3cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡茶灰色
47	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径6.3cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡茶灰色
48	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径6.6cm 器高2.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 淡茶灰色 備考 灯明皿
49	常滑 麦	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 赤色粒 色調 茶褐色 芯 灰色

表11 2面出土遺物 (2)

50	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径6.8cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色
51	かわらけ	法量 口径7.9cm 底径6.4cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黄灰色
52	かわらけ	法量 口径7.9cm 底径6.9cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡橙灰色
53	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径5.8cm 器高1.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
54	かわらけ	法量 口径12.2cm 底径7.6cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
55	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径6.5cm 器高1.4cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 小石 色調 褐色
56	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.7cm 器高1.4cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 橙色
57	かわらけ	法量 口径11.1cm 底径8.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄褐色
58	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径7.3cm 器高2.0cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 暗橙色
59	掩りかわらけ	法量 長3.8cm 幅2.7cm 厚0.8cm 色調 暗褐色
60	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径5.9cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
61	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.0cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
62	釘	法量 残長3.0cm 厚0.4cm×0.5cm
63	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.7cm 器高1.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 褐色
64	かわらけ	法量 口径14.5cm 底径13.4cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白色粒 赤色粒 色調 暗褐色
65	白磁 瓢	法量 高台径5.6cm 胎土 繊密 色調 淡灰白色 軸 淡灰白色透明 貫入あり
66	釘	法量 長5.5cm 厚0.65cm×0.5cm

表12 2面柱穴出土遺物

67	かわらけ	法量 口径5.4cm 底径4.0cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 明橙色
68	かわらけ	法量 口径5.8cm 底径4.5cm 器高1.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
69	かわらけ	法量 口径6.8cm 底径4.1cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡橙色
70	かわらけ	法量 口径6.9cm 底径5.4cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙色
71	かわらけ	法量 口径6.4cm 底径3.9cm 器高1.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色
72	かわらけ	法量 口径7.4cm 底径5.7cm 器高1.5cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
73	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径5.4cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 暗褐色
74	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径5.1cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 橙色
75	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径5.9cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙灰色
76	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径6.7cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 暗橙色

表13 塙基礎下出土遺物(1)

77	かわらけ	法量 口径8.6cm 底径7.1cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色 備考 底部の糸切りをナデ消していると思われる
78	かわらけ	法量 口径9.8cm 底径7.0cm 器高2.1cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
79	かわらけ	法量 口径10.7cm 底径5.8cm 器高2.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 橙色
80	かわらけ	法量 口径10.9cm 底径7.2cm 器高3.1cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 橙色
81	かわらけ	法量 口径12.1cm 底径7.2cm 器高3.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
82	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径8.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 明橙色
83	かわらけ	法量 口径6.5cm 底径6.0cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
84	かわらけ	法量 口径8.6cm 底径7.3cm 器高1.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白色粒 色調 褐色
85	かわらけ	法量 口径9.4cm 底径8.1cm 器高1.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黄褐色
86	かわらけ	法量 口径12.0cm 底径11.4cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙褐色
87	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径10.6cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色
88	かわらけ	法量 口径13.8cm 底径12.5cm 器高3.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 黄褐色
89	白磁 盆	法量 底径3.2cm 胎土 繊密 色調 白色 軸 淡緑灰白色 二次焼成の為失透
90	白磁 袋	法量 高台径6.0cm 胎土 気孔や多いが緻密 色調 灰白色 軸 灰白色半透明
91	山茶碗窯 楊鉢	胎土 砂粒 白色粒 色調 灰褐色～暗褐色 口縁：直線的に立ち上がるが、外面に強いナデによる痕みができる 口唇：外面から内面にナデ上げられる
92	常滑 壺	法量 縁帯幅4.7cm 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 白色粒 色調 赤茶褐色 芯 灰色
93	常滑 壺	法量 縁帯幅3.7cm 胎土 砂粒 石英粒 雲母 白色粒 色調 赤茶褐色 芯 暗黃褐色
94	備前？描跡	法量 底径12.8cm 胎土 微砂 鉄分 気孔 赤色粒 色調 淡黄褐色 すり部：十条
95	手燒り	胎土 瓦質 微砂 白色粒 色調 淡橙色 芯 暗褐色
96	手燒り	胎土 瓦質 微砂 白色粒 赤色粒 色調 白桃色～黒褐色 芯 桃色
97	手燒り	胎土 瓦質 微砂 白色粒 色調 肌色 芯 灰白色～桃色 備考 口縁外面に菊花スタンプ押印
98	不明土器	胎土 砂粒 白色粒 色調 灰色 芯 淡桃灰色 備考 手焼りの底部片か？ 器裏面に雲母が撒かれている
99	硯	加工途中の剥離石か？
100	宇 瓦	法量 厚2.5cm～3.0cm 女瓦部 凹面：微砂粒が離れ砂として使用 凸面：モヤがきられる 胎土 微砂粒 白色粒 流紋が見られる 精良土 色調 黒灰色 芯 灰色
101	女 瓦	法量 厚1.5cm 凹面：微砂粒の離れ砂若干付着 斜め方向の糸切り痕 凸面：微砂粒の離れ砂若干付着 斜め方向の糸切り痕 やや大きめの斜格子叩き目 胎土 砂粒 雲母 白色粒 精良土 色調 灰色
102	石	法量 残長8.5cm 残幅5.8cm 厚6.4cm 色調 灰色～桃灰色 備考 長石粒、石英粒多く含む

表14 堀基礎下出土遺物（2）

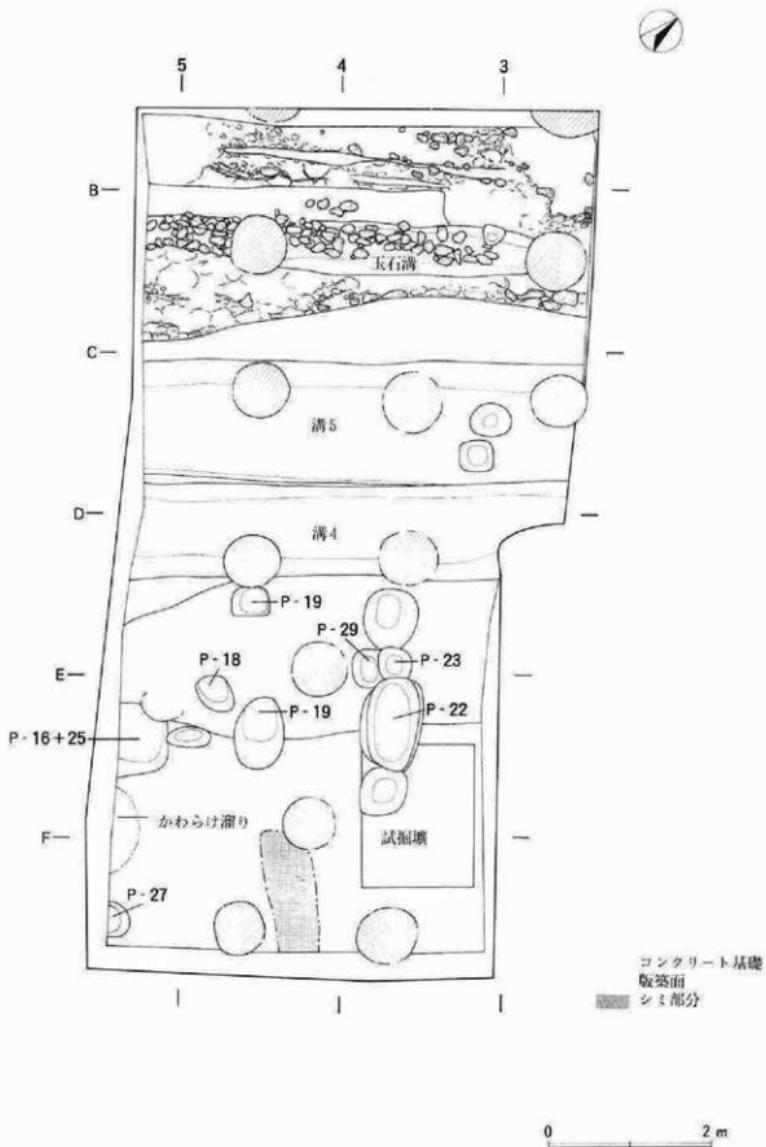


図22 3面全測図

III. 3面の遺構と遺物

a. 溝5 (図24・26、図版5・13)

位置 C・D グリット現小町大路にはば平行して南北に走り、調査区外に延びている

主軸方位 N-40°-E

確認 標高 9.2m

規模 確認された幅 1.5m、確認された深さ 1.0m

概要 溝4の下より検出された。箱形で底面が平らな断面をもつ。覆土は上層・中層が黄褐色粘質土に黒褐色土ブロックが混じるあまり締まりのない土で、下層は黒褐色土ブロック・土丹粒を含んだ灰褐色土である。

溝5出土遺物 (図26、表21) 87はロクロ成形かわらけの小皿、88は手づくね成形のかわらけで内折れの中皿、89は白磁端反碗、90は常滑窯窓の口縁片である。

b. 道路・玉石組溝 (図28、図版7)

道路

3面からは上層・下層2時期の道路面を検出した。2面で検出した土丹版築の道路面を 10cm 程掘り下げたところ、殆んど間層を挟まずにやや弱い土丹版築による舗装面が検出された (図版6-1 の3面道路上層)。さらに舗装の土丹版築を剥がすと、道路面の東から不規則に積まれたような玉石列が南北方向に確認された (図版7-1 の3面道路下層玉石溝)。この道路面は、調査区西側 50cm 程の範囲では中世地山に近い暗茶褐色が表しておらず、そこから東は貝砂を多くまじえた砂質土で硬化した面が一様に拡がっていた。

玉石組溝 (図28、図版7)

位置 B・C グリット南北方向に走るが現小町大路によりやや東に振れて調査区外に延びている

主軸方向 N-45°-E

確認 標高 9.2m

規模 幅 60cm、確認面からの深さ 20cm 前後

概要 3面道路上層の土丹版築を取り除くと、伊豆石による玉石が一条の浅い溝に不規則ながら密に敷き並べたような状態で検出された。溝中に落ち込んでいた玉石を外すと、幅 60cm、深さ 20cm の掘り方内側の両岸に 10cm ~ 20cm 玉石を据えて溝の護岸をしたような構築で、一部には底面にも玉石が見られることから、当初は溝底にも玉石が敷き並べていた可能性もある。覆土は上層が目砂・砂利などを含んだやや締まりのある褐色弱粘質土で、下層は褐鉄分を含んで固く締まる褐色土である。図示可能な遺物は出土していない。

この他の遺構として、調査区中央で西側に落ち込んで中世地山を掘り込んだ溝の肩と思われるものを検出した。さらに調査区南壁・北壁セクションでも掘り方を確認できたが、基礎状造構や溝 5・6 の削平を受けて全貌は把握できなかった。古手側溝とした出土遺物は僅かに認められたが覆土から出土したものである。

古手側溝出土遺物 (図29、図版13、表23) 116~122はロクロ成形のかわらけである。116~118は小皿、119~122は大皿のもので、121は灯明皿、123~131は手づくね成形かわらけ、123・124は内折れ、125~131は小皿、132は青白磁皿、133は北部系の山茶碗、134は常滑窯捏鉢、135は常滑窯窓口縁片、136~138は磁石である。

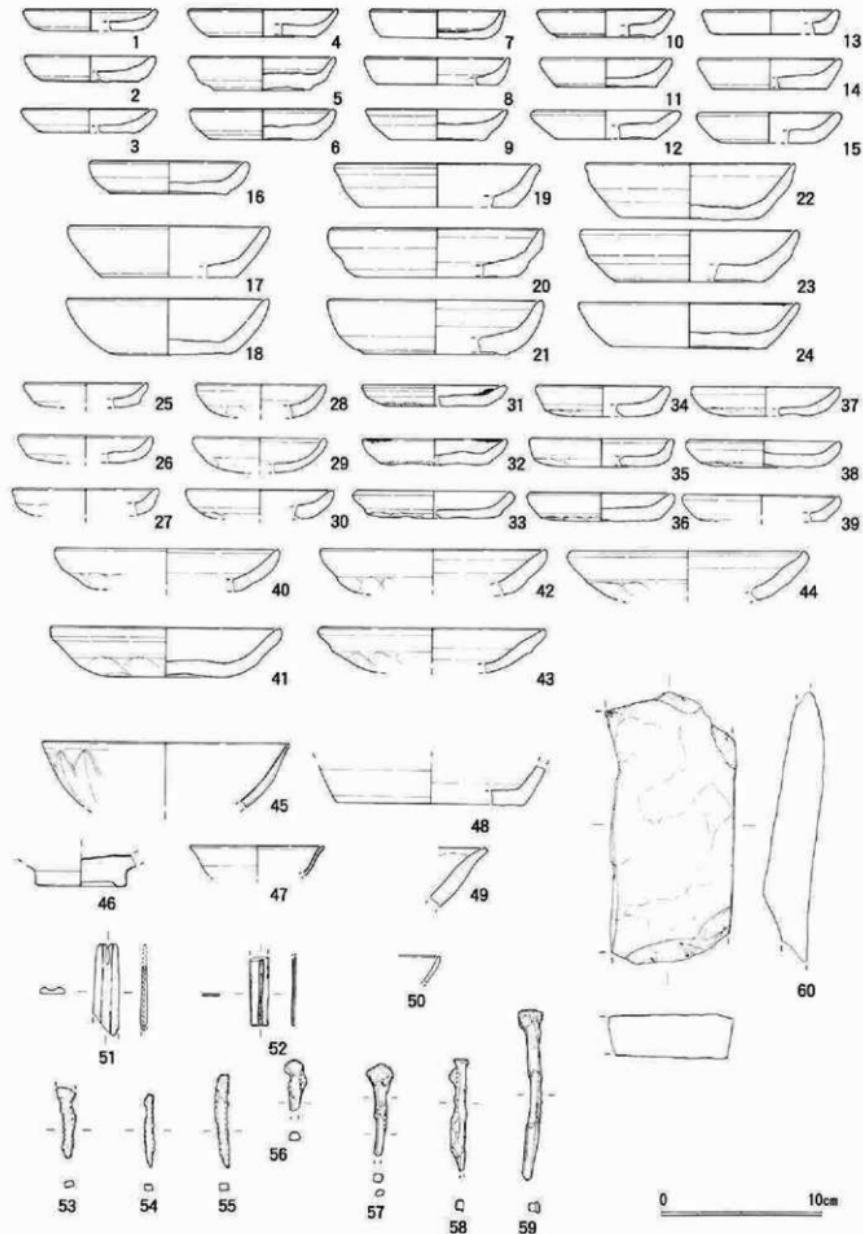


图23 3面出土遗物

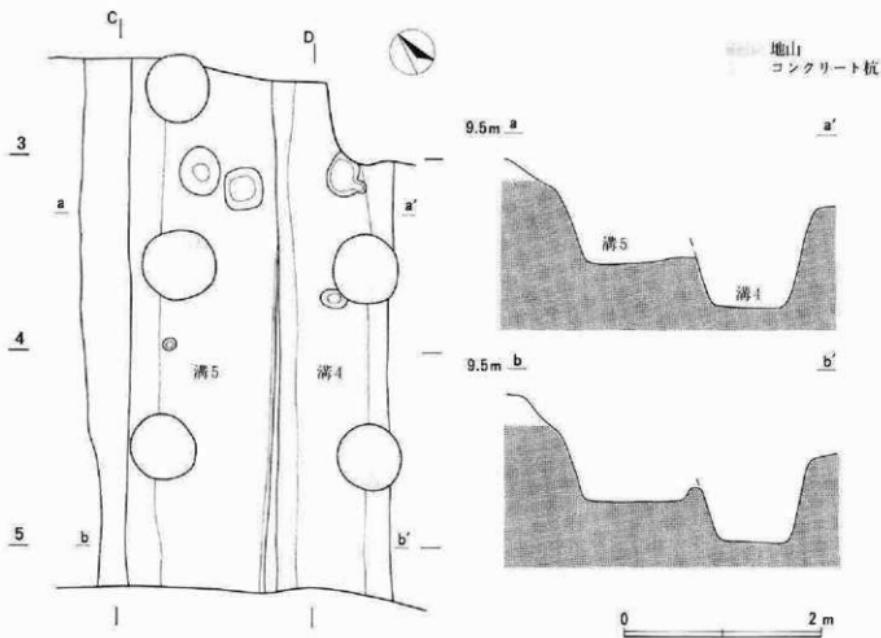


図24 3面溝5

c. かわらけ灌り土壙 (図25・27、図版13)

調査区南東隅付近、F-5グリットより南へ50cm程のところで検出された。調査区南壁にかかるため全体の規模は明らかではないが、楕円形の掘り方をもち、径105cm、深さ20cm程の土壙である。図示できなかった小片のかわらけを含めると、約150点程出土している。覆土は貝粒を少し含んだ炭化物層で構成されている。

かわらけ灌り土壙出土遺物 (図27、表22) 91~108はロクロ成形のかわらけである。91~98は小皿、99~108は大皿、109~114は手づくり成形のかわらけである。109~110は小皿、111は中皿、112~114は大皿、115は山茶碗窓捏鉢である。

d. 3面柱穴 (図26、図版13)

主な柱穴について述べる。P16は調査区南壁にかかる位置で検出、東西径60cm、南北径85cm、深さ45cmの楕円形である。P19は東西径60cm、南北径90cm、深さ48cmの楕円形である。P22は東西径75cm、南北径115cm、深さ48cmの楕円形で土壙の可能性が高い。

3面柱穴出土遺物 (図26、表19・20) P19~62はロクロ成形、61~63~73は手づくりかわらけである。P19~21~74~76は手づくりかわらけ。P22~77~78ロクロ成形かわらけ。P23~79は手づくりかわらけ。P29~80~82は手づくりかわらけ。P31~83はロクロ成形、84~85は手づくりかわらけである。この他、3面出土遺物 (図23、図版13、表15~18) 1~60は面上及び包含層から出土した。

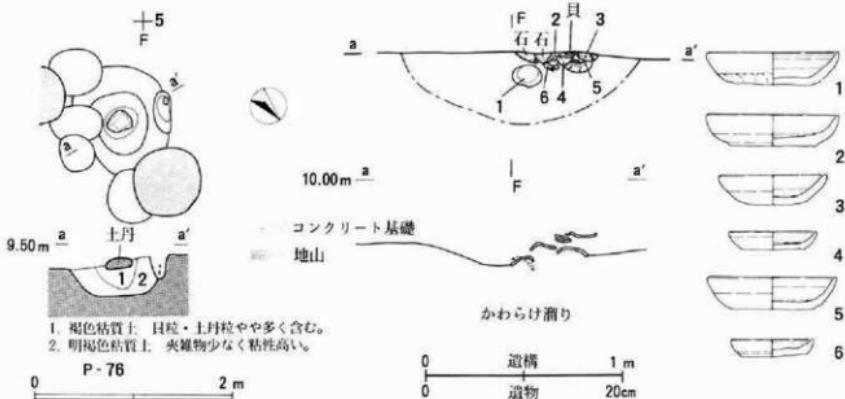


図25 3面P76・かわらけ溜り

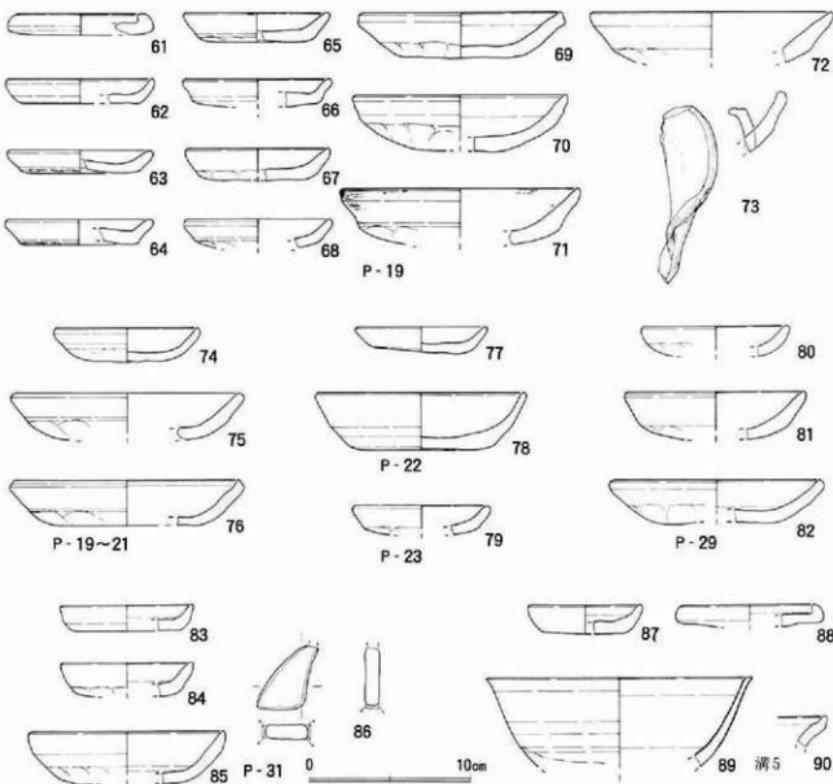


図26 3面穴・溝5出土遺物

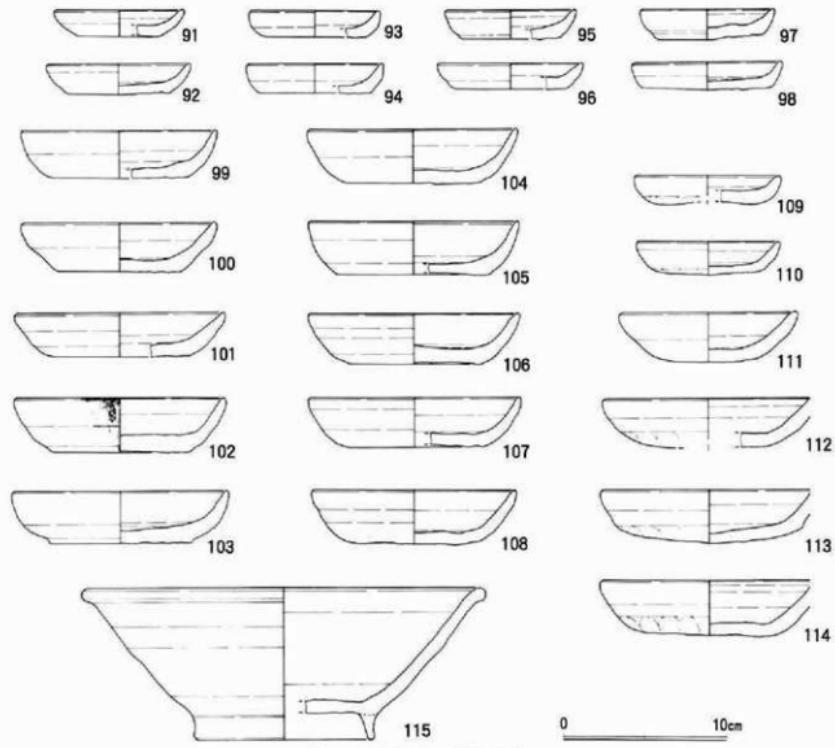


図27 3面かわらけ埴り出土遺物

1	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径5.6cm 器高1.3cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
2	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径6.1cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黄橙色
3	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径5.8cm 器高1.5cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
4	かわらけ	法量 口径9.2cm 底径6.7cm 器高1.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
5	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径6.0cm 器高2.1cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 肌色
6	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径6.6cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡橙色
7	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径6.6cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡褐色
8	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径7.4cm 器高1.7cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色
9	かわらけ	法量 口径8.6cm 底径6.0cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色

表15 3面出土遺物 (1)

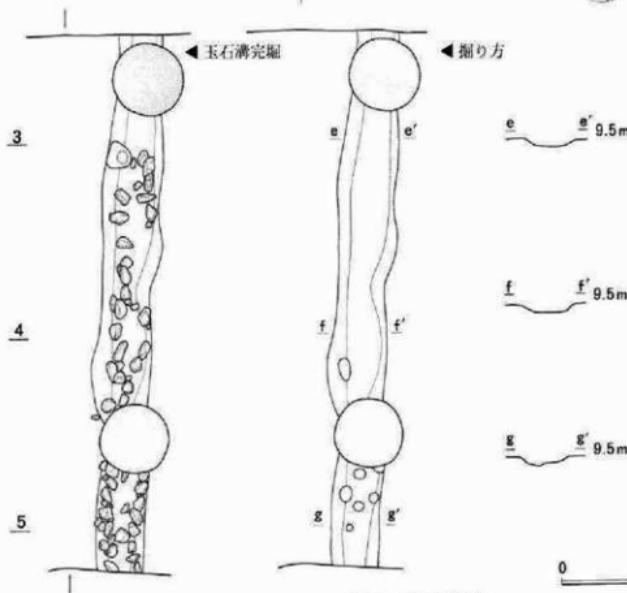
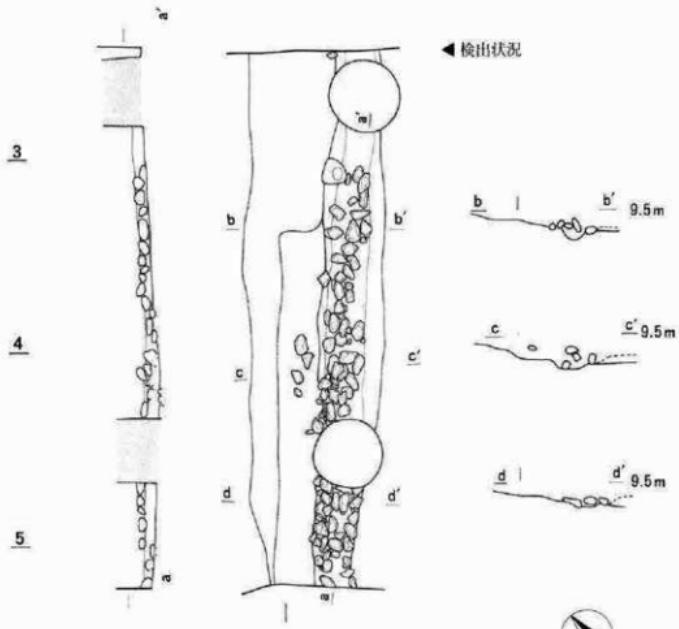


図28 3面玉石組溝

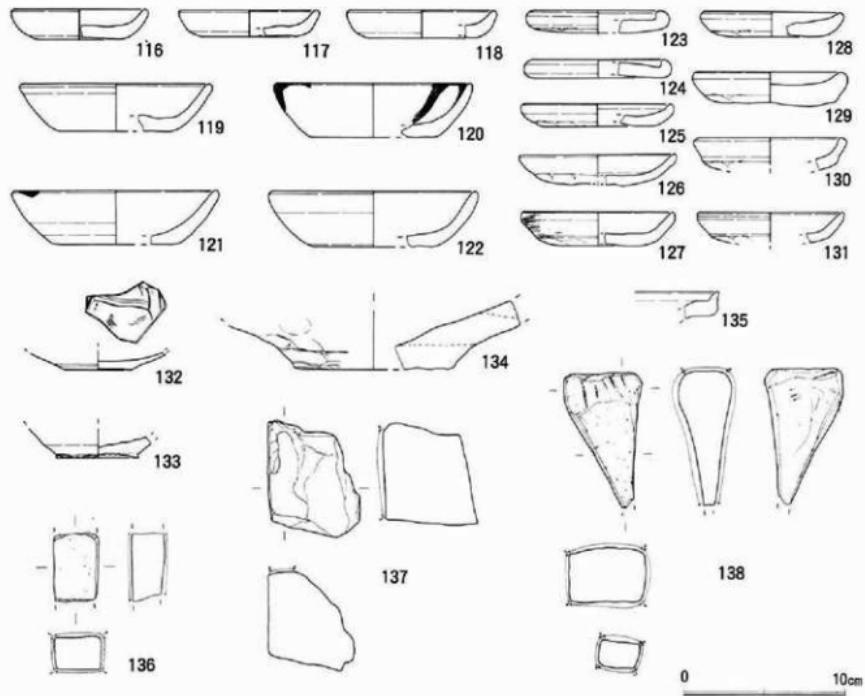


図29 古手側溝出土遺物

10	かわらけ	法量	口径 8.1cm	底径 5.9cm	器高 1.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡橙色
11	かわらけ	法量	口径 7.9cm	底径 6.1cm	器高 1.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡黄橙色
12	かわらけ	法量	口径 8.7cm	底径 6.0cm	器高 1.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗橙色	
13	かわらけ	法量	口径 8.1cm	底径 7.5cm	器高 1.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	色調 橙色
14	かわらけ	法量	口径 8.6cm	底径 7.2cm	器高 1.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒 色調 橙色	
15	かわらけ	法量	口径 8.6cm	底径 5.9cm	器高 1.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗橙色	
16	かわらけ	法量	口径 9.6cm	底径 7.4cm	器高 2.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡明褐色	
17	かわらけ	法量	口径 12.0cm	底径 8.4cm	器高 3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 橙色
18	かわらけ	法量	口径 12.3cm	底径 7.2cm	器高 3.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色	
19	かわらけ	法量	口径 12.3cm	底径 9.4cm	器高 2.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 橙色

表16 3面出土遺物 (2)

20	かわらけ	法量 口径13.0cm 底径8.3cm 器高3.1cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄灰色
21	かわらけ	法量 口径12.9cm 底径9.0cm 器高3.4cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
22	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径8.6cm 器高3.4cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 橙色
23	かわらけ	法量 口径13.2cm 底径9.5cm 器高3.2cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒 色調 橙色
24	かわらけ	法量 口径13.4cm 底径9.6cm 器高2.8cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黄灰色 備考 砂っぽい
25	かわらけ	法量 口径7.5cm 底径6.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
26	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径7.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
27	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径8.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色
28	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径6.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黄灰色
29	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径6.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡茶灰色
30	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径7.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
31	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡褐色
32	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径6.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色 備考 灯明皿
33	かわらけ	法量 口径9.4cm 底径8.4cm 器高1.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 橙色
34	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径7.2cm 器高1.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄褐色
35	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径8.4cm 器高1.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 赤色粒 色調 淡明橙色
36	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.5cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄橙色
37	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径7.8cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色
38	かわらけ	法量 口径9.3cm 底径8.0cm 器高1.2cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
39	かわらけ	法量 口径9.5cm 底径7.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙色
40	かわらけ	法量 口径13.6cm 底径12.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 橙灰色
41	かわらけ	法量 口径14.0cm 底径11.7cm 器高3.1cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
42	かわらけ	法量 口径13.9cm 底径11.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黄灰色
43	かわらけ	法量 口径13.7cm 底径12.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 肌色

表17 3面出土遺物 (3)

44	かわらけ	法量 口径14.3cm 底径12.4cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白色粒 色調 淡橙色
45	青磁 碗	法量 口径15.2cm 胎土 堅緻 色調 灰白色 軸 青灰色半透明 備考 蓬弁文
46	青磁 碗	法量 高台径5.6cm 胎土 繊密 色調 暗灰色 軸 暗灰緑色透明 買入あり
47	青白磁 皿	法量 口径8.2cm 胎土 繊密 色調 白色 軸 淡水青色半透明
48	瀬戸 盆	法量 底径11.5cm 胎土 きめ細かい 色調 灰色 軸 灰緑色透明
49	山茶碗窯 鉢	胎土 微砂 白色粒 繊密 色調 淡灰色 備考 口縁部外反する
50	瓦器 質	胎土 微砂 霧母 精良 色調 灰黑色 芯 灰白色 備考 内外面横方向暗文
51	笄	法量 残長5.7cm 幅1.6cm 厚0.2cm~0.4cm 色調 茶灰色
52	笄	法量 残長4.2cm 幅1.1cm 厚0.15cm 色調 淡黄灰色
53	釘	法量 残長4.4cm 厚0.5cm~0.35cm
54	釘	法量 長4.5cm 厚0.5cm~0.35cm
55	釘	法量 長5.8cm 厚0.55cm~0.45cm
56	釘	法量 残長3.1cm 厚0.6cm~0.5cm
57	釘	法量 残長5.7cm 厚0.5cm~0.5cm
58	釘	法量 残長7.0cm 厚0.4cm~0.6cm
59	釘	法量 長16.0cm 厚0.4cm~0.5cm
60	石斧(中世)	法量 残長16.6cm 幅7.6cm 厚2.6cm 色調 灰黑色

表18 3面出土遺物(4)

P-19		
61	かわらけ	法量 口径7.4cm 底径9.0cm 器高1.3cm 成形 内折れ 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 色調 淡黄褐色
62	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.1cm 器高1.5cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 淡明褐色
63	かわらけ	法量 口径8.6cm 底径7.5cm 器高1.4cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白色粒 色調 淡明褐色
64	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.3cm 器高1.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 色調 淡黄褐色
65	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.3cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 褐色
66	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径7.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 色調 淡茶灰色
67	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 小石 色調 淡褐色
68	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白色粒 色調 淡褐色
69	かわらけ	法量 口径12.2cm 底径10.0cm 器高2.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 色調 淡黄灰色
70	かわらけ	法量 口径13.0cm 底径11.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 色調 橙色
71	かわらけ	法量 口径14.4cm 底径12.4cm 成形 手づくね 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 褐色

表19 3面柱穴出土遺物(1)

P-19									
72	かわらけ	法量	口径14.6cm	底径12.2cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
73	かわらけ	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母	白針	赤色粒	色調 淡黄褐色
P-21									
74	かわらけ	法量	口径8.7cm	底径7.6cm	器高2.1cm	成形	手づくね	胎土	微砂
75	かわらけ	法量	口径13.6cm	底径12.3cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
76	かわらけ	法量	口径13.7cm	底径12.0cm	器高2.8cm	成形	手づくね	胎土	微砂
P-22									
77	かわらけ	法量	口径7.8cm	底径5.7cm	器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂
78	かわらけ	法量	口径12.6cm	底径7.9cm	器高3.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂
		色調	明褐色						
P-23									
79	かわらけ	法量	口径8.1cm	底径7.1cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
P-29									
80	かわらけ	法量	口径8.8cm	底径8.3cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
81	かわらけ	法量	口径11.0cm	底径9.0cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
82	かわらけ	法量	口径12.7cm	底径10.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
P-31									
83	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径6.2cm	器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂
		色調	暗褐色						
84	かわらけ	法量	口径7.9cm	底径6.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
85	かわらけ	法量	口径11.9cm	底径10.0cm	成形	手づくね	胎土	微砂	雲母
86	擦りかわらけ	法量	残長4.0cm	幅0.8cm	厚0.9cm	色調	淡黄褐色		

表20 3面柱穴出土遺物（2）

87	かわらけ	法量	口径6.9cm	底径5.0cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂
88	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径9.0cm	成形	内折れ	手づくね	胎土	微砂
89	白 磁 輪反り碗	法量	口径16.3cm	胎土	気孔やや多いが緻密	色調	灰色	釉	灰緑色透明
90	常滑 磁	法量	縁落幅0.7cm	胎土	砂粒	雲母	白色粒	色調	茶褐色

表21 3面溝5出土遺物

91	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径5.0cm 器高1.6cm 色調 淡橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
92	かわらけ	法量 口径8.6cm 底径6.2cm 器高1.9cm 色調 淡褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
93	かわらけ	法量 口径7.9cm 底径6.2cm 器高1.6cm 色調 淡橙褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
94	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径6.8cm 器高1.8cm 色調 淡橙褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
95	かわらけ	法量 口径7.9cm 底径6.1cm 器高1.8cm 色調 淡黄褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
96	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.6cm 色調 淡橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 赤色粒
97	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径6.4cm 器高1.85cm 色調 暗橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
98	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径8.0cm 器高1.7cm 色調 淡褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
99	かわらけ	法量 口径11.9cm 底径8.3cm 器高2.95cm 色調 橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
100	かわらけ	法量 口径11.7cm 底径7.5cm 器高3.0cm 色調 橙褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
101	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径8.2cm 器高2.7cm 色調 橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
102	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径8.4cm 器高3.35cm 色調 橙褐色 備考 灯明皿	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
103	かわらけ	法量 口径13.0cm 底径8.5cm 器高3.2cm 色調 淡橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
104	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径8.3cm 器高3.3cm 色調 淡橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
105	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径9.4cm 器高3.2cm 色調 橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
106	かわらけ	法量 口径12.9cm 底径8.0cm 器高3.1cm 色調 橙灰色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
107	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径8.2cm 器高3.0cm 色調 暗色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
108	かわらけ	法量 口径12.4cm 底径10.9cm 器高3.3cm 色調 橙色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 小石
109	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.9cm 器高2.0cm 色調 暗褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針
110	かわらけ	法量 口径8.65cm 底径6.9cm 器高2.0cm 色調 暗褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 小石
111	かわらけ	法量 口径10.8cm 底径9.2cm 器高3.1cm 色調 淡橙色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 小石
112	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径10.9cm 器高3.1cm 色調 淡橙灰色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 小石
113	かわらけ	法量 口径13.1cm 底径11.5cm 器高3.3cm 色調 暗色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針
114	かわらけ	法量 口径13.0cm 底径11.3cm 器高3.4cm 色調 橙灰色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 小石
115	山茶煎室 鉢	法量 口径24.0cm 高台径10.7cm 器高9.3cm 色調 暗灰绿色	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 小石	

表22 3面かわらけ漬り出土遺物

116	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径5.1cm 器高1.8cm 色調 淡黄褐色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
117	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径6.0cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 暗黄褐色
118	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径6.7cm 器高1.7cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色
119	かわらけ	法量 口径11.4cm 底径6.9cm 器高2.9cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色
120	かわらけ	法量 口径12.3cm 底径7.8cm 器高3.3cm 色調 淡淡灰褐色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
121	かわらけ	法量 口径11.7cm 底径7.6cm 器高3.3cm 色調 淡黄褐色 備考 灯明皿	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
122	かわらけ	法量 口径12.4cm 底径7.3cm 器高3.4cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色
123	かわらけ	法量 口径7.4cm 底径8.0cm 器高1.4cm 色調 淡黄褐色	成形 内折れ 手づくね 胎土 微砂 雲母 白色粒
124	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径8.3cm 器高1.1cm 色調 淡黄褐色	成形 内折れ 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
125	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径8.0cm 器高1.4cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 褐色
126	かわらけ	法量 口径9.3cm 底径7.8cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色
127	かわらけ	法量 口径9.2cm 底径7.6cm 器高2.1cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 明褐色
128	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径7.6cm 器高1.5cm 色調 橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
129	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径8.3cm 器高1.9cm 色調 橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
130	かわらけ	法量 口径8.6cm 底径8.3cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 明黄灰色
131	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.8cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白色粒 色調 褐色
132	かわらけ	法量 底径4.0cm 胎土 微砂 若干の気孔 繁密 備考 底部輪かき取り	色調 乳白色 軸 青白色透明 貫入りあり
133	山茶碗 北部系	法量 高台径5.0cm 胎土 微砂 気孔 白色粒 繁密	色調 灰白色 備考 高台断面：潰れた三角 粗底
134	常滑 横耳	法量 底径7.6cm 成形 輪積ヨコナデ ヘラ状具による継位の整形痕 微妙に指頭痕 胎土 砂粒 長石英 石英粒 色調 暗赤褐色 志 暗灰褐色	
135	常滑 瓢	法量 緑帶幅1.4cm 胎土 微砂 雲母 白色粒 小石	小石 色調 暗赤灰色 志 暗灰色 降灰部 緑灰白色
136	磁 石 仕上磁	法量 残長4.1cm 幅2.8cm 厚2.0cm	色調 淡灰緑色 備考 使用痕不明瞭だが各面に細かい擦痕
137	磁 石?	法量 残長6.4cm(最大) 残幅5.5cm 残厚5.0cm	石質 凝灰岩(天草産) 色調 黄灰白色
138	磁 石 仕上磁	法量 残長8.3cm 幅4.8cm~1.0cm 厚3.2cm~0.6cm 備考 各面を使用	石質 泥岩 色調 淡黄灰色

表23 古手側溝出土遺物

IV. 4面の遺構と遺物

a. 土壙

土壙1 (図30、図版14)

F-4・5間に位置し、長径100cm、短径90cm、深さ40cm程のほぼ円形の土壙である。底面中央に土丹塊が据えられていた。覆土は貝粒・土丹粒をやや多く含む暗茶褐色粘質土である。

土壙1 (図33、表30) 81・82は手づくね成形のかわらけである。81は小皿、82は中皿である。83はロクロ成形のかわらけの大皿である。この他に図示しなかったが、常滑窯盤片や渥美窯盤片なども出土している。

土壙2 (図30、図版14)

調査区南壁際、F-5グリット付近に位置する。調査区壁にかかっているため全貌は明らかではないが、残存する規模は径90cm、深さ60cmである。覆土はかわらけ片・貝粒を含んだやや締まりのない黒褐色粘質土の一層で構成されている。

土壙2出土遺物 (図33、表30) 84～86は手づくね成形のかわらけである。84は小皿、85は中皿、86は大皿である。この他に図示しなかったが、常滑窯盤片なども出土している。

土壙3 (図30、図版14)

調査区中央、E-3グリットに位置する。残存する規模は長径95cm、短径60cm、深さ30cm程のほぼ隅丸長方形を呈する。覆土は植物繊維が燃えたような、きめの細かな炭化物層が厚く堆積している。

土壙3出土遺物 (図33、表30) 87はロクロ成形のかわらけ小皿である。

b. 溝

溝6 (図31・32、図版8・14)

位 置 B・Cグリット間南北方向に走り調査区外に延びている

主軸方向 N-38°-E

確 認 標高8.9m

規 模 確認された幅2.2m、確認面からの深さ60cm

概 要 玉石組溝の下から検出された。調査中に溝西側の壁の立ち上りや肩が平面プランでつかめなかったが、南壁トレンチによりそれを確認することができた。掘り方は側壁が底面からなだらかに立ち上った逆台形の断面をもつ。本溝は木組みなどの構造をもつ痕跡を確認することはできなかった。覆土は全体に夾雜物の少ない暗褐色粘質土である。土層堆積の詳細は図を参照されたい。

溝6出土遺物 (図32、表26) 37・38は手づくね成形のかわらけの大皿である。39は渥美窯盤片、40は青磁皿、41は青白磁皿、42・43は白磁碗である。図示しなかったが、この他に常滑窯盤片、鉄釘、骨などが出土している。

溝7 (図31・32、図版8・14)

位 置 B・Cグリット間南北方向に走り調査区外に延びている

主軸方向 N-36°-E

確 認 標高8.9m

規 模 確認された幅1.5m、確認面からの深さ70cm

概 要 南壁セクションの切り合い関係から見て、溝6よりも本溝の方が古く、南北の主軸方位がさらに東に振れている。覆土は粘性の強い締まりのある暗褐色粘質土である。覆土の詳細は図を参照されたい。

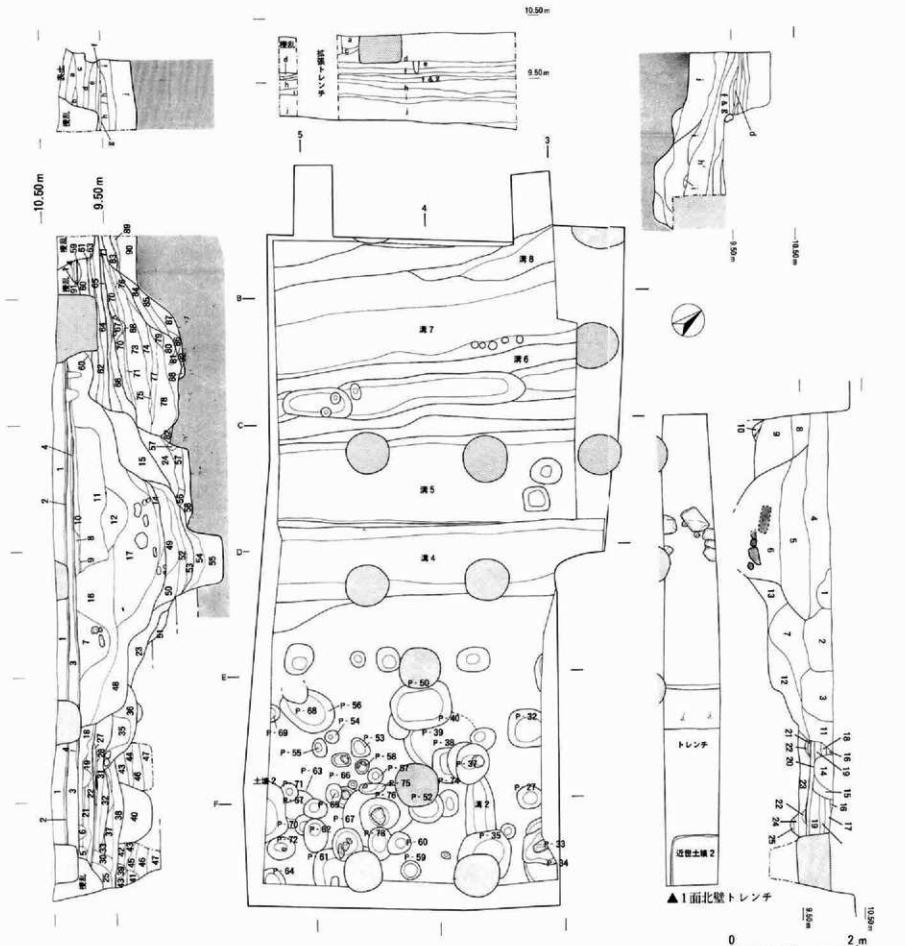


図30 4面全測図

(上部地図)

- 1 地盤・地物標識
- 2 岩相・岩質
- 3 地理的・地質的
- 4 地理的・地質的
- 5 地理的・地質的
- 6 地理的・地質的
- 7 地理的・地質的
- 8 地理的・地質的
- 9 地理的・地質的
- 10 地理的・地質的
- 11 地理的・地質的
- 12 地理的・地質的
- 13 地理的・地質的
- 14 地理的・地質的
- 15 地理的・地質的
- 16 地理的・地質的
- 17 地理的・地質的
- 18 地理的・地質的
- 19 地理的・地質的
- 20 地理的・地質的
- 21 地理的・地質的
- 22 地理的・地質的
- 23 地理的・地質的
- 24 地理的・地質的
- 25 地理的・地質的
- 26 地理的・地質的
- 27 地理的・地質的
- 28 地理的・地質的
- 29 地理的・地質的
- 30 地理的・地質的
- 31 地理的・地質的
- 32 地理的・地質的
- 33 地理的・地質的
- 34 地理的・地質的
- 35 地理的・地質的
- 36 地理的・地質的
- 37 地理的・地質的
- 38 地理的・地質的
- 39 地理的・地質的
- 40 地理的・地質的
- 41 地理的・地質的
- 42 地理的・地質的
- 43 地理的・地質的
- 44 地理的・地質的
- 45 地理的・地質的
- 46 地理的・地質的
- 47 地理的・地質的
- 48 地理的・地質的
- 49 地理的・地質的
- 50 地理的・地質的
- 51 地理的・地質的
- 52 地理的・地質的
- 53 地理的・地質的
- 54 地理的・地質的
- 55 地理的・地質的
- 56 地理的・地質的
- 57 地理的・地質的
- 58 地理的・地質的
- 59 地理的・地質的
- 60 地理的・地質的
- 61 地理的・地質的
- 62 地理的・地質的
- 63 地理的・地質的
- 64 地理的・地質的
- 65 地理的・地質的
- 66 地理的・地質的
- 67 地理的・地質的
- 68 地理的・地質的
- 69 地理的・地質的
- 70 地理的・地質的
- 71 地理的・地質的
- 72 地理的・地質的
- 73 地理的・地質的
- 74 地理的・地質的
- 75 地理的・地質的
- 76 地理的・地質的
- 77 地理的・地質的
- 78 地理的・地質的
- 79 地理的・地質的
- 80 地理的・地質的
- 81 地理的・地質的
- 82 地理的・地質的
- 83 地理的・地質的
- 84 地理的・地質的
- 85 地理的・地質的
- 86 地理的・地質的
- 87 地理的・地質的
- 88 地理的・地質的
- 89 地理的・地質的
- 90 地理的・地質的
- 91 地理的・地質的
- 92 地理的・地質的
- 93 地理的・地質的
- 94 地理的・地質的
- 95 地理的・地質的
- 96 地理的・地質的
- 97 地理的・地質的
- 98 地理的・地質的

(下部地図)

1 地盤・地物標識

2 岩相・岩質

3 地理的・地質的

4 地理的・地質的

5 地理的・地質的

6 地理的・地質的

7 地理的・地質的

8 地理的・地質的

9 地理的・地質的

10 地理的・地質的

11 地理的・地質的

12 地理的・地質的

13 地理的・地質的

14 地理的・地質的

15 地理的・地質的

16 地理的・地質的

17 地理的・地質的

18 地理的・地質的

19 地理的・地質的

20 地理的・地質的

21 地理的・地質的

22 地理的・地質的

23 地理的・地質的

24 地理的・地質的

25 地理的・地質的

26 地理的・地質的

27 地理的・地質的

28 地理的・地質的

29 地理的・地質的

30 地理的・地質的

31 地理的・地質的

32 地理的・地質的

33 地理的・地質的

34 地理的・地質的

35 地理的・地質的

36 地理的・地質的

37 地理的・地質的

38 地理的・地質的

39 地理的・地質的

40 地理的・地質的

41 地理的・地質的

42 地理的・地質的

43 地理的・地質的

44 地理的・地質的

45 地理的・地質的

46 地理的・地質的

47 地理的・地質的

48 地理的・地質的

49 地理的・地質的

50 地理的・地質的

51 地理的・地質的

52 地理的・地質的

53 地理的・地質的

54 地理的・地質的

55 地理的・地質的

56 地理的・地質的

57 地理的・地質的

58 地理的・地質的

59 地理的・地質的

60 地理的・地質的

61 地理的・地質的

62 地理的・地質的

63 地理的・地質的

64 地理的・地質的

65 地理的・地質的

66 地理的・地質的

67 地理的・地質的

68 地理的・地質的

69 地理的・地質的

70 地理的・地質的

71 地理的・地質的

72 地理的・地質的

73 地理的・地質的

74 地理的・地質的

75 地理的・地質的

76 地理的・地質的

77 地理的・地質的

78 地理的・地質的

79 地理的・地質的

80 地理的・地質的

81 地理的・地質的

82 地理的・地質的

83 地理的・地質的

84 地理的・地質的

85 地理的・地質的

86 地理的・地質的

87 地理的・地質的

88 地理的・地質的

89 地理的・地質的

90 地理的・地質的

91 地理的・地質的

92 地理的・地質的

93 地理的・地質的

94 地理的・地質的

95 地理的・地質的

96 地理的・地質的

97 地理的・地質的

98 地理的・地質的

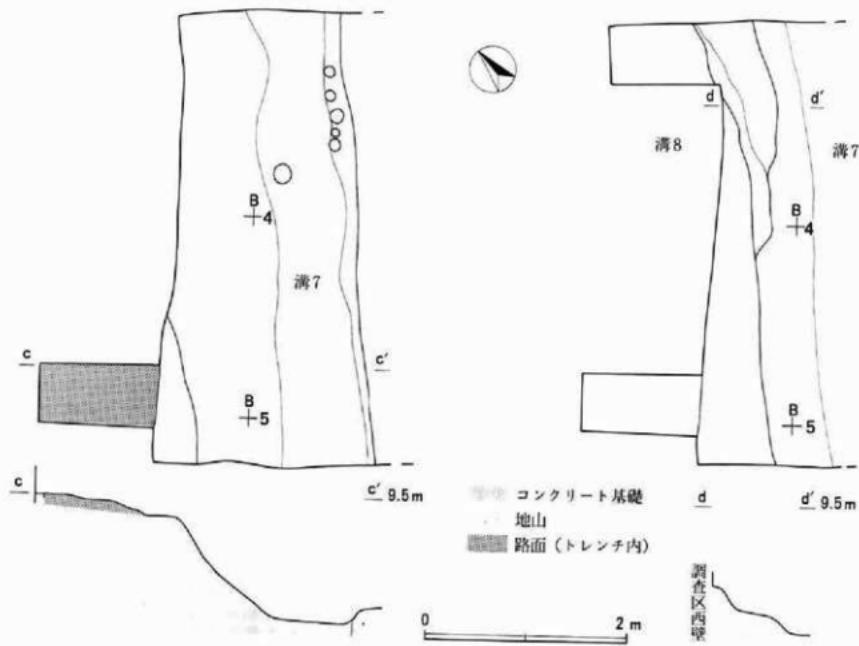
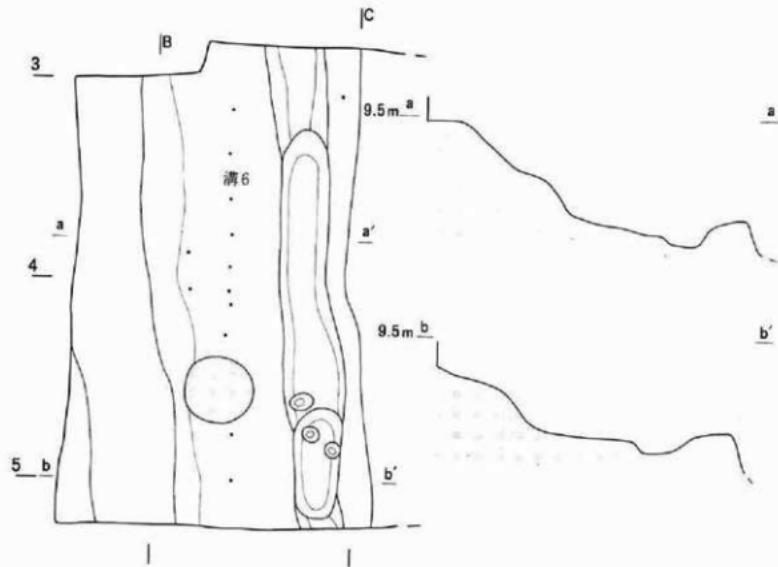
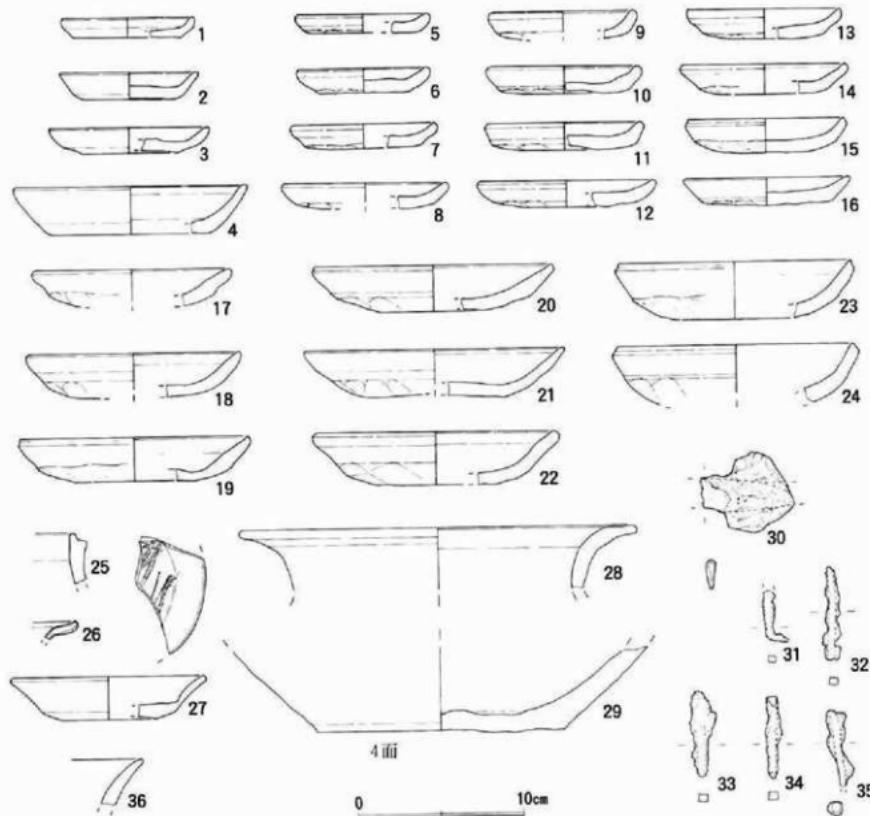


図31 4面溝6・7・8



溝6

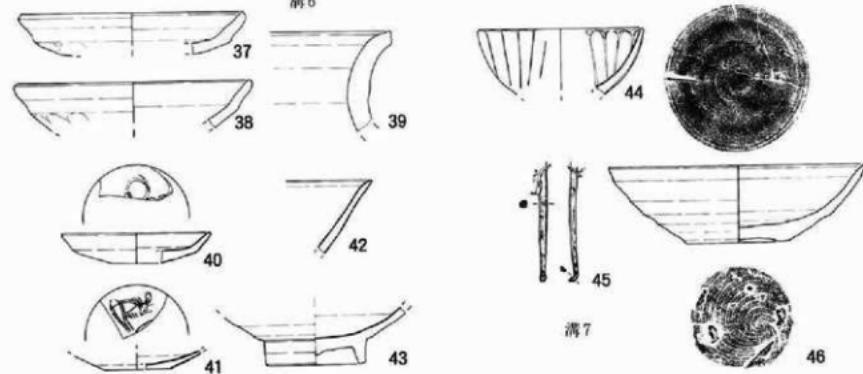


図32 4面溝6・7出土遺物

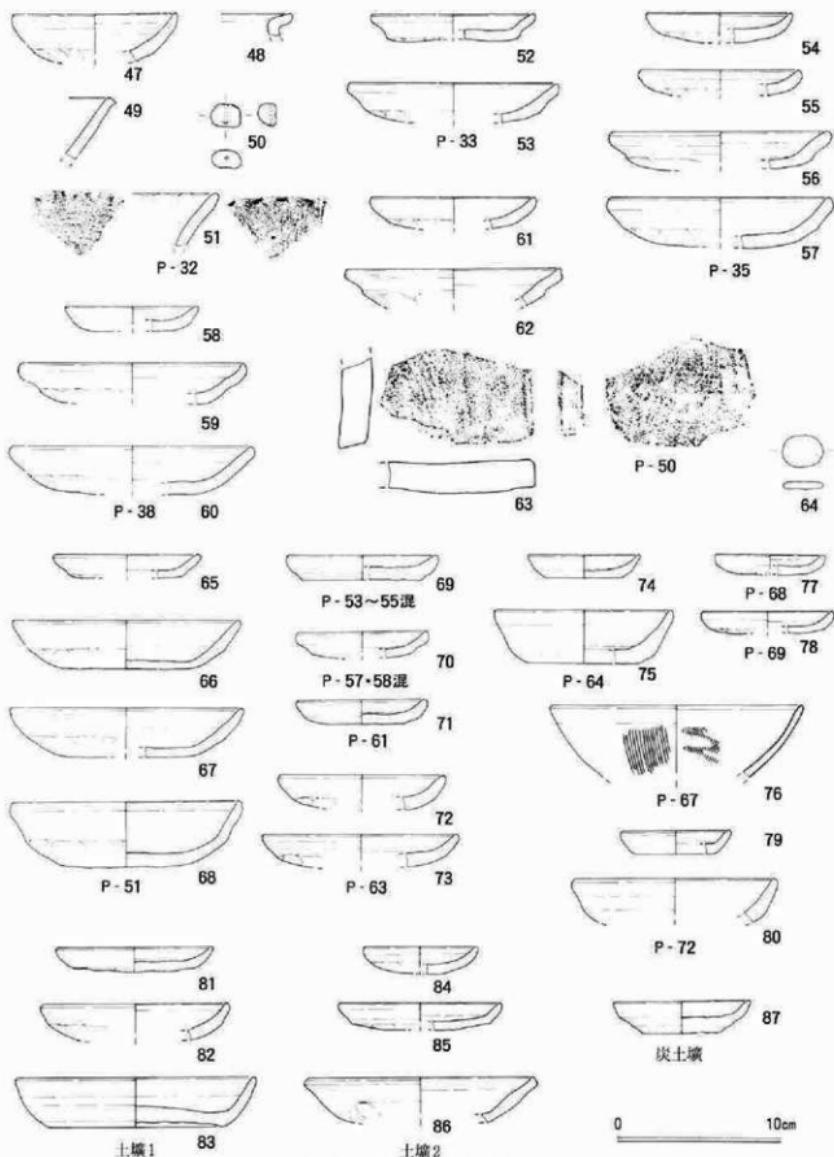


图33 4面柱穴・土壤出土遺物

溝7出土遺物（図32、表27） 44は青磁碗、45は骨角製品の耳掛け、46はロクロ成形のかわらけで大皿である。この他に覆土中からは常滑窯・渥美窯甕、磁器、骨などの図示不可能な小片が出土した。

溝8（図31、図版8）

位 置 調査区北西端

主軸方向 N-28°-E

確 認 標高8.7m

規 模 確認された長さ1.5m、幅60cm、確認面からの深さ40cm

概 要 調査区内で最も古手の溝で、溝7により壊されていてさらに東に振れた溝である。一部が確認されたに過ぎず、全貌は不明である。溝7よりも浅い掘り方をもち、一見すると段掘り状の様相を呈している。図示できるような良好の遺物は出土していない。

c. 4面柱穴出土遺物（図33、図版14、表28・29）

P32-47は手づくね成形かわらけ中皿、48は常滑甕、49は山茶碗、50は不明石製品、51は弥生土器。P33-52・53は手づくね成形のかわらけ、52は小皿、53は大皿である。P35-54～57は手づくね成形のかわらけ、54・55は小皿、56・57大皿である。P38-58～60は手づくね成形のかわらけ、58は小皿、59・60は大皿である。P50-61・62は手づくね成形のかわらけ、61は中皿、62は大皿、63は女瓦、64は芯石。P51-65～68は手づくね成形のかわらけ、65小皿、66・68大皿である。P53～55-69はロクロ成形のかわらけで小皿である。P57～58-70は手づくね成形のかわらけで小皿である。P61-71は手づくね成形のかわらけで小皿である。P63-72・73は手づくね成形のかわらけで、72は中皿、73は大皿である。P64-74・75はロクロ成形のかわらけで、74は小皿、75は大皿である。P67-76は青磁碗である。P68-77は手づくね成形のかわらけで小皿である。P69-78は手づくね成形のかわらけで小皿である。P72-79はロクロ成形のかわらけで小皿、80は手づくね成形のかわらけで大皿である。

d. 4面出土遺物（図32、図版14、表24・25）

1～4はロクロ成形のかわらけで、1は小皿で砂質、2・3は小皿、4は大皿である。5～24は手づくね成形のかわらけで、5～16は小皿、17は中皿、18～24は大皿である。25は白磁小片（四耳瓶？）、26は青磁碗、27は青磁皿、28・29は渥美窯甕、30は鉄製品の刀子、31～35は鉄釘、36は土師器甕である。

1	かわらけ 砂質	法量 口径7.8cm 底径6.4cm 器高1.2cm 色調 淡灰黄色	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白色粒
2	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径5.6cm 器高1.6cm 色調 明茶褐色	成形 ロクロ 胎土 微砂 赤色粒
3	かわらけ	法量 口径9.6cm 底径5.7cm 器高1.6cm 色調 明赤褐色	成形 ロクロ 胎土 微砂
4	かわらけ	法量 口径13.8cm 底径9.4cm 器高2.9cm 色調 淡橙色	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
5	かわらけ	法量 口径7.7cm 底径7.2cm 器高1.1cm 色調 明褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
6	かわらけ	法量 口径7.7cm 底径5.9cm 器高1.4cm 色調 褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
7	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.0cm 器高1.5cm 色調 明赤褐色	成形 手づくね 胎土 微砂
8	かわらけ	法量 口径9.7cm 底径8.3cm 色調 淡黄灰色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
9	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径8.0cm 色調 淡褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
10	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径8.0cm 器高1.7cm 色調 淡橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
11	かわらけ	法量 口径9.3cm 底径8.8cm 器高1.6cm 色調 淡褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
12	かわらけ	法量 口径10.3cm 底径8.8cm 器高1.6cm 色調 淡褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
13	かわらけ	法量 口径9.3cm 底径7.3cm 器高1.8cm 色調 明赤褐色	成形 手づくね 胎土 細砂粒 赤色粒
14	かわらけ	法量 口径9.8cm 底径8.0cm 器高1.8cm 色調 明橙褐色	成形 手づくね 胎土 微砂
15	かわらけ	法量 口径9.4cm 底径8.4cm 器高2.0cm 色調 明橙褐色	成形 手づくね 胎土 細砂粒
16	かわらけ	法量 口径9.9cm 底径8.0cm 器高1.7cm 色調 淡橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
17	かわらけ	法量 口径11.7cm 底径10.0cm 色調 淡橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
18	かわらけ	法量 口径12.6cm 底径10.9cm 色調 淡褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
19	かわらけ	法量 口径13.8cm 底径11.8cm 器高2.6cm 色調 明赤褐色	成形 手づくね 胎土 細砂粒 白針
20	かわらけ	法量 口径14.1cm 底径12.7cm 器高2.8cm 色調 橙色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
21	かわらけ	法量 口径15.4cm 底径12.5cm 色調 淡褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
22	かわらけ	法量 口径14.1cm 底径12.1cm 器高3.2cm 色調 淡黄褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
23	かわらけ	法量 口径14.0cm 底径12.0cm 器高3.4cm 色調 橙褐色	成形 手づくね 胎土 細砂粒 粉質
24	かわらけ	法量 口径14.0cm 底径13.3cm 色調 淡黄褐色	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母

表24 4面出土遺物 (1)

25	白 磁 四耳壺?	胎土 気孔 繊密 色調 灰白色 軸 暗灰白色透明 若干貫入あり
26	青 磁 折縁碗	胎土 堅緻 色調 白色 軸 綵青色半透明
27	青磁 盆	法量 口径11.6cm 底径5.6cm 器高2.6cm 胎土 気孔 堅緻 色調 白灰褐色 軸 緑灰色透明 備考 底部かきとり 同安窯系(描文)
28	深美 壺	法量 口径23.5cm 胎土 砂粒 白色粒 色調 暗緑灰色 芯 暗灰色
29	深美 壺	法量 径15.0cm 胎土 砂粒 白色粒 色調 緑灰色 芯 灰色
30	刀子	法量 刃高1.7cm 厚0.7cm
31	釘	法量 残長3.0cm 厚0.45cm×0.4cm
32	釘	法量 長5.6cm 厚0.5cm×0.45cm
33	釘	法量 長5.1cm 厚0.5cm×0.4cm
34	釘	法量 長4.9cm 厚0.6cm×0.45cm
35	釘	法量 残長4.5cm 厚0.5cm×0.6cm
36	土師 壺	胎土 砂粒(黒砂) 雲母 白粒 色調 暗橙色

表25 4面出土遺物(2)

37	かわらけ	法量 口径13.2cm 底径11.7cm 成形 手づくね 胎土 磨砂 雲母 白針 色調 淡緑灰色
38	かわらけ	法量 口径13.8cm 底径12.4cm 成形 手づくね 胎土 磨砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色
39	深美 壺	胎土 砂粒 雲母 白色粒 小石 色調 緑黒色 芯 暗灰色
40	青磁 盆	法量 口径8.8cm 底径3.0cm 器高1.85cm 胎土 若干気孔を含むが緻密 色調 暗灰色 軸 暗緑褐色透明 備考 描文
41	青白磁 盆	法量 底径3.8cm 胎土 繊密 色調 白色 軸 淡水青色透明 崩駄部 黄褐色
42	白磁 瓢	胎土 気孔やや細かい緻密 色調 灰色 軸 淡灰緑色透明
43	白磁 瓢	法量 高台径6.0cm 胎土 気孔や多いが緻密 色調 暗灰色 軸 暗緑色透明 気泡多く含む

表26 4面溝6出土遺物

44	青磁 瓢	法量 口径9.8cm 胎土 若干気孔を含むが堅緻 色調 淡灰白色 軸 緑灰色透明 備考 内面に墨弁文
45	骨製品 耳搔き	法量 残長6.8cm 幅0.4cm 成形 凸柱状の耳端に匙状の耳搔きを削り出す もう片端は欠失
46	かわらけ	法量 口径15.4cm 底径6.1cm 器高4.7cm 成形 ロクロ 内底無調整 胎土 磨砂 白針 色調 淡橙色 備考 外側面のロクロ口沿 糸切りの糸目組

表27 4面溝7出土遺物

P-32							
47	かわらけ	法量 口径9.9cm 底径7.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色					
48	常滑 瓢	法量 幅帶幅0.6cm 胎土 砂粒 白色粒 小石 色調 暗茶褐色 志 黄灰色 降灰部 绿灰色					
49	山茶碗	胎土 微砂 白色粒 やや軟質 色調 灰褐色					
50	石製品	法量 長1.4cm 幅1.8cm 厚1.1cm 色調 白色 備考 中央に直径約1mmの穴が穿たれている					
51	弥生 瓢	胎土 砂粒(黒色砂) 雲母 白粒 色調 晴淡橙色 備考 外面:横位のくしナデ 内面:横位のくしナデ 弥生中期~古墳前期					
P-33							
52	かわらけ	法量 口径9.9cm 底径9.1cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 暗赤灰色					
53	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径10.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色					
P-35							
54	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.7cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色					
55	かわらけ	法量 口径9.8cm 底径8.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙白色					
56	かわらけ	法量 口径13.3cm 底径11.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色					
57	かわらけ	法量 口径13.6cm 底径11.9cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡青灰色					
P-38							
58	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径7.1cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 晴灰褐色					
59	かわらけ	法量 口径13.6cm 底径11.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄褐色					
60	かわらけ	法量 口径14.6cm 底径12.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色					
P-50							
61	かわらけ	法量 口径10.0cm 底径8.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄灰色					
62	かわらけ	法量 口径13.1cm 底径11.1cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色					
63	女 瓦	法量 厚1.9cm 凹面:微砂粒の離れ砂多量に付着 凸面:微砂粒の離れ砂が糊明きによって打ちこまれる 胎土 白色粒 雲母 精良土 色調 灰黑色					
64	碁 石	法量 直径2.5cm 短径2.0cm 厚0.5cm 色調 暗灰色					
P-51							
65	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.2cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡茶灰色					
66	かわらけ	法量 口径13.9cm 底径12.0cm 器高3.0cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色					
67	かわらけ	法量 口径14.2cm 底径12.3cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色					
68	かわらけ	法量 口径13.9cm 底径12.5cm 器高4.0cm 成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 黑色粒 小石 色調 淡褐色					

表28 4面柱穴出土遺物(1)

P-53~55混								
69	かわらけ	法量 色調	口径9.1cm 淡橙色	底径7.2cm	器高1.55cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	白色粒
P-57・58混								
70	かわらけ	法量	口径7.9cm	底径6.1cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	白色粒 色調 橙色
P-61								
71	かわらけ	法量	口径7.9cm	底径7.3cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	白色粒 色調 褐色
P-63								
72	かわらけ	法量	口径10.0cm	底径8.8cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡黄褐色
73	かわらけ	法量 色調	口径11.9cm 淡橙色	底径10.3cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	白色粒
P-64								
74	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径4.6cm	器高1.45cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 橙色
75	かわらけ	法量 色調	口径10.8cm 暗橙褐色	底径7.0cm	器高3.3cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	小石
P-67								
76	かわらけ	法量 気泡を含む	口径15.4cm 備考	胎土 参考 備描文	器高1.45cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 灰白色 輪 淡灰綠色透明
P-68								
77	かわらけ	法量	口径6.7cm	底径5.0cm	器高1.45cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡黃灰色
P-69								
78	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径6.8cm	器高1.45cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡褐色
P-72								
79	かわらけ	法量	口径6.6cm	底径4.8cm	器高1.45cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 橙色
80	かわらけ	法量	口径12.3cm	底径11.3cm	器高1.45cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡橙灰色

表29 4面柱穴出土遺物(2)

土壤1								
81	かわらけ	法量 色調	口径9.5cm 淡赤灰色	底径7.4cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒
82	かわらけ	法量	口径11.2cm	底径10.7cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒 色調 淡橙色
83	かわらけ	法量 色調	口径14.6cm 淡褐色	底径10.6cm	器高3.6cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒
土壤2								
84	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径6.3cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡黃褐色
85	かわらけ	法量	口径9.9cm	底径8.5cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	白色粒 色調 淡黃褐色
86	かわらけ	法量	口径13.8cm	底径12.2cm	器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	色調 淡黃灰色
土壤3								
87	かわらけ	法量 色調	口径8.3cm 橙色	底径4.8cm	器高2.0cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒 小石

表30 4面土壤出土遺物

V. トレンチ調査

a. 北壁トレンチ (図30、図版2)

調査区北側、2・3ライン間は本調査の前に先行して打たれた建物基礎杭が密に配置されていたため調査に障害を及ぼすと判断されたので、基礎杭が密な部分に幅1.0m、長さ8m程の先行トレンチを設定して、調査を行った。調査区東側は最下層で中世基盤層の黒褐色粘質土が確認されたが、トレンチのE・F間に塀基礎状遺構の西脇と西方へ落ち込んで行く側壁を検出した。この底面には土丹塊・鎌倉石が乱雑に投げこまれたような状況で検出されたため、当初は石垣状遺構の基礎の可能性も考えたが、根固め石の上に210cm間隔で礎石（鎌倉石切石片）を置いており、築地塀か板塀の裏込めかもしれない。

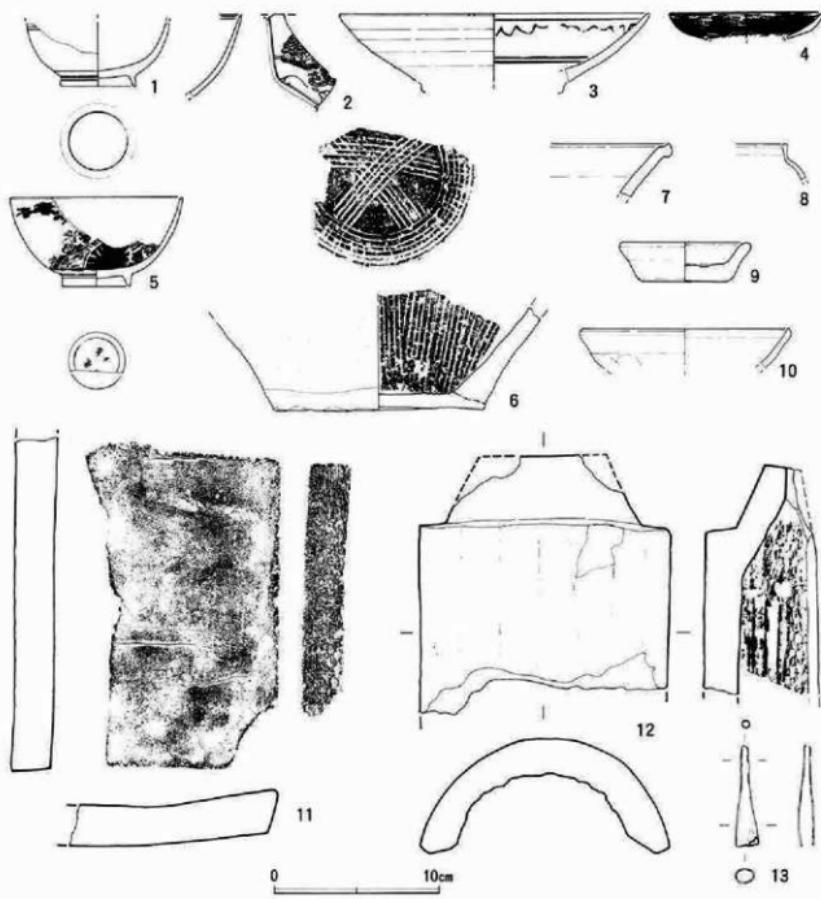


図34 北壁トレンチ出土遺物

北壁トレンチ上層出土遺物(図34、表31) 1~3は肥前系磁器碗・皿、4は志戸呂窯系の灯明皿、5は肥前系染付碗、6は備前焼鉢、7は美濃窯の灰釉鉢、8は瀬戸窯壺、9はロクロ成形かわらけ、10は手づくね成形の白かわらけ、11は女瓦、12は男瓦、13は銅製品である。

北壁トレンチ中層出土遺物(図35、表32) 14~16はかわらけ、14はロクロ成形の小皿、15は手づくね成形の小皿、16は大皿である。17は青磁碗、18は瀬戸窯天目茶碗、19は擦り常滑片である。

北壁トレンチ下層出土遺物(図35、表32) 20はロクロ成形のかわらけで小皿、21は剣頭文字瓦。

b. 出土地不明遺物(図35、表32)

22~25は渥美窯の製品、22は小壺、23は甕口縁片、24~25は低部片26~35はかわらけ、26~27はロ

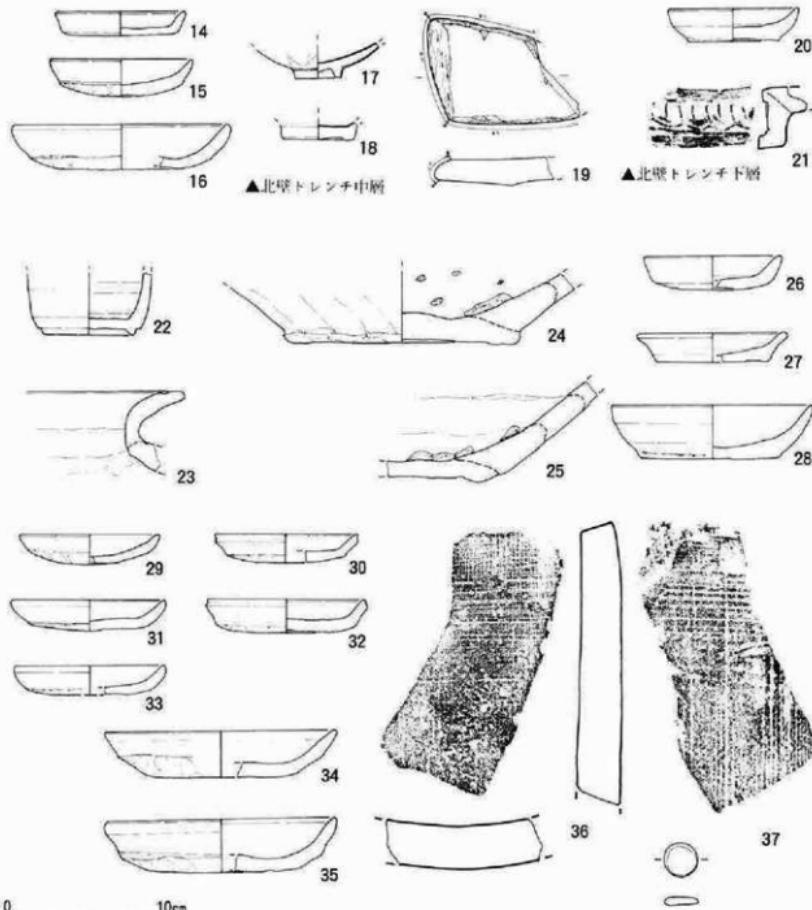


図35 北壁トレンチ・出土地不明出土遺物

クロ成形の小皿、28は大皿である。29~33は手づくね成形のかわらけ、34・35は大皿である。36は女瓦、37は碁石である。

c. 南壁トレンチ出土遺物 (図36、表33)

1・2はロクロ成形のかわらけ、1は小皿、2は中皿である。3はフイゴ羽口で、あまり使用した痕跡が見られない。

d. 拡張トレンチAB出土遺物 (図36、表33)

4はAトレンチの上層で出土した鉄製品刀子である。5もAトレンチの上層で出土した手づくね成形のかわらけで小皿である。6はBトレンチ上層で出土した肥前系磁器の染付小碗である。

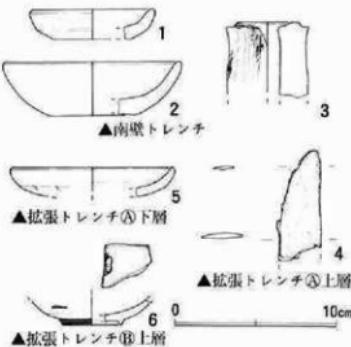


図36 南壁・拡張トレンチ出土遺物

1	肥前系磁器 染付碗	法量 高台径4.5cm 胎土 若干の粉粒 織密 17℃未～18℃前	色調 乳白色 軸 淡青白色透明 呉須の発色良好
2	肥前系磁器 染付碗	胎土 精良 色調 乳白色 軸 白色透明 備考 飛龍文	
3	肥前系磁器 染付碗	法量 口径19.0cm 胎土 黒色微砂 色調 灰白色 軸 灰白色 気泡多く白濁 やや厚め 呉須の発色悪い	
4	志戸昌富系 灯明皿	法量 口径9.4cm 胎土 黒色粒 色調 灰褐色 軸 茶褐色(焦茶) 内外面に薄く施される	
5	肥前系磁器 染付碗	法量 口径10.1cm 高台径4.2cm 器高5.5cm 胎土 精良 色調 白色 軸 青みを帯びた透明釉 荒い貫入 備考 創年銘「大明年製」	
6	備前 拡跡	法量 底径13.1cm 胎土 長石粒多 色調 晴茶褐色 軸 灰褐色 織成 良好 備考 内底、内面よく摩擦	
7	美濃 灰釉体	胎土 きめがやや粗い 色調 明消灰色 軸 薄黄色	
8	瀬戸 磁	胎土 きめが粗い 色調 黄白色 軸 黄白色透明 貫入多	
9	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径5.3cm 器高2.5cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 白針 粉質 色調 赤灰色	
10	白かわらけ	法量 口径12.6cm 底径11.5cm 成形 手づくね 胎土 微砂 白色粒 色調 乳白色	
11	女 瓦	法量 厚2.5cm 凹面:丁寧なナテ調整(指ナテ) 凸面:横位ヘラナテ調整 胎土 砂粒少々 粉質 色調 灰黒色 軸 灰褐色 織成 良好	
12	男 瓦	法量 玉縁:長さ3.9cm 広幅12.0cm ノズ幅7.8cm 男瓦部:径15.3cm 凹面:細かな布目 粗い布が縫目の ようなものが見られ、紙位にへら小口で突き押した痕跡 凸面:紙位へら削り後、丁寧なナテ調整 側面:二 面の面取り 胎土 小石 砂 色調 灰褐色 織成 良好	
13	陶製品	法量 長6.1cm 径0.4~1.1cm	
14	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径6.7cm 器高1.5cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 赤色粒 色調 明赤灰色	
15	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.6cm 器高2.2cm 成形 手づくね 胎土 微砂 色調 明橙褐色	
16	かわらけ	法量 口径13.1cm 底径11.0cm 器高2.8cm 成形 手づくね 胎土 微砂 赤色粒 色調 明赤灰色	

表31 北壁トレンチ・出土地不明遺物 (1)

17	青磁 瓶	法量 高台径2.8cm 胎土 磨砂 坚密 色調 淡白灰色 軸 緑灰色半透明
18	瀬戸 天目	法量 高台径4.4cm 胎土 きめが粗い 色調 灰白色 軸 黒褐色
19	撫り常滑片	胎土 長石多 色調 赤褐色 芯 灰褐色 焼成 良好 備考 片を転用 刻れ口3面を底面として使用
20	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径5.6cm 器高2.0cm 成形 ロクロ 胎土 磨砂 赤色粒 粉質 色調 明模褐色
21	宇真 剣頭文	法量 真頭幅3.5cm 文様区幅1.9cm 上外口0.8cm 下外口0.7cm 胎土 砂粒 石英粉 色調 橙色 焼成 甘い
22	渥美 小壺	法量 高台径5.6cm 成形 ロクロ 胎土 夾雜物殆ど無い精良土 色調 暗灰褐色 備考 外面全体部に黒灰色自然釉が薄くかかる
23	渥美 壺	胎土 夾雜物殆ど無し 色調 淡黄灰色 軸 外面:薄くバケ塗り 内面:口縁周辺に暗模褐色の釉が厚めに付着
24	渥美 壺	法量 底径13.9cm 成形 輪積み 外面 指頭模、ヘラナデ整形 胎土 小石粒若干 色調 灰褐色～淡赤灰色 備考 内面に暗模褐色の自然釉が厚く付着 底部にワラの痕跡
25	渥美 壺	胎土 夾雜物少ない良土 色調 灰褐色 備考 内面に淡灰色の自然釉 外面 粗いナデ
26	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径7.0cm 器高1.6cm 成形 ロクロ 胎土 細砂粒多 色調 赤褐色
27	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径6.9cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 粗い糸切り 胎土 磨砂多 色調 淡赤灰色
28	かわらけ	法量 口径12.2cm 底径8.6cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 胎土 夾雜物少ない良土 色調 明赤灰色
29	かわらけ	法量 口径8.5cm 底径7.3cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 夾雜物無い良土 色調 明赤灰色
30	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.2cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 黒色微砂少量 色調 明赤灰色
31	かわらけ	法量 口径9.4cm 底径7.4cm 器高2.0cm 成形 手づくね 胎土 細砂粒 赤色粒 色調 明模褐色
32	かわらけ	法量 口径9.6cm 底径8.4cm 器高2.1cm 成形 手づくね 胎土 磨砂 色調 明赤灰色
33	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径7.9cm 器高1.8cm 成形 手づくね 胎土 磨砂 色調 淡模褐色
34	かわらけ	法量 口径13.8cm 底径12.6cm 器高2.9cm 成形 手づくね 胎土 黒色微砂多 色調 明赤灰色
35	かわらけ	法量 口径13.9cm 底径12.2cm 器高3.3cm 成形 手づくね 胎土 磨砂 色調 淡模褐色
36	女瓦	凹面:砂粒付着 布目模見られない 凸面:縫位に細かな縦目印 凹凸面横位の糸切痕 胎土 砂粒 小石 雲母粒 黏性の強い良質土
37	碁石	法量 径2.1cm 厚0.5cm 色調 黒色

表32 北壁トレント・出土地不明遺物(2)

1	かわらけ	法量 口径7.3cm 底径4.9cm 器高1.8cm 成形 ロクロ 胎土 磨砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
2	かわらけ	法量 口径10.7cm 底径5.2cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 胎土 磨砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
3	フイゴの剥口?	法量 口径3.6cm 中心口徑1.0cm 最大径5.0cm 胎土 磨砂 雲母 白色粒 赤色粒 色調 橙色 備考 胎土はかわらけに類似
4	刀子	法量 残長6.8cm 幅1.4cm～2.5cm 厚0.1cm～0.3cm
5	かわらけ	法量 口径9.9cm 底径9.1cm 成形 手づくね 胎土 磨砂 雲母 白針 色調 淡模褐色
6	肥前系縄器 染付小碗	法量 高台径3.6cm 胎土 黒色砂粒 色調 灰白色 軸 やや青味を帯びた半透明軸 裂須の発色良好

表33 南壁・拡張トレント出土遺物

第四章　まとめ

本調査地点は鎌倉市街地の北東部、「北条高時邸跡」があったと推定される区域にあたり、その跡地に高時の菩提を弔うため後醍醐天皇の勅願により建立されたという宝戒寺旧境内の一角、現参道の南築地に隣接するところに位置している。今回の発掘調査では、70m²と狭い調査範囲にもかかわらず、鎌倉期から近世以降までの調査地点の様子を多少なりとも提供できたと考えられる。本章においては、今回の調査で把握された諸事実から各面造構の年代観、小町大路と側溝、出土遺物の組成について述べたいと思う。

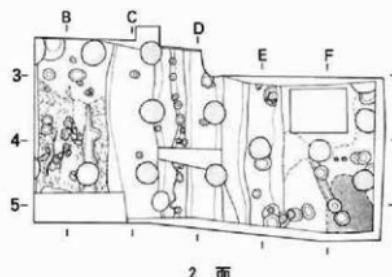
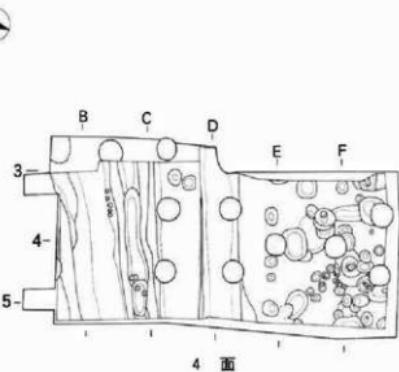
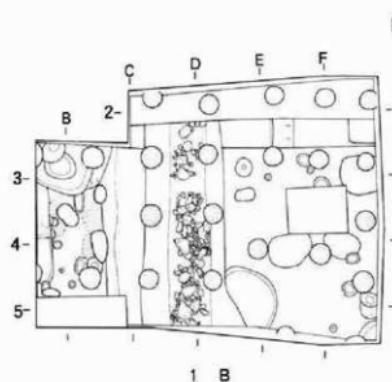
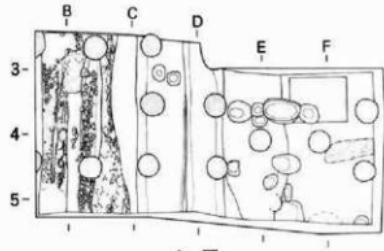
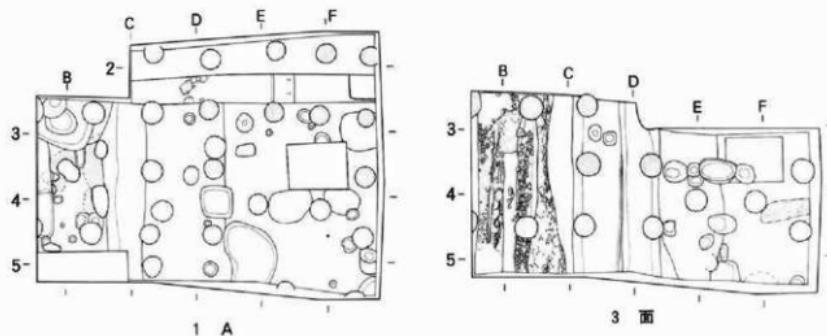
a. 造構の年代について

発掘調査は、まず上層（1A面）から大正12（1923）年におきた関東大震災後の跡片付けのゴミ穴、それ以前の江戸期の建物跡、合わせ口かわらけによる陶衣皿や土壙（ゴミ穴）などが検出され、下層（1B面）からは小町大路と宝戒寺を区画していたと考えられる、溝状に掘られた塀基礎を思われる造構が発見された。これらの近世造構や1面上の包含層からは、17世紀から19世紀に至る国内産染付磁器・施釉陶器・瓦類・瓦質へっつい（移動式）などの出土遺物が見られた。また近世末の古絵図「宝戒寺境内領地図」に描かれた宝戒寺門前屋敷の位置から見て、本調査地点は表門右側で四郎右衛門の屋敷の一部にあたると思われる。

2面以下は中世の造構である。2面が調査区東側で貝砂と黄褐色土による整地面があり、この面から掘り込んだ溝・柱穴等が検出された。調査区東側では小町大路東側の側溝と土丹版築で舗装した道路が発見された。道路面は薄い間層を挟んで、少なくとも3次期の土丹版築面の補修や張増しが認められ、荷車の轍跡とおもわれる細い溝も検出された。この道路に側溝は箱樋型の深い溝5である。かわらけ常滑窯窯等の出土遺物から13世紀後葉～15世紀前葉の年代が考えられる。

3面は調査区東側が部分的な範囲で上丹版築による地業層とその上に薄く堆積する炭化物層、及び硬化した面で構成され、西側は小町大路と側溝の溝5が検出された。造構の年代はかわらけ溜り、溝5、各柱穴の出土遺物から導くことが可能である。かわらけ溜り出土の手づくりねかわらけは平底を呈したもののが主流であるが、丸底のボッテリとした外觀のものも確実に混在し、器壁もやや厚手の製品が多くロクロ成形では口径・低径比が小さく、体部に丸味をもつ器高の比較的低いものが大半である。3面全体のかわらけ出土個体数は手づくり成形が60%、ロクロ成形が40%で手づくりねタイプが主流を占めている（表34）。かわらけ、青磁篇連弁文碗から13世紀中葉～後半の年代に比定したいところである。

4面は中世基盤層である黒褐色粘質土である。この中世地山面からは調査区東側で土壙や柱穴があり西側は小町大路と溝6～8（新：溝6⇒溝7⇒溝8：古）の3次期の側溝を検出した。古い時期の溝のほうが南北軸方位が東に振れていく傾向が認められた。かわらけは12世紀末の所産と考えられる深い器形で内低面未調整、体部外面に強いロクロ目痕を残すものが溝7の底面から出土し、溝6や土壙2出土のものは手づくりねが平底を呈し器高の低い製品、ロクロ成形は径が大きく器高の低いものがほとんどである。かわらけの出土個体数は圧倒的に手づくりねタイプが多く、全体量の87%を占めていた。かわらけ、青磁刻花文碗、青磁篇連弁文碗・皿、涙美窯窯から12世紀末～13世紀中葉の年代が考えられる。



0 4 m

図37 造構変遷図

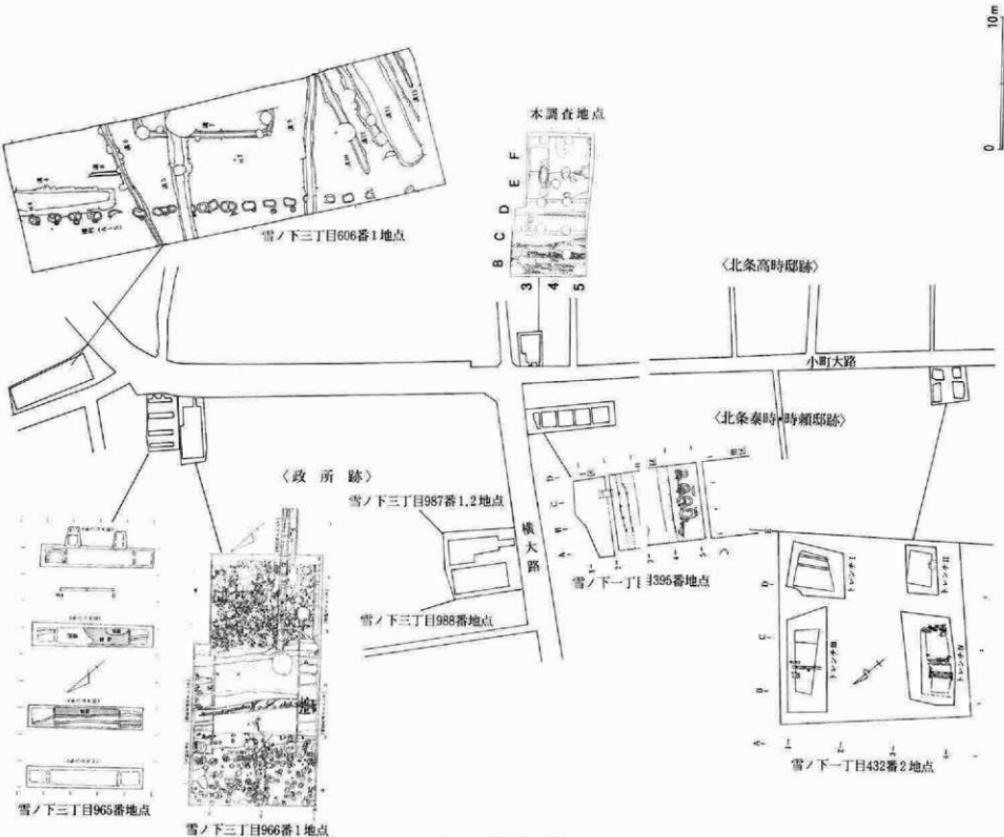


図38 調査地点周辺図

b. 小町大路について

調査地点の小町大路を挟んで西側に「北条泰時・時頼跡」、また宝成寺門前で小町大路に直行する横大路の北東域に「政所跡」として県遺跡台帳に記載されている区域がある。ここでは図38に示した今までに発掘調査が実施された地点の調査成果を踏まえ、小町大路について概観してみたい。

小町大路は、『吾妻鏡』では鎌倉の初期から登場する（建久二年三月四日条）。この道は第一章でも述べたように鎌倉幕府が定めた「町屋」の多くと結ばれた幹線道路であり、近くとも和賀江島が築港された貞永元年（1221）ごろまでには整備されていたものと考えられ、人や物資が盛んに往来した経済的動脈を担った経済要路でもあった。調査結果では鎌倉時代初期から室町時代頃までの小町大路の道路面とそれに伴う東側の側溝と思われる溝を検出した。ところで現在の小町大路は、中程で「く」字に曲がっていて若宮大路とは平行関係はないが、小町大路沿いの調査例では若宮大路周辺遺跡群（秋月医院用地・小町一丁目325番イ外地点）で石積み・木組みの溝、宇津宮辻子幕府跡（小町二丁目389番地点）のトレンチ調査で小町大路の側溝と思われる落ち込みの一部を、北条泰時・時頼跡（雪ノ下一丁目935番地点）のトレンチ調査で木組み溝を、それぞれ検出しているが、現在の小町大路にはほぼ平行していることが確認されている（註1）。一方、本調査地点から検出した側溝も鎌倉時代初期の溝7・8以外は現在の道筋によそ平行した関係にある。これらの調査地点で確認された溝は、中世の小町大路東側の側溝と西側の側溝の可能性が高い。

ところで政所跡の調査例では、横大路に面した雪ノ下三丁目987番1・2地点や西隣の雪ノ下三丁目988番地点から13世紀中葉～14世紀中葉と考えられる木組みの大路側溝と、溝を挟んで南側に道路、北側に土塁が検出され、さらに横大路の南に所在する北条泰時・時頼跡（雪ノ下一丁目395番地点）で13世紀中葉～15世紀初頭と考えられる木組み溝を、それぞれ検出している。現在の横大路と平行関係にあり、これらの調査結果から13世紀中葉～14世紀中葉頃の横大路幅員は両側溝の南岸と北岸との距離から推定して約21m（約7丈）程度であったことが指摘されている（註2）。小町大路に面した雪ノ下三丁目965番地点・同966番1地点の二つの政所跡調査例では、小町大路の道路面と側溝が発見されているがここでは横大路と直交するような方位で小町大路が確認されており、本調査地点検出の大路はかなり東側に振れている（註3）。これらのことから推測するならば、中世の小町大路は本調査地点、横大路にぶつかる地点までは現在とさほど変わらない形で屈曲していたのではないかと考えられる。ところが政所跡の調査例では横大路に直交する形で小町大路が検出されており、現在の小町大路はかなり東側に移動している可能性が指摘されている（註4）。現在、この問題を解明する手がかりは得ていないが、小町大路が横大路に接する北側の小町大路沿いの地域の調査が待たれるところである。

c. 出土遺物について

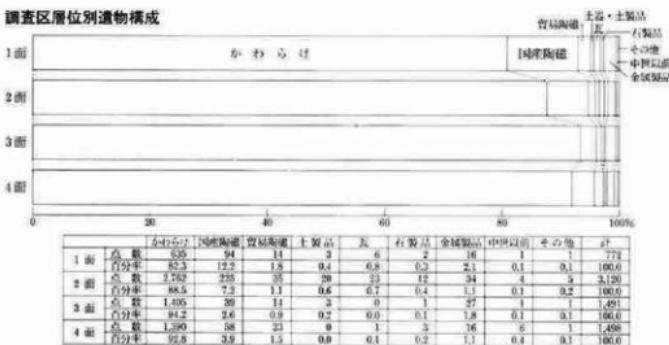
今回の調査では、貝類を除いた接合後の破片数で7,437点の遺物が出土した。大多数を占めるのがかわらけで6,507点と全体の約88%にものぼり、次に多いものが国産陶磁器568点（7.6%）、貿易陶磁器は97点で僅か1.3%であった（表34-A）。かわらけ技法別構成の内訳は手づくね成形3,478点、ロクロ成形2,653点であり、出土かわらけの約57%が手づくね成形の製品で、とくに3面・4面と下層に行くに従い手づくねの占める割合がさらに高くなることは非常に興味深い（表34-B・C）。

かわらけを除く、国産陶磁器類の組成を各面ごとにグラフ化したものが表35-Eである。もっとも多いのが常滑窯製品で58%、次いで瀬美窯・湖西窯製品21%、山茶碗窯系製品7%、染付類5.6%、瀬戸窯製品約4%である。

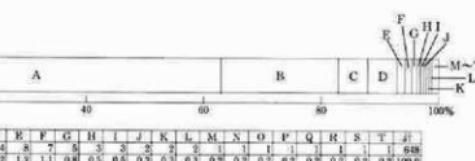
A. 調査区全体遺物構成



B. 調査区層別遺物構成



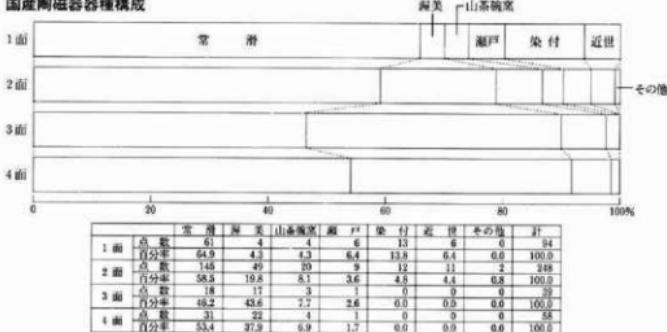
C. かわらけ技法別構成



A. ハマグリ	409
B. タンベキオブ	121
C. アラビ	34
D. アカムシ	34
E. イチキサゴ	8
F. サザ	7
G. アサリ	5
H. シオフネ	5
I. バイ貝	3
J. オオベビガイ	2
K. ツムバツ	2
L. パテナ	2
M. テガケガイ	1
N. カリコガイ	1
O. シロガイ	1
P. キモブ	1
Q. イセガイ	1
R. セルカクガイ	1
S. クラムガイ	1
T. サツシロガイ	1
計	648

表34 出土遺物器種構成(1)

E. 国産陶磁器種構成



F. 貿易陶磁器種構成



表35 出土遺物器種構成（2）

貿易陶磁器の組成を各面ごとにグラフ化したものが表35-Fである。合計97点のうち、類別困難な小破片を除く86点についてみると、青磁が61点で71%と圧倒的に多く、次いで白磁19点の22%、青白磁が5点の6%であった。

表34-Dは目類総数648点を種類別にグラフ化したものである。これをみると、ハマグリが圧倒的に多く409点（二枚貝のため分離し多いこともある）63%、次いでダンペイキサゴ131点の20%、アワビ・アカニシが各34点・5%づつが出土しており、この他ザザエ・アサリ・シオフキ・バイガイ・オオヘビガイ・ツムガイ・バティラなどが少量づつみられ、イモガイやヤッシリガイなどの珍しいものも認められた。

北条高時邸跡の花粉化石

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

宝成寺参道入口付近の鎌倉市小町三丁目426番3に所在する北条高時邸跡において行われた発掘調査で、複数の溝遺構が検出された。これらの溝遺構は、出土遺物からそれぞれ時期区分がなされている。これまで市内各地において行ってきた花粉分析など自然科学分析は、中世前半あるいは後半といった比較的大きな時期区分のもとで考察がなされてきた。ここ北条高時邸跡では各溝の使用年代が遺物から限定することができ、従来より細かな時期設定のもとで遺跡周辺の古植生についての検討が可能である。

1. 試 料

花粉分析用試料は調査区南壁より、溝4地点は柱状で、他の溝5、6、7についてはスポット的に採取した(図1)。この溝4地点の柱状試料については実験室内であらためて土相観察を行って後、花粉分析用に9点採取した(図2)。試料番号は溝4地点の9点を1~9、溝5を10、溝6の2点を11、12、溝7の2点を13、14とした。各土層の詳しい記載については本論の層序の章を参照して頂き、以下には簡単ではあるが試料を採取した層を中心とした記載を示した。なお、溝4地点については図1、2に示したような層位番号を便宜的に付した。

溝4地点：A層(試料1、2)は褐色を帯びた黒灰色の粘土で、土丹片(最大径15mm)が点在しており、かわらけ片も認められる。本層の上位は暗灰色の砂質シルトで、レキが多量に含まれ、かわらけ片も認められ、上層の層の基礎となる土層である。B層(試料3、4)はやや泥炭質の暗灰褐色粘土で、土丹小片(最大径30mm)が点在している。本層は最下部において砂が、中部において黄色のローム質土が多量に混入していることから、3つに分層される。C層は土丹(最大径33mm)を主体とした青灰色の砂レキ層で、かわらけ片も認められる。D層(試料5、6)は黒褐色の泥炭質粘土で、上・下部3cm前後は

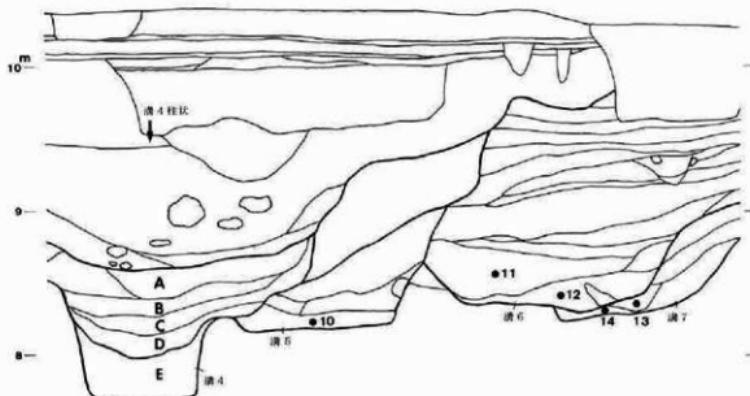


図1 北条高時邸跡調査区南壁の試料採取付近の土層断面図

青灰色粘土や砂が多くはいる。材片や葉片（一部ラミナ状）が多量に含まれ、土丹（最大径48mm）も認められる。E層は褐色を帯びた黒色粘土で、軟らかく、葉片（上部7cm前後はラミナ状）が多量に含まれ、材片も認められる。本層の下位は暗青灰色の砂質粘土で、地山層にある。

これら土層の時期について、A～D層（試料1～6）は出土遺物から15世紀代と考えられているが、溝4の埋積層にあたるE層は時代判別の可能な遺物が検出されなかったため推測になるが、上位のA～D層が15世紀で、また13世紀後半と考えられている溝5をきっている（図1）ことなどから、14世紀代と予想される。

溝5～溝7：溝5の試料10は黒灰白色砂質粘土で、土丹片が認められる。また、溝6の試料11採取層は褐色を帯びた黒色粘土で、最大径110mmのレキ（砂岩）が点在しており、土丹片も認められる。試料12採取層は黒色砂質粘土で、最大径40mmのレキ（砂岩）が認められる。溝7の試料13採取層は黒色粘土、試料14採取層はやや砂質の黒色粘土である。

年代については出土遺物から、溝5が13世紀後半、溝6が13世紀前半、溝7が12世紀末頃と考えられている。

2. 溝4地点の大型植物化石と木材遺体

溝4の埋積層E層およびその直上のD層について0.25mm目の篩を用いて洗い出しを行い、種実や葉などの大型植物化石について検討した。併せて検出された木材遺体についてもその樹種同定を行った。なお、大型植物化石は吉川が、木材遺体は藤根が担当した（いずれもパレオ・ラボ）。

1) 大型植物化石

DおよびE層より検出された種実類について表1に示した。D層からは樹木についてはムクノキ、ノブドウ、ニワトコの3種のみで、草本類はヘビイチゴ属類の核が圧倒的に多く検出されている。E層については、ケヤキが最も多く、次いでエノキが多く、その他ムクノキ、アカメガシワ、ノブドウなどが検出されている。草本類ではスゲ属Bが多く、その他タデ類やヘビイチゴ属類、ナス科などが検出されている。

葉については多くは破片のため不明としたが、認められた中ではケヤキが多く、その他クロマツ、ニッケイーやブニッケイ、マメ科などである。なお、マメ科（複葉）について、花粉試料5～7のマメ科（表2）の中にサイカチに類似した花粉化石が認められ、このマメ科の複葉がサイカチである可能性もあるが、現時点ではそこまで言及できない。

2) 木材遺体

E層より検出された木材遺体6点について樹種同定を行うに当たり、片刃カミソリを用いて、横断面（木口と同義）、接線断面（板目と同義）、放射断面（柾目と同義）の3断面を作り、ガムクロラール

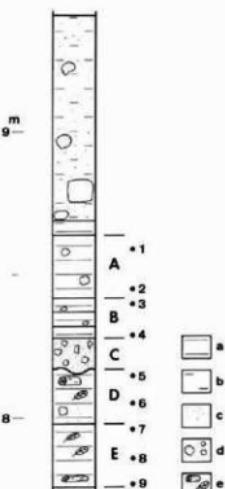


図2 溝4地点の地質柱状図と花粉分析層準
a:粘土 b:シルト c:砂 d:レキ e:材片・葉片

表1 北条高時邸跡溝4地点(D、E層)の大型植物化石一覧表

分類群		産出部位	D層	E層
木本				
イヌシデ	<i>Carpinus tschonoskii</i> Maxim.	果実	1	
ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i> (Thunb.) Makino	果実	34	
エノキ	<i>Celtis sinensis</i> Pers. var. <i>japonica</i> (Planch.) Nakai	内果皮	19	
ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i> (Thunb.) Makino	内果皮	2	9
サクラ属サクラ節	<i>Prunus</i> ssp. <i>Pseudocerasus</i>	核	1	
カラスザンショウ	<i>Zanthoxylum ailanthoides</i> Sieb. et Zucc.	内果皮	3	
センダン	<i>Melia azedarach</i> Linn. var. <i>suharplinnae</i> Miq.	内果皮	1	
アカメガシワ	<i>Mallotus japonicus</i> (Thunb.) Muell. Arg.	種子	5	
ヤマブドウ	<i>Vitis colganetiae</i> Pulliat ex Planch.	種子	2	
ヅドウ属	<i>Vitis</i>	種子	1	
ノブドウ	<i>Ampelopsis brevipedunculata</i> (Maxim.) Tratt.	種子	2	5
クサギ	<i>Gleditsia trichotoma</i> Thunb.	内果皮	3	
ニワトコ	<i>Sambucus sieboldiana</i> (Miq.) Blume ex Graebn.	内果皮	2	3
草本				
スゲ属A	<i>Carex</i> A	果実	1	
スゲ属B	<i>Carex</i> B	果実	2	33
カラムシ属	<i>Boehmeria</i>	種子	2	
タデ属	<i>Polygonum</i>	果実	1	
オオイヌタデ	<i>Polygonum lapathifolium</i> L. et <i>P. scabrum</i> Moench	果実	1	
またはサナエタデ				
ボントクタデ近似種	<i>Polygonum</i> cf. <i>pubescens</i> Blume	果実	4	
シロダ近似種	<i>Chenopodium</i> cf. <i>album</i> Linn.	種子	4	
ヒユ科	<i>Amaranthaceae</i>	種子	4	
ベビイチゴ属。オランダイチゴ属	<i>Oreochrysis</i> , <i>Pragaria</i> and/or <i>Potentilla</i>	核	45	6
またはキジムシロ属				
ツリフネソウ	<i>Impatiens textori</i> Miq.	種子	1	
ナス科	<i>Solanaceae</i>	種子	4	
キク科	<i>Compositae</i>	果実	2	
不属	unknown			4

(Gum Chloral) で封入し、永久標本を作成した。樹種の同定は、これら標本を光学顕微鏡下で40~400倍の倍率で観察を行い、現生標本との比較により行う。以下に標本の記載及び同定の根拠を述べるが、検鏡の結果、6試料のうちエノキ属が3、ケヤキが2、クロモジ属が1であった。

エノキ属 *Celtis* ニレ科 図版1a~1c.

年輪のはじめに大型の管孔が1~2列並び、そこから径を減じた小管孔が夏材部では多数集合して斜め方向に配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は單一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が見られる(放射断面)。放射組織は、異性1~8細胞幅、3~30細胞高で、鞘細胞をもつ(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のエノキ属の材と同定される。エノキ属の樹木には、本州以南の暖帯から亜熱帯に分布するエノキ (*C. sinensis*) や、温帯に分布するエゾエノキ (*C. jessoensis*) などがある。エノキは樹高20m、幹径1mに達する落葉広葉樹である。

ケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino ニレ科 図版2a~2c.

年輪のはじめに大型の管孔が単独ないし2列に並び、夏材部では小管孔が2~8程度集合して接線方向ないしはや斜めに配列する環孔材である(横断面)。道管のせん孔は單一で、小管孔の内壁にはらせん肥厚が明瞭に認められる(放射断面)。放射組織は、異性1~9細胞幅、2~31細胞高から構成されている(接線断面)。

以上の形質から、ニレ科のケヤキと同定される。ケヤキは暖帯から温帯にかけて分布する樹高35m、幹径2mに達する落葉広葉樹である。

クロモジ属 *Lindera* クスノキ科 図版3a~3c.

厚壁で中型の管孔が単独または2~4個放射方向に複合して散在する散孔材である(横断面)。道管のせん孔は單一あるいは10本程度の横棒からなる階段状である(放射断面)。放射組織は、異性1~3細胞幅、3~12細胞高である(接線断面)。

以上の形質から、クスノキ科のクロモジ属の材と同定される。クロモジ属の樹木には、樹高6m程度のクロモジ(*L. umbellata*)やシロモジ(*L. triloba*)など本州以南の暖帯から温帯にかけて8種類ほどある落葉広葉樹である。

3. 分析方法

上記した14試料について、次のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料(湿重約2~5g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mm目の篩にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%フッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、重液分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

4. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数は合わせて樹木花粉54、草本花粉40、形態分類を含むシダ植物胞子3の計97である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表2に、また主要な花粉・シダ植物胞子の分布を図3(溝5~7)、図4(溝4地点)に示した。なお、これらの分布図における樹木花粉は樹木花粉総数を基数に、草本花粉、シダ植物胞子は全花粉・胞子総数を基数として百分率で示してある。表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難などを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものがあるがそれとに分けることが困難なため便宜的に草本花粉に一括して入れてある。また花粉化石の単体標本(花粉化石を一個体抽出して作成したプレパラート)を作成し、各々にPLC.SS番号を付し、形態観察用および保存用とした。

検鏡の結果、年代により花粉の産出に異なる傾向が認められたことから、古い方からI、II、IIIの3つの花粉化石群集帯を設定した。

花粉帯I(試料11~14):スギ属が30%前後、コナラ属アカガシ属が20%前後と高い出現率を示している。シイノキ属-マテバシイ属は試料14では20%弱と多く検出されているが、試料11では1%ほどと低出現となっている。その他、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科やクマシデ属-アサダ属、コナラ属コナラ属などが5%前後産出している。草本類ではイネ科が20~30%と高い出現率を示し、ヨモギ属も20%前後と多く検出されている。また、クワ科が試料11において突出した出現率28%を示している。その他、アザケ科-ヒユ科、アブラナ科などが5~10%、水生植物(抽水植物)のオモダカ属やミズアオイ属なども産出している。また、ベニバナ属が試料11より1点検出されている。このベニバナ属花粉の形態については、現生(栽培)のベニバナと同様と思われるが、ベニバナとベニバナ属の他の種との分類基準がはっきりつかめていないため、ここではベニバナ属とした。

表2 北条高時跡跡の産出花粉化石一覧表

種名	学名	漁4地点														漁5 漁6 漁7			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	1	2	3	
アキノ	<i>Podocarpus</i>	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アリノ	<i>Araucaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツガ属	<i>Tsuga</i>	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
トウヒ属	<i>Pinus</i>	+	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
カラマツ属	<i>Larix</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツバメスギ属	<i>Fistula vulgaris - Hippocratea</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツバメスギ属	<i>Fistula vulgaris - Hippocratea</i>	87	118	30	53	38	39	27	26	25	25	12	1	3	5	5	5	5	
ツバメスギ(不確)	<i>Fistula (Unknown)</i>	14	7	7	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スズカニ属	<i>Scutellaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スギ属	<i>Cryptomeria</i>	44	16	9	3	1	4	2	2	5	7	25	25	25	25	25	25	25	
イチイ科 - イチイモチニヒキオキ	<i>T. C.</i>	10	8	21	11	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イチイ科	<i>Myrsinaceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ベカシ属	<i>Carica</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
タラビラ属	<i>Calycanthus - Garrya</i>	8	7	9	2	4	3	1	1	1	1	16	5	19	7	7	8	7	
ホバメタニ属	<i>Betula</i>	1	-	2	1	2	1	1	1	1	1	2	3	2	4	1	1	3	
ゴジ属	<i>Populus</i>	1	-	2	1	2	1	1	1	1	1	2	4	1	1	1	1	3	
コナラ属コナラ属	<i>Quercus salicina - Lepidophlebia</i>	12	10	12	10	6	3	8	6	6	6	11	28	16	26	30	19	4	
コナラ属	<i>Quercus subg. Cyclobalanopae</i>	10	6	16	11	11	13	8	11	11	11	11	11	11	11	11	11	4	
カシ属	<i>Castanea</i>	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
シノイヌクサ - マツバシイ属	<i>Vitis - Salvia</i>	6	4	7	3	1	-	-	-	-	-	3	3	1	2	14	14	22	
ニレ属 - カヤナ属	<i>Celtis - Aesculus</i>	7	9	15	11	11	7	12	9	23	25	10	10	9	9	9	9	9	
カシナシ属	<i>Corylus</i>	9	4	9	2	3	2	2	2	2	2	10	10	11	11	11	11	11	
アブセイ科	<i>Grewia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シキミ属	<i>Hildegardia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ブタ属	<i>Litsea</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アラチナ科	<i>Litchi</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マンシングウ属	<i>Zanthoxylum</i>	-	-	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
スズリナガ属	<i>Diospyros</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ウカクシ属	<i>Rhamnus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
モチノキ属	<i>Lites</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
スルガナガ属	<i>Citrus</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
トチノキ属	<i>Acacia</i>	9	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
クワガタ属	<i>Adenanthera</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アケボノ属	<i>Archidendron</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イヌクサ属	<i>Grindelia</i>	161	136	38	33	76	45	101	101	344	41	284	284	284	132	160	-	-	
ミツバチ属	<i>Cyrtandra</i>	60	44	13	13	5	5	5	5	11	11	30	30	30	14	26	14	-	
ツバキ属	<i>Camellia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ミツアツミ属	<i>Messerschmidia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヒメツバナ属	<i>Litsea</i>	9	5	9	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	
クワノキ属	<i>Uncaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ゼンジシキミ属	<i>Psychotria</i>	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	
アマツクサ属	<i>Amaloceras</i>	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	-	
アマツクサ属	<i>Acacia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アマツクサ属	<i>Ceratonia</i>	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アマツクサ属	<i>Celtis</i>	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	
コトトクワ属	<i>Santalum</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ガムズミ属	<i>Vitis</i>	1	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	
スズカニ属	<i>Carica</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
イチイ科	<i>Liquorice</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツルサシオン属	<i>Catleya</i>	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	
コトトクワ属	<i>Clusiaceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ガムズミ属	<i>Psychotria</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツバメスギ属	<i>Sanganebo</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
他のバラ科	<i>other Rosaceae</i>	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
アマツクサ属	<i>Laguncularia</i>	2	3	10	10	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
カカバニ属	<i>Grewia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
エヌクサ属	<i>Anacardium</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ウニクマリイグサ科	<i>Urticaceae</i>	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
ヨククマ属	<i>Urtica</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
シダ科	<i>Urticaceae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
オガバ属	<i>Plantago</i>	22	7	4	2	2	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	2	2	
ヘリソカガラ属	<i>Purpuraria</i>	2	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
アラチナ科	<i>Alpinia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ツバキ属	<i>Camellia</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	15	43	19	18	45	30	72	111	301	301	301	176	106	111	162	-	-	
他のバラ科	<i>Other Rosaceae</i>	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
ツバメスギ属	<i>Ligustrum</i>	39	39	36	6	6	1	2	2	2	2	14	16	16	16	16	16	16	
シダ科	<i>Lycopodiophyta</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アカクサ属	<i>Anoecta</i>	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ホシヨコロク属	<i>Monocotyle spore</i>	371	341	216	273	162	47	16	31	39	87	14	52	37	16	-	-	-	
三叉突脉科	<i>Trilete spore</i>	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	-	-	-	
樹木花粉	<i>ArboREAL pollen</i>	256	223	258	285	249	316	229	130	215	228	130	141	222	108	-	-	-	
草木花粉	<i>ArboREAL pollen</i>	400	363	327	180	194	36	24	72	99	37	65	38	103	103	-	-	-	
シダ花粉	<i>Lycopodiophyta</i>	400	363	327	180	194	36	24	72	99	37	65	38	103	103	-	-	-	
花粉・孢子混合	<i>Total Pollen & Spores</i>	1043	1016	812	613	627	536	944	741	1055	982	549	819	612	677	-	-	-	
半裸花粉	<i>Unknown pollen</i>	46	34	41	32	13	21	21	29	28	33	17	39	31	42	-	-	-	

T. - C. = Taxaceae-Ceiba/Artocarpaceae-Cupressaceae-Euphorbiaceae

花粉帶Ⅱ（試料5～10）：花粉化石の出現傾向は試料5～7と8～10でニレ属一ケヤキ属などに多少違いがみられるが、大まかな傾向として一つの帶とした。特徴としては、ニレ属一ケヤキ属やエノキ属一ムクノキ属が高い出現率を示している。ニレ属一ケヤキ属は溝4（試料5～9）において30%前後と高い出現率を示しており、エノキ属一ムクノキ属もI帶においてはほとんど観察されなかったがII帶では10～20%の出現率を示し、試料10では50%と突出した産出がみられる。また、マツ属複維管束亞属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）も10～20%に増加し、ウコギ科（花粉形態はキズタに類似）も増加の傾向が認められる。一方、I帶で多く検出されていたスギ属やアカガシ亞属は急減し、イチイ科一イヌガヤ科一ヒノキ科やシノノキ属一マテバシイ属も若干みられるだけに減少している。草本類は全体に減少する傾向が認められる。溝4地点においてイネ科をみると、溝4埋積土（試料8、9）においては30～40%であるが、その上位（試料5、6）では10%ほどに急減している。また、アザダ科一ヒユ科、ヨモギ属にも同様の傾向が認められる。その他では、ベニバナ属が溝4埋積土試料（E層）において連続して検出され、ソバ属も観察される。また、減少傾向の草本類とは対照的に、シダ植物胞子は上部に向かい急増している。

花粉帶Ⅲ（試料1～4）：ニヨウマツ類はさらに増加し、出現率は40～50%を示している。II帶で減少したスギ属も増加する傾向がみられ、試料1では20%弱に達している。イチイ科一イヌガヤ科一ヒノキ科も若干ではあるが同様の傾向がみうけられる。反対に、II帶で優勢であったニレ属一ケヤキ属やエノキ属一ムクノキ属は5%前後に急減し、ウコギ科にも同様の傾向がみられる。その他ではクリ属が試料4において38%と突出した産出を示し、アカメガシワ属も同試料において比較的多く検出されている。草本類ではイネ科が上部に向かい10%から20%に増加しており、カヤツリグサ科やアカザ科一ヒユ科、タンボボ亞科にも上部に向かって増加する傾向がみられる。その他では、アブラナ科やヨモギ属が低率ではあるが1%を越えて連続して検出されている。また、シダ植物では単条型胞子がさらに増加し、出現率は40%前後を示している。

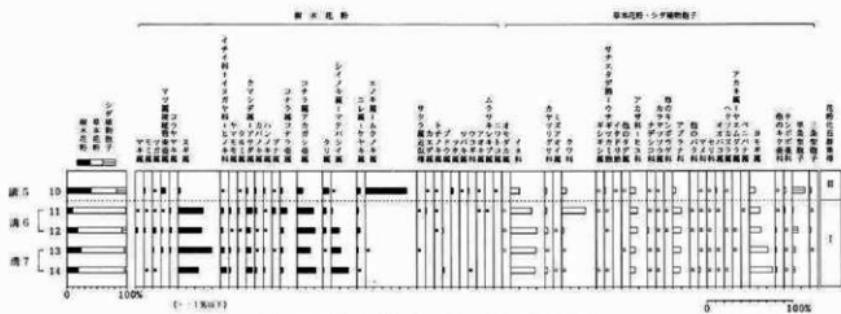


図3 北条高時跡溝5～溝7の花粉化石分布図
(樹木花粉は樹木花粉總数、草木花粉・胞子は花粉・胞子總数を基底として百分率で算出した)

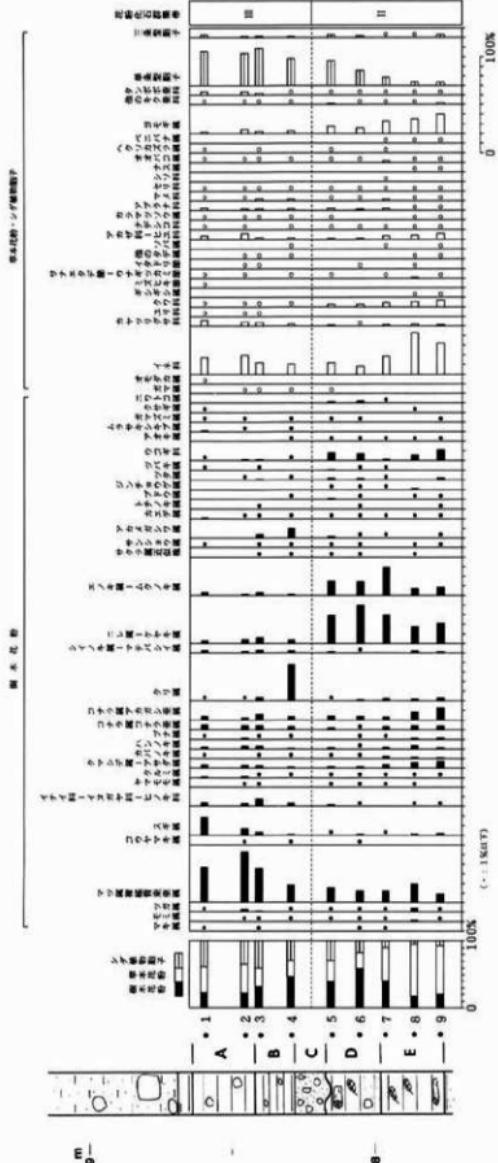


図4 北条高時断層4地点の花粉化石分布図
(樹木花粉・草木花粉・藻類花粉を基にして百分率で算出した)

5. 北条高時邸跡周辺の古植生

先にも記したが、出土遺物から各溝の年代が示されており、花粉帯を基に各年代における遺跡（溝）周辺の古植生について考察を試みた。

1) 12世紀末頃～13世紀前半（溝6、溝7）

花粉帯I（試料11～14）に当たり、遺跡周辺ではスギ林を主体にイチイ科－イスガヤ科－ヒノキ科、モミ属、ツガ属、ニヨウマツ類、コウヤマキ属などを混じえた温帶性針葉樹林が優勢であった。また、アカガシ亞属やシイノキ属－マテバシイ属を主体とした照葉樹林も針葉樹林同様に普通にみられたが、シイノキ属－マテバシイ属は時代が進むにつれて遺跡周辺においては少なくなっていたようである。また、こうした針葉樹林や照葉樹林に混じって、クマシデ属－アサダ属やコナラ亞属、ケヤキなどの落葉広葉樹類も生育していた。草本類では、イネ科をはじめとしてアザケ科－ヒユ科、アブラナ科、ヨモギ属などの雑草類が多く生育しており、溝周辺の植生はこれら雑草類で占められていた。なお、イネ科花粉についてはその中にイネ属とみられるものも含まれ、オモダカやコナギといった水田雑草を含む分類群（オモダカ属、ミズアオイ属）も産出していることから、遺跡近辺における水田稻作地の存在も予想される。

2) 13世紀後半～15世紀（溝5および溝4のD、E層）

花粉帯II（試料5～10）に当り、遺跡周辺の植生はスギやアカガシ亞属を中心とした針葉樹林、照葉樹林に代わり、ケヤキやエノキ、ムクノキが優勢となった。また、クロマツなどのニヨウマツ類も多くみられるようになった。この時期におけるスギ林や照葉樹林の減少は史跡永福寺跡にもみられ（鈴木1994）、鎌倉幕府開府以来の都市整備などの土地改変によりスギ林や照葉樹林が多大の影響をうけた結果と推測される。この頃、やはり永福寺跡においてエノキ属－ムクノキ属花粉の増加傾向が認められ（吉川 1990、鈴木 1991）、少なくとも永福寺跡や北条高時邸跡周辺では、13世紀後半～15世紀にかけてケヤキやエノキ、ムクノキが目立つ存在となっていた。その他、遺跡周辺や溝付近にはアカメガシワ、カエデ属、ツバキ属、アオキ属、クサギ、ニワトコなどがみられたであろう。また、こうした樹木に絡まるようにヤマブドウやノブドウ、ツタ属、キズタ？（ウコギ科）などの蔓植物が生育していた。なお、クワ科もこの時期遺跡周辺において普通にみられるようになったが、それが樹木であるか草本であるのかは不明である。溝4理積層のE層（14世紀代？）においてはイネ科やアザケ科－ヒユ科、ヨモギ属などの雑草類が多くみられ、溝近辺では果実が多く検出されているスゲ属をはじめとして上記の雑草類で占められていたが、15世紀には減少した。代わって15世紀にはいると溝周辺にはシダ植物が多くみられるようになった。14世紀代？とみられるE層からはソバ属やベニバナ属花粉も検出されており、これらが遺跡周辺において栽培されていた可能性がある。また、ベニバナは花を染料などに使用したと思われ、そうしたことでも花粉が溝内に混入したものと考えられよう。

3) 15世紀代（溝4地点のA～C層）

花粉帯III（試料1～4）に当り、遺跡周辺はケヤキやエノキ、ムクノキに代わり、ニヨウマツ類が目立つようになった。また、スギも再び多くみられるようになった。ここにみられるケヤキやエノキ、ムクノキ花粉の急減はC層（砂利層）の堆積などから、この時期に本地点周辺において塀の構築などを含めた土地改変が行われ、その結果としてケヤキやエノキ、ムクノキが溝周辺から姿を消したためと推測される。同様にツバキ属やアオキ属、ニワトコなども少くなり、これらに絡みつくように生育して

いたヤマブドウやノブドウ、ツタ属、キズタ？（ウコギ科）もあまりみられなくなった。溝4地点周辺のイネ科やアザ科ヒュ科、タンボボア科などの雑草類は多少増える傾向がみられるが、シダ植物はさらに生育地を広げ、さらに多く生育するようになった。このシダ植物の増加も上記した土地改変による荒れ地の広がりに起因していることが推測される。

6.まとめ

以上のような結果・考察から、北条高時邸跡周辺における12世紀末から15世紀にかけての植生変遷は次のようにあった。

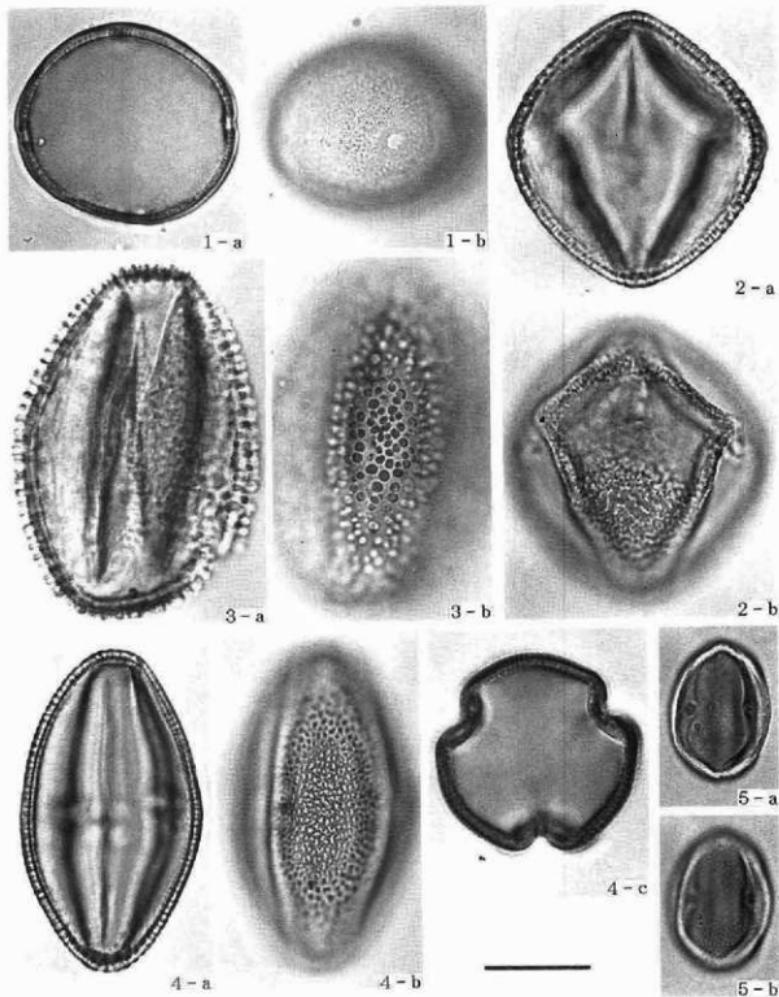
1) 12世紀末～13世紀前半はスギを主体とした温帯性針葉樹林と、アカガシ亞属やシイノキ属～マテバシイ属を中心とした照葉樹林が優勢であった。また、溝周辺はイネ科、アザ科ヒュ科、アブラナ科ヨモギ属などの雑草類が多く生育していた。

2) 13世紀後半～15世紀の遺跡周辺の植生はケヤキやエノキ、ムクノキが目立ち、ニヨウマツ類も増え、他にアカメガシワ、カエデ属、ツバキ属、アオキ属、クサギ、ニワトコなどがみられた。また、これらに絡まるようにヤマブドウや、ノブドウ、ツタ属、キズタ？などの蔓性植物が生育していた。溝周辺の雑草類は次第に少くなり、代わってシダ植物が多くみられるようになった。

3) 15世紀代の遺跡周辺はニヨウマツ類が優勢となり、スギも再び多くみられるようになった。また、シダ植物もさらに生育地を広げた。

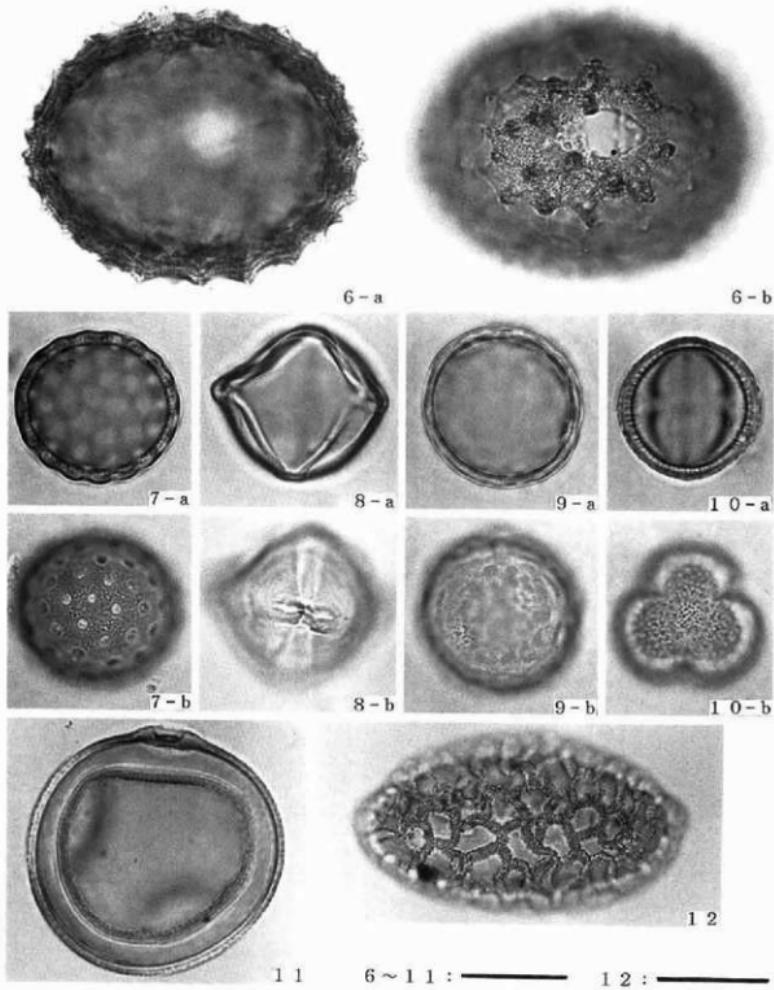
引用文献

- 鈴木 茂 (1991) 平成元年度史跡永福寺跡の溝内堆植物の花粉化石 - 鎌倉市二階堂国指定史跡 永福寺跡 国指定史跡永福寺跡環境整備事業に係る発掘調査概要報告書 - 平成2年度-, 鎌倉市教育委員会, p.26-32.
- 鈴木 茂 (1994) 史跡永福寺跡施設堆植物の花粉化石 - 鎌倉市二階堂国指定史跡 永福寺跡 国指定史跡 永福寺跡環境整備事業に係る発掘調査概要報告書 - 平成5年度-, 鎌倉市教育委員会, p.29-39.
- 吉川昌伸 (1990) 史跡永福寺跡における花粉化石 - 鎌倉市二階堂国指定史跡 永福寺跡 国指定史跡 永福寺跡環境整備事業に係る発掘調査概要報告書 - 平成元年度-, 鎌倉市教育委員会, p.20-34.



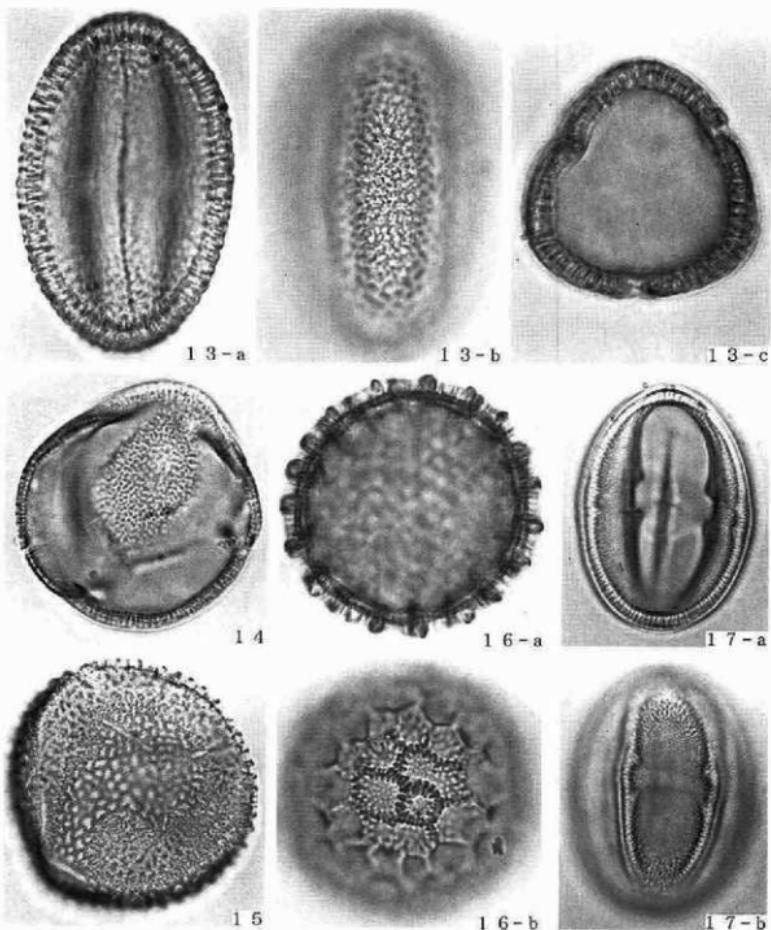
図版1 北条高時跡の花粉化石

- 1: エノキ属—ムクノキ属 PLC, SS 1493 試料7
- 2: ツバキ属 PLC, SS 1491 試料7
- 3: アオキ属 PLC, SS 1492 試料7
- 4: ツタ属 PLC, SS 1490 試料7
- 5: ブドウ属 PLC, SS 1503 試料12



図版2 北条高時邱跡の花粉化石

- 6: ベニバナ属 PLC.SS 1495 試料7
- 7: アカザ科-ヒヌ科 PLC.SS 1499 試料9
- 8: ナス属 PLC.SS 1497 試料9
- 9: オオバコ属 PLC.SS 1501 試料9
- 10: ヨモギ属 PLC.SS 1502 試料9
- 11: イネ科 PLC.SS 1500 試料9
- 12: ユリ科 PLC.SS 1504 試料12



図版3 北条高時跡の花粉化石

- 13: ソバ属 PLC.SS 1494 試料7
- 14: ギシギシ属 PLC.SS 1496 試料8
- 15: タデ属ミズモキ属 PLC.SS 1488 試料1
- 16: タデ属サナエタテモウナギツカミ属 PLC.SS 1498 試料9
- 17: 他のタデ属 PLC.SS 1487 試料1

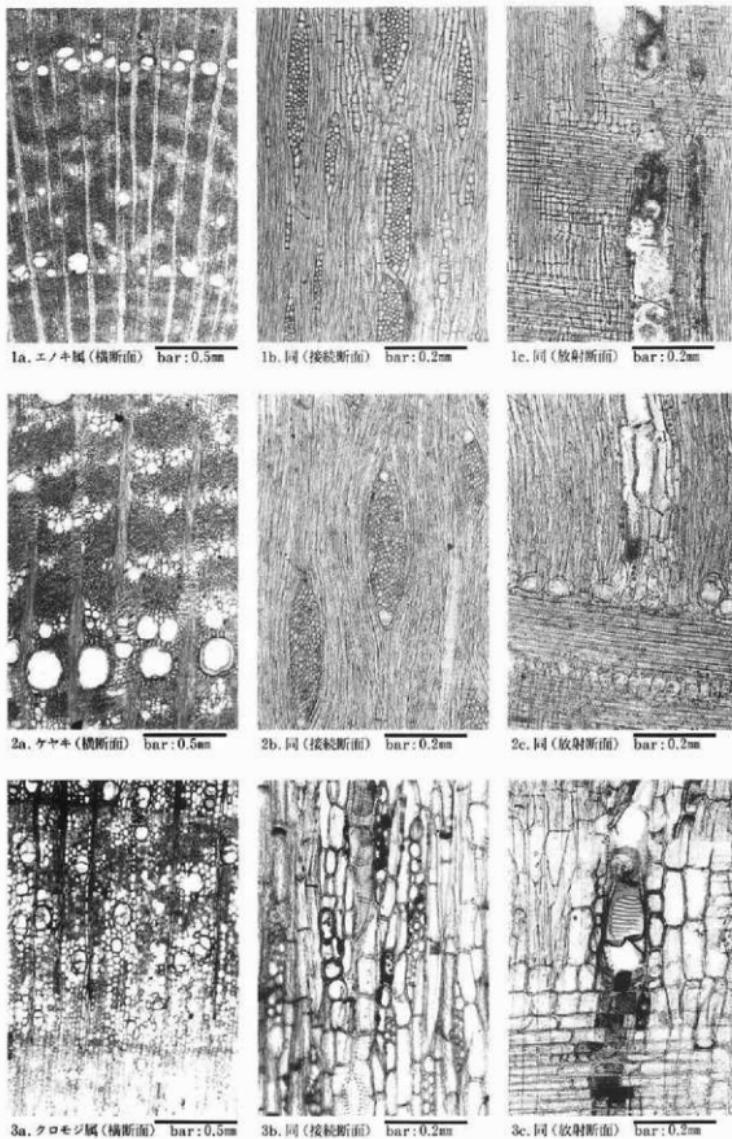


図4 北条高時跡出土材の樹種顕微鏡写真

写 真 図 版



▲1. 調査地点近景（北西を望む）

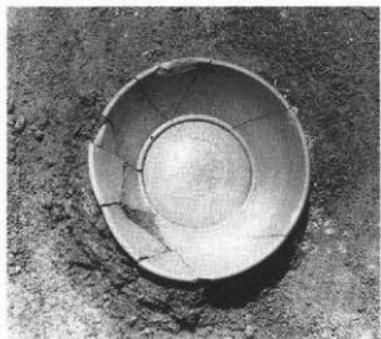


▲2. 調査前の状況（西より）

図版2



▲1. I区1面全景



▲2. 近世合わせ口かわらけ



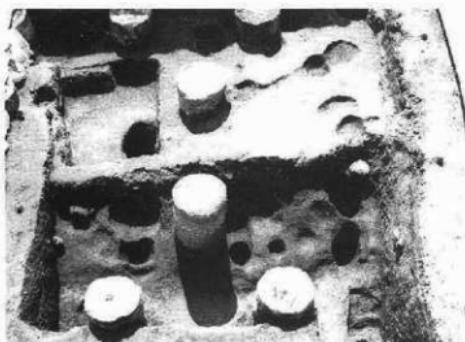
▲3. II区1面全景

▶4 北壁トレンチ

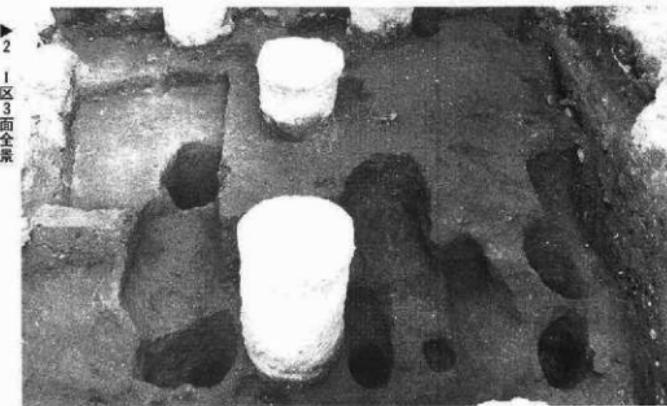


▶5 塚基礎





◀1. I区2面全景

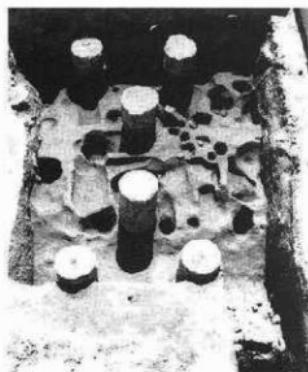


▶2
I区3面全景



▶3
3面かわらけ瀧り

図版4



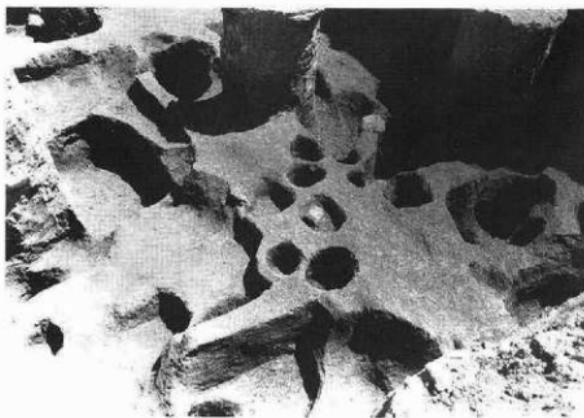
1
I区4面全景



2
4面柱穴



3. 南壁トレンチ土層堆積



4. I区4面遺構



▼ 2. 溝5



▶ 3

溝4・溝5 南盤セクション



図版6



▲ 1. 2面道路上層

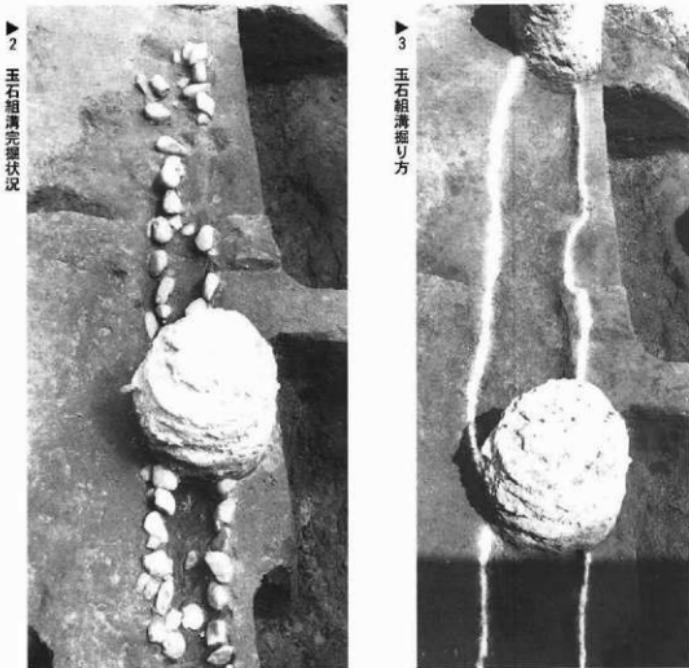


▲ 2. 2面道路下層





▲1. 3面道路下層玉石組溝検出状況



▶2

玉石組溝完築状況

▶3

玉石組溝振り方

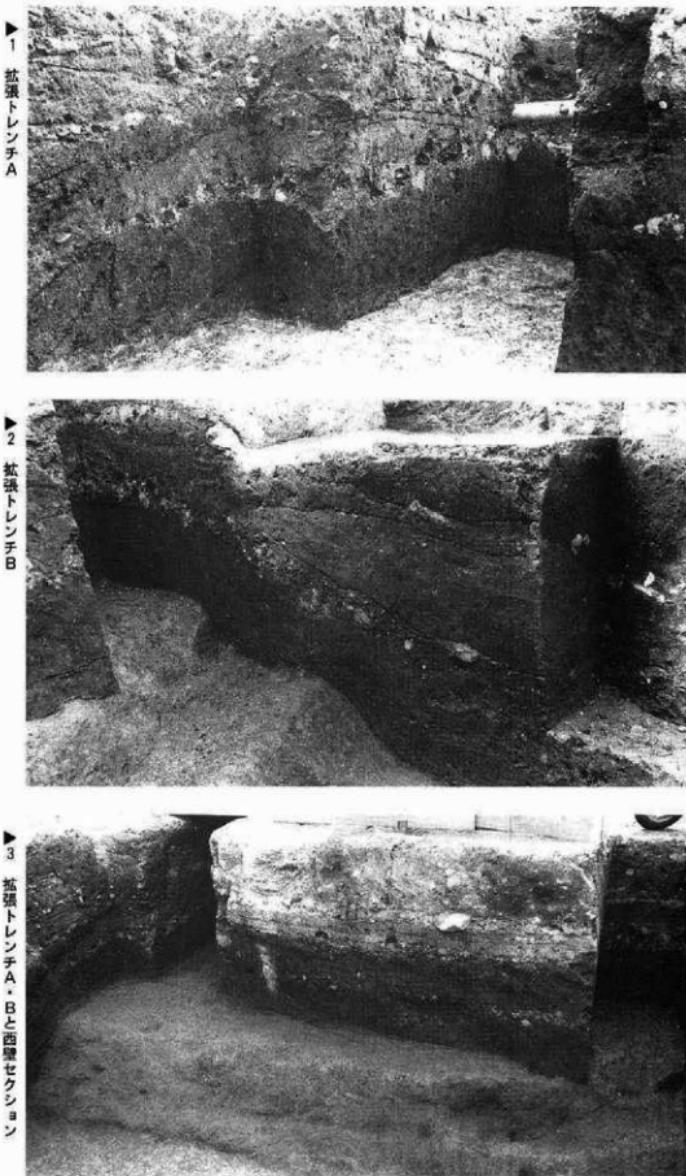
図版8



▼2. 溝7・溝8

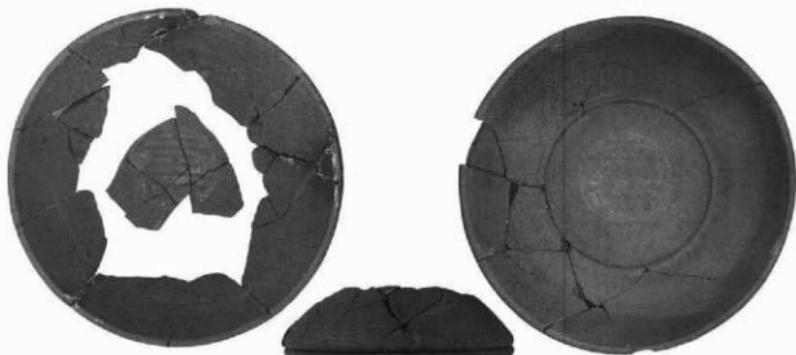


▲3. 溝7底面出土かわらけ





▲ 1. 1面出土遺物



▲1. 近世合わせ口かわらけ



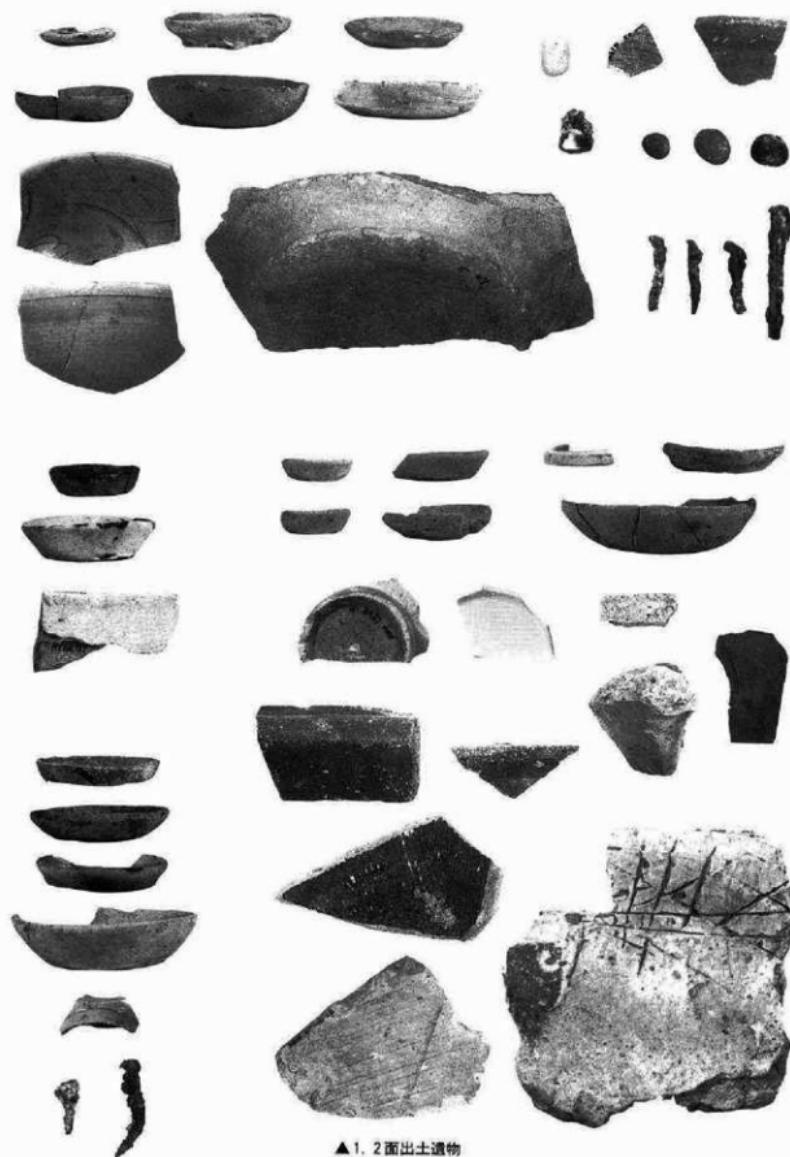
▲2. 近世土壤 2



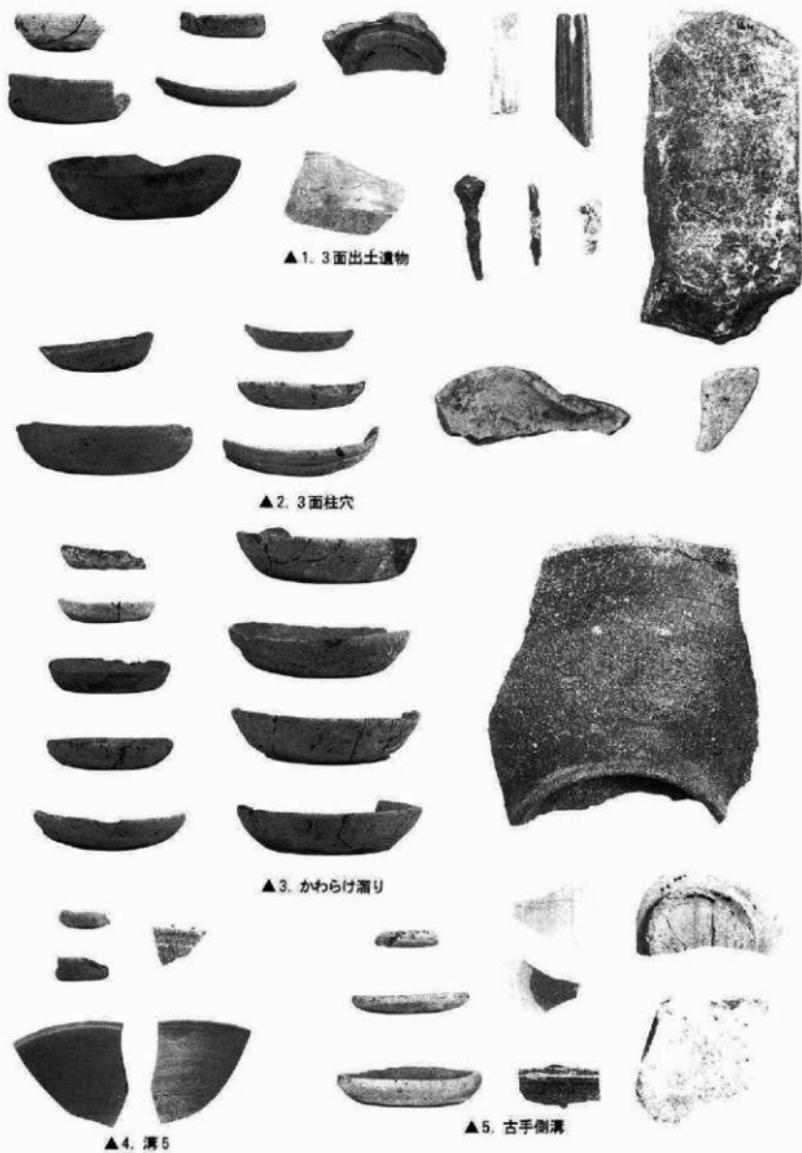
▲4. 近世土壤 3

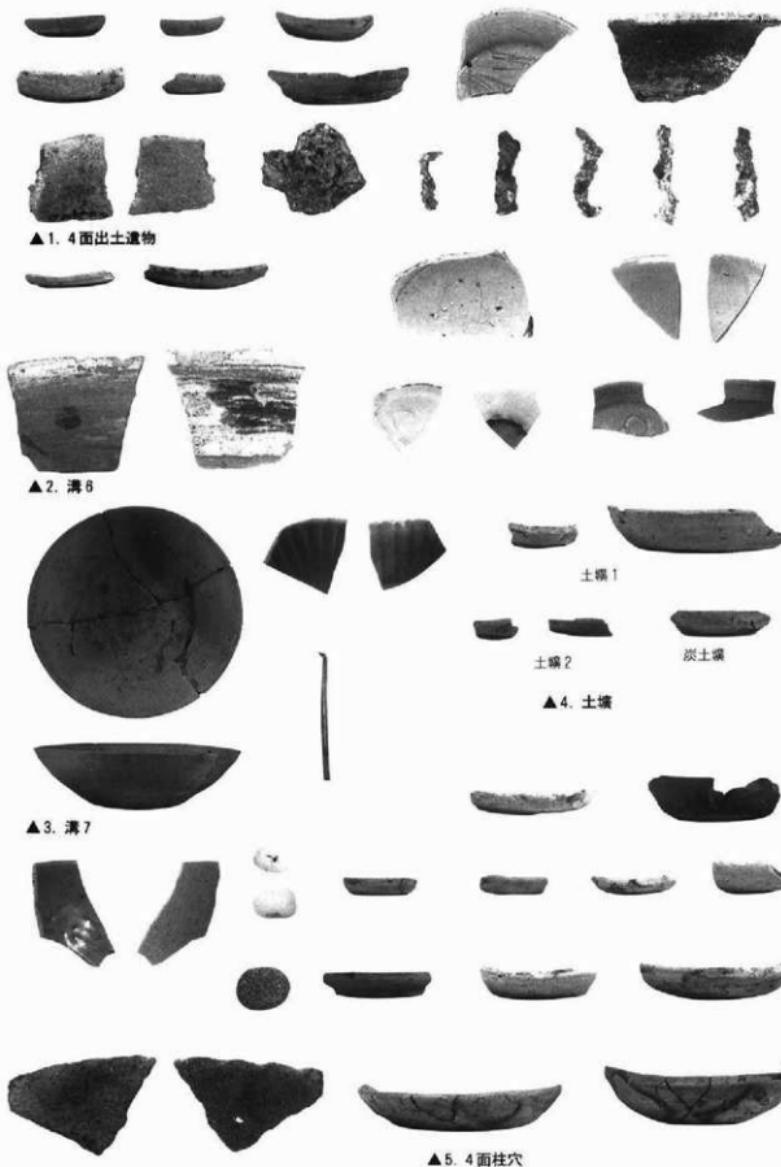


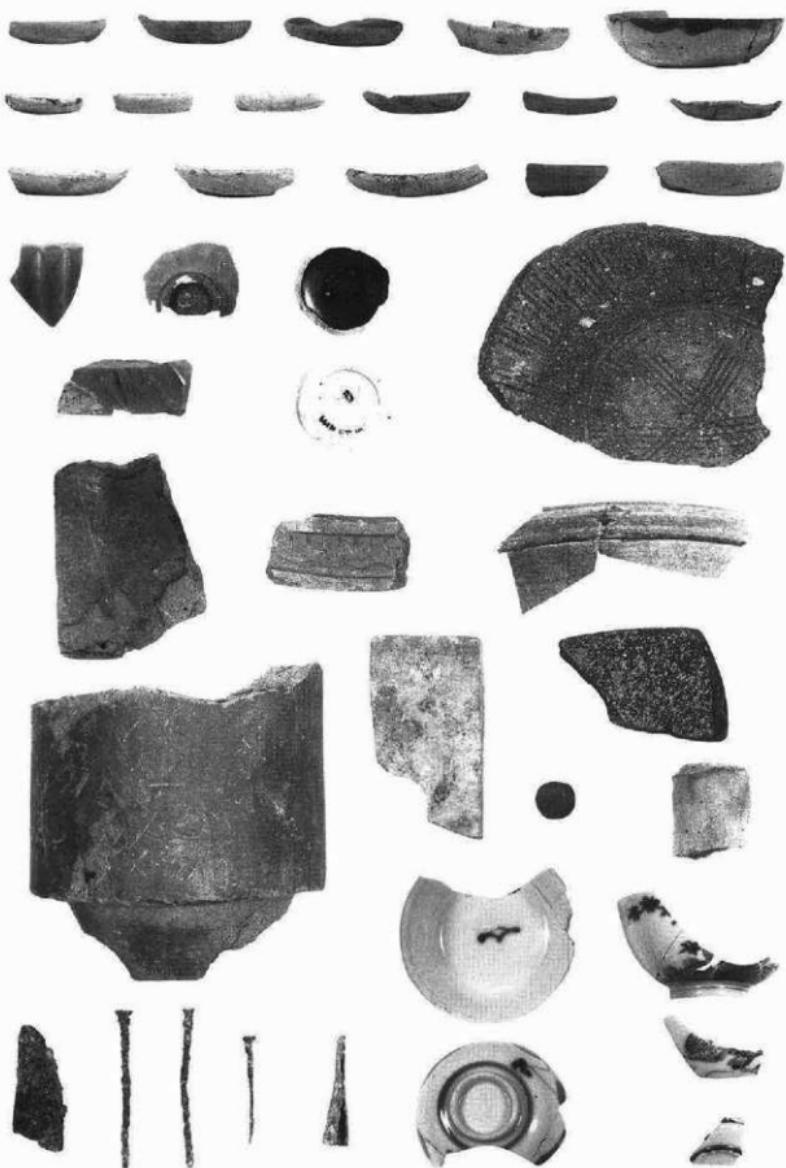
▲3. 近世土壤 2



▲1. 2面出土遺物







▲1. 各トレンチ・擾乱出土遺物

報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ						
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書						
副書名							
卷次							
シリーズ名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書						
シリーズ番号	12						
編集者名	原廣志						
編集機関	鎌倉市教育委員会						
所在地	〒248 神奈川県鎌倉市御成町18番10号						
発行年月日	西暦1996年3月						

ふりがな 所収遺跡	しょざいち 所 在 地	コード		北緯 市町村	東緯 遺跡番号	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ほうじょうたかときて いあと 北条高時邸跡	神奈川県鎌倉市小町 三丁目426番3	204	281			940725～ 940908	70	自己用診療所 併用住宅に伴 う調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
北条高時邸跡	城館址	鎌倉時代 江戸時代	道路4 溝9 土壤6 柱穴列1 ピット80	かわらけ、常滑、瀬戸、渥美、肥前染付、青磁、青白磁、白磁、瓦質製品、石製、かわらけ溜1品、鉄製品等	現小町大路から東4 km前後で中世の小町 大路東側護土と土丹舗 装の道路を発見、路 面に織あとを確認。 胞衣を治めた近世の 合わせ口かわらけが 出土。

う つのみや す しばく ふあと
宇津宮辻子幕府跡 (No. 239)

小町二丁目389番1地点

例　　言

1. 本報は、宇津宮辻子幕府跡（No.239）の所在する遺跡内の鎌倉市小町二丁目389番1地点における個人住宅建設に伴う発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、調査対象面積150m²を国庫補助事業として平成6年3月28日から同年6月28日にかけて実施した。

3. 発掘調査体制は以下のとおりである。

調査担当者 原 廣志

調査員 佐藤仁彦、小林重子、浜野洋一

調査補助員 須佐直子、橋場君男、中田書矢、中村一夫

調査協力者 寺平義夫、簗田孝善、御園生正民、増田保、大田兵四郎、富岡眞之、福本寿夫、萱野輝雄

協力機関 (株)鎌倉市シルバー人材センター、(株)大黒建設、(株)サンシャイン工業、(株)パレオ・ラボ

4. 本報の執筆は、第1章・第2章・第3章—第5節を佐藤仁彦が第3章—第1節～第4節を原廣志が、第4章を佐藤・原が、それぞれ分担した。編集は佐藤・原が行なった。

5. 花粉化石の分析は、(株)パレオ・ラボに委託した。

6. 本遺跡で使用した調査グリット軸の導入に際し、鎌倉市4級基準点を基に浜野洋一の協力を受けた作成した。

7. 本報の資料整理作業には、遺物実測・遺構図墨入れ・図版作成を小林重子、須佐直子、佐藤、原が行なった。

8. 本報掲載写真は、全景写真の一部をポール式高所撮影装置で木村美代治が、遺構を各調査員が、遺物を小林・須佐が撮影し、空撮は気球撮影で(株)サンシャイン工業に委託した。

9. 出土遺物・図面・写真等は鎌倉市教育委員会が保管している。

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	127
第二章 調査の経緯	130
第1節 調査の経過と概要	130
第2節 層序	135
第三章 検出遺構と出土遺物	136
第1節 中世の遺構と遺物	136
I 1面	136
II 2面	144
III 3面	160
IV 4面	186
第2節 小町大路確認トレンチの遺構と遺物	198
第3節 中世以前の遺構と遺物	202
第四章 まとめ	208
第1節 中世	208
I 遺構の変遷	208
II 遺跡の年代	209
第2節 中世以前	216
〈附編〉宇津宮辻子幕府跡の花粉化石 鈴木 浅	256

挿図目次

図1 遺跡周辺図	128
図2 調査区位置図	130
図3 グリッド配置図	131
図4 層序	133
図5 1面全測図	137
図6 1面井戸1	139
図7 1面土壙・石列出土遺物	141
図8 1面遺構出土遺物	142
図9 1面上包含層出土遺物	143
図10 2面全測図	145
図11 2面井戸2・3	147
図12 2面井戸状遺構	149
図13 2面掘立柱建物1	150
図14 2面柱穴列	150
図15 2面溝・土壙	151
図16 2面井戸2出土遺物(1)	153
図17 2面井戸2出土遺物(2)	154
図18 2面井戸3出土遺物(1)	154
図19 2面井戸3出土遺物(2)	155
図20 2面井戸3・井戸状遺構出土遺物	155
図21 2面溝・土壙・ピット・面上包含層	156
図22 2面包含層出土遺物(2)	157
図23 2面包含層出土遺物(3)	158
図24 2面構築上(土丹地業層)出土遺物	159
図25 3A面全側図	161
図26 3A面上土壙	163
図27 3A面かわらけ溜り遺構1・2・3・5	164
図28 3Aかわらけ溜り遺構4	165
図29 3A面上横36出土遺物	166
図30 3A面上横・かわらけ溜り遺構1出土遺物	167
図31 3A面かわらけ溜り遺構2~4出土遺物	168
図32 3A面かわらけ溜り遺構5・包含層出土遺物	169

図33 3A面ピット出土遺物	170	図52 4面井戸状遺構5	193
図34 3B面全測図	173	図53 4面溝状遺構	193
図35 3B面掘立柱建物2	175	図54 4面土壙	194
図36 3B面掘立柱建物3	176	図55 4面掘立柱建物6・8~10	195
図37 3B面掘立柱建物4	177	図56 4面土壙・ピット出土遺物	196
図38 3B面掘立柱建物5	178	図57 4面ピット・包含層出土遺物	197
図39 3B面井戸状遺構4	178	図58 小町大路確認トレンチ	199
図40 3B面土壙・かわらけ溜り遺構6	179	図59 小町大路確認トレンチ出土遺物	201
図41 3B面井戸状遺構4・土壙・かわらけ溜り遺構6	180	図60 中世以前確認トレンチ	203
図42 3B面掘立柱建物2・3・4出土遺物	181	図61 中世以前確認トレンチ土層図	205
図43 3B面ピット出土遺物	182	図62 中世以前の遺物	207
図44 3B面土丹面上・包含層出土遺物(1)	183	図63 主要遺構変遷図	208
図45 3B面上包含層出土遺物(2)	184	図64 調査区全体遺物構成	209
図46 3B面上包含層出土遺物(3)	185	図65 遺物構成 -中世(1)-	210
図47 4面全測図	187	図66 遺物構成 -中世(2)-	211
図48 4面掘立柱建物6	189	図67 遺物構成 -中世(3)-	212
図49 4面掘立柱建物7・8	190	図68 遺物構成 -中世(4)-	213
図50 4面掘立柱建物9	191	図69 遺物構成 -中世以前-	217
図51 4面掘立柱建物10	192		

表 目 次

表1 調査区全体・層位別遺物構成	214	表8 青磁碗種別構成	215
表2 国産陶器产地別構成	214	表9 白磁器種別構成	215
表3 常滑器種別構成	214	表10 中世以前遺物構成	217
表4 かわらけ技法別構成	214	表11 上師器種別構成	217
表5 漢戸器種別構成	214	表12 出土遺物観察表(1~36) -中世-	218
表6 貿易陶磁器種別構成	215	表13 出土遺物観察表(1~2) -中世以前-	254
表7 青磁器種別構成	215		

図 版 目 次

図版1 A. 空撮遠景(宇津宮辻子幕府跡)	266	図版3 A. 1面全景(東から)	268
B. 空撮遠景(上空より南を望む)		B. 石列・土壙4(西から)	
C. 空撮中景(宇津宮辻子幕府跡南側)		C. 土壙3(南から)	
図版2 A. 調査前の状況(東から)	267	図版4 A. 土壙11(東から)	269
B. 表土掘削風景(西から)		B. 貝砂面(東から)	
C. 調査区内土層堆積		C. 頸骨(西から)	

図版5 A. 井戸1(西から)	270	図版16A. 井戸状遺構5(西から)	281
B. 井戸1南東隅の石積み状況(北西から)		B. 同上、土層堆積(西から)	
C. 井戸1本枠検出状況(西から)		C. 土壌27(西から)	
図版6 A. 井戸1東壁木枠(西から)	271	図版17A. 溝状遺構4~8(北から)	282
B. 井戸1南壁木枠(北から)		B. 溝状遺構9(北から)	
C. 井戸1掘り方検出状況(西から)		図版18A. 3B面P-430山茶碗出土状況	283
図版7 A. 2面全景(東から)	272	B. 4面P-550かわらけ出土状況	
B. 掘立柱建物1(西から)		C. 4面P-610字瓦出土状況	
C. 柱穴列1・3、井戸状遺構3、溝1~3 (南から)		D. 4面井戸状遺構5出土の炭化蓮(ムシロ)	
図版8 A. 井戸2(南から)	273	図版19A. 小町大路確認トレント全景(東から) ...	284
B. 井戸2掘り方完掘状況(南から)		B. 同上、中央落ち込み(南東から)	
C. 井戸2底面に敷き並べられた鎌倉石切 石(南から)		図版20A. 中世以前確認トレント全景(東から) ...	285
図版9 A. 井戸3(南から)	274	B. 南北トレント西壁土層堆積(南東から)	
B. 井戸3西壁(東から)		図版21A. 南北トレント南半土層堆積 (南東から)	286
C. 井戸3掘り方完掘状況(東から)		B. 南北トレント北半東壁土層堆積 (南東から)	
図版10A. 3A面(北半・西から)	275	C. 花粉化石の試料採取風景	
B. かわらけ溜り遺構1(北から)		図版22A. 東西トレント全景(南西から)	287
図版11A. かわらけ溜り遺構2(東から)	276	B. 東西トレント北壁東半土層堆積 (南西から)	
B. かわらけ溜り遺構3(東から)		C. 東西トレント東半第19層土師器壺 出土状況	
C. かわらけ溜り遺構4(東から)		図版23A. 北西トレント(北から)	288
図版12A. かわらけ溜り遺構5(西から)	277	B. 井戸2掘り方南東	
B. 土壌36(南から)		図版24 1面出土遺物	289
C. 土壌36完掘状況(南から)		図版25 2面出土遺物	290
図版13A. 3B面全景(上が北)	278	図版26 2面・3A面出土遺物	291
B. 掘立柱建物2(北から)		図版27 3A・3B面出土遺物	292
C. 3B面北西隅版築状況(東から)		図版28 3B面出土遺物	293
図版14A. 井戸状遺構4(西から)	279	図版29 4面出土遺物	294
B. 土壌25(北から)		図版30 その他の出土遺物	295
C. かわらけ溜り遺構6(南から)			
図版15A. 4面全景(上が北)	280		
B. 掘立柱建物6・10(北から)			
C. 掘立柱建物6・P-3D、同左・P-14			

第一章 遺跡の立地と歴史的環境

宇津宮辻子幕府跡とは、若宮大路と交差していた小路と推定される宇津宮辻子に面して、棋家将軍九条頼経の御所、すなわち幕府が置かれたことに由来する遺跡名であり、いわゆる遺跡台帳上では図1の太線の範囲に比定されている。今回の調査地点はその南東隅、鎌倉駅の東方約170mに位置し、現小町大路に面した所である。現地表面の標高は約8.0m。また本地点東約50mには滑川が南北に流れている。

本地点付近を中心とする鎌倉旧市街地の沖積層は、約1万年前から始まった繩文海進によって形成された古鎌倉湾に堆積した泥と砂からなっており、その厚さは湾央部に当たる鎌倉駅付近で15~20mになる。そして、約3000年前には離水したものと推測されている⁽¹⁾。その後は徐々に乾燥化していったものと思われるが、人間活動の痕跡は極めて薄い。

古墳時代後期~奈良平安期の遺構は、鎌倉駅北側の小町通り付近から西側にかけて、住居址や井戸址などが散発的に発見されており⁽²⁾、約700m西の今小路西遺跡では鎌倉郡衙と目される大規模な遺構の存在が周知されるに至った⁽³⁾。

中世に至ると、本地点南西の5地点付近で12世紀後葉の貿易陶磁や国産陶器が比較的まとまって出土するが、該期の遺構は明らかになっていない。御所が大倉から宇津宮辻子へ移転したのは嘉禄元年（1225）のことであるが、それも程なく、11年後の嘉禄二年（1236）には若宮大路御所へと転じた。一方、本地点の南側一帯は幕府から商業免許を得ていた「小町」の推定地でもあり、往来の多い脇やかな場所であった。この付近は武家地と町屋の「境界領域」に当たるわけである。

遺跡名の由来である宇津宮辻子がどこを走っていた路なのかを明確に示す史料はないが、一般には現在の宇津宮辻子橋荷に通ずる露地がそれに当たると推測されている。御所の位置について、文献史の立場から松尾剛次氏は、『吾妻鏡』の関連記事を読み解いて、宇津宮辻子御所と若宮大路御所とは同一郭内だとする『鎌倉市史』の説を否定し、両者は別敷地であり、また宇津宮辻子御所は若宮大路には面していないかったとする⁽⁴⁾。これに対して考古学的には、後に記すとおり、これまで遺跡内の四地点で調査が行われているが、いずれも詳細が未報告であることもある、問題の解明に資する材が少ない。

付近には日蓮宗の足跡も多い。小町大路を挟んだ本地点東側には日蓮辻説法跡碑が立つ。日蓮の辻説法については伝承の域を出ないともいう⁽⁵⁾が、日蓮宗がこの辻で往来の人々を相手に布教を図り、また幕府中枢にもその主張を強く訴えかけるに便宜のあったことは十分想像できる。近隣には本覚寺・大巧寺・妙隆寺など、同宗の寺院が集中して法灯を保っている。また、本地点の南側にも妙勝寺という日蓮宗寺院が近代まであったとされているが不詳な点が多い。このように、この地に同宗の影が色濃いことは興味深い実事であるが、これについては極楽寺の衰亡との関連を考える説がある⁽⁶⁾。

『吾妻鏡』の記載を見る限り、宇津宮辻子御所を構成する建物等はさまざまあるが、その相対的位置関係を知るには詳細な検討が必要であり、ここでは御所をある程度具体的にイメージするのに役立つと思われる主要な建物とその関連記事を国史大系本（吉川弘文館）により抄出する。

宇津宮辻子御所への移徙に際して、頼経は「南門」より入御し、「南庭」中央にて馬を下りた。そして「御車寄戸」と「二棟廊」を経て「寝殿」に入御したとある（嘉禄1・12・20）から、それらの凡そ位置関係が想像される。「南門」からは直に若宮大路に出られたと取れる記事もある（安貞2・8・15）が、「南門」を出て小町大路を北行した（嘉禄1・6・29）ともあるから、「南門」はやはり宇津宮辻子に面して開いていたのだろう。門としては他に「東御門」（安貞2・5・8）、「中門」（同2・10・7）、「北土門」

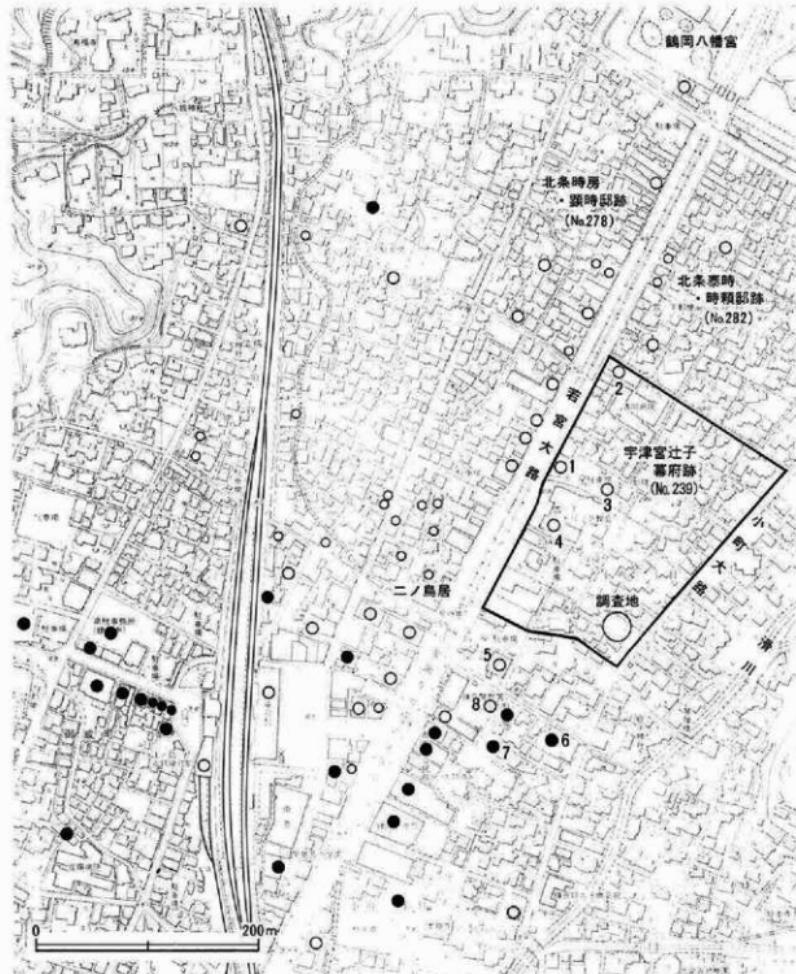


図1 遺跡周辺図

(寛喜2・6・9)がある。「東御門」には「馬場殿」があり「競馬」が行われた(安貞2・5・8)とあるが、これは門の外からも知れない。「南庭」は「相撲」(嘉禄2・8・1など)や「草鹿勝負」(嘉禄2・9・22)、あるいは陰陽道の「泰山府君祭」(嘉治1・12・20など)が催行されており、相應の広さを持つものと推測される。「庭」とのみ記して、「御陶」(寛喜3・9・25)や「属星然」(貞永1・間9・11)を行ったことも見えるが、同じ場を指しているのかも知れない。「北小庭」で「相撲」をしたり(安貞2・6・28)、「北

向御臺」で献ぜられた馬を頼経が見た（安貞2・10・15）という記事もある。「二棟御所」というのが出てくる（嘉禄1・12・29）が、「二棟廊」と同一であろう。「寝殿」には「棟上瓦」が用いられている（嘉禄1・4・7）ので、屋根は本瓦葺きではなかったと思われる。将軍の「御物」（安貞1・8・10）を収納する施設である「納殿」の建築に際しては、当初は御所の乾（北西）の角に建てようとしたが、障りがあるとして陰陽師が方位を寸分まで事細かに指示しているのが興味深い（同1・6・17）。この「納殿」は「立・柱打・足堅・桁」（同1・7・22）とあるから、堅穴建物ではなく掘立柱建物であろう。

この他にも「御持仮堂」（安貞1・11・18他）、「東西侍」（嘉禄1・12・21他）、「金殿」・「贊殿」（安貞1・10・12、11・9）、「御臺所」（寛喜3・2・2他）、「進物所」（寛喜3・5・14）、「休所」（文暦1・3・5）、「小御所」（嘉禄1・1・20他）、「渡殿」（同左）、「御厩侍」（嘉禄1・8・21）などがあった。

また、御所の南には淡路前司宗政の宅があった（寛喜2・1・3）が、御所と町屋地区との間には御家人などの住宅が配置され、「境界領域」を形成していたことが推察されよう。

一方、本遺跡内における発掘調査はこれまでに4回行われている。地点1（1977年調査）は範囲も狭く、明確な遺構は検出されていない^①。地点2（1990～91年 630m²）では、若宮大路側溝とそれに直交する溝、掘立柱建物址、柵列、井戸などが検出されている。時期的には13世紀初めから15世紀初めまで及ぶが、その中心は13世紀中頃から14世紀中頃である。大型の建物址が確認できず、推定幕府跡の割には遺構密度が低いのが目に付く。大路側溝は現道路にはほぼ平行している^②。地点3（1991年 310m²）では、13世紀前葉から14世紀中葉にいたる掘立柱建物址、井戸、土壙、柱穴列などが検出された。建物址、柱穴列はいずれも現若宮大路とほぼ平行・直交関係にある^③。地点4（1992～93年 650m²）で検出されたのは、主として13世紀～14世紀後半の掘立柱建物址、道路状遺構、溝（含若宮大路側溝）、橋脚址、井戸、土壙、柱穴列などである。建物址は柱間6間以上の大型のものが多い。主な遺構はやはり現大路と平行・直交関係にあるが、12世紀末から13世紀初頭のものと考えられる溝が、約7度東に傾いて走っている^④。

【註】

- (1) 松島義章「鎌倉駅地下の地質について」「『藤原敷道跡』鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会 1984 ほか
- (2) 斎木秀雄・河野英知郎他「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 1982、馬瀬和雄「若宮大路周辺遺跡群 小町一丁目116番地地点」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2号」鎌倉市教育委員会 1986、菊川美改「若宮大路周辺遺跡群（No.242）小町二丁目12番15号地点」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8号」鎌倉市教育委員会 1992 など
- (3) 河野他「今小路西道路（御成小学校内）発掘調査報告書」同遺跡発掘調査会・鎌倉市教育委員会 1990
- (4) 松尾「宇津宮辻子御所考－都市鎌倉論補考－」山形大学史学論集第十二号 1992 ほか
- (5) 賀迷人・石井進編「鎌倉の仏教－中世都市の実像」有隣社 1992
- (6) 馬瀬和雄「武士の都鎌倉－その成立と構想をめぐって－」河野善彦・石井進編「中世の風景を読む2 都市鎌倉と坂東の海に暮らす」新人物往来社 1994
- (7) 松尾宜方他「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1」「鎌倉市教育委員会 1983
- (8) 田畠佐和子「宇津宮辻子幕府跡の調査」「第1回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所、中世都市研究会 1991
- (9) 熊谷洋一・渡野洋一「宇津宮辻子幕府跡（No.239）小町二丁目354番12外地点」「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9（第3分冊）」鎌倉市教育委員会 1993
- (10) 塚 実「宇津宮辻子幕府跡道路の調査」「第3回鎌倉市遺跡調査・研究発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所、中世都市研究会 1993

第二章 調査の経緯

第1節 調査の経過と概要

本調査地の全敷地面積は、現小町大路に面して約630m²を有する。調査直前までは駐車場として利用されていた。前述したように、小町大路に関わる調査事例が希少であるうえ、武家地と町屋のいわば「境界領域」という位置を考えれば、本地点周辺は中世都市の構造を解明する上で極めて興味深い場であることは疑いないが、実質の調査範囲は住宅建設にかかる132m²と狹小なものであり、かつ敷地の奥の小町大路から引っ込んだ部分である。しかし、事業者の方のご理解によって小町大路側にトレンチを設定し、往時の道筋に関する知見が若干なりとも得られたことは幸いであった。

調査に当たっては、調査区内を4mグリッドに区割り、南北方向に西からアルファベットを、東西方向に北から算用数字を付した。各区画の名称には北西隅の交点を与えている。このグリッドは、近年調

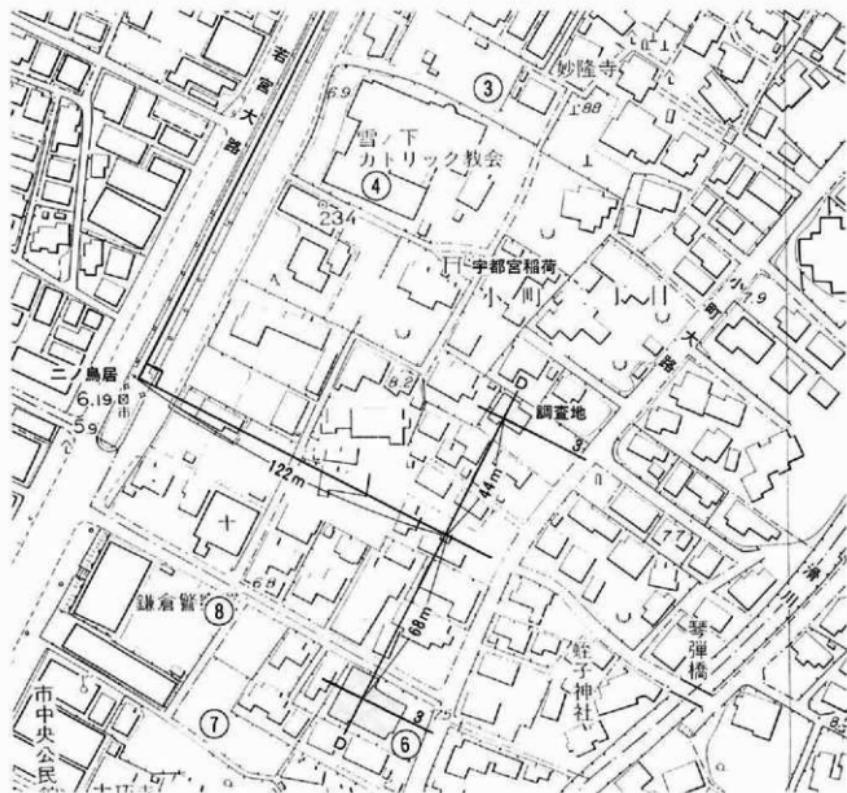


図2 調査区位置図

査された周辺の遺跡（地点3・4・6～8）と同一のメッシュに乗せて設定されている。これは、原点を鶴岡八幡宮二ノ鳥居礎石北辺の中央におき、八幡宮社頭段葛中央を見通した線を基軸としたものであり、その軸は真北に対して $26^{\circ}48'23''$ 東に振れている。便宜上報文中における方位の呼称は、概ねグリッドの方向に合わせた。また、交点D-3は原点から東へ122m、北へ44mに位置し、国家座標値（X-75790.286 Y-25151.550）を持っている。

発掘調査は1994年3月28日に開始された。まず、前年12月に行われた試掘調査のデータに基づいて、現地表下50cm内外まで堆積していた近現代の搅乱・客土層および近世耕作土を重機により除去し、以下を人力によって掘削した。以後の調査で発見された遺構と遺物は概ね次に記した通りである。調査の経過については調査日誌抄を参照されたい。

1面 現地表下約50cmで検出。15世紀前半

石列1基…長さ240cm、略コの字状に鎌倉石・土丹を配列。井戸1基…〈井戸1〉井枠100cm四方、深さ170cm。拳～人頭大土丹塊を積み上げ、内側を隅柱式の木枠で支える。土壙8基・柱穴70口・獸骨1体

2面 現地表下60～70cm。20～50cmにも及ぶ厚い土丹版築で構成される。15世紀前半

掘立柱建物1棟…〈建物1〉確認規模3×1間、柱間215～220cm。井戸2基…〈井戸2〉3.6×4mの掘り形をもつ。深さ215cm。底面に鎌倉石の配列が一部残存。〈井戸3〉枠110cm四方、深さ210cm。隅柱式。井戸状遺構3基・柱穴列2条・溝3条・土壙2基・柱穴100口

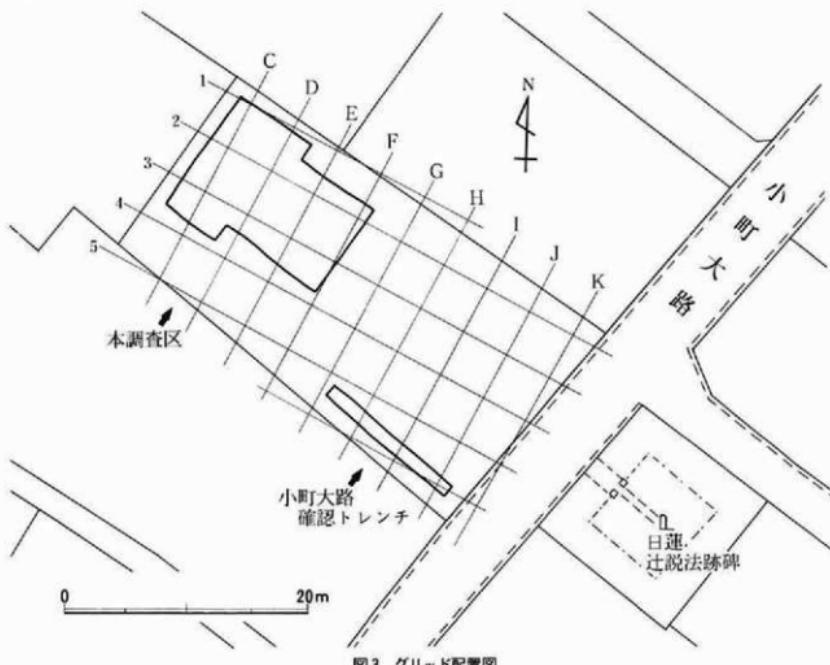


図3 グリッド配置図

3A面 現地表下約90cm、部分的に残存。13世紀後半～14世紀前半。

かわらけ溜まり遺構5ヶ所・据壠1基・土壙4基・柱穴80口

3B面 現地表下約100cm。調査区北西部にごく薄い細土丹版築面。13世紀後半。

掘立柱建物4棟…〈建物2〉5×3間、柱間210～220cm。〈建物3〉4×3間、200～210cm。〈建物4〉3×4間、200～210cm。〈建物5〉3×2間、220～230cm。井戸状遺構1基・かわらけ溜まり遺構1ヶ所・土壙4基・柱穴220口

4面 現地表下約120cm。中世基盤層上面。13世紀前半～中頃。

掘立柱建物5棟…〈建物6〉4×4間、柱間215～220cm。〈建物7〉3×1間、210cm。〈建物8〉3×4間、210cm。〈建物9〉4×4間、205～215cm。〈建物10〉5×5間、210cm。井戸状遺構1基・溝状遺構6条・土壙8基・柱穴250口

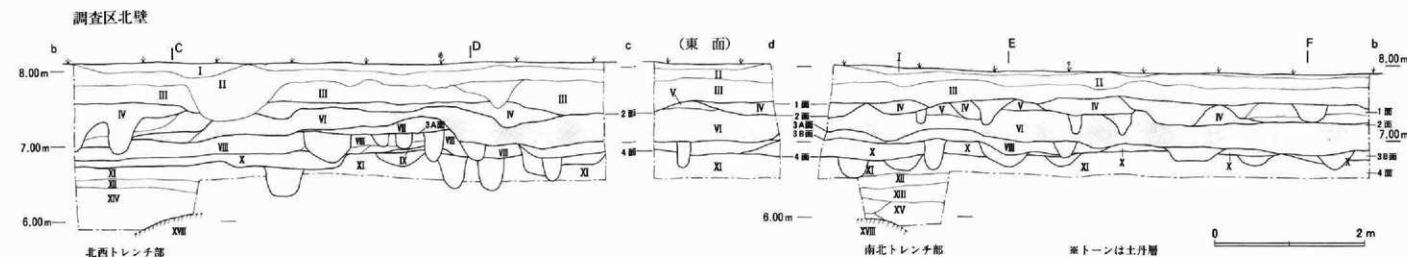
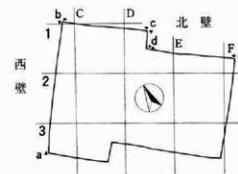
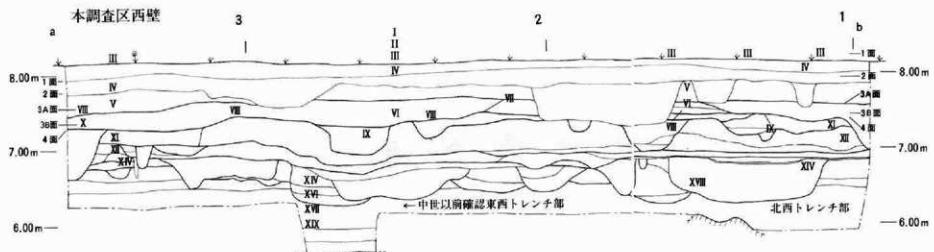
小町大路確認トレント 現大路より西へ約6.5mで側溝西斜かと思われる落ち込みを検出。15世紀前半。

中世以前確認トレント 4面以下に堆積する粘土層からイネのプラント・オパールを多數検出。水田址の可能性が高い。古墳前期～奈良・平安期。最下層(地表下2m)で性格不明の落ち込みの一部を確認。

出土遺物 中世…13世紀前半から15世紀中頃にかけて、整理箱にして約30箱。かわらけが8割以上を占める。木製品がほとんど残存しない事を除けば、他の鎌倉市街地遺跡と種類・傾向ともほとんど変わらないが、14世紀代の遺物が少ない。中世以前…1箱。古墳前～中期のものが主で、高环が比較的多い。滑石製有孔円板、小型手づくね土器、土器片錐なども出ている。

調査日誌抄

3月28日(月)	晴	調査機材搬入。
30日(水)	晴	重機による表土掘削。1面面出し。
4月 5日(火)	晴	ピット、土壤を中心とする主要な遺構をほぼ検出。
7日(木)	曇	1面全景写真撮影。
8日(金)	晴後曇	1面遺構全測図作成。
11日(月)	曇後晴	ベルコン設置。2面(土丹面)面出し。
12日(火)	曇後雨	2面精査開始。数基の井戸状プランを確認、掘削開始。
14日(木)	晴	井戸1上層断面写真撮影、実測。井戸2掘削開始。井戸以外の遺構はほぼ完掘。
16日(土)	晴	井戸1上層掘削終了、下層は石組み崩落の危険があるため後日調査。井戸2(桿抜き取り痕内部)断面写真、実測。井戸3・井戸状遺構3掘削開始。
18日(月)	晴後曇	井戸3・井戸状遺構3断面写真、実測。井戸3は井枡遺存、方形隅柱型と判明。
20日(水)	晴	井戸2桿抜き取り痕内完掘。井戸3・井戸状遺構3完掘。
21日(木)	晴	この日迄に掘立柱建物址1棟、柱穴列3列を確認。完掘部分より遺構実測開始。
23日(土)	曇	2面全景写真撮影(木村美代治氏によるポール撮影)。
25日(月)	晴	調査区南西隅より2面構築土(土丹)を除去し始める。3面には起伏があり、遺構面が均一でないことが推測される。上面を3A面、下面を3B面とする。
5月 6日(金)	晴	井戸1下層掘削、木枡を確認。写真撮影、実測。井戸2・3掘り形掘削開始。
10日(火)	晴	井戸1・2・3掘り形完掘。写真、実測。かわらけ溜り遺構1・2・3を検出。
18日(火)	晴	3A面完掘。写真撮影、平面図実測。
20日(金)	曇後晴	3B面精査。土丹版築は調査区北西付近のみ。層厚の薄い部分で4面が表出。
25日(水)	晴／曇	3B面遺構ほぼ完掘。4棟以上の掘立柱建物を復元。



土層記号

- I 土表
- II 土分離
- III 黄褐色砂質土
- IV 頸項灰黑色土
- V 明灰褐色土
- VI 土炭酸
- VI 黑褐色輕質土
- VI 黑褐色砂質土
- IX 土崩
- X 壱谷地點熟土
- XI 黑褐色熟土
- XII 黑褐色熟土
- XIII 黑褐色熟土
- XIV 黑褐色熟土
- XV 黑褐色熟土
- XVI 黑褐色熟土
- XVII 黑褐色熟土
- XVIII 黑褐色熟土
- XIX 黑褐色熟土
- XX 黑褐色熟土

図4 層序

- 6月 1日（水）曇後晴 3B面全景写真撮影（気球撮影）。翌日にかけ全測図作成。
- 3日（金）晴 4面に出し、遺構精査。
- 9日（木）雨 入梅。
- 11日（土）晴 4面遺構ほぼ完掘。4棟以上の掘立柱建物を復元。
- 16日（木）晴 4面全景写真撮影（気球撮影）。
- 17日（金）晴 4面遺構全測図作成。小町大路確認トレンチ掘削。
- 18日（土）曇 小町大路確認トレンチ、実測及び写真撮影。中世以前確認トレンチ掘削開始。
- 21日（火）晴 南北トレンチ北側で砂堆（黄褐色砂）を確認。
- 23日（木）晴／曇 トレンチ土層図作成、写真撮影。調査機材整理。
- 24日（金）曇／晴 花粉、プランクトン・オパール分析試料採取（パレオ・ラボ、鈴木氏による）。
- 27日（月）晴 機材撤収。

第2節 層序

調査区内における層序は、箇所によって厚薄の差はあるが、概ね均等であった。図4は調査区西壁及び北壁の上層断面を示したものである。現地表面の標高は東側で7.9m、西側で8.1mと西に向かって僅かに高くなっている。地表より20~30cm程はアスファルトや瓦礫を含む表土（I層）、近現代の土丹地業層（II層）とて覆われ、以下に近世耕作土と考えられる層厚20~30cmの明灰褐色土（III層）が堆積する。調査に当たっては、これら表層の大半を重機によって掘削し、1面を検出した。標高7.5m前後である。1面構築土（IV層）は層厚10~30cm内外で、薄い部分では2面の土丹層が既に表出してしまっていた。また調査区北西部では、貝殻を細かく碎いた砂を撒いた面が不整形に広がっている。これらを除去すると土丹塊を焼き固めた2面の地業層（V・VI層）が表れる。標高は7.4m前後。2面は表面の凹凸が大きく、また地業の状況も大土丹塊を主として空隙が多く、粗であることなどから、この面そのものが生活面であったとは、やや考えにくい。出土遺物の様相などからしても、大きさは1・2面をほぼ一連のものと捉えるべきであろう。

2面構築土は層厚が一定せず、これをはがして表出させた3面には、一部に大きな起伏が生じていた。特に調査区北半では高く、南側は概ね低くなっている。これは、地盤の不均等な沈降、あるいは2面構築段階の削平などに起因するものと考えられた。本来層位的には別個のものであろうが、検出の経緯から一連のものと見なし、便宜上高く残っている部分を3A面（標高7.0~7.1m）、その直下で全体に広がる面を3B面（標高6.8m）とした。3B面は、北西部を中心にして、細かな土丹による密な版築面（IX層）が広がる。3B面構築土（X層）は層厚10~20cmと薄く、これを除去すると、中世最下層の4面が表れた。標高6.7m。

周辺の調査の知見では、中世基盤層は風化スコリアと考えられる白色粒子をやや多く含む褐色~黒褐色粘質土を主体とするようだが、本地点では暗灰色弱粘質土（XI層）を基盤とし、以下の堆積は黒褐色~灰褐色系の粘土（XII~XVI層）が約1m近くにもなる。周辺で見られないこの厚い粘土の堆積は、後に述べられるように、プランクトン・オパール分析の結果、水田耕作に関わって形成された土壤である可能性が高い。この粘土層の下層には流水の影響を受けたと思われる砂礫を含む層（XVII層）がある。

なお、繩文海進・海退によって形成されたとされる自然砂層は、通常中世基盤層の直下で確認されることが多く、図1の地点6あたりでは標高6.5mで表れるが、本地点（XVII層）では5.4~5.6mとかなり低くなっている。

第三章 検出遺構と出土遺物

第1節 中世の遺構と遺物

I. 1面 (図5~9)

現地表下約50cm、標高7.45~7.55m前後を測り、暗褐色土と破碎土層による弱い地盤層があり、遺構が確認されたのでこれを最初の生活面と認識して「1面」と呼称し、調査を実施した。この面で検出した遺構には、井戸1基、土壙8基、石列1列、ビット約70tがあり、この他に獸骨1体や部分的な狭い範囲ながら貝砂面なども認められた。

a. 井戸1 (図6・8、図版5・6)

調査区西域の中央、D-2杭の南側に位置する。井戸1は調査したのは2面においてであるが、1面において概に上面の石組みが崩れたような、円形の井戸らしきプランを確認していたので、1面の遺構に帰属する。この井戸本体は石を積み上げ、内側の四隅に柱を立てた隅柱式の木枠で支えた構造の井戸枠を有する。側板は認められなかった。

確認標高7.55m。掘り方は不整円形で規模が径2.3~2.6m、確認面からの深さ2.10mを測る。壁は石積み基底部の直下、深さ約1.65mまでは緩やかに落ち込んで段を作り、井戸枠の残存する底面までは垂直な掘り方で、湧水の多い砂層まで掘り抜いている。底面標高5.25mを測る。

掘り方内ほぼ中央に井戸本体が据えられている。上位は一辺が1.0m前後で、拳~人頭大土丹塊を用いて方形の筒状に乱石積で仕上げたものである。下段は未調整の土丹塊が粗雑に積み上げられているが、上段は土丹塊を比較的丁寧に整形し、内面側のみを平坦に造っている。内側を隅柱式の木枠で支えており一辺が90cm程の方形で隅柱、横棟からなる。隅柱は13cm角の太い角材で4本とも上端が腐食していて、長さ45cm程が遺存していた。横棟は前面のみ幅8cm、厚さ5cm程の角材で、他は径5~7cm程の丸材を使用し、両端は荒い削りで加工しており、隅柱と横棟は仕口の造作でホゾ組されている。側板の痕跡は見られず、北面に2本、南面に1本の杭が横棟の外側に打ち込まれていた。

覆土は上層が暗褐色・黒褐色粘質上で、中層以下は砂分の多い覆土で、石積みが崩落して落ち込んだ大小土丹塊が多く認められた。井戸の木枠は太目の隅柱に比べて、貧弱な丸棒の横棟を使っている点や隅柱のホゾ穴が丁寧な作りなのに横棟ホゾ組が粗雑な作りであり、側板が無く横棟外側に杭を打ち込んでいることなど、後に修復した仕事の跡を思わせる。井戸本体は当初から石積みで内側に隅柱式の木枠にした構造であったかもしれないが、石積み以下の掘り方の変化や覆土の土層を観察すると、石積み井戸枠の構造から内側に隅柱式の木枠を補強して作り替えた可能性も考えられる。

出土遺物は、1が糸切り底のかわら皿、2がかわらけ質の円盤状土製品、3が土丹を加工した石鍊状製品、4が錢で「元豐通宝」である。

b. 石列 (図7、図版3)

石列は、調査区西南隅、C-2・3グリッドで検出された、略コの字形に石を配列している。確認標高は7.6mで、南北方向の直線的な配石の軸方位はN-33°-Eで若宮大路南北軸にほぼ平行する方位を示す。規模は南北の長さ2.45m、コの字形に溝状に掘り込んで、その底面に拳~人頭大の土丹塊を敷き、その上に鎌倉石切石と扁平に荒く整形した土丹塊を並べた様相を呈している。この石列は建物土台といっ

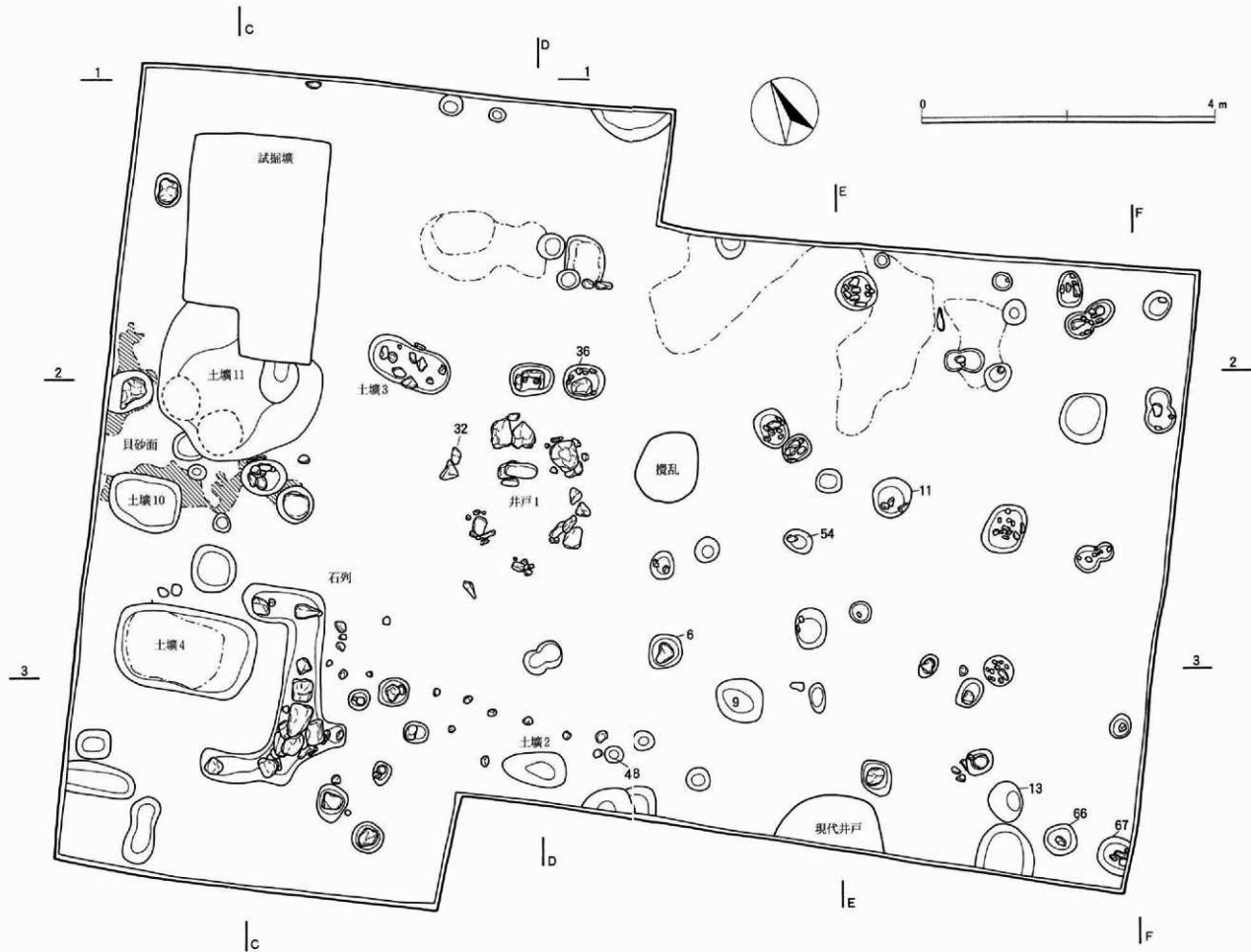


図5 1面:全測図

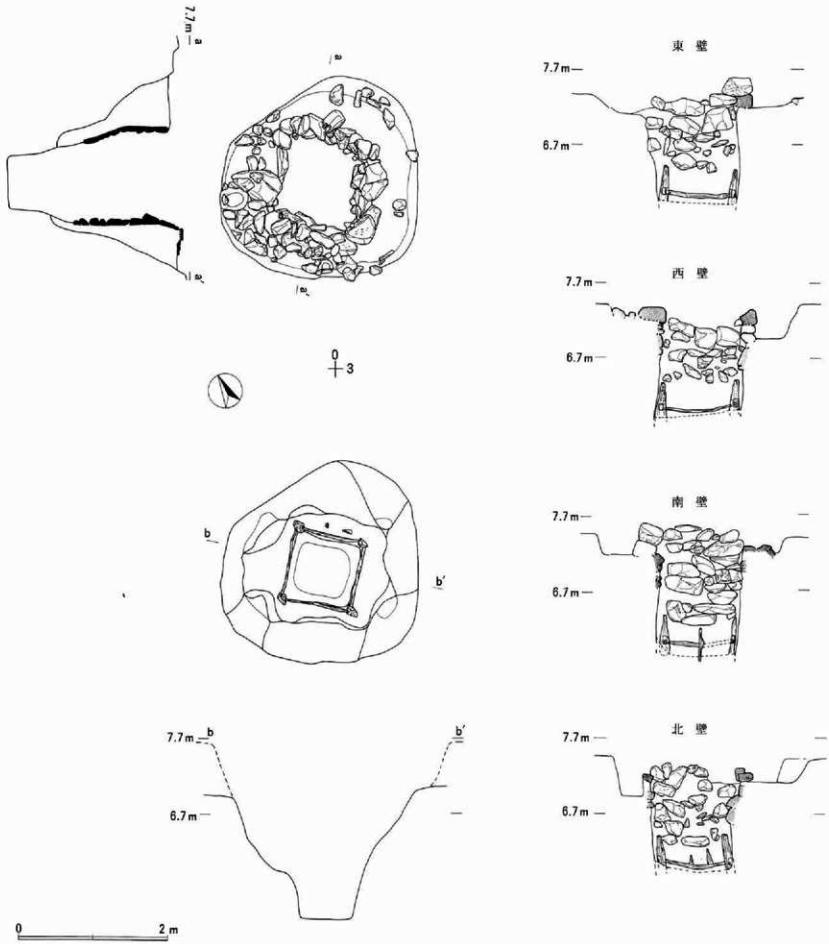


図6 1面井戸1

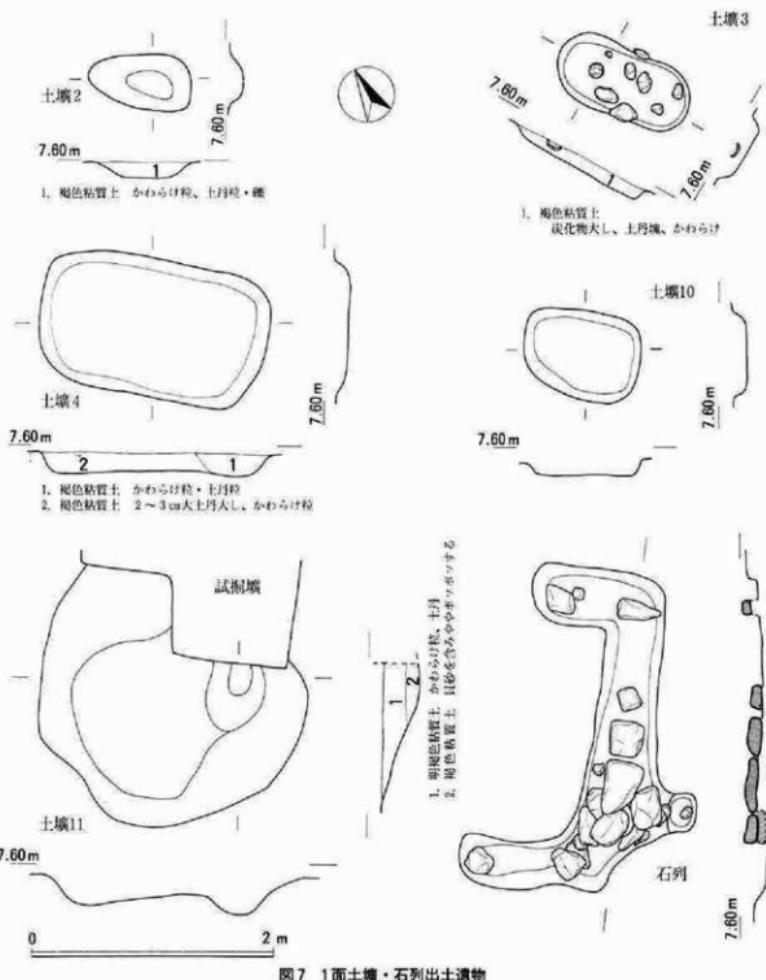


図7 1面土壌・石列出土遺物

た建物基礎の地業にかかるる構造と見られなくもないが確証は無い。図示できる遺物は出土していない。

C. 土壌 (図7・8、図版3・4)

土壌2

Dライン上、調査区南壁に接する位置である。楕円形を呈し、規模は長径86cm、短径45cm、深さ32cmである。覆土は縮まりのない褐色粘質土一層で、近世土に類似する。図示できる出土遺物は無い。

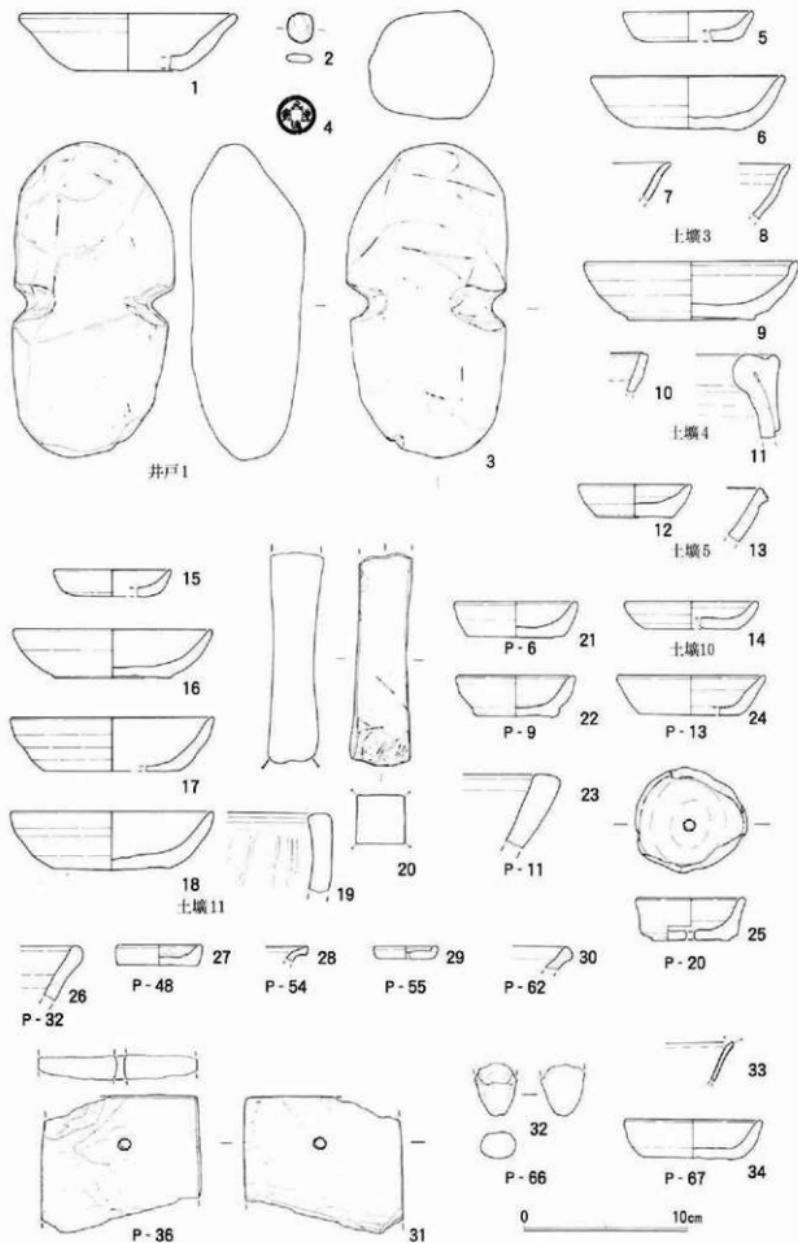


図 8 1面遣構出土遺物

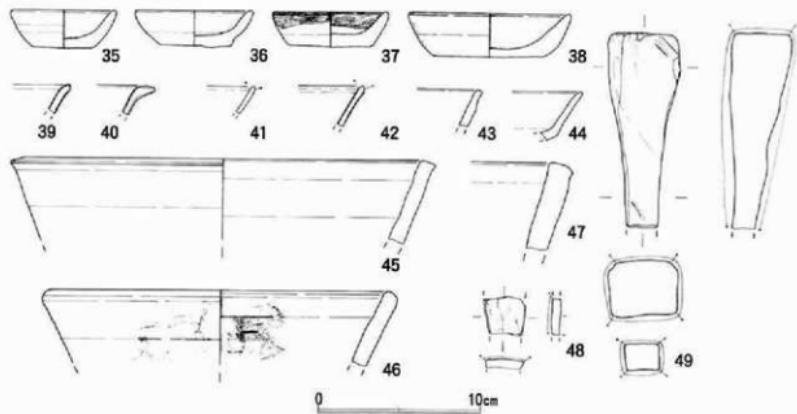


図9-1 上面上包含層出土遺物

土壌3

C・D間2ライン上で検出した。隅丸長方形を呈し、規模は長さ115cm、幅54cm、深さ30cmである。覆土は茶褐色粘質土で下層に多く炭化物が見られる。

出土遺物は、5・6がかわらけ、6は完形品で土壌西側の底面上でみられた。7が青磁無文碗、8が碗で瀬戸窯製品である。

土壌4

B・C間3ライン上、石列造構の西側に近接した位置で大形の土壌を検出した。隅丸長方形を呈し、規模は長さ185cm、幅110cm、深さ15cm程と浅い。覆土は褐色粘質土一層で、底面は下層の土丹面(2面)としている。

出土遺物は、9が糸切り底の大型かわらけ、10が瀬戸窯おろし皿、11が常滑窯口縁廢片である。

土壌10

B-2グリット、調査区西壁に接する位置で検出した。梢円形を呈し、規模は長径94cm、短径68cm、深さ10cm程である。

出土遺物は、14が糸切り底の小型かわらけである。

土壌11

C-2交点上で検出された大形土壌である。北側を試掘壙によって壊されている。不整円形を呈し、規模は長径230cm以上、短径195cm、深さ35cmである。覆土は二層からなり、上層が明褐色粘質土下層が茶褐色粘質土であるが、貝砂を含みやや締まりが弱い。

出土遺物は、15～18が糸切り底のかわらけで15のみ小型の製品、19が瓦質の手培り口縁片、20が砥石で中砥である。

この他の造構・遺物には、貝砂面や獸骨1体などがある。貝砂面はB-2グリット、土壌10・11間に位置し、西壁の調査区外にまで拡がる。貝砂をフルイにかけて分析したがハマグリ、ニシの小貝片が中心であった。獸骨は遺存状態が悪いが、犬・猫などの小動物の類であろう。出土遺物では21～34が各柱穴からかわらけを中心とし、35～49が面上包含層からのものである。

II. 2面(図10~24)

現表下60~70cm、標高7.30~7.40mを測る。20~50cmにも及ぶ厚い地業層で、拳~人頭大土丹塊を突き固めた土丹版築で構成されるのが2面である。この面上で確認した遺構は、掘立柱建物1棟、井戸2基、井戸状遺構3、柱穴列2条、溝3条、土壙2基、ピット100口である。なお、出土遺物の構成からみると、2面は1面と殆んど時期差が感じられず、15世紀前半頃に比定されよう。

a. 井戸(図11・16~20、図版8・9)

井戸2

D-E-2・3グリット、調査区南壁にかかる位置で検出した。掘り方南辺を現代井戸の掘り方が壊している。確認標高7.35m。調査区南壁にかかる為、全貌は明らかではないが確認できる掘り方の形状は東西3.6m前後、南北4.0mを測り、大きな掘り方をもつ隅丸方形で、確認面からの深さ2.15mの規模をもつ。井戸底面は東西2.7m、南北2.8mの隅丸方形で、掘り方内からは井戸枠は検出されなかった。南北の土層断面図をみると井戸枠の痕跡を窺えないこともないが、南側のオーバーハングした上の流れからすると、井戸枠は抜き取られたと思われる。底面中央北寄りに鎌倉石の配列が一部残存していた。配列された鎌倉石4個は長方形の切石で長さ43~55cm、幅30~39cm、厚さ25cm程度で東側に面を合せて据えており、底面を石敷きした井戸であった可能性が高い。石列の西側・東側にも鎌倉石切石片と土丹塊が集積していたが、規則性は認められず切石が抜き取られた痕跡であろうか。

覆土は掘り方の上層が暗黒褐色粘質土で、下層が暗黒褐色・暗褐色粘質土、井戸枠内が上層が人頭大の土丹塊や伊豆石が多く見られる茶褐色粘質土、下層が灰黒褐色粘質土で土丹塊を含んだものである。

出土遺物には、上層は50~60かわらけ、61・62瀬戸窯製品、63常滑窯器である。下層は64~72かわらけ、73・74瀬戸窯製品、75・76常滑窯器片、77瓦質手焼き、78瓦器質の燭台、79石臼である。掘り方は80~84かわらけ、85~87瀬戸窯製品、89・90捏鉢、91~93常滑窯製品、94・95手焼き、96~98石製品。

井戸3

E-3グリット、調査区東壁にかかる位置で検出した。土壙17と重複し、土壙南側を壊して新しい。確認標高7.35m。確認できる掘り方の規模は、東西1.6m以上、南北1.55m、深さ2.1mを測り、平面形状は隅丸方形を呈する。掘り方内やや南寄りに、方形横桟の隅柱型の井戸枠が掘り方との間が殆んどなく接するような形で据えられている。井戸枠内法は1.1m四方、遺存状況の良い下段で見ると、隅柱は12~14cm角である。横桟は断面が一辺8~10cm程の角材で両端を丁寧に加工し、仕口の造作で隅柱とホゾ組きしている。側板は各面に4枚づつ使われ、1枚の板が幅50cm前後、厚さ1.5cmである。

覆土は、掘り方の上層が暗黄褐色砂質土、下層が暗黒褐色粘質土で、井戸枠内は黄褐色砂質土、中層は拳大土丹塊を多く含んだ暗褐色粘質土で、下層は崩落して作図していない。地山砂層まで掘り抜いていて涌水量は豊富である。

出土遺物には、上層は99~107かわらけ、108瀬戸窯製品、109・110捏鉢、111・112土鍋である。下層は113~131かわらけ、132青磁碗、133土鍋である。掘り方は134~139かわらけ、140瀬戸窯製品、141捏鉢、142土鍋、143錢の「開元通宝」である。

b. 井戸状遺構(図12・14・20、図版7)

井戸状遺構1

F-2グリット、調査区東壁にかかりごく一部しか検出されていない。確認標高7.37m、底面標高6.95m。確認できる掘り方規模は南北のみで1.75m、深さ45cmと浅く土壙に近い。覆土は上層が暗黄褐色砂質

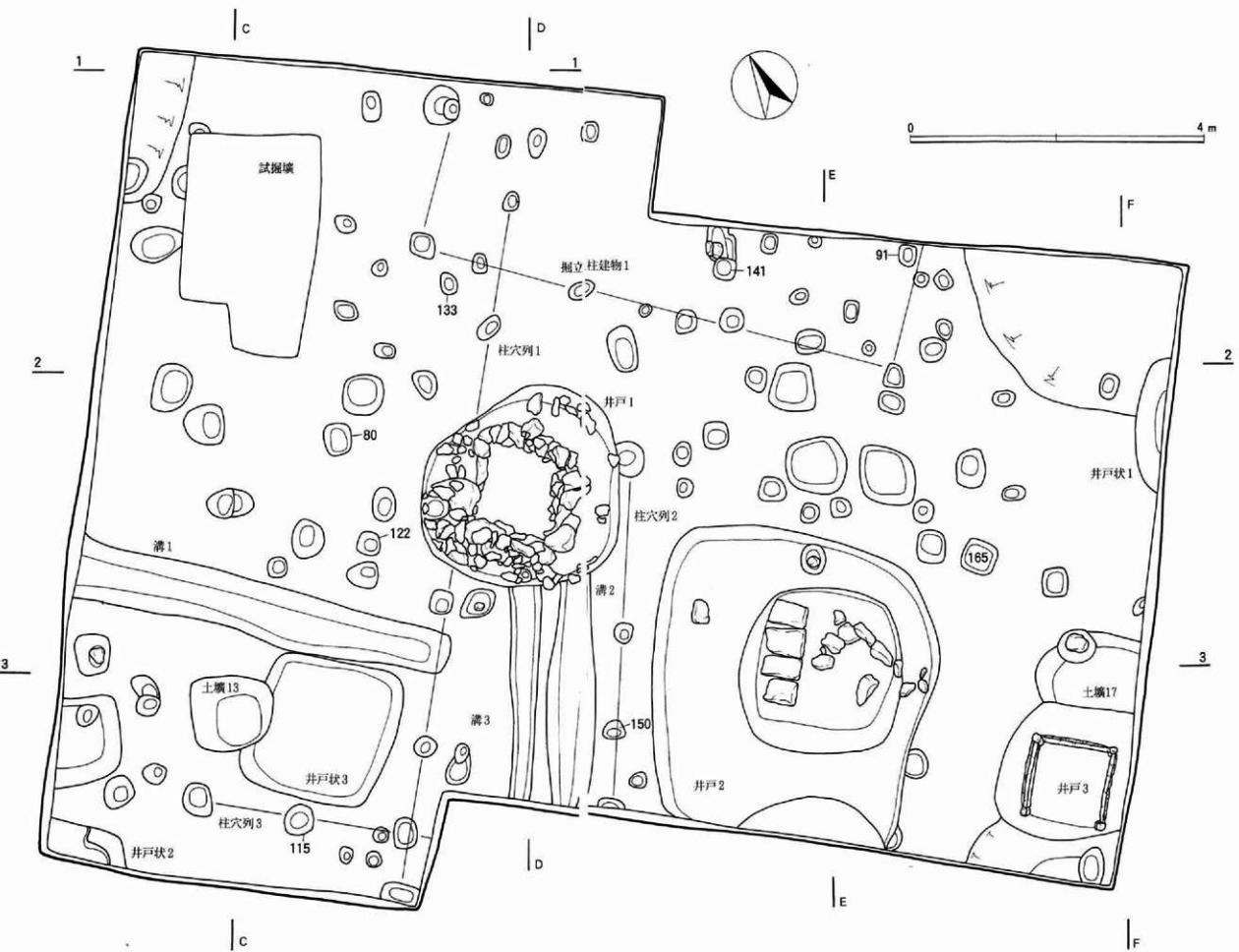


図 10 2面全剥図

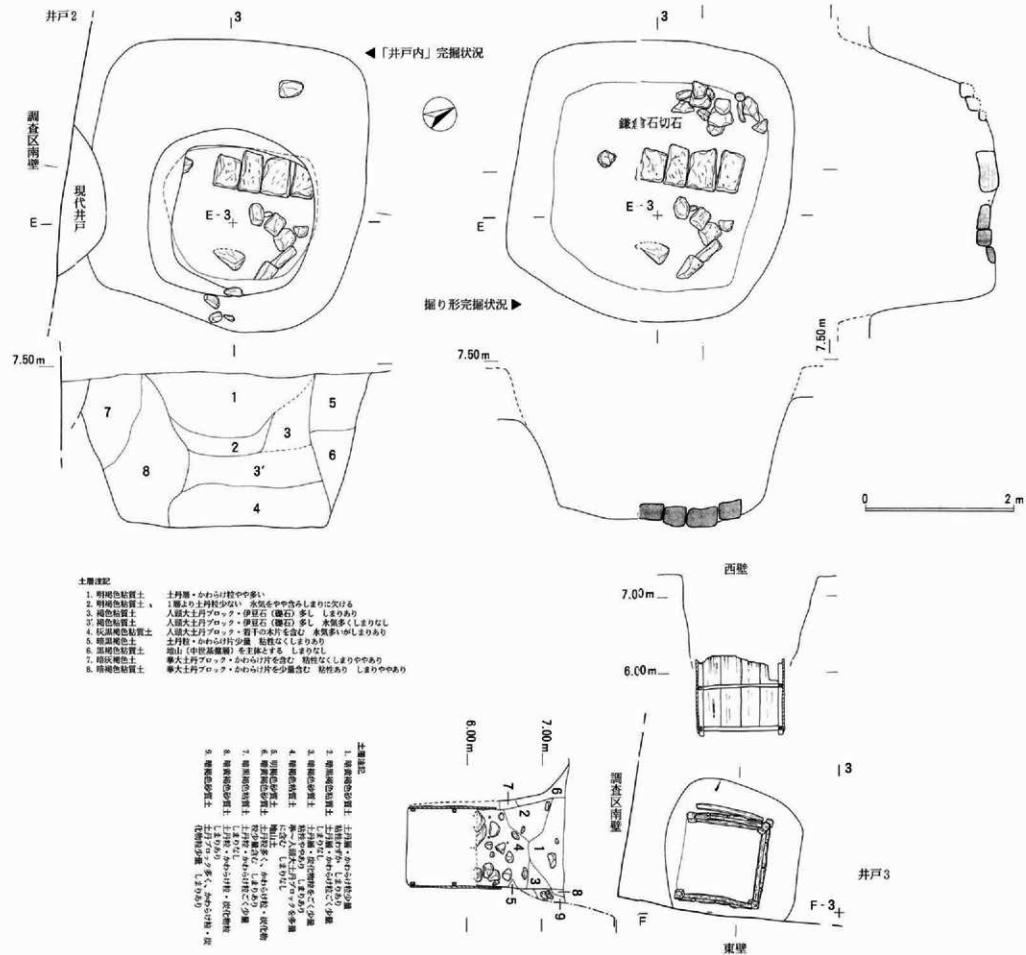
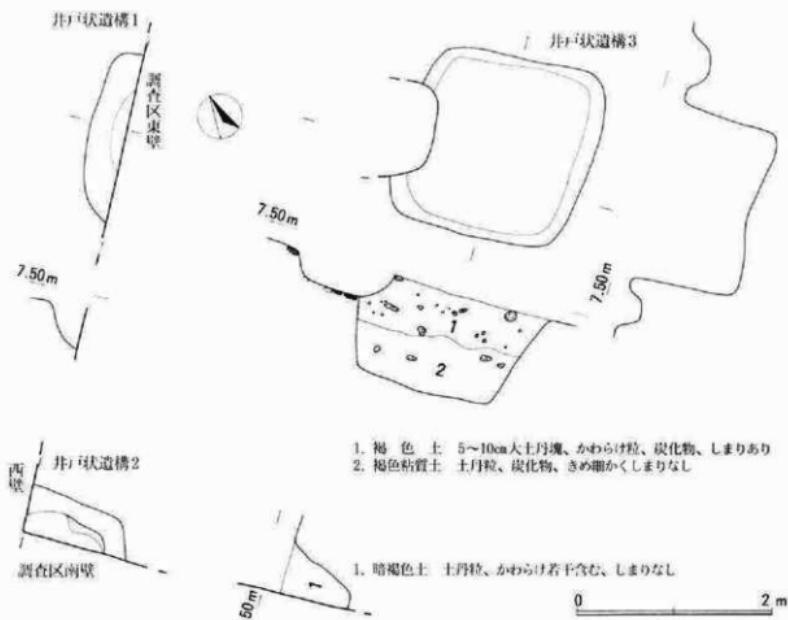


図11 2面井戸2・3



上で下層が暗褐色粘質土である。出土遺物は、144系切り底の小型かわらけである。

井戸状遺構2

B-E-3グリット、調査区南西隅の南・西壁にかかる位置で検出した。確認標高7.30m、底面標高6.58m前後である。深さ70cm程度で、平面形状・規模は不明である。覆土は暗灰褐色砂質土である。

出土遺物は、145~146系切り底の小型かわらけ、147・148系切り底の大型かわらけである。

井戸状遺構3

C-E-3グリットの位置で検出した。土壤13により一部が壊されている。確認標高7.35m。掘り方は規模が東西1.9m以上、南北1.8m、深さ1.1mで、形状は隅丸方形の断面逆台形状である。土層の堆積状況や地山砂層まで掘り抜いていないところから見て、井戸としては疑わしいものである。

出土遺物は、149~151系切り底の小型・中型・大型のかわらけ、152白磁碗、153青磁櫛搔文碗、154・155常滑窯窓である。

c. 据立柱建物1(図13、図版7)

C-E-1グリットで検出した。確認標高7.32m。確認規模3間×1間、柱間215~220cm、東西軸方位はN-50°-Wで現小町大路にほぼ直交する。各柱穴から図示できる遺物は出土していない。

d. 柱穴列(図14、図版7)

柱穴列1 C-1~3で検出。確認規模5間で柱間175~195cm。軸方位はN-36°-Eで現大路にほぼ平行する。

柱穴列2 確認規模2間、柱間約230cm。軸方位はN-30°-Eである。

柱穴列3 確認規模2間、柱間約230cm。軸方位はN-54°-Wで現大路にはほぼ直交する。

e. 土壌・溝(図15・21、図版7)

土壤13 C-3に位置する。井戸状構造3を切つていて新しい。隅丸長方形、長さ1.3m、幅1m、深さ30cm。覆土中に土丹塊あり。遺物なし。

土壤17 F-3に位置し、井戸5に切られる。

形状は楕円形で、規模が東西径1.36m以上、南北径1m、深さ30cm。遺物は169~179すべて糸切り底かわらけの小型・中型・大型品である。

溝1 C-2に位置。規模は長さ5.1m以上、幅75cm程、深さ約27cm。軸方位N-50°-W 現大路直交する。遺物は156~162かわらけである。

溝2・3 D-3、井戸1に切られ、西側は調査区外に延びている。軸方位N-28°-E。両溝は幅30~50cm、深さ約15~20cmである。覆土は暗灰褐色粘質土。遺物は163かわらけで溝2出土。

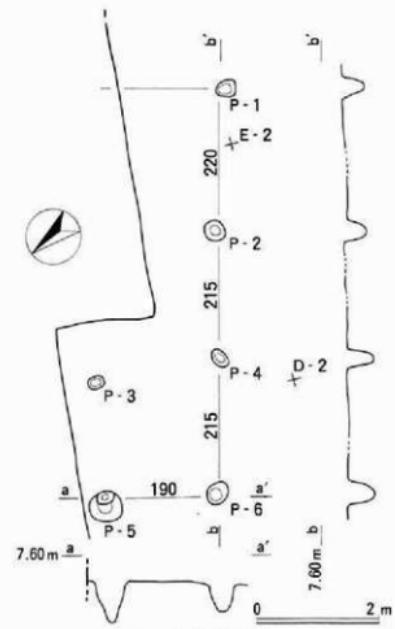


図13 2面垂直柱建物1

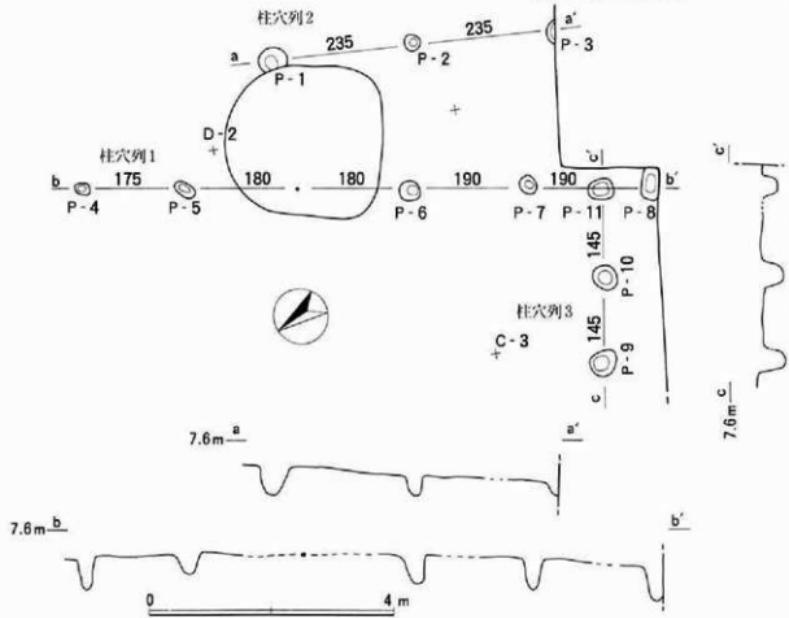


図14 2面柱穴列

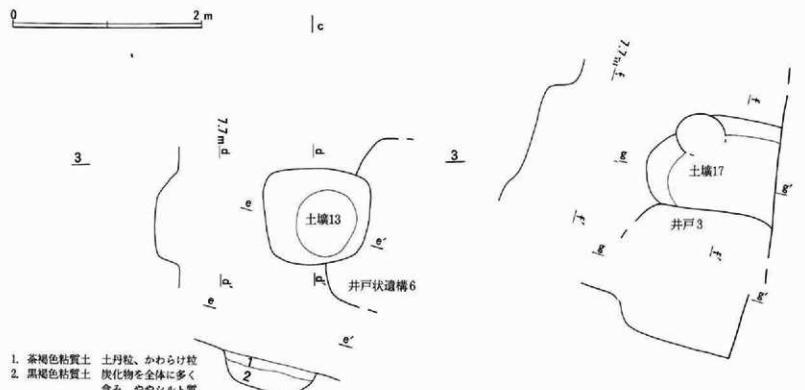


図15 2面溝・土壤

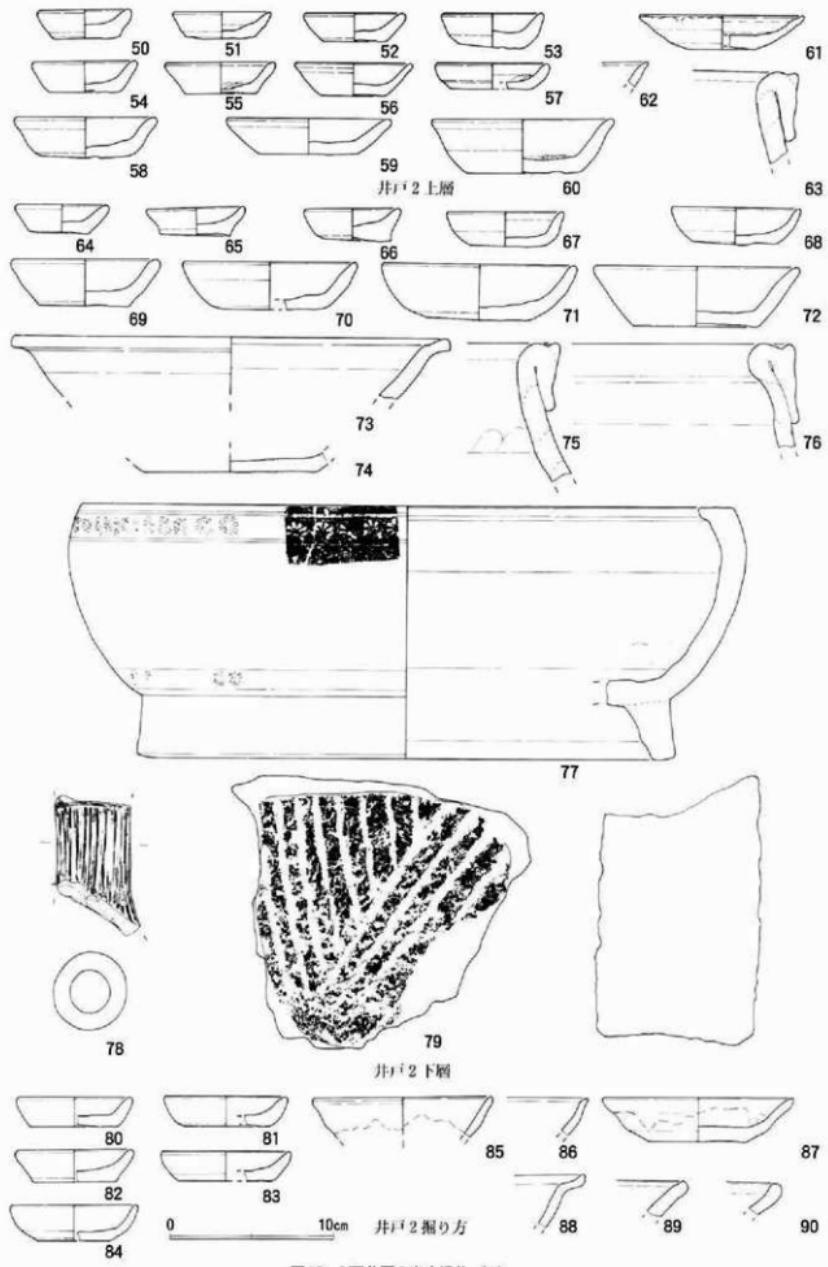


図16 2面井戸2出土遺物 (1)

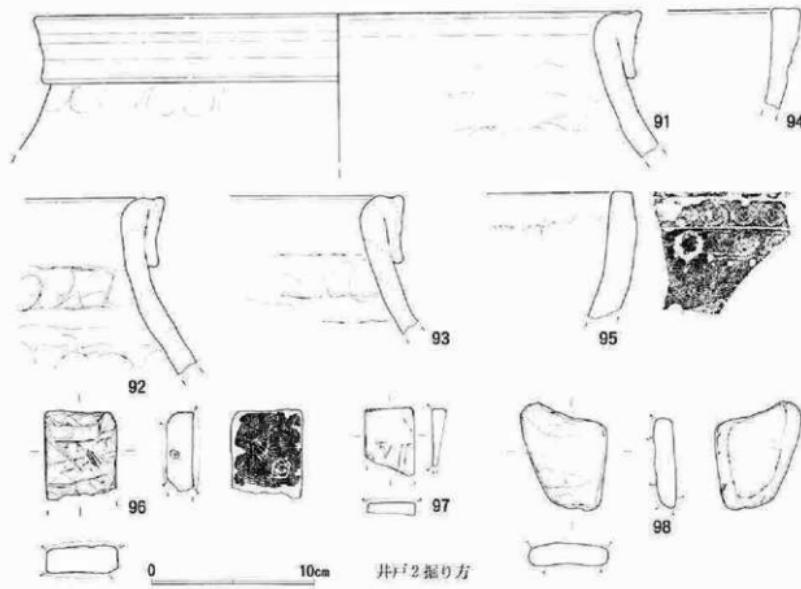


図17 2面井戸2出土遺物(2)

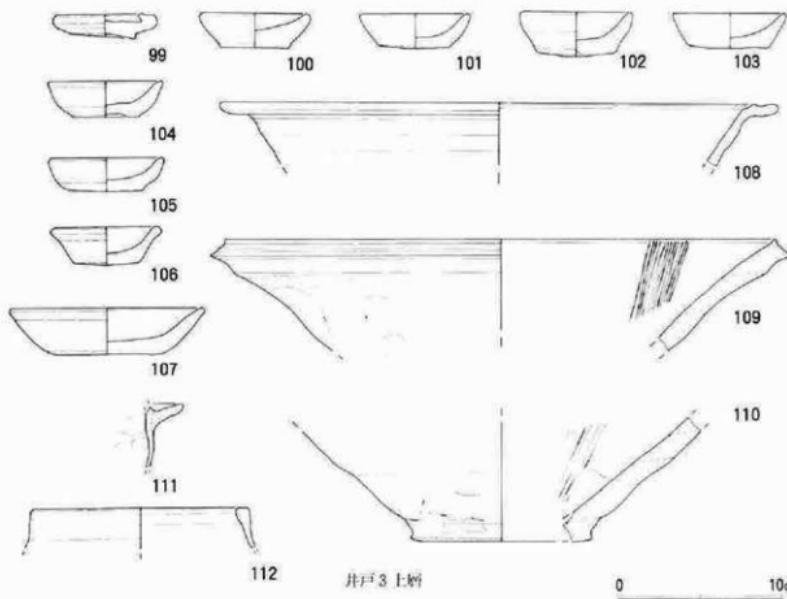
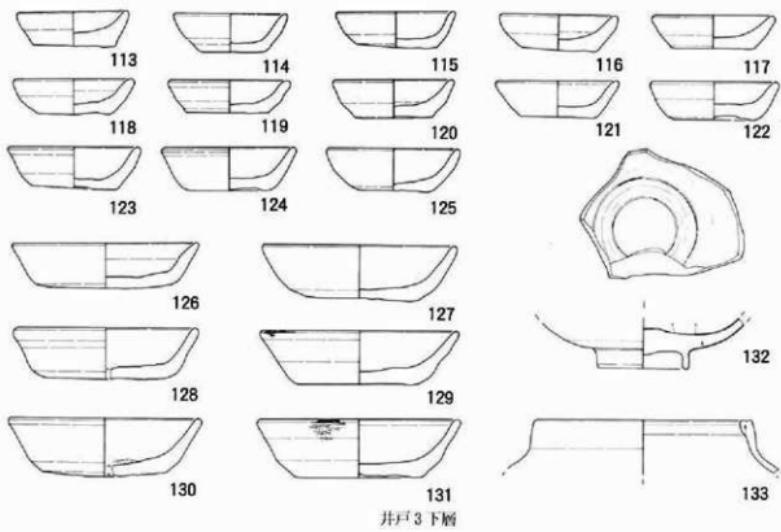
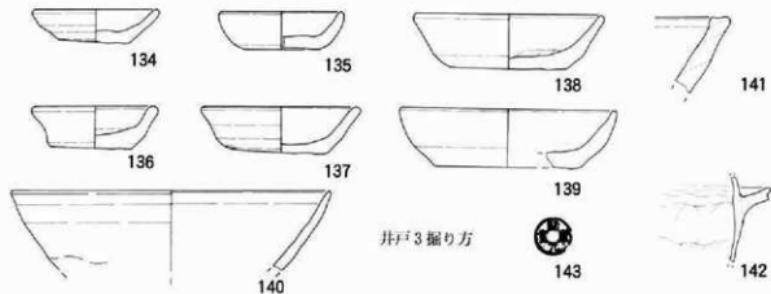


図18 2面井戸3出土遺物(1)



井戸3下層



井戸3掘り方

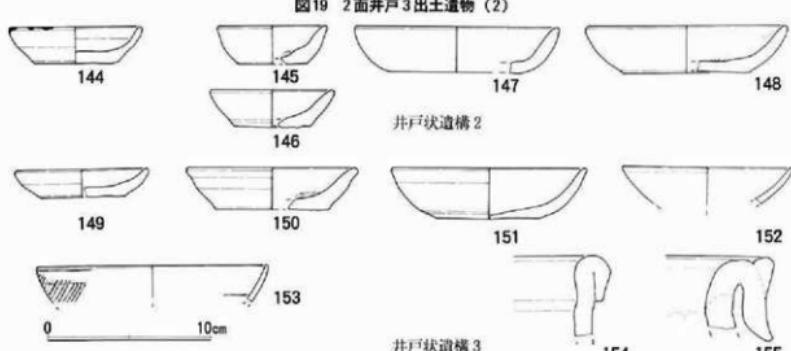


図20 2面井戸3・井戸状造構出土遺物

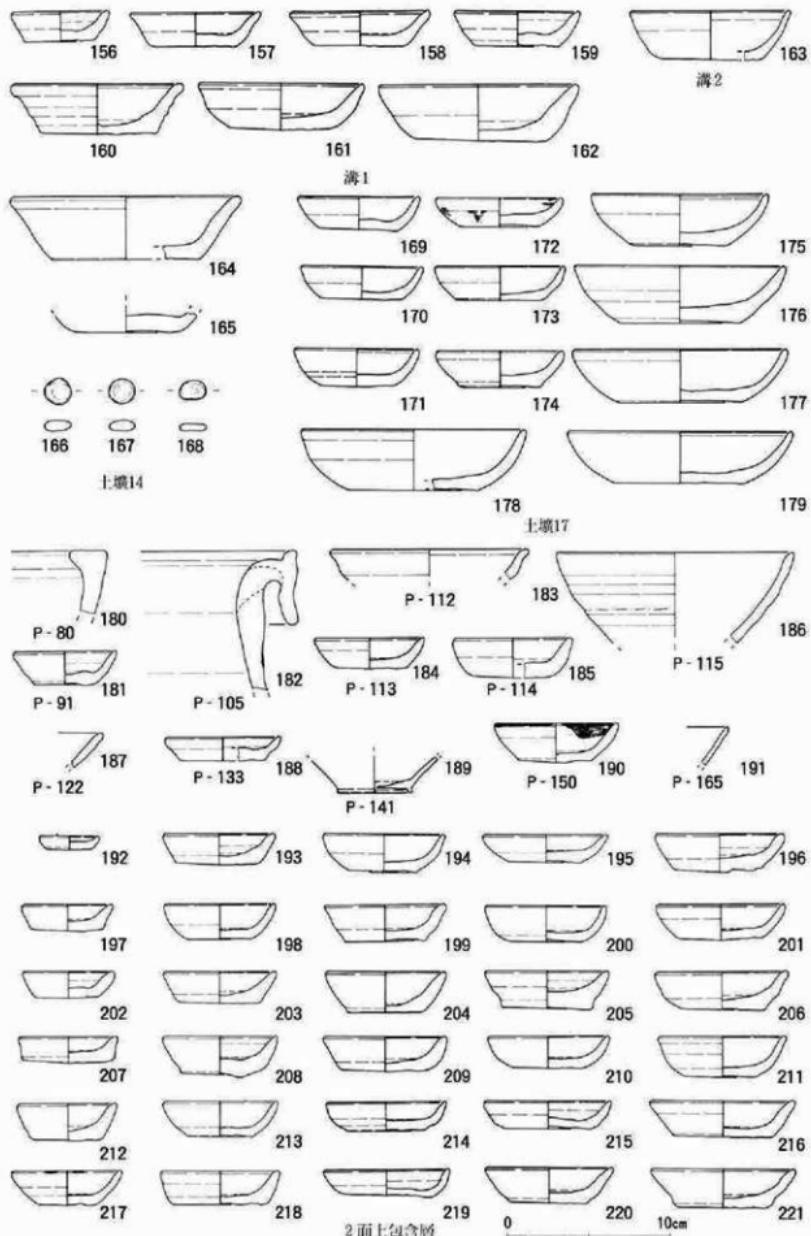


図21 2面溝・土壤・ピット・面上包含層

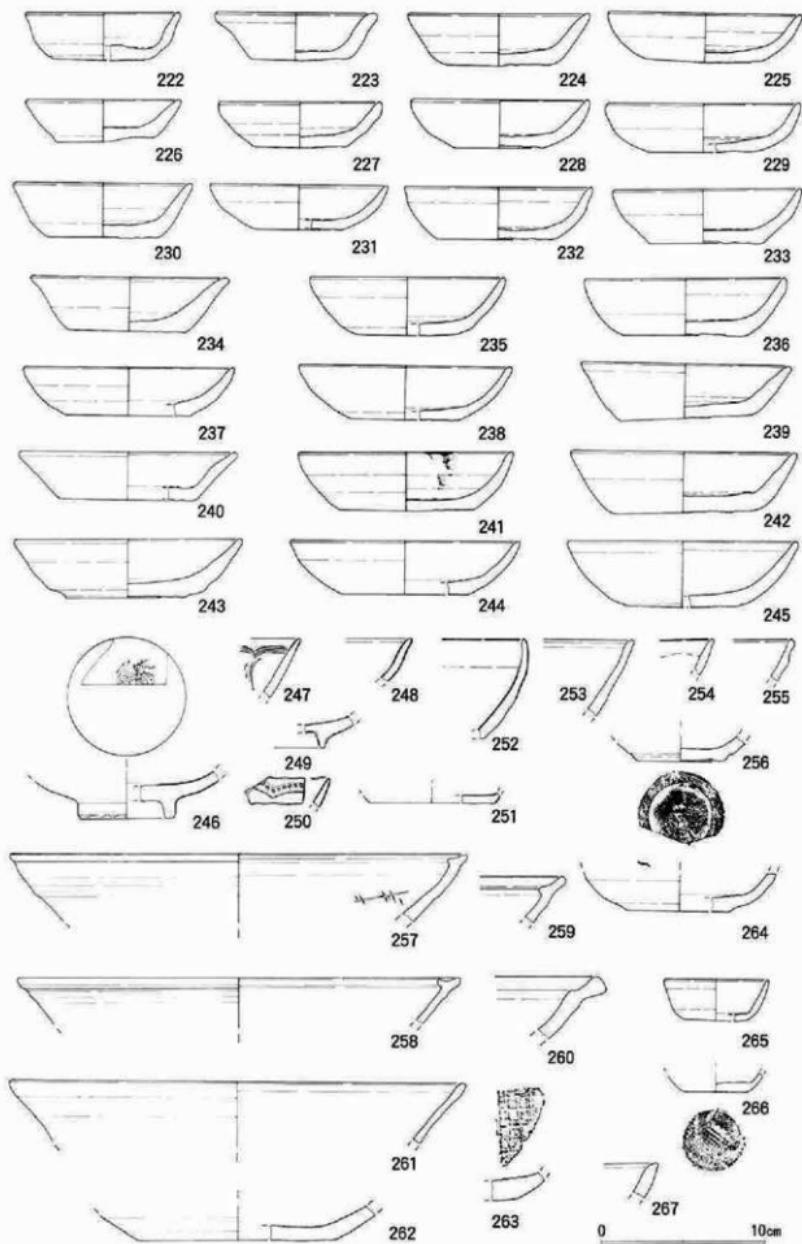


図22 2面包含層出土遺物 (2)

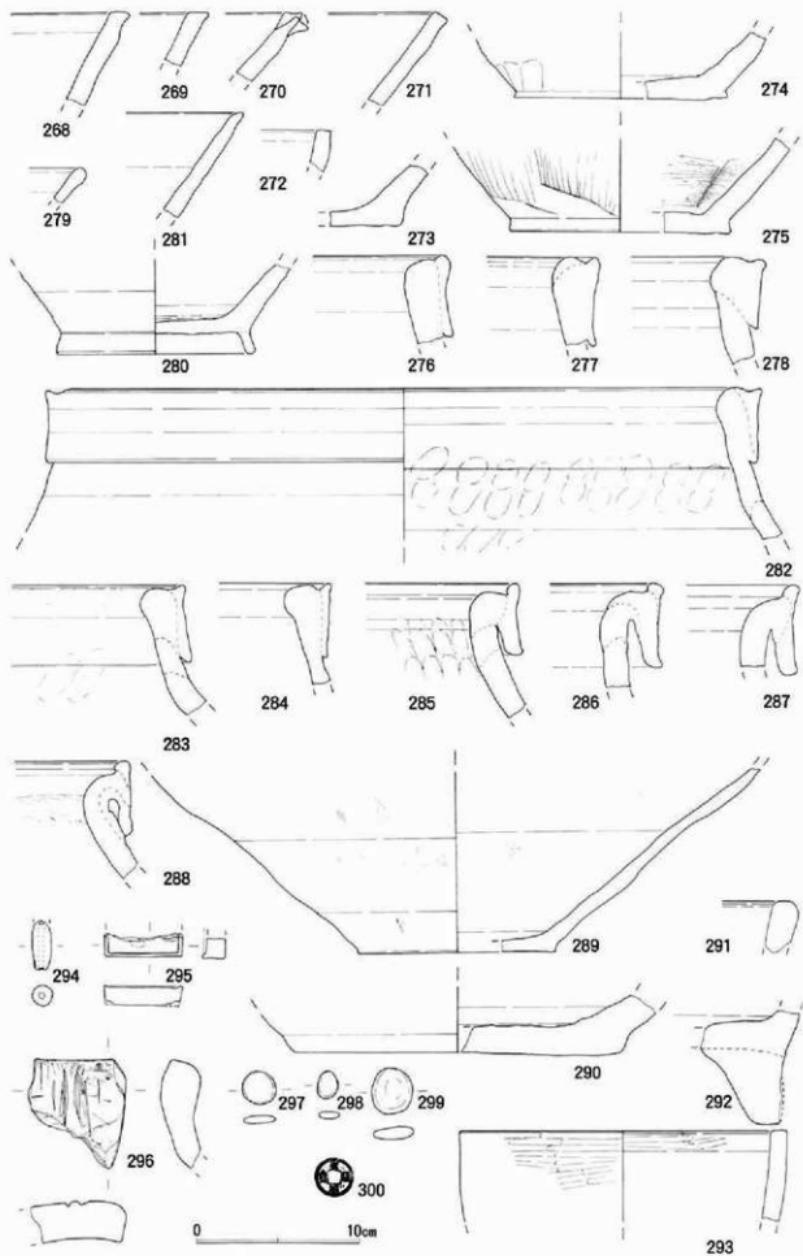


圖23 2面包含層出土遺物 (3)

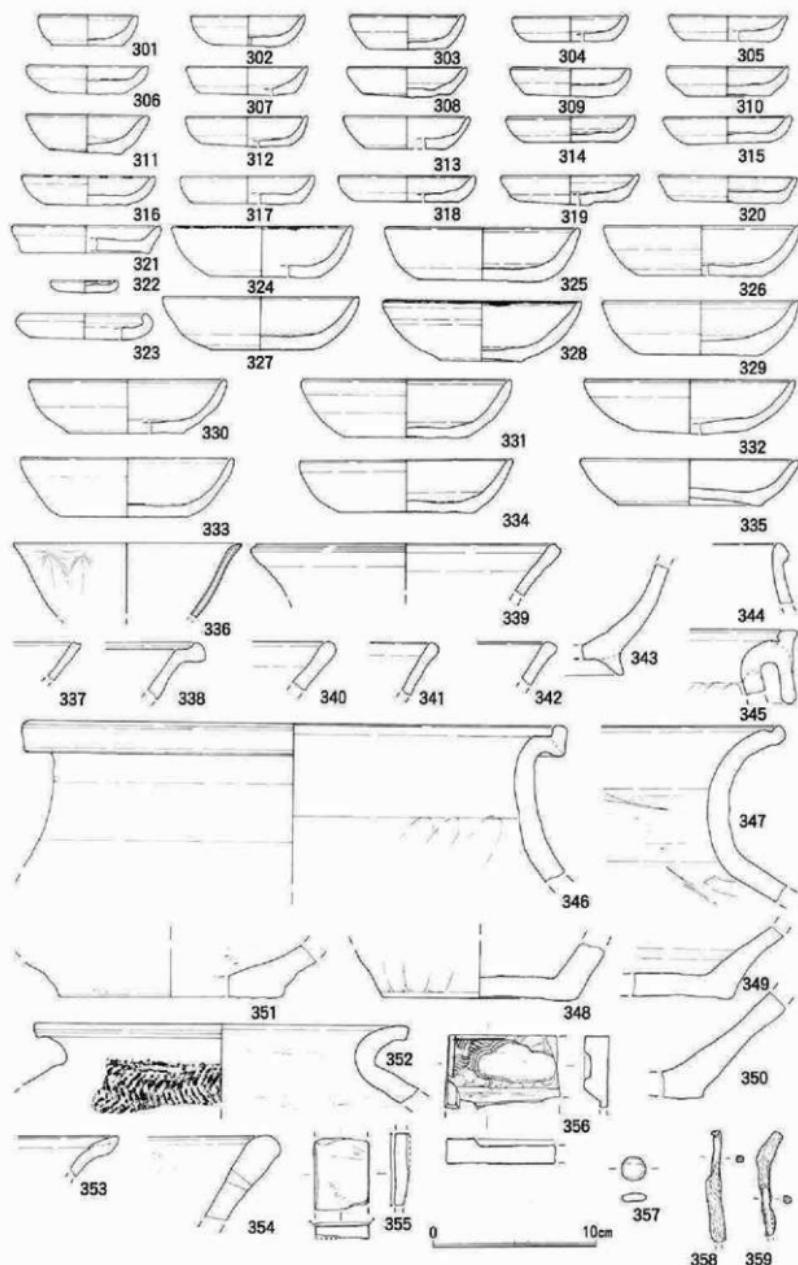


図24 2面構築土(土丹地業層)出土遺物

III. 3面(図25~46、図版10~14)

現地表下約90~110cm、大型土丹塊を多量に入れて構築した2面地業層を除去すると、暗褐色砂質土もくしは茶灰色粘質土をベースにした生活面を検出した。この面は調査区全体に認められた地業面ではなく、北・東側で部分的に残存していた土丹地業面で、南側は削平を受けていたのかこの面は検出されず、間層を挟まず新たな地業面が表出した。従って、調査は部分的に残存していた生活面を3A面とし、その下の地業面を3B面と呼称して分けて遺構の確認と検出を行った。A・B面遺構年代は遺物から、概ね3A面が13世紀後半~14世紀前葉、3B面が13世紀後半頃に位置づけられる。

1. 3A面

この面は標高7.10~6.90m前後、北から南に緩やかな傾斜をもつ弱い地業層の生活面である。検出した遺構には、土壙4基、かわらけ溜り5ヶ所、据置1基、柱穴約80口である。

a. 土壙(図26・30、図版12)

土壙18 B-3グリットに位置し調査区南北隅で検出した。確認標高6.93m、西側は調査区外まで伸び、東側は土壙21に切られる形で重複している。規模は東西径122cm以上、南北径102cm、深さ20cmで楕円形を呈すると思われる。覆土は上・下層とも褐色粘質土で、両層の間に薄い炭化物層がほぼ全面を覆う。出土遺物は炭化物層下から360~363かわらけ、364捏鉢、365・366常滑窯製品が出土した。

土壙19 F-3杭北側、調査区東壁に接して検出した。確認標高7.05m。規模は東西径116cm以上、南北径96cm、深さ36cmで楕円形を呈す。遺物は367~369かわらけ、372瀬戸窯跡、373鉄釘が出土した。

土壙20 C-2グリットで検出した。確認標高6.90m。平面形状は隅丸長方形、規模が南北177cm、東西122cm、深さ15cmと浅い土壙である。出土遺物は374~390かわらけ、391青磁蓮弁文碗である。

土壙21 C-3杭の周辺に広がる大型の土壙を検出した。確認標高6.93m。井戸状遺構3に東側を壊され、土壙18を切る形でそれぞれ重複している。規模は南北293cm、東西260cm以上、深さ20cm程で不整形を呈する。遺物は392~399かわらけ、400山茶碗窯系の小壺である。

b. かわらけ溜り遺構(図25・27・28、図版10・11・12)

かわらけ溜り遺構1 E-2グリットで検出した。確認標高6.90m。ほぼ円形を呈した土壙で、規模は径約40cm、深さ8cm前後と浅い。遺物は401~410かわらけが10個体程出土した。

かわらけ溜り遺構2 C-2グリットで検出した。確認標高6.90m。土壙ではなく面上に狭い範囲で大小のかわらけが少量認められた。遺物は411~418かわらけ8個体、419鉄釘が出土している。

かわらけ溜り遺構3 C-1グリットで検出した。確認標高7.10m。楕円形を呈した土壙で、規模は長径72cm、短径63cm、深さ32cmである。遺物は420~431かわらけであり、殆んどは底面直上からで、完形もしくは完形に近いものが上向きの状態で出土した。

かわらけ溜り遺構4 C-3グリットで調査区南壁に接し検出した。確認標高6.98m。ダルマ形を呈す浅い土壙で、規模は長径203cm、短径107cm以上、深さ10~15cmである。かわらけ等の遺物は南壁沿いに散乱した状況で出土した。遺物は434~457かわらけ25個体以上、458~460捏鉢、461~462常滑窯製品、463~466鉄釘である。

かわらけ溜り遺構5 E-2グリットに位置する。確認標高7.04m。東西に長い不整円形な土壙である。規模は長径70cm、短径35cm以上、深さ15cmである。底面近くに削れたかわらけが確認された。遺物は467~473かわらけ、474青磁蓮弁文碗小片である。

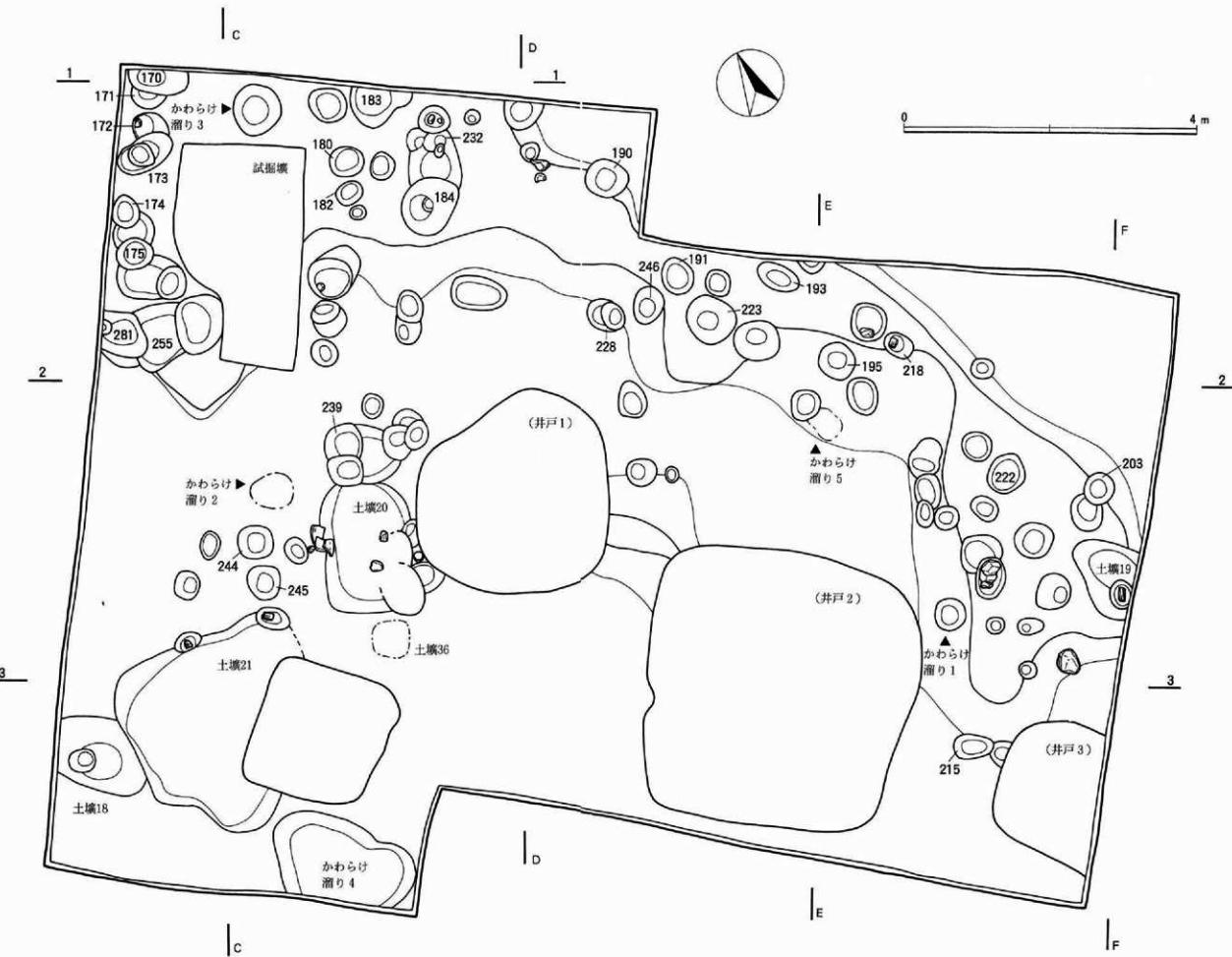


図25 3A面全測図

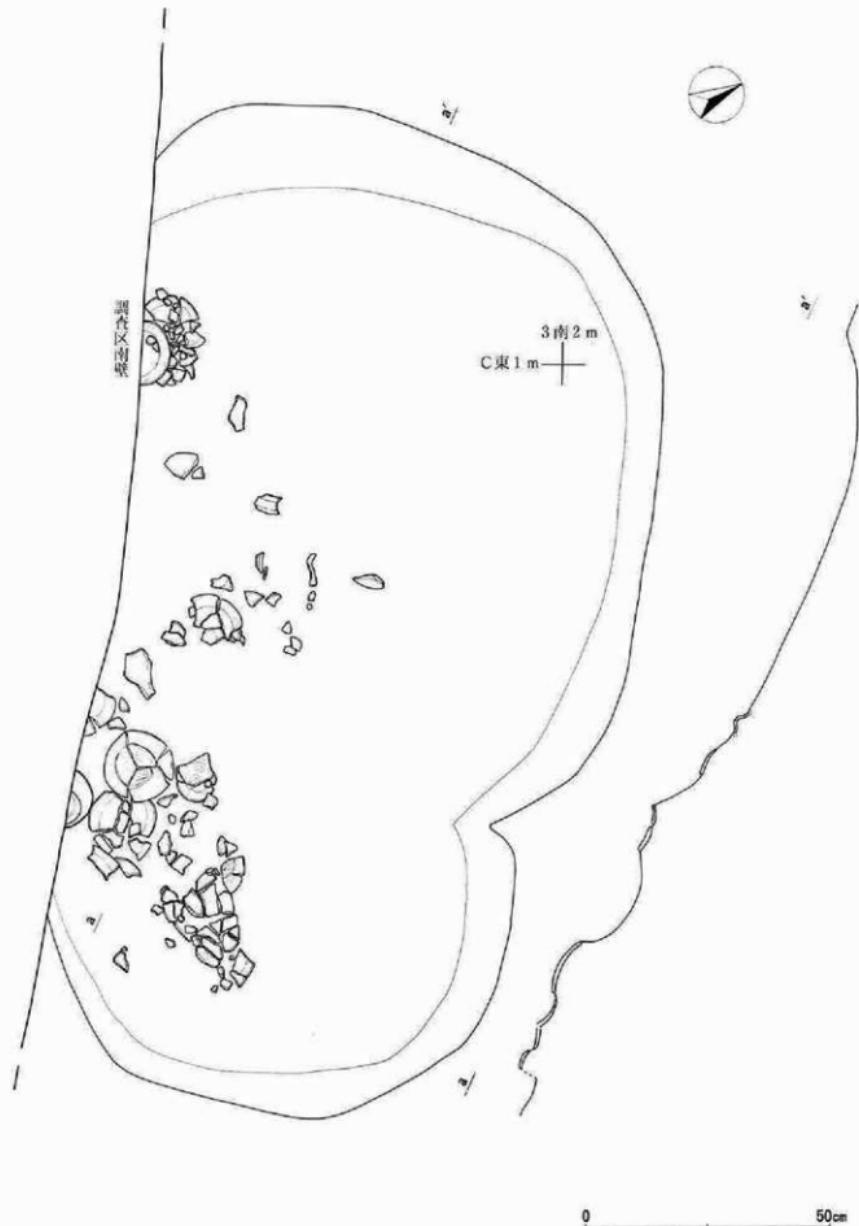


図28 3Aかわらけ窯跡構4

常滑焼出土状況

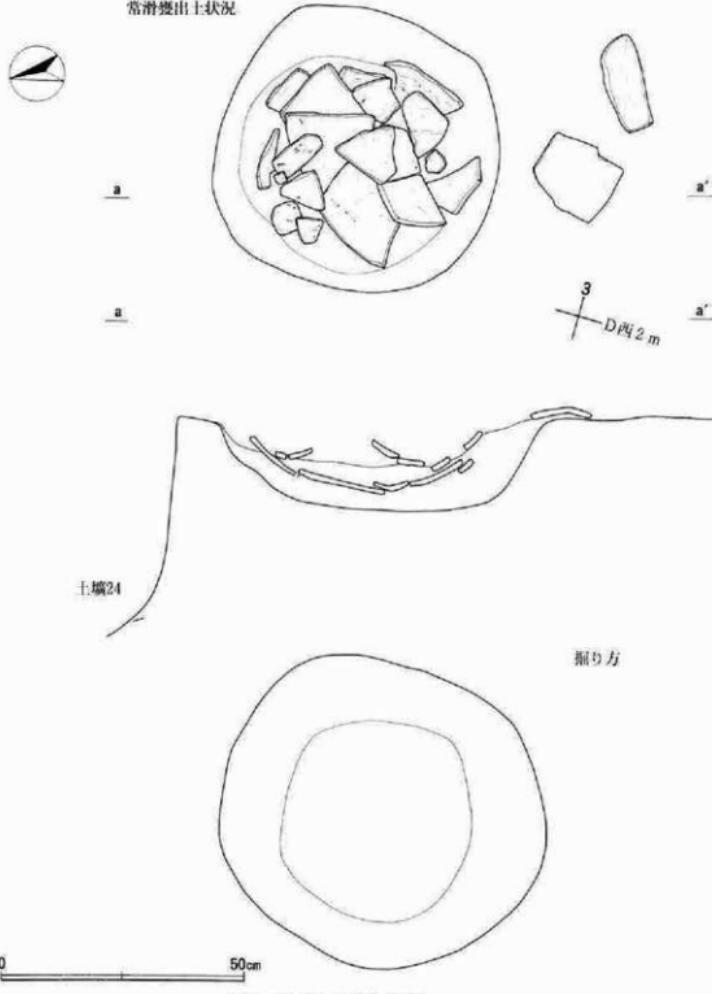


図29 3A面土壤36出土遺物

土壤36(図29) C-2グリットで検出した常滑焼大甕の据置土壤かと思われるものであるが、体部の破片ばかりで、低部や口縁部の破片がなく据置土壤とは断定できず、甕を廃棄した土壤の可能性もある。形状はほぼ円形で底面は断面摺鉢状を呈している。規模は径60cm前後、深さ20cmと浅い。土壤の南側外にも同一個体2片が出土している。

この他には、3A面上の包含層や各柱穴からの出土遺物は、図32・33-475~570のかわらけ、瀬戸窯・常滑窯・渥美窯製品、青磁・白磁、砥石、鉄製品などである。

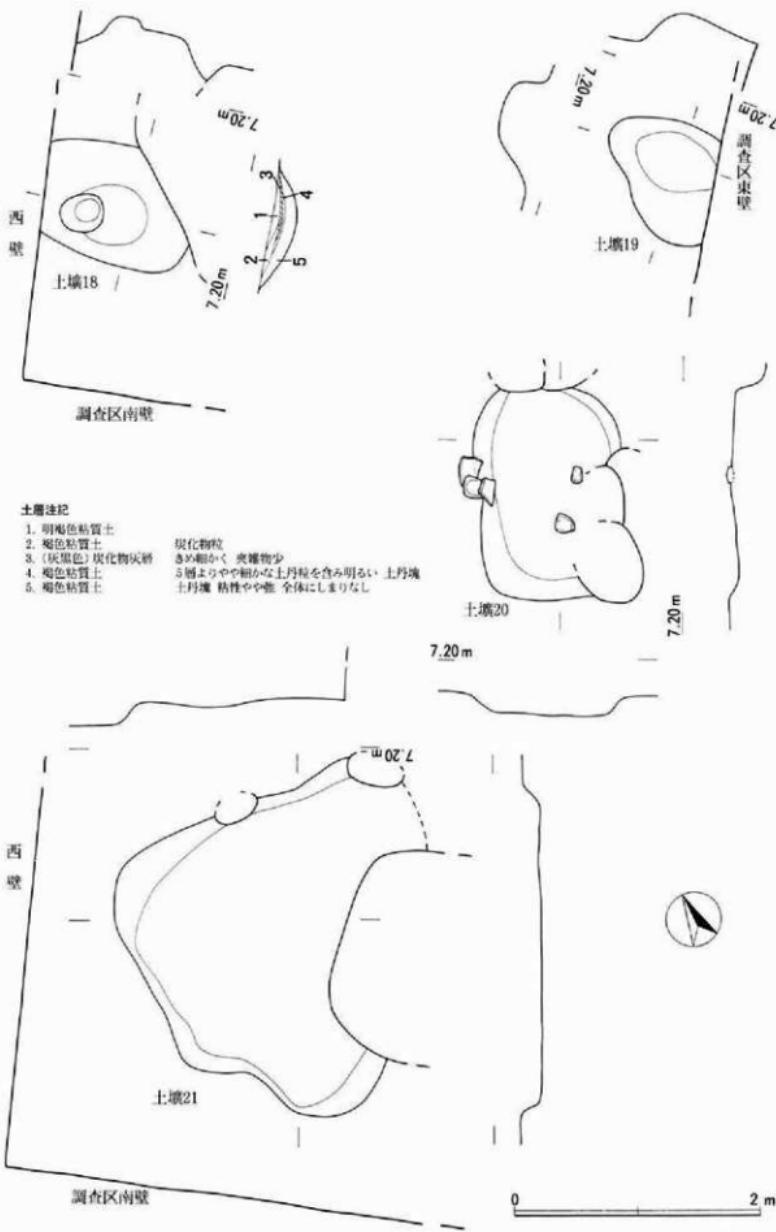
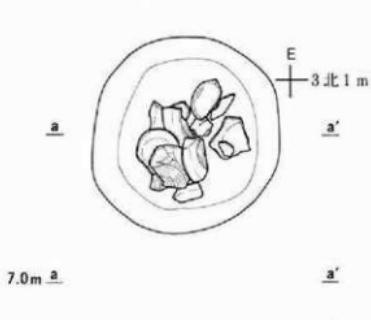
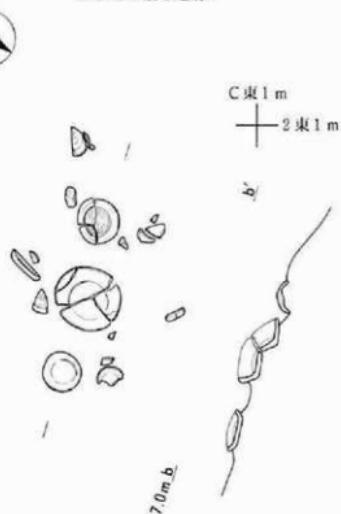


図26 3A面土壤

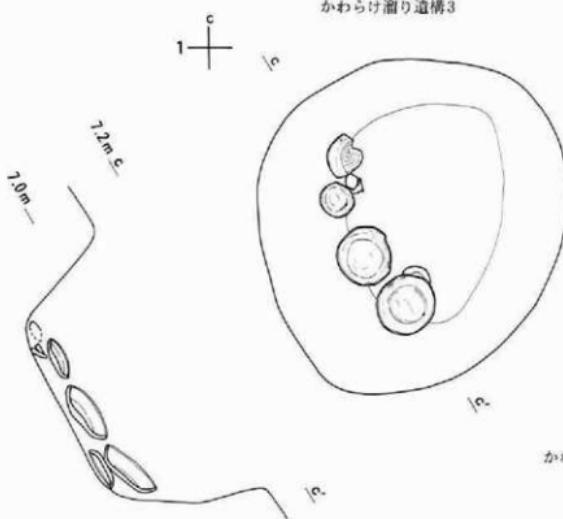
かわらけ溜り造構1



かわらけ溜り造構2



かわらけ溜り造構3



かわらけ溜り造構5

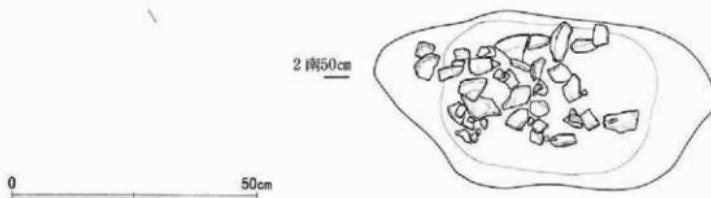


図27 3A面かわらけ溜り造構1・2・3・5

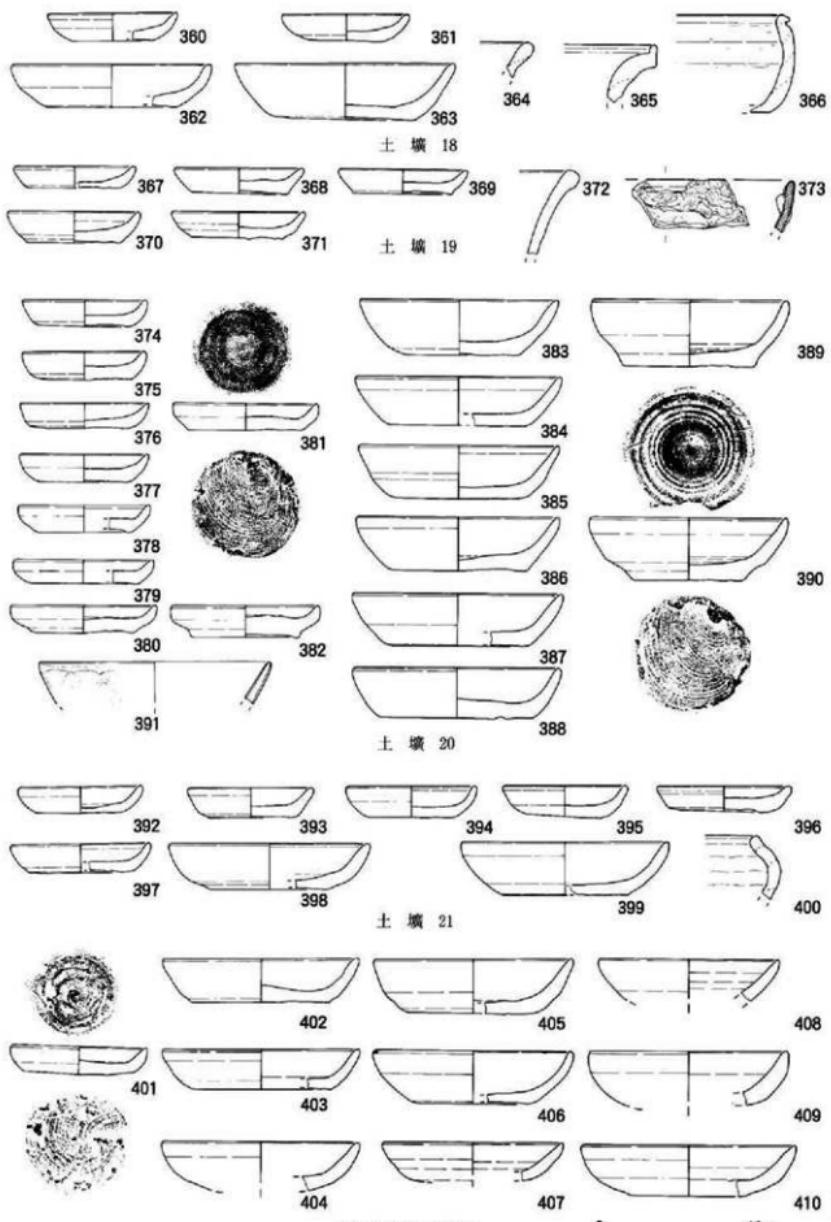


図30 3A面土壤・かわらけ瀬り造構1出土遺物

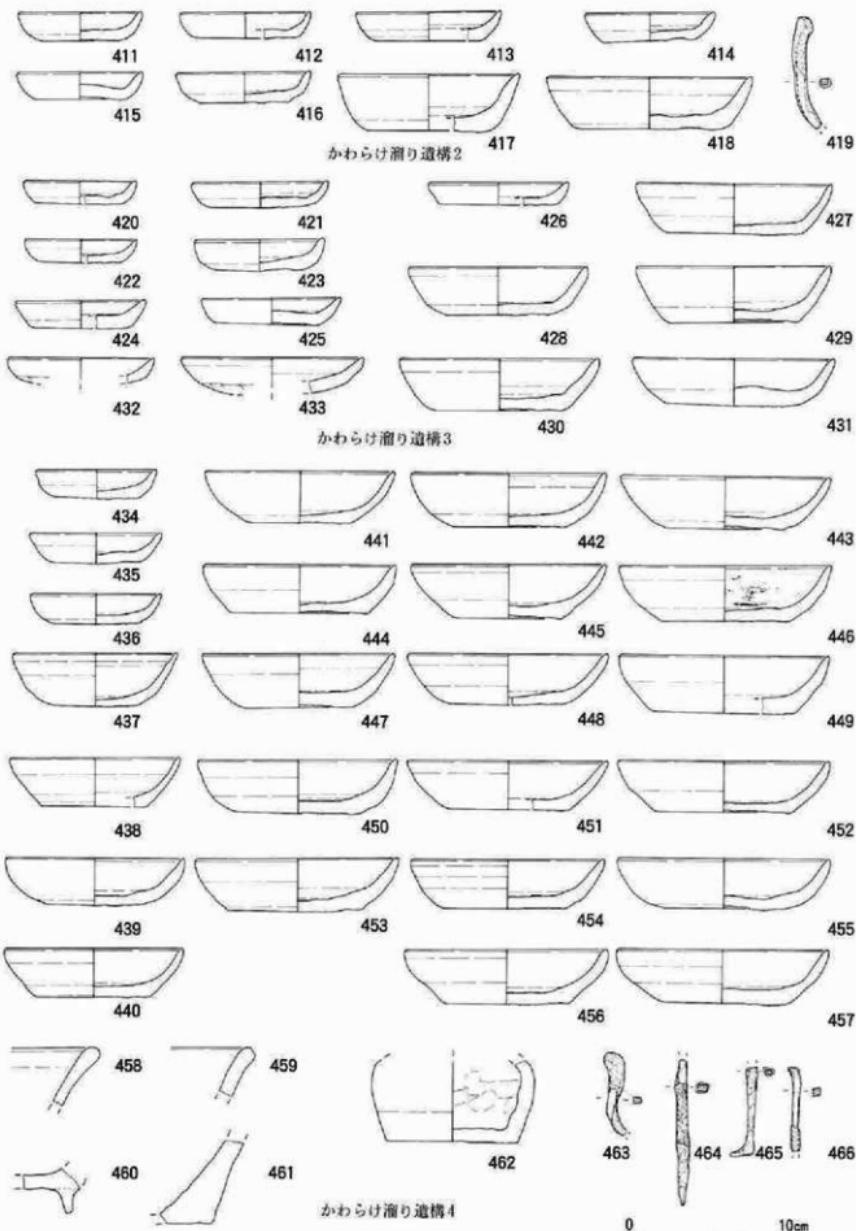


図31 3A面かわらけぬり造構2~4出土遺物

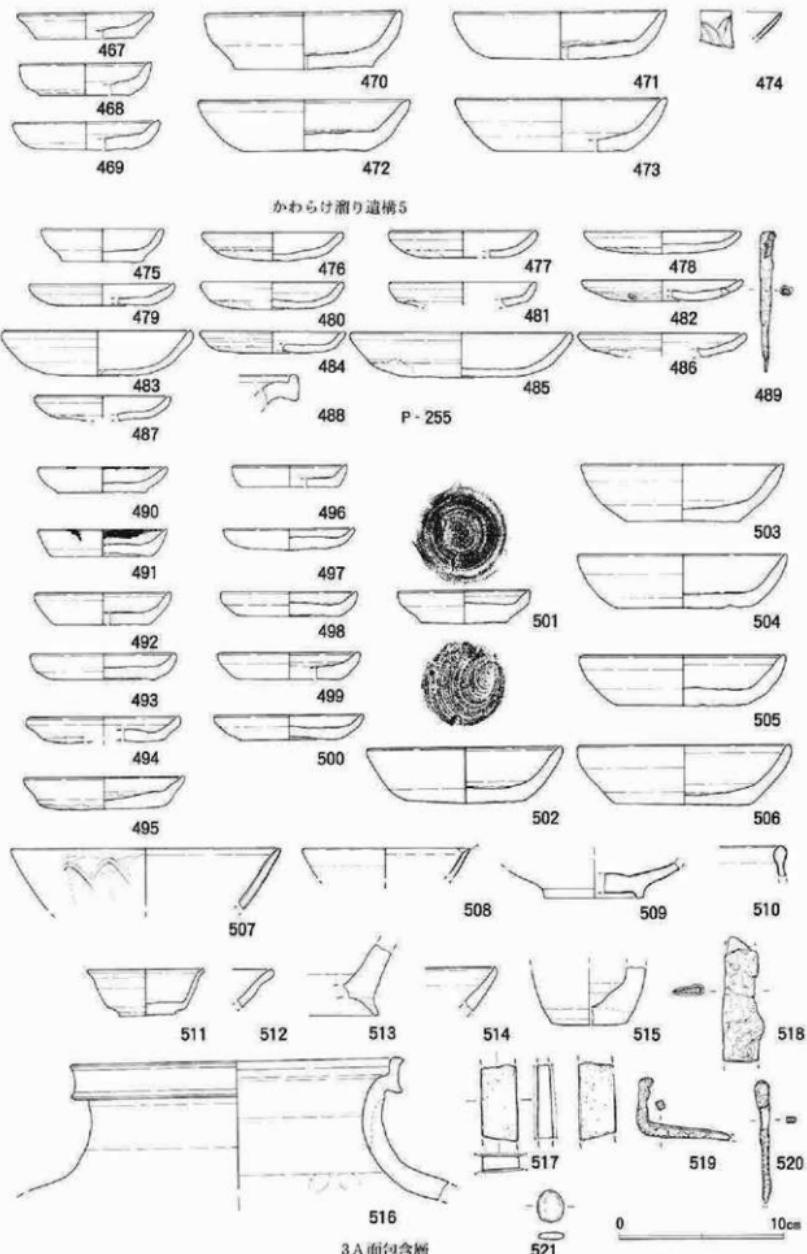


図32 3A面かわらけ溜り遺構5・包含層出土物

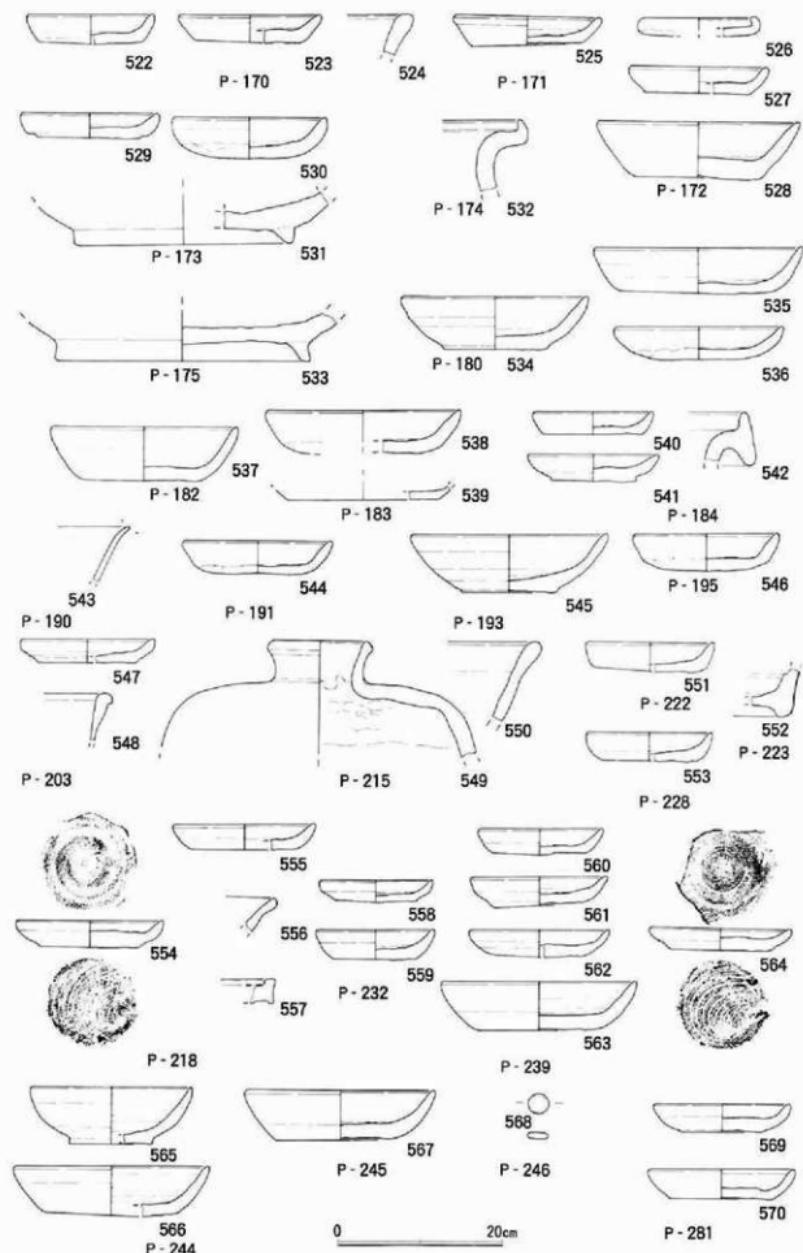


図33 3A面ピット出土遺物

2. 3B面

現地表下100~110cm、標高は6.90~7.00mで3A面検出時には調査区南側の一部でこの面が表示していた。調査区北西部にはごく薄い細土丹による版築の地業面が認められた。検出した遺構には掘立柱建物4棟、井戸状遺構1基、土壙4基、かわらけ溜り遺構1ヶ所、柱穴約220口である。この他、調査区北東部の面上で焼土と、その周辺から鉛滓が数点出土している。

a. 掘立柱建物

確認できた掘立柱建物の4棟は一定の規模を保ち、軸線が現若宮大路にほぼ近い方位を(グリットの軸線は現若宮大路に平行もしくは直交)示している。

掘立柱建物2(図35・42)

グリット 調査区中央やや西寄り、B~E-1~3

確認標高 6.95m前後

軸方位 N-21°-E(長軸方位はN-69°-W)

建物規模 東西5間×南北3間

重複関係 井戸2、井戸状遺構3、土壙18の遺構より古い

東西5間10.3m、南北3間6.30mの規模を有し、東西に主軸を持つ掘立柱建物である。最南側の東西列は中央2口の柱穴以外が後世の遺構により壊されていて確認できないが、配列や柱間寸法から一連の建物と判断した。また他の建物との重複がなく先後関係は確認できなかった。

柱間寸法は、残りの良い北から2列目の東西列で見ると、P1よりP15が210cm・215cm・210cm・210cm・215cm、南北列では残存する中央2列が北から210cm、210cm、215cmであり、大体210~215cmを柱間単位としている。各柱穴は径約40~60cmの円形または楕円形で、深さ20~60cmと不揃いで、P4・8・10・13・16から礎板及び礎板が腐食した痕跡が検出されている。

建物に直接伴う遺物と判断するにはやや疑問を残す資料もあるが、P5・8・13・15・16(611~622)の柱穴からロクロかわらけや手づくねかわらけ、青磁蓮弁文碗、常滑窯甕、女瓦などが出土している。

掘立柱建物3(図36・42)

グリット 調査区中央やや西寄り、B~D-1~3

確認標高 6.90m前後

軸方位 N-24°-E(長軸方位はN-66°-W)

建物規模 東西4間×南北3間

重複関係 土壙24と重なるが、本址が古い

東西4間8.30m、南北3間6.16mの規模を有し、掘立柱建物2の内側に一回り小さい東西に主軸を持つ掘立柱建物である。建物西辺の柱穴列は掘立柱建物5西辺と同一軸線上に当たるが、重複がなく先後関係不明である。

柱間寸法は、東西列は北辺列と2列目で見ると、西からP11~P3が210cm・200cm・200cm、P4~P1が210cmで中の2間分が200cm、両側の1間が210cmと少し伸びた柱間である。南北列は西辺の柱穴列で見ると、P11~P12とP13~P14の柱間が200cm、中央の1間だけが210cm少し長くなる。各柱穴は径約30~65cmの円形または楕円形で、深さ30~55cmと不揃いである。P7には礎板が、P9に土丹塊による根石が認められた。

柱穴からの出土遺物は、P3・4・7・10・12・13(623~634)からロクロかわらけや手づくねかわらけ、

青磁碗、常滑窯壺、捏鉢、砥石などが、P9(635~637)からは手づくねかわらけの他に、大型のふいこの羽口がある。

掘立柱建物4(図38・42)

グリット 調査区中央東寄り、D-E-1~4

確認標高 6.90m前後

軸方位 N-24°-E

建物規模 東西3間×南北4間

重複関係 土壙22と重なるが、本址が古い

東西3間6.0m、南北4間8.0mの規模を有す。この面検出の他の掘立柱建物はすべて東西に主軸もっているが、本址だけが東側に寄った位置で検出され、しかも南北に主軸を持つ点で異なる。

柱間寸法は、南北列が西辺列の柱間距離で見ると、北からP8~P12が210cm・190cm・210cm・190cmである。東西列は北から2列目の柱間を見ると、東からP1~P9が200cm・190cm・210cmを測る。各柱穴は径約30~60cmの円形または楕円形で、深さ30~50cmと不揃いである。P1・9には根石の土丹塊が認められた。

柱穴からの出土遺物は、P1・11(638~644)からロクロかわらけや手づくねかわらけ、白磁碗、常滑窯壺、鉄釘などが、P7(645)から銅洋の融解物が付着した埴壙と思われる上製品が出土している。

掘立柱建物5(図38・42)

グリット 調査区中央から西寄り、B-D-1~2

確認標高 6.90m前後

軸方位 N-25°-E

建物規模 東西3間×南北2間

重複関係 土壙24より本址が新しい

東西3間6.55m、南北2間4.21mの規模を有し、東西に主軸をもつ掘立柱建物である。本址は土壙24の一部を切って建てられており、掘立柱建物3とは直接の重複はないが、土壙24との先後関係から本址が新しい。

柱間寸法は、東西列での柱間を残りの良い北辺列で見ると、東からP1~P8が230cm・230cm・200cmで、南北は西辺列が2間とも210cmを測る。各柱穴は径40cm程が主体で、形状が楕円形・隅丸方形を呈し深さは不揃いで30cm~65cmである。P7・9には礎板が、P10に根石の土丹塊が認められた。

柱穴からの出土遺物は、P3から(645)手づくねかわらけ、P9から(647)ロクロかわらけ・(648)手づくねかわらけが出土した。

b. 井戸状遺構4(図39・41、図版14)

調査区北西隅でF-2杭周辺に位置し、調査区東壁にかかる状況で検出した。確認標高6.90m。調査区外にかかる為全貌は明らかではないが、確認できる掘り方の形状は南北155cm、東西102cm以上、確認面から深さ92cmの規模を測り隅丸方形と考えられる。底面は平坦ではなく中央が窪んだ楕鉢状の掘り方を呈し、標高は約5.8mである。覆土は上層が土丹を含んだ暗茶褐色土で、下層は中世地山に近い黒褐色土である。当初は井戸枠の抜かれた井戸か、素掘りの井戸の可能性も考えられたが上層の堆積状況や深さから見て、井戸としては疑わしいものである。

出土遺物は、571・572小型のロクロかわらけ、573小型手づくねかわらけ、574・575大型手づくねかわらけ、578・579石製品、580・581鉄製品である。

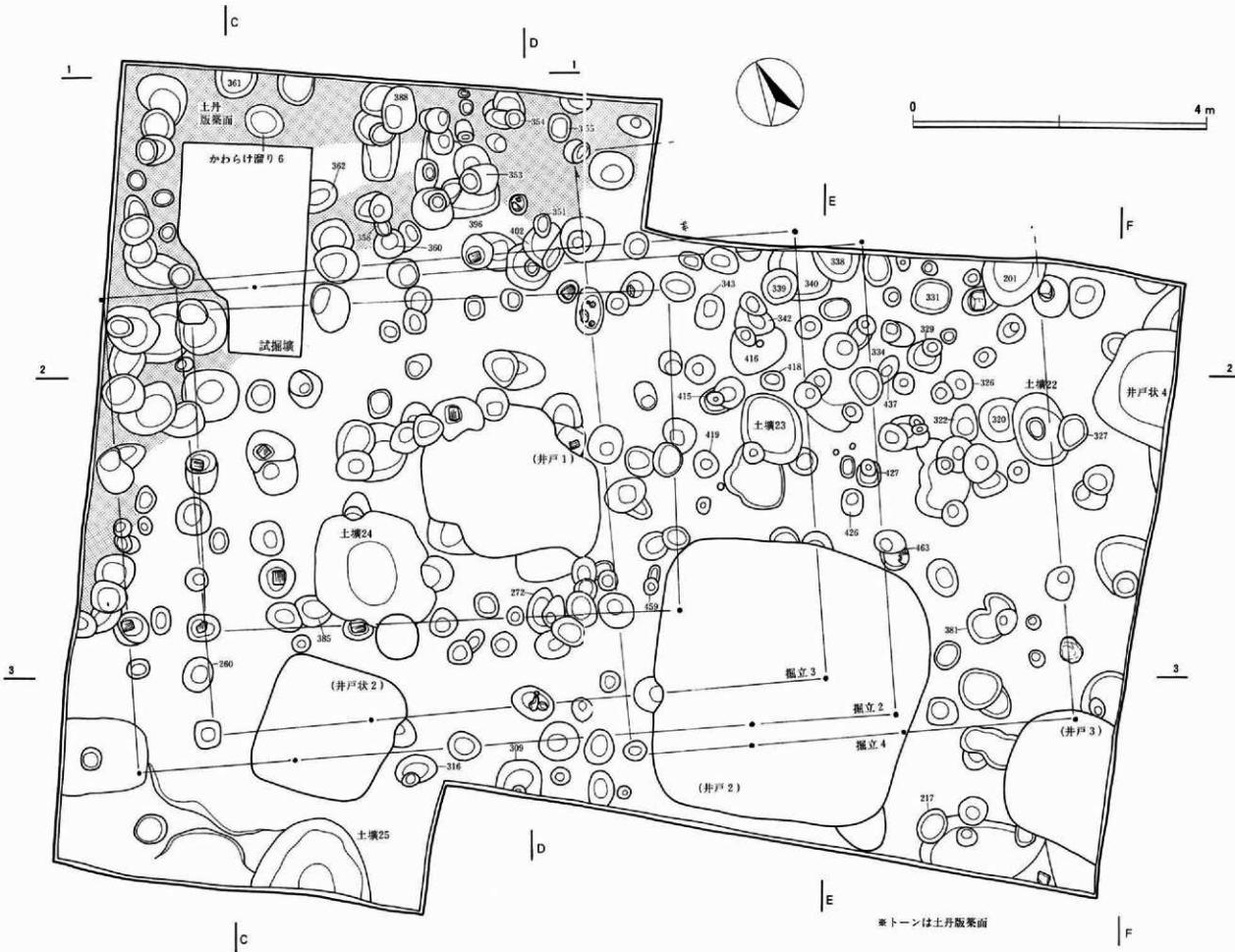


図34 3B面全測図

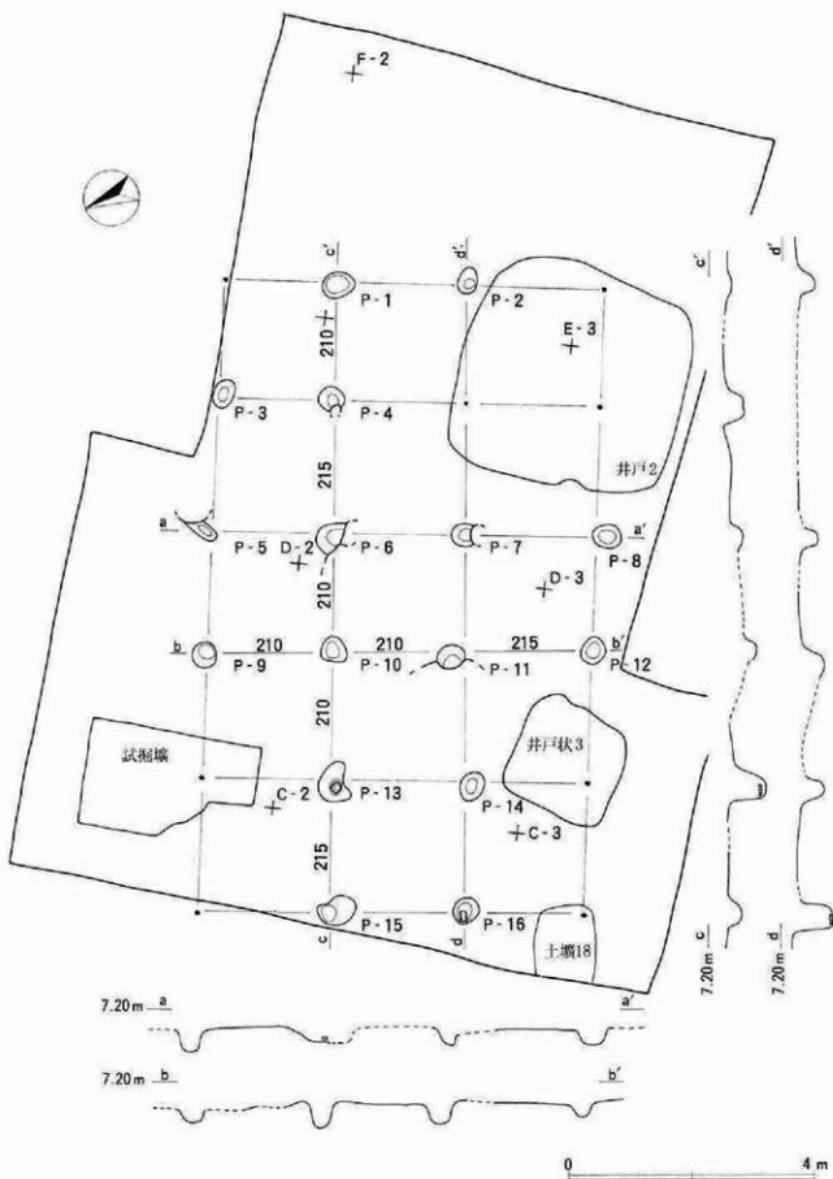


図35 38面据立柱建物2

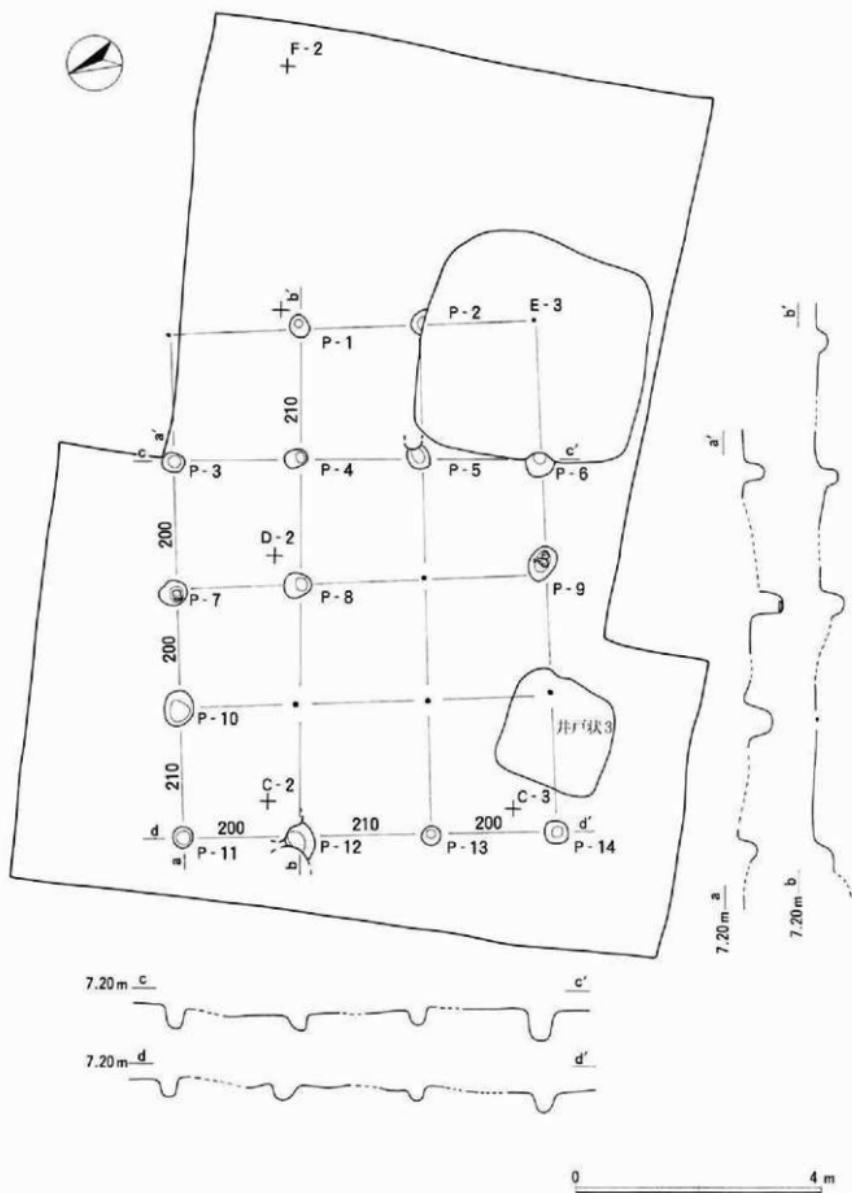


図36 3B面掘立柱建物3

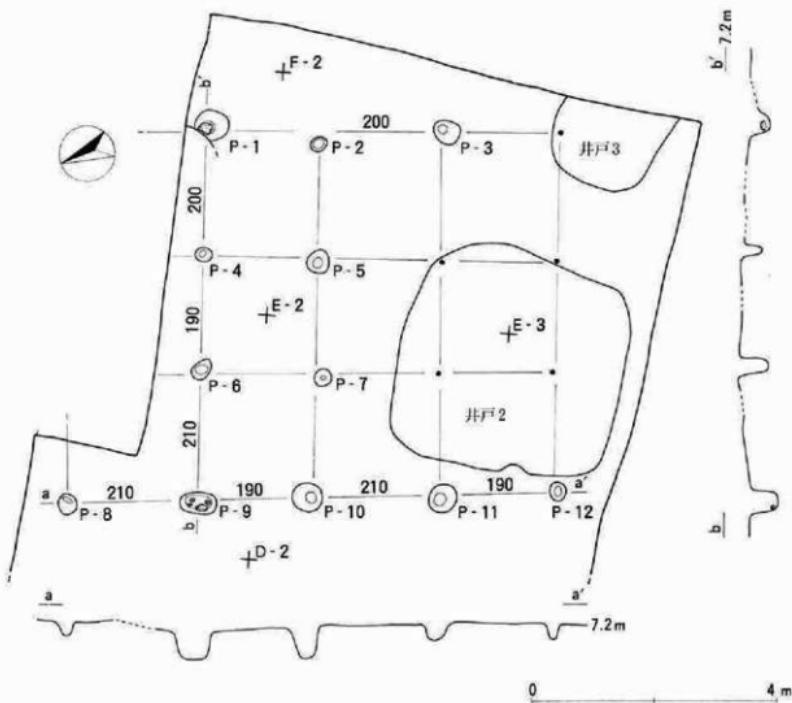


図37 3B面掘立柱建物4

c. 土壙 (図40・41、図版14)

土壙22 E-2グリットに位置し調査区北東域で検出した。確認標高6.90m。掘立柱建物4、P397に切られる形で重複している。形状は隅丸長方形を呈し、規模は長径98cm以上、短径68cm、深さ32cmである。覆土は縮まりに欠ける暗褐色土で上層と最下層に薄い炭化物層が見られる。出土遺物は582クロかわらけ・583手づくねかわらけである。

土壙23 D-2グリットで検出した。確認標高6.93m。形状は長楕円形を呈し、規模は長径105cm、短径84cm、深さ32cmと浅い土壙である。出土遺物は584山茶碗、585捏鉢である。

土壙24 C-2グリットで検出した。掘立柱建物3より新しく、掘立柱建物5より古い。確認標高6.90m。形状は楕円形を呈し、規模は長径183cm、短径162cm、深さ54cmである。覆土は暗褐色土であるが、中程に間柄を挟んで2層の炭化物層が認められる。炭化物層は蔓状の植物繊維を燃やしたものと想定される。出土遺物は586～589クロかわらけ、590・591手づくねかわらけ、592青磁皿、593常滑窯製である。

土壙25 C-3グリットで検出した。確認標高6.88m。調査区南壁にかかるが楕円形を呈すと思われる。規模は長径161cm、短径94cm以上、深さ72cmである。出土遺物は594クロかわらけ、595手づくねかわらけ、596青磁碗、597常滑窯捏鉢、598～600常滑窯製、601碁石である。

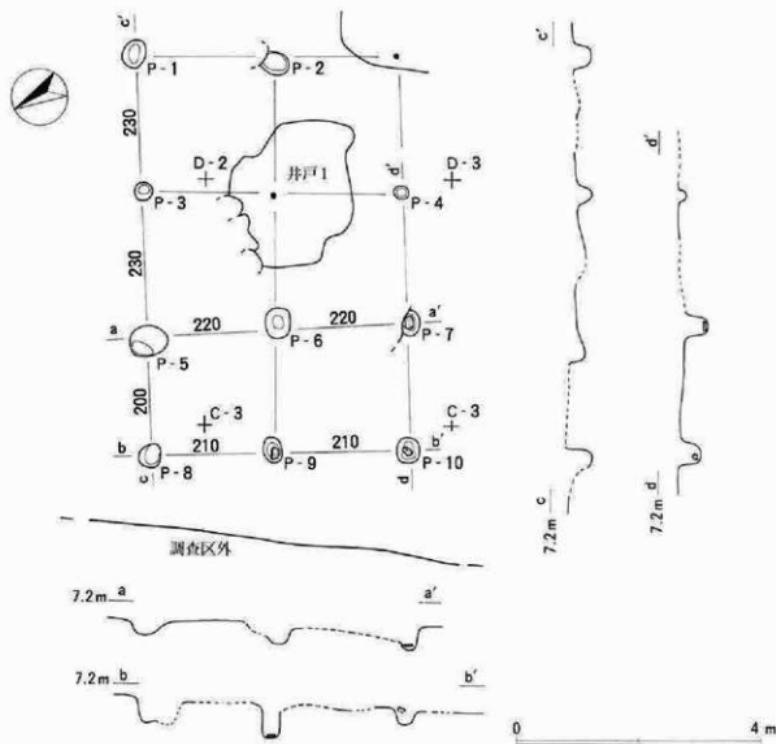


図38 3B面掘立柱建物5

d. かわらけ溜り造構6 (図40・41、図版4)

C-1グリットに位置し、上丹版築の地業面を掘り込んでいる。確認標高6.90m。掘り方は平面が長楕円形を呈し逆台形に近い断面を持ち、規模が長径33cm、短径22cm、深さ15cmと浅いピット状である。

かわらけは掘り方中央の長軸に沿って2ヶ所認められ、東側は5枚・西側に3枚のかわらけが積み重ねられており、かわらけ溜りというよりもピット内にかわらけを埋納したような状況での出土である。

出土遺物は602～608ロクロかわらけ、609・610手づくねかわらけである。

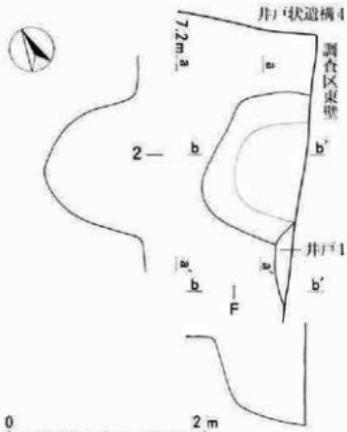


図39 3B面井戸状造構4

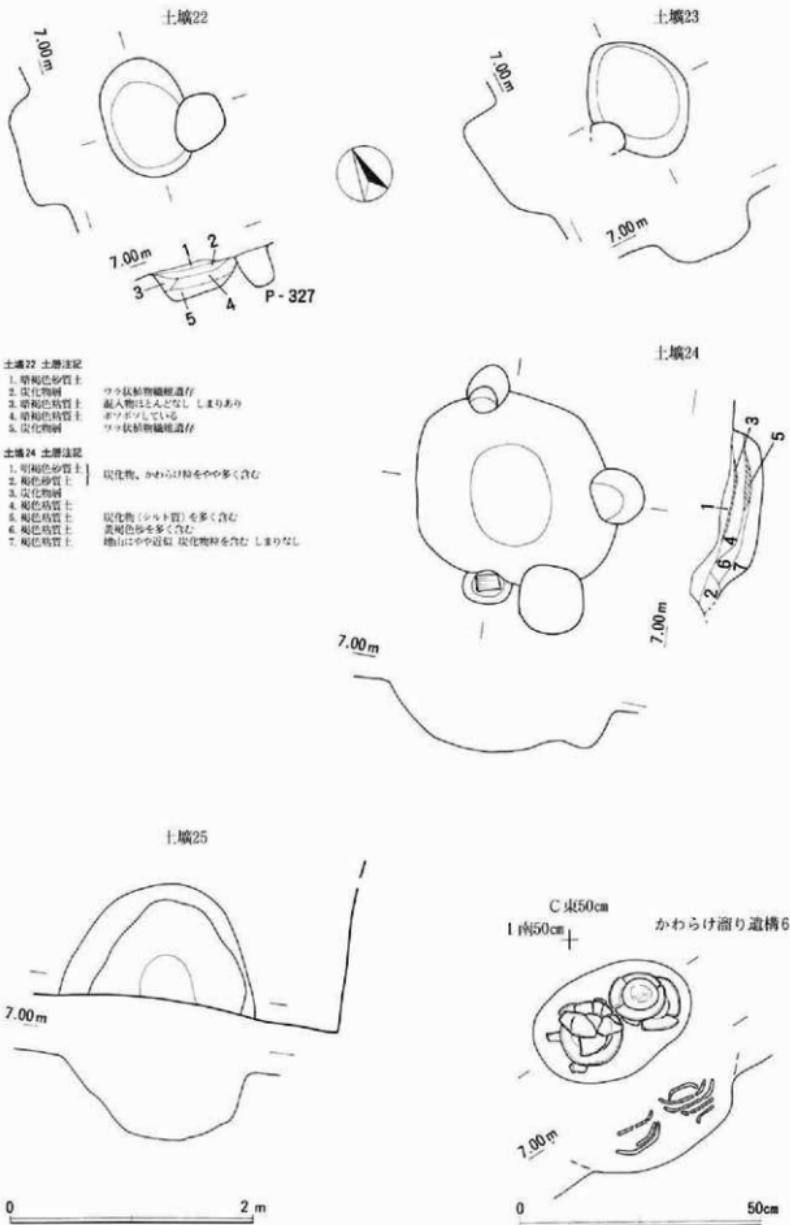
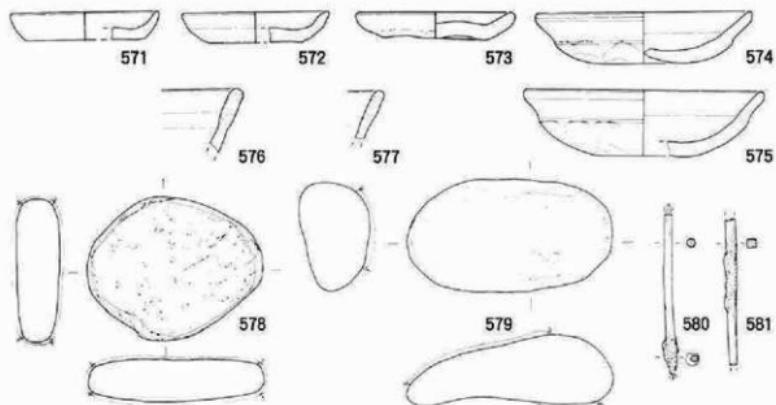
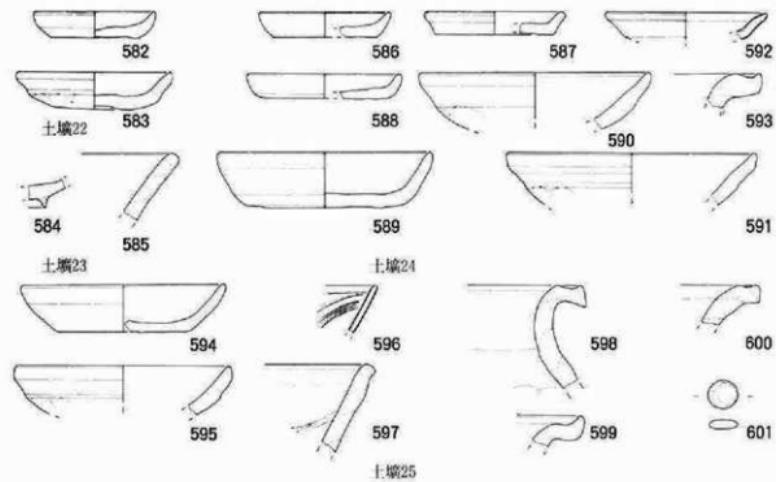


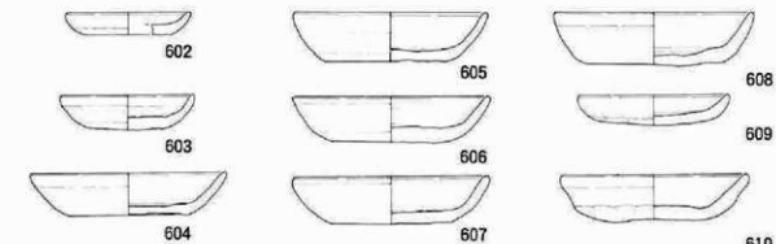
図40 3B面土壤・かわらけ溜り造構6



井戸状遺構4



土壤25



かわらけ滴り遺構6

0 10cm

図41 3B面井戸状遺構4・土壤・かわらけ滴り遺構6

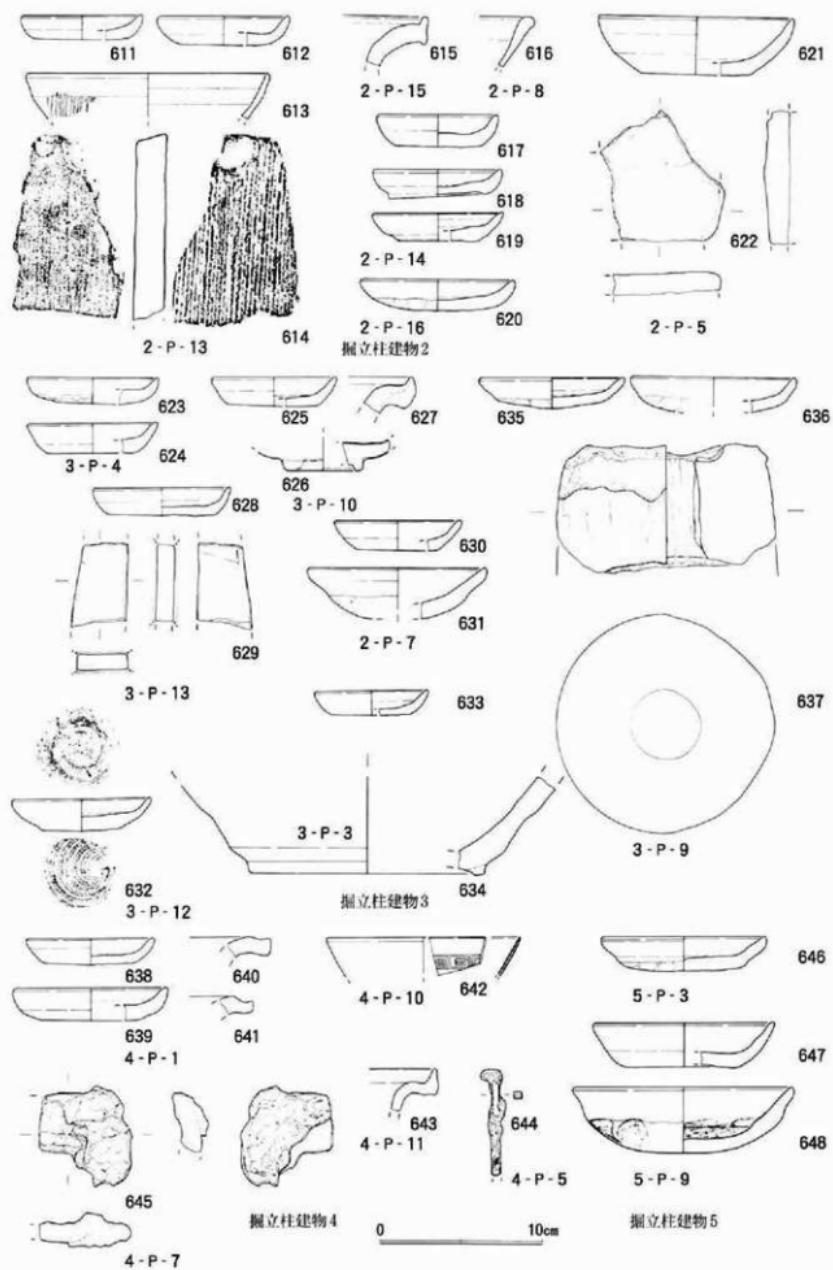


図42 3B面櫛立柱建物2・3・4出土遺物

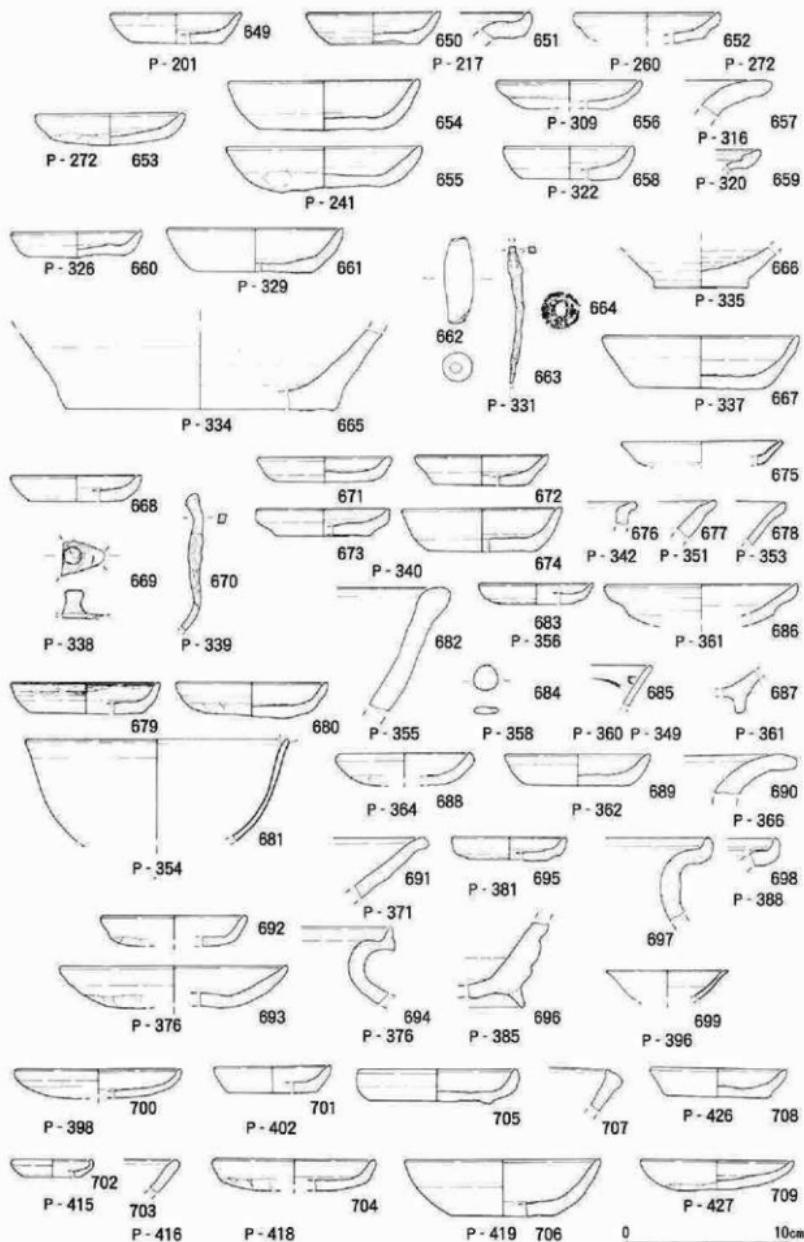


図43 3B面ピット出土遺物

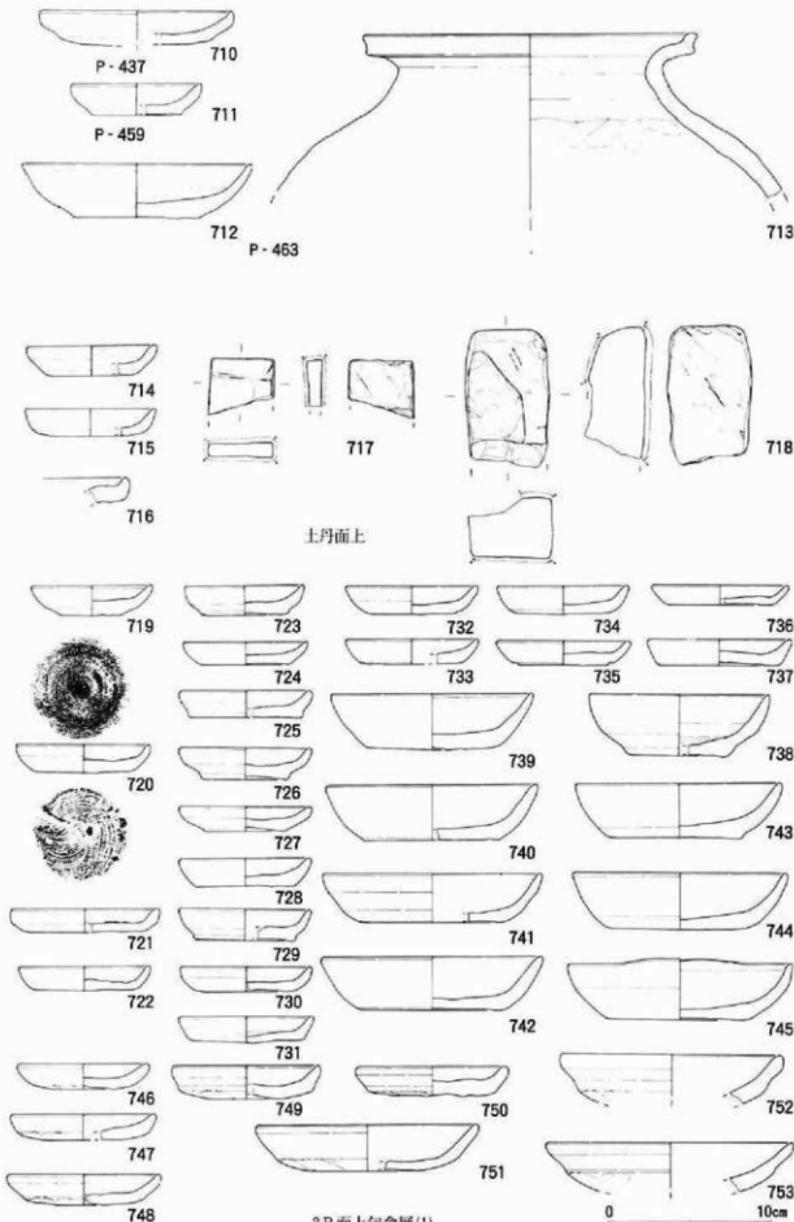


图44 3B面上包含层(1)

图44 3B面上包含层(1)

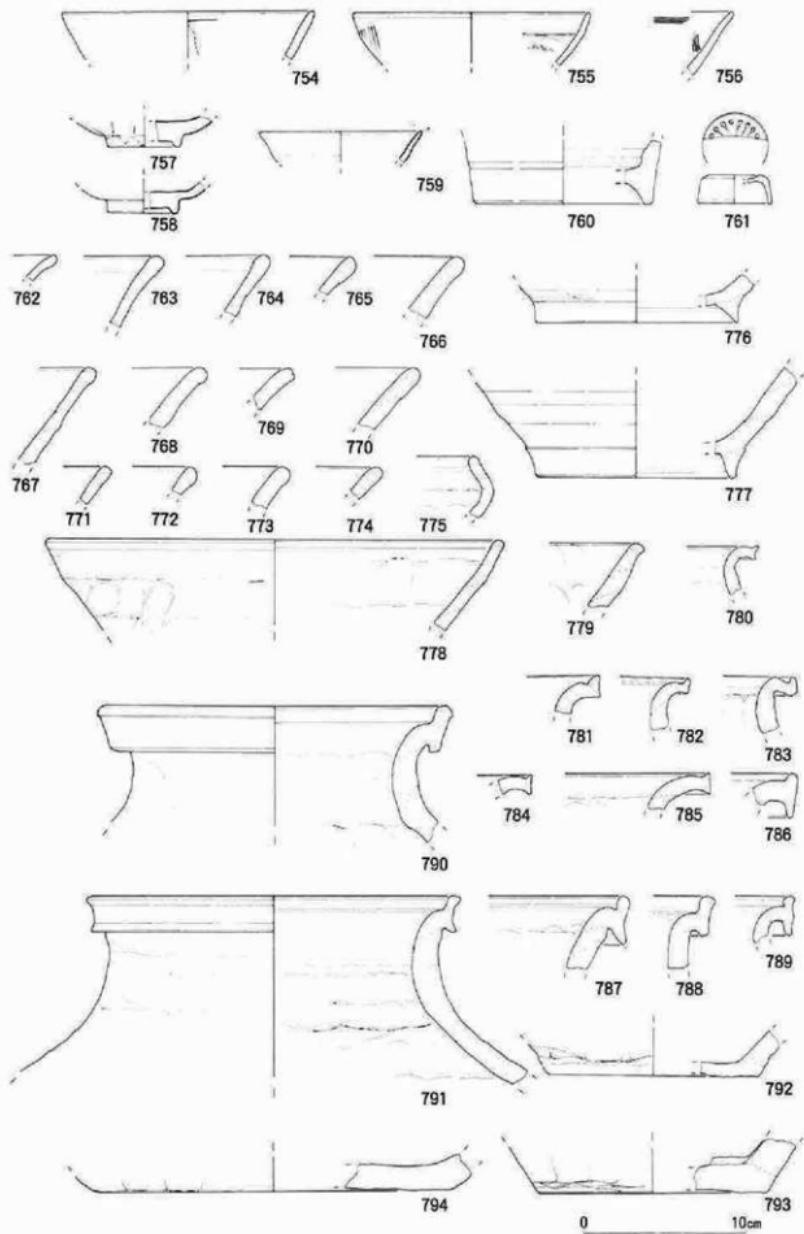


圖45 3B面上包含層出土遺物 (2)

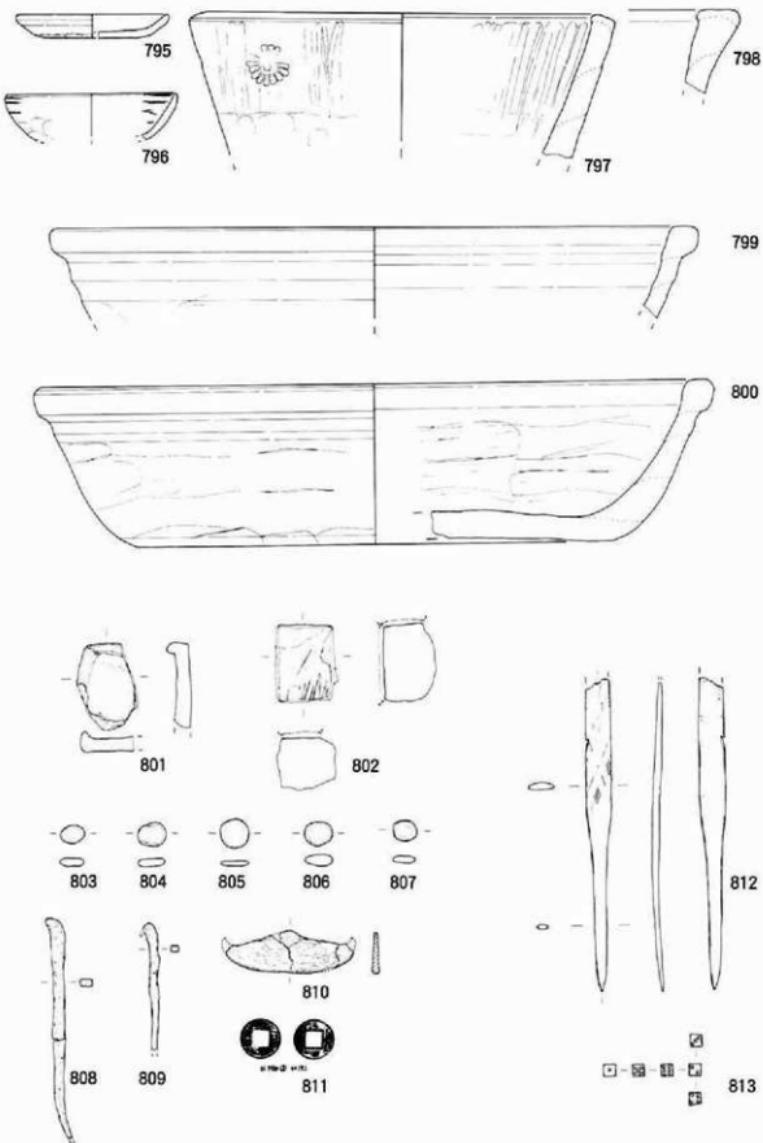


圖46 3B面上包含層出土遺物 (3)

VI. 4 面

現地表下約120cm前後、確認面標高はDラインの北端6.83m・南端6.74m、2ライン付近の東端6.78m・西端6.85mを測る。4面は鎌倉市街地の遺跡調査において通常中世基盤層として扱えられている地山で黒褐色粘質土の上面である。この上面で検出した遺構には、掘立柱建物5棟、井戸状造構1基、溝状造構6条、土壙8基、柱穴約250口である。

a. 掘立柱建物（図48～51・55、図版15）

掘立柱建物 6（図48・55）

グリット 調査区西寄り、C～E-1～3 確認標高 6.80m前後
軸方位 N-27°-E、現若宮大路にほぼ平行 建物規模 東西4間×南北4間以上
重複関係 掘立柱建物9と重複、先後関係は本址が新しい
東西4間8.61m、南北4間8.52m以上の規模を有す。柱間寸法は南北軸が西から2列目柱間距離でP11～P15が220cm・215cm・215cm・210cm、東西軸は北から2・4列目柱間距離を参考にP1～P17が215cm・210cm・210cm・215cmを測る。各柱穴は径約40～50cmの円形または楕円形で、深さ40～50cmである。柱穴の多くは礎板や腐食した礎板痕跡を残し、P12に根石が見られた。遺物は石製品、かわらけである。

掘立柱建物 7（図49・55）

グリット 調査区南西域、B～D-3 確認標高 6.78m前後
軸方位 N-27°-E、現若宮大路にほぼ平行 建物規模 東西3間×南北1間以上
東西3間6.29m、南北1間2.10m以上の規模を有す。柱間寸法は東西軸の柱間距離が各々210cm、現状で南北軸も210cmを測る。各柱穴は径約30～40cmの円形、深さ30cm程度である。遺物は青磁皿である。

掘立柱建物 8（図49・55）

グリット 調査区西寄り、C・D-1～3 確認標高 6.76m前後
軸方位 N-33°-E、現小町大路にほぼ平行 建物規模 東西3間×南北4間以上か
現状で東西3間6.30m、南北4間8.40mの規模を有す。柱間寸法は、東西軸・南北軸共に柱間距離が各々210cmを測る。各柱穴は径約40～60cmの円形または楕円形・長楕円形で、深さ40～50cmである。柱穴の多くは礎板や腐食した礎板を残す。遺物はロクロかわらけ、渥美・常滑窯製、青磁碗である。

掘立柱建物 9（図50・55）

グリット 調査区やや西寄り、C～E-1～3 確認標高 6.85m前後
軸方位 N-34°-E、現小町大路にほぼ平行 建物規模 東西4間×南北4間以上
重複関係 掘立柱建物9と重複、先後関係は本址が古い
東西4間8.61m、南北4間8.52m以上の規模を有す。柱間寸法は南北軸の柱間距離が各々210cm、東西軸は北から2・4列目柱間距離でP1～P8・P11～P14が205cm・205cm・215cm・210cmを測る。各柱穴は径約40～50cmの円形または楕円形で、深さ50cm程度である。遺物はかわらけ、山茶碗である。

掘立柱建物 10（図51・55）

グリット 調査区西寄り、C～E-1～3 確認標高 6.80m前後
軸方位 N-37°-E、現小町大路に平行 建物規模 東西4間×南北5間以上
東西4間8.61m、南北5間8.52m以上の規模を有す。柱間寸法は東西軸・南北軸共に柱間距離が各々210cmを測る。各柱穴は径約40～50cmの円形もしくは楕円形、深さ50cm程度を測る。覆土は地山に近い締まりのある黒褐色粘質土である。底面に礎板を伴う例が少ない。遺物はかわらけ、青磁碗、渥美窯捏鉢石製品である。

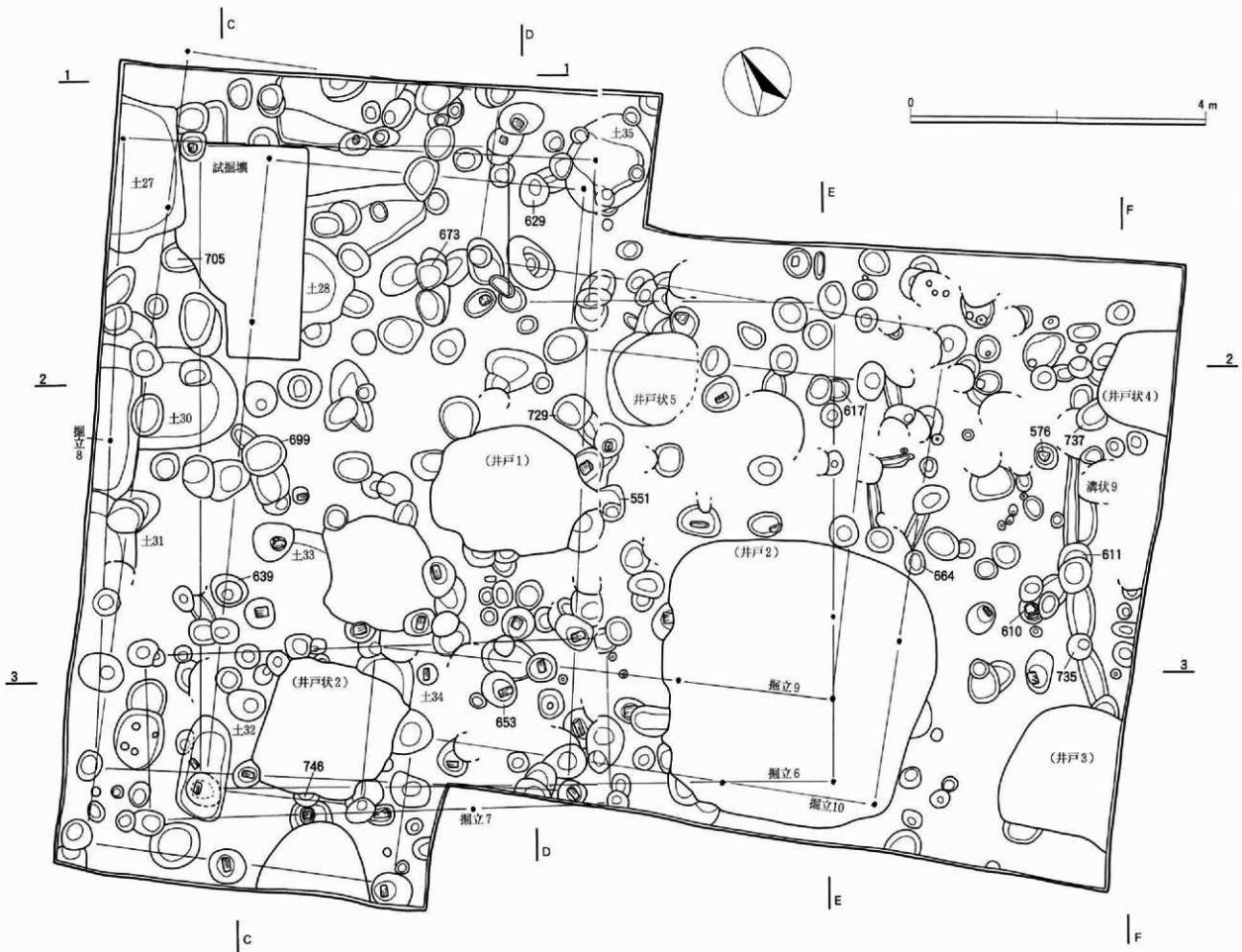


図4 4面全測図

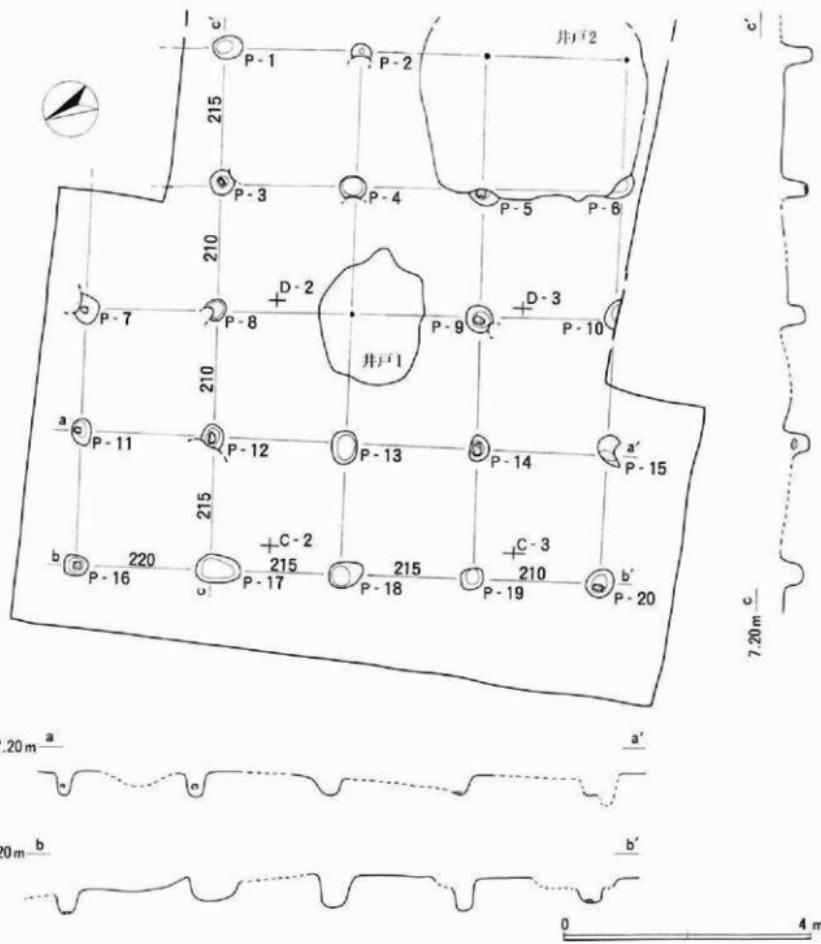


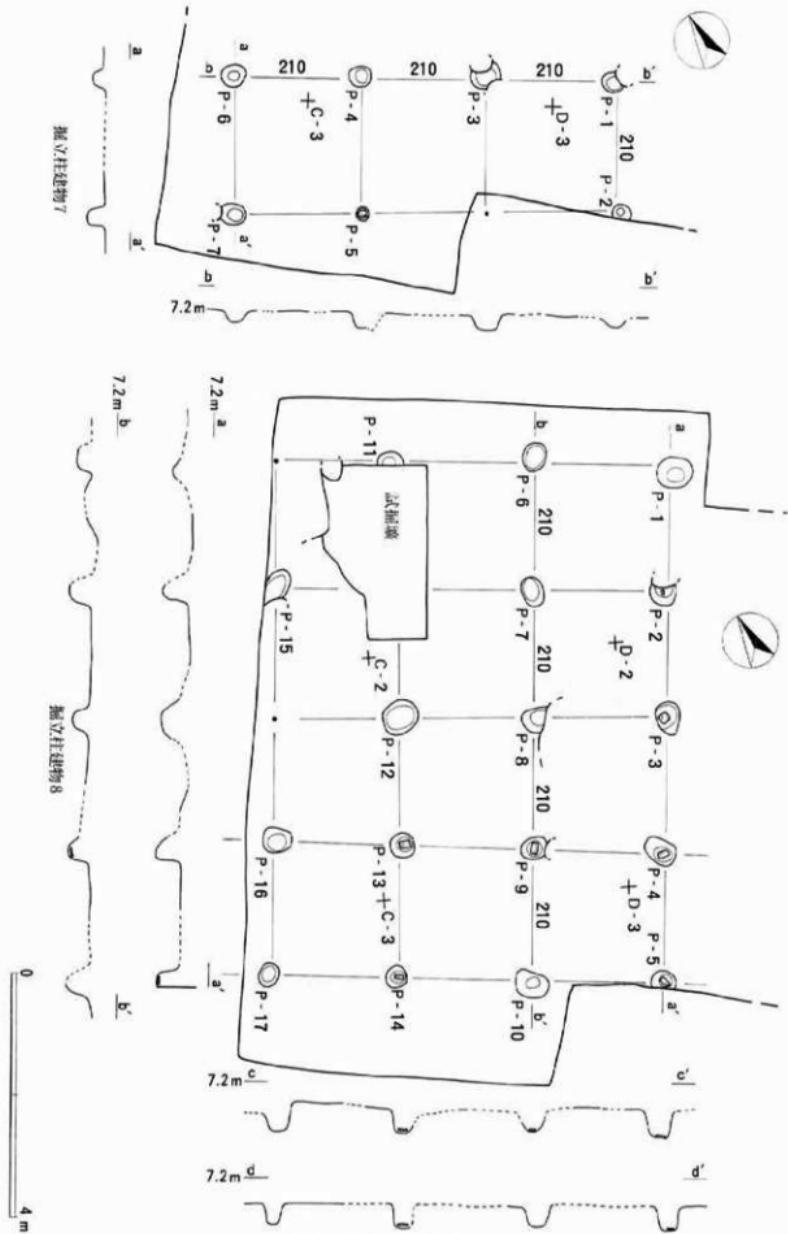
図48 4面掘立柱建物6

b. 井戸状遺構5(図52・55、図版18)

調査区中央北寄りに位置し、D-2グリットで検出した。確認標高6.75m。掘り方はほぼ円形で、径約140cm、深さ82cmで底面標高が5.95mである。覆土の主体は縮まりの無い褐色土で、下層に薬状纖維を燃した様な炭化物層が堆積する。遺物は834常滑窯業、835石製品である。

c. 溝状遺構(図53・55、図版4)

溝状遺構4~8 E-2グリットに位置し、掘立柱建物9・10に切られる。確認標高6.90m。溝状遺構4~8は長さ50cm前後、幅15~20cm、深さ約10cmと小規模で浅く、4・7が東西、5・6・8が南北に走り方向も一定しない。覆土はすべて明褐色土一層で流・滲水した様子は窺えない。性格不明。



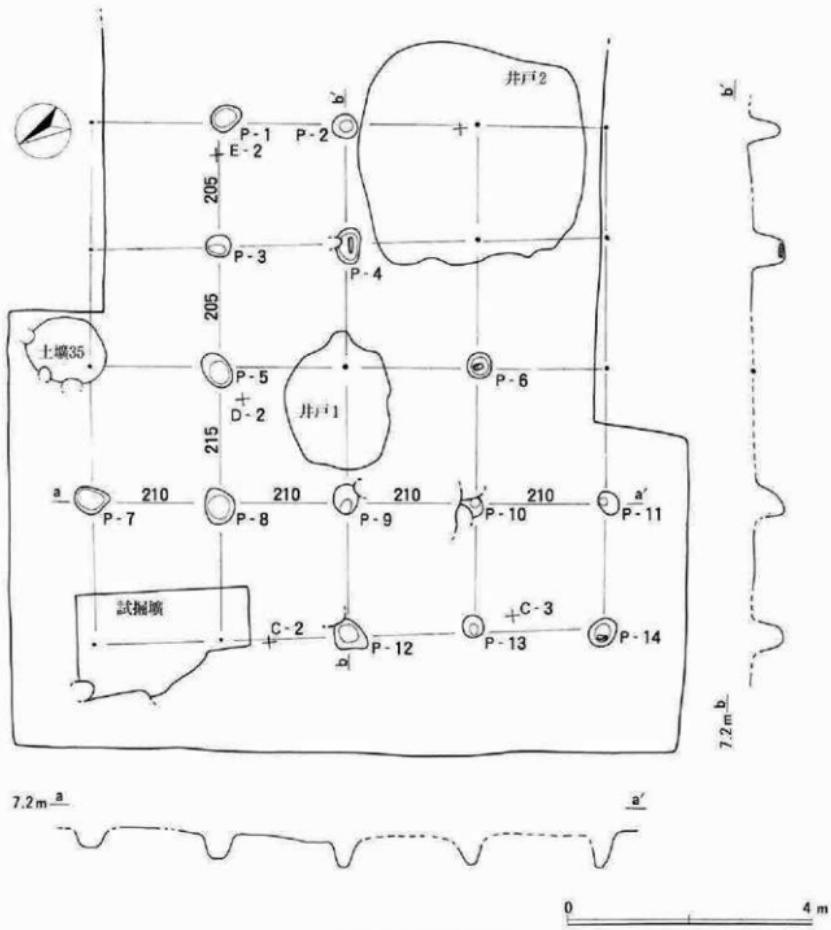


図50 4面掘立柱建物 10

溝状造構9 E-2・3グリット、調査区東壁に沿って南北に走る。確認標高6.85m。確認された長さ3.3m、幅南側30cm・北側が細く15cm、深さ10cmである。覆土は炭化物・焼土を多く混入した明褐色土。付近には、同様の焼土や、フイゴなどの小片も出土、908鬼形土製品もこのすぐ上面より出土。

d. 土壙 (図54・55・56、図版16)

土壙27 B-1に位置する。調査区西壁にかかり、掘立柱建物8・10を切っていて新しい。長楕円形、長径193cm、短径89cm以上、深さ56cm、覆土は灰黒色土で上面に薄い炭化物層がある。遺物は836～843かわらけ、844青磁碗、845・846常滑窯窓、847瓦器碗が出土した。

土壙28 C-1に位置し、試掘壙で西側削平。円形、径123cm以上、深さ32cm。覆土は締まりの弱い

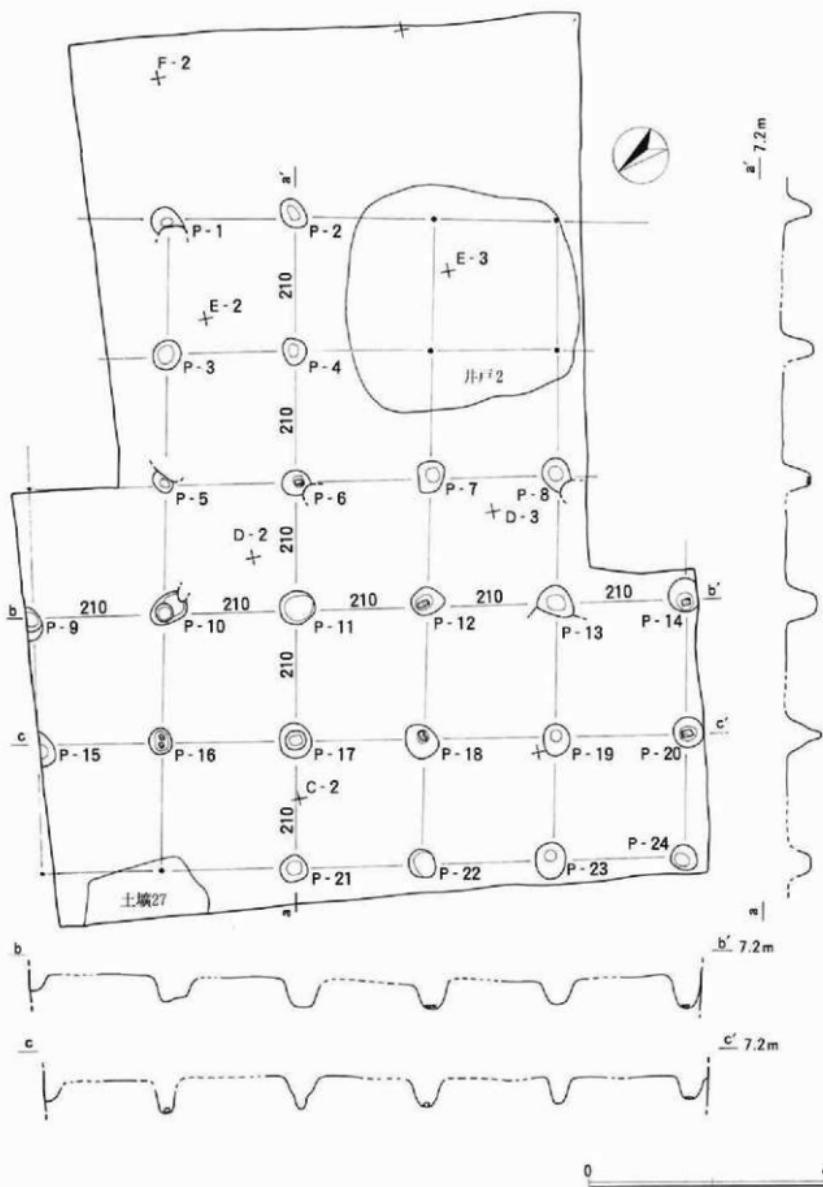


図51 4面据立柱建物10

褐色土で、遺物は848~851かわらけである。

土壤30 B-2、掘立柱建物10に切られる。楕円形、長径141cm以上、短径134cm、深さ20cmである。

土壤31 B-2、掘立柱建物8に切られる。長径155cm・短径104cm以上、深さ40cm、覆土は地山に近く黒褐色土を呈する。遺物は858~861かわらけ、862青磁碗が出土した。

土壤32 C-3、掘立柱建物6・9に切られる。闊丸長方形、長さ133cm、幅63cm、深さ20cm。

土壤33 C-2、掘立柱建物10に切られる。円形と推定され、径約110cm、深さ30cmである。遺物は863・864手づくねかわらけが出土した。

土壤34 C-2、井戸状遺構2、掘立柱建物9に切られる。径86cm以上、深さ28cmである。

土壤35 D-1、掘立柱建物8に切られ、掘立柱建物9を切る。楕円形、長径132cm、短径106cm、深さ42cmである。遺物は865・866手づくねかわらけが出土した。



図52 4面井戸状遺構5

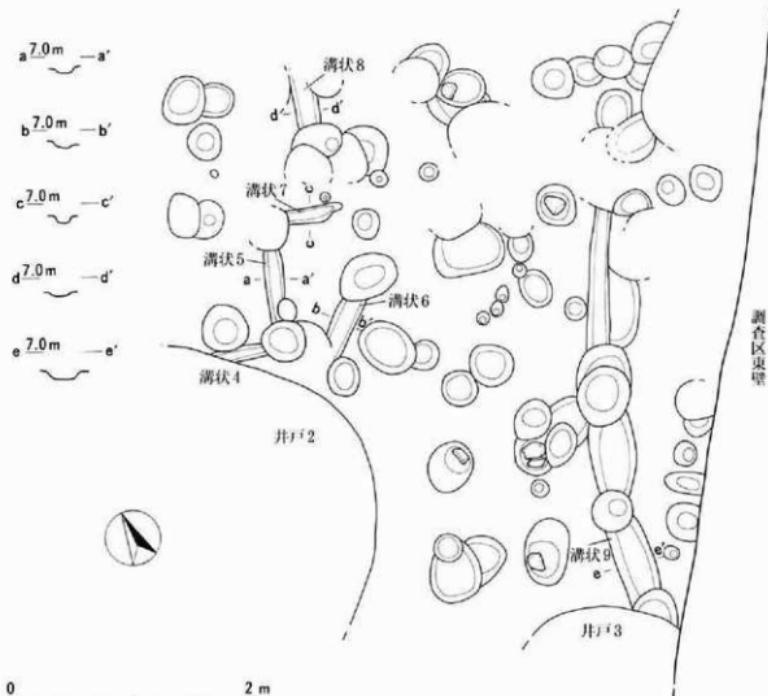


図53 4面溝状遺構

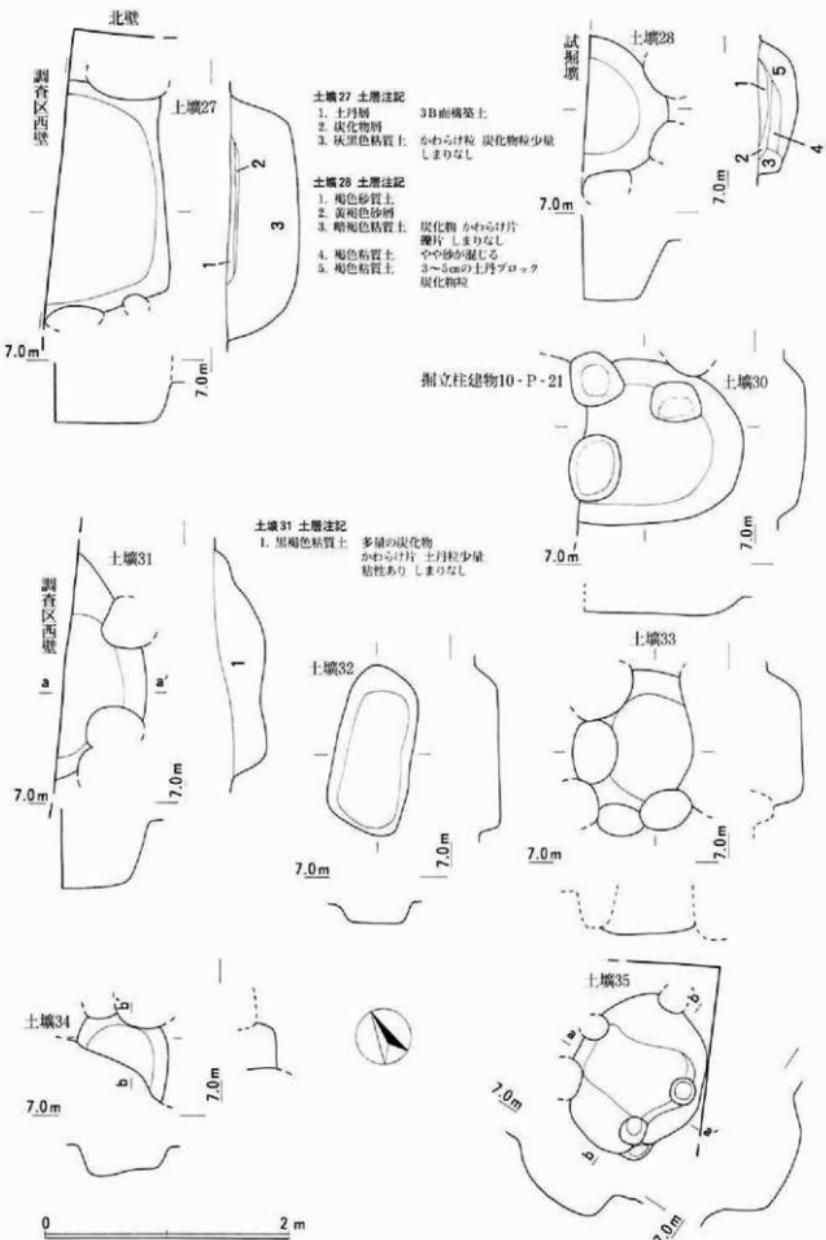


図54 4面土壤

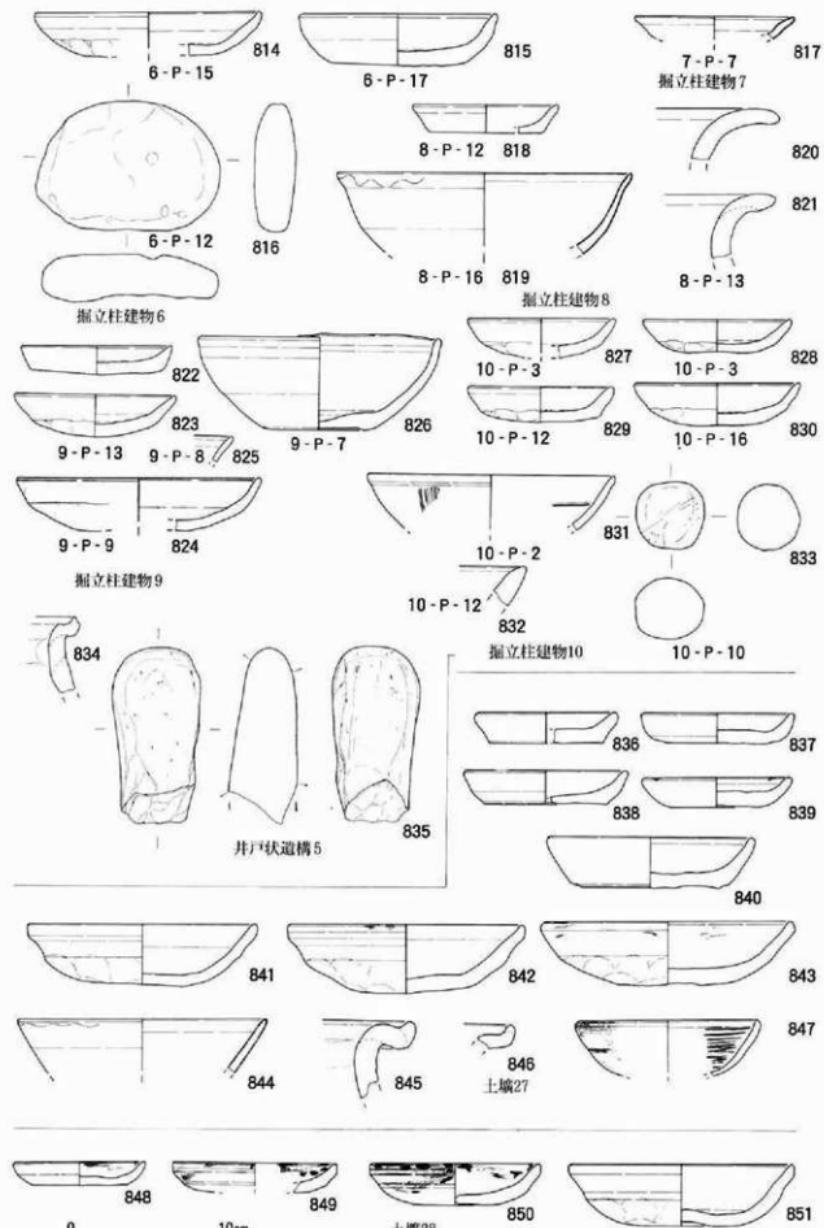


图55 4面据立柱建物 6・8～10

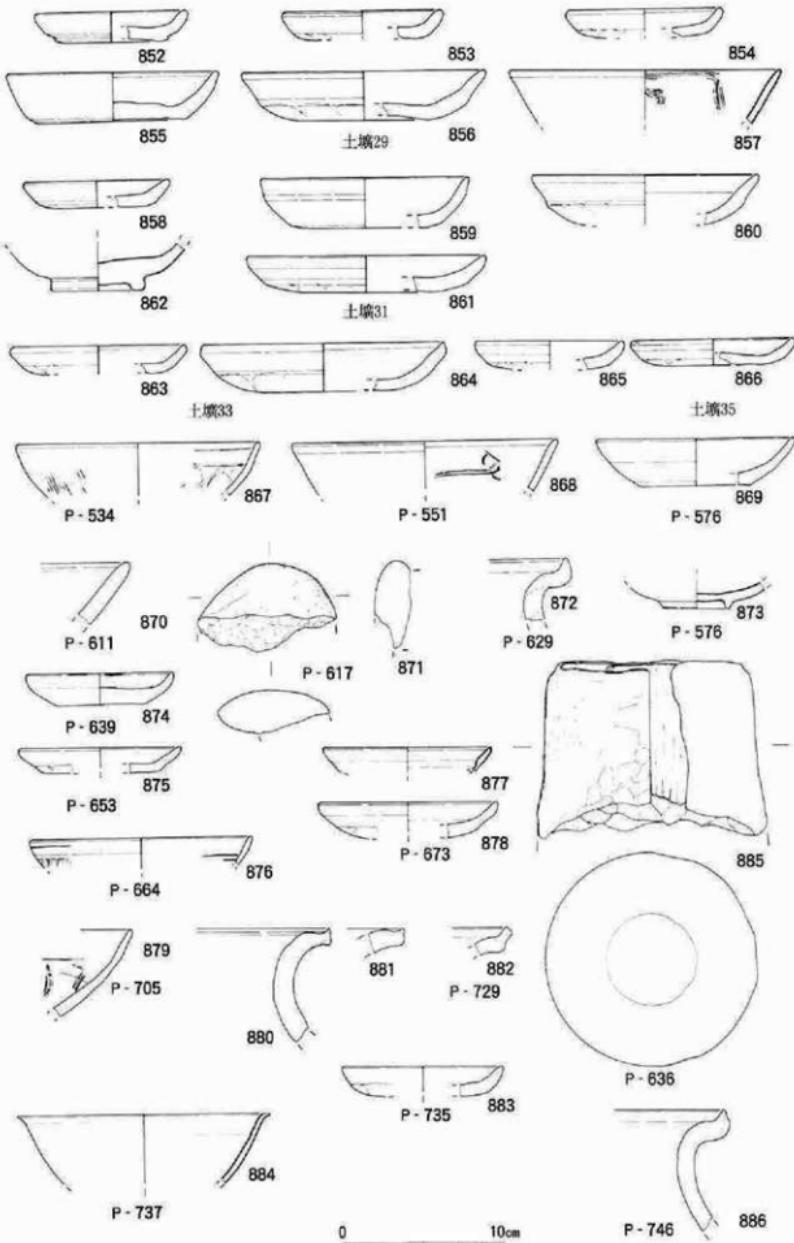


図56 4面土壤・ピット出土遺物

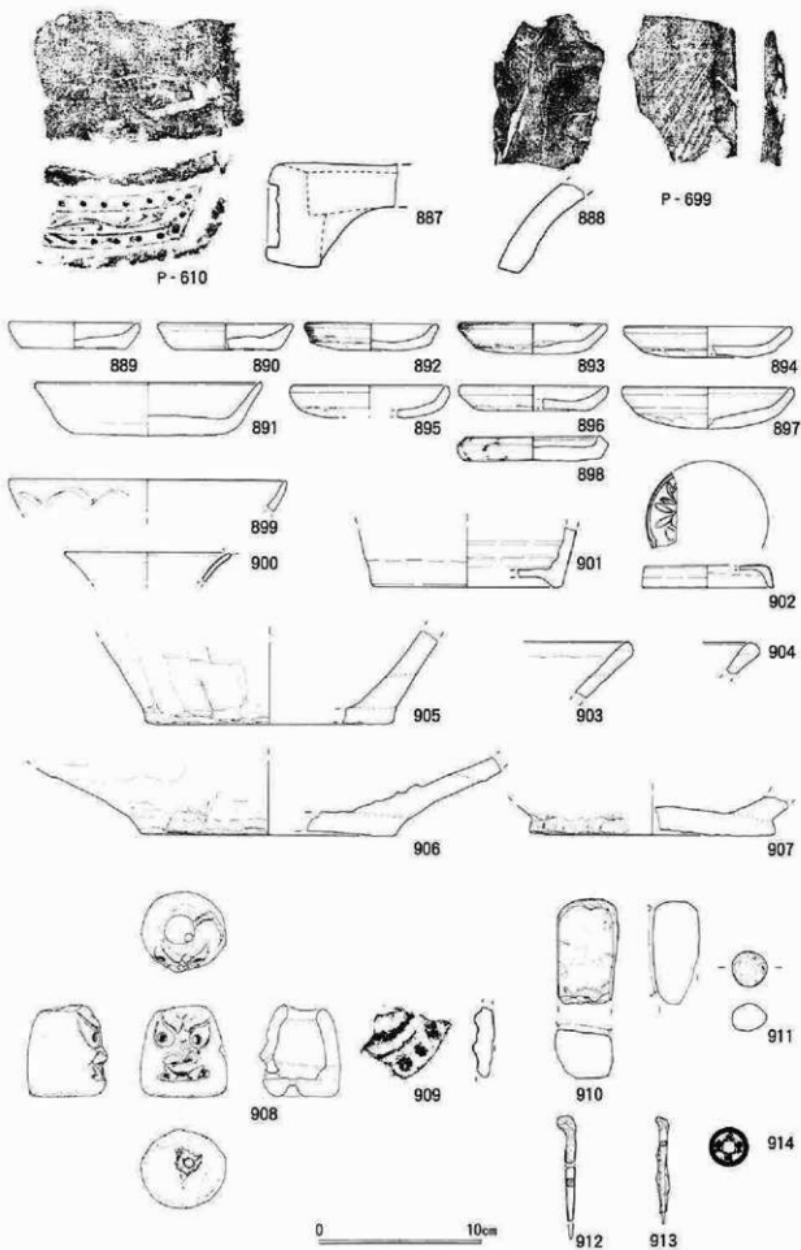


図57 4面ピット・包含層出土遺物

第2節 小町大路確認トレンチの遺構と遺物

第2章第1節でも触れたように、本調査区は現小町大路からかなり離れていたため、往時の大路に直接関わる遺構は検出されなかった。そこで、事業者の方のご理解を得て、現道路のすぐ脇に小町大路確認トレンチを設定し、小町大路に関する考古学的知見が得られるよう努めた。なお、掘削はすべて人力で行い、遺構の保存を測るために、その範囲は極力限定している。また、トレンチ西端は鎌倉石切石による円形の井枡をもつ現代井戸によって搅乱されている。

現地表下80cmほど堆積している近現代の盛土・近世耕作土を除去すると、弱い土丹版築が所々に見られる平坦な面が表出す。これは本調査区の1面に相当するものと考えられる。トレンチ内における標高は、西端では7.3mを測るが、東端で7.0mと低くなっている。本調査区における1面の標高は7.6~7.5mであるから、小町大路に向かって緩やかに下がる地形であることが推測できよう。こうした地勢は、現地表面でも観察できる（敷地西端8.2m、同東端7.8m）。1面の東半分は、西半分に比べてややしまりがなく、大路側溝の埋土と思われるが、溝埋没後に上面をやや叩きしめているようである。

以下の掘削は、大路側溝かと思われる部分の北半分に限って行い、落ち込みの一部を検出した。西壁は明瞭で、一部に土丹塊による護岸（あるいは2面構成土の表出したものか）が見られる。その肩部は現大路側溝西縁から約7.2m西に当たる。溝底は標高6.05m、1面よりの深さ約1m。木材あるいはその痕跡等は確認できなかった。東壁については明確には検出していない。覆土の主体となる27層（図58）が夾雜物をあまり含まない均質な土層であるのに対して、東に向かって上がる30層（図58）は、水磨したかわらけ片や土丹ブロック・粗砂などを多量に含む溝底堆積土と見られる。あるいは、溝底の土をかき上げて東壁に撫で付け幅員が狭くなった最終段階の溝の姿が想像できるのかも知れない。なお、東半の上層の亂れから見て、数次にわたって小規模な側溝の造り替えが行われたことが推察される。

出土遺物（図59）の様相は、掘削範囲内では特段の変化は見られず、かわらけは厚手で、直線的に外傾し口縁部がやや外反するタイプを主体としている。929は鹿角製の未成品と思われる。

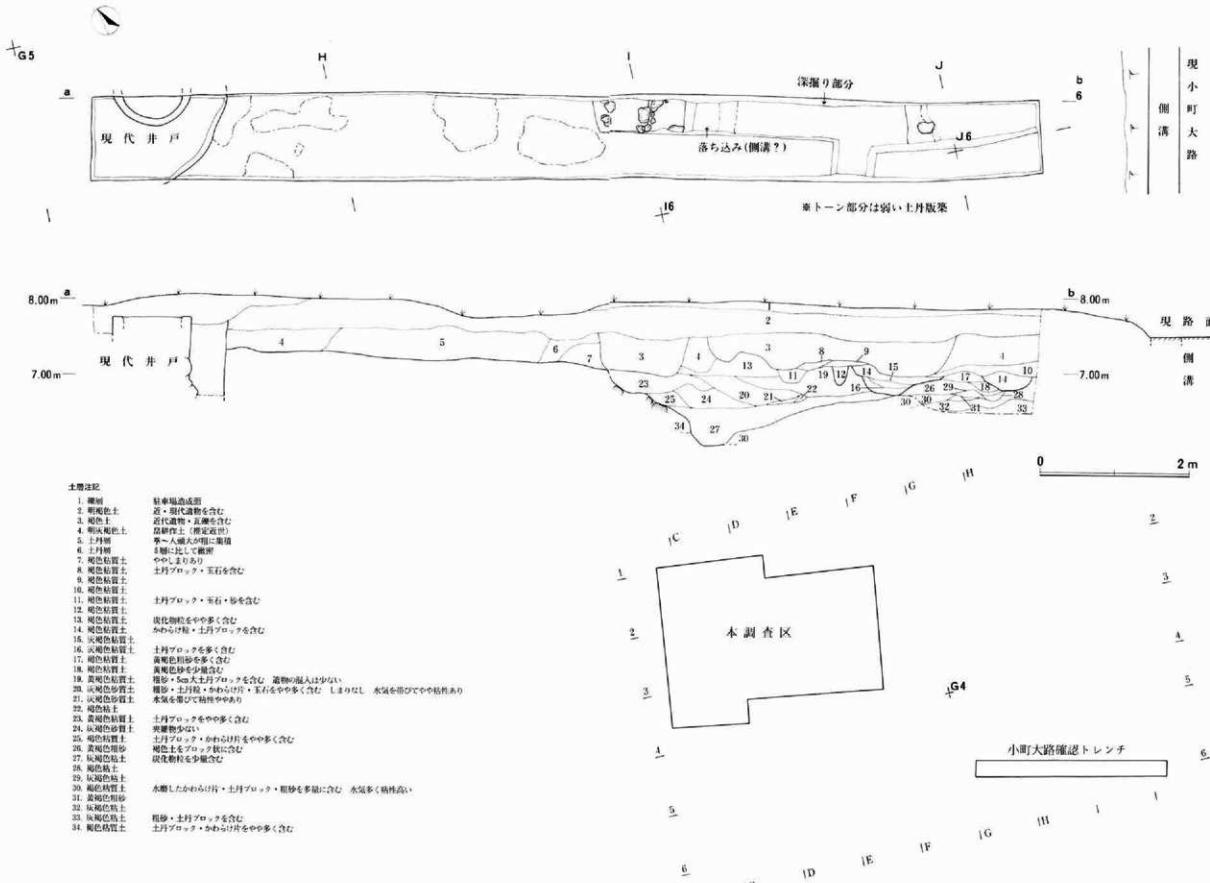


図58 小町大路確認トレンチ

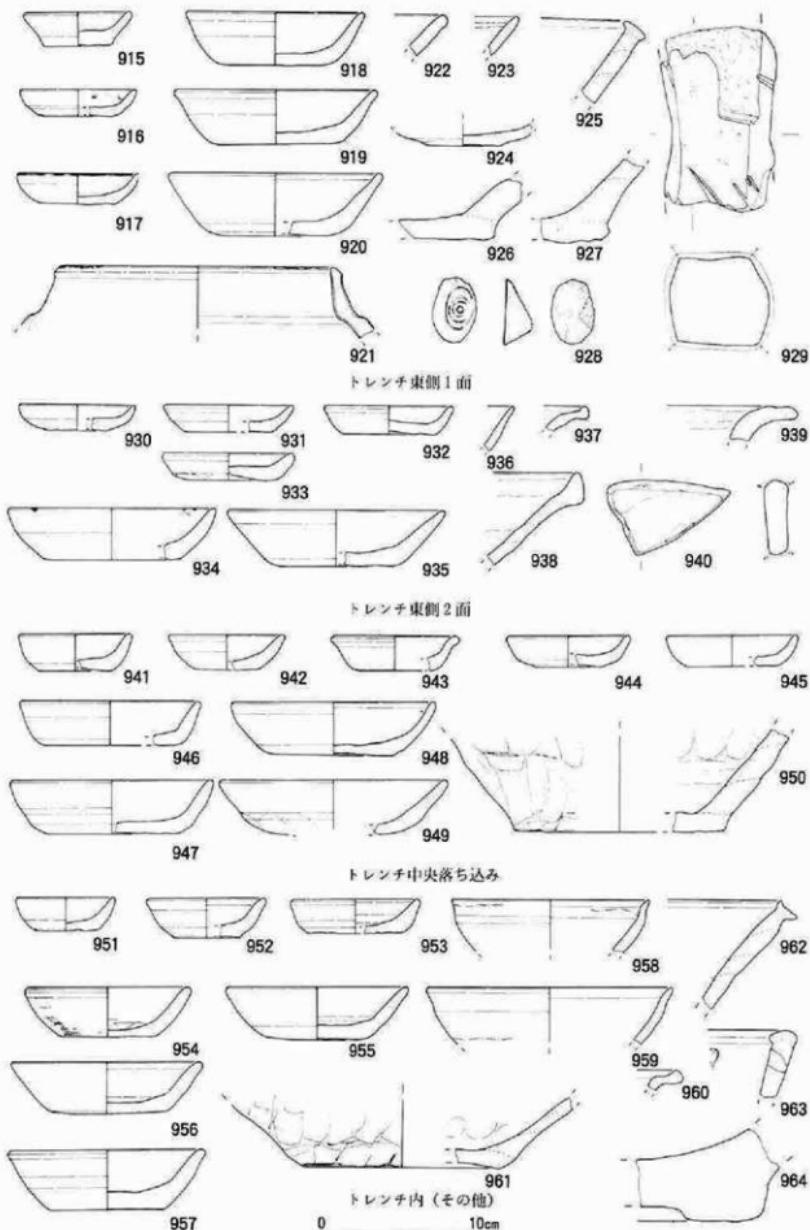


図59 小町大路確認トレンチ出土遺物

第3節 中世以前の遺構と遺物

2面井戸2の掘り方壁面で、中世基盤層以下の土層堆積を観察したところ、縄文海進期に形成されたとされる黄褐色砂層まで、約1.5mほどの厚さで数枚の粘土層の堆積が見られた。第2章第2節層序の項でも触れたように、本地点周辺では層厚30cm内外の基盤層（黒褐色粘質土）の直下でこの砂層が表出するが、これに比して、本地点の基盤層以下の堆積はいかにも厚い。また、中世遺構覆土や各面包含層からも中世以前の遺物の出土が散見されることから、遺構・遺物包含層の存在が推測された。そこで、調査区を十文字に切る形で東西・南北に幅1.3mのトレンチを設定した。更に、調査区北西部には補助的なトレンチを設けて下層の様相の把握に努めた。

掘削は人力により、およそ層位別に掘り下げながら遺物を採集、精査して遺構の存否を確認した。

その結果、粘土層中からは明確な遺構は確認されなかったが、南北トレンチ北半の下層において、黄褐色砂の高まり（=落ち込み）を検出した。上面はほぼ平坦で標高6.05m。比高差約65cmで南西側に弱い段差を持ちながら緩やかに落ち込んでおり、トレンチ内を北西から南東に向かって斜めに走る。この高まりを構成する砂は、黄色砂と黄灰色砂の互層よりも水成堆積の様相を呈するが、層中より上師器らしき土器小片が出土していることから、形成されたのは縄文期ではなく、後世の2次的な堆積によると考えられる。落ち込み底部はほぼ純粋な砂層（縄文期形成？）で、ごく僅かであるが北西から南東に向かって下がっている。また、同様の黄褐色砂の高まりは北西トレンチでも検出されたが、平面的な広がりを掴むことができなかつたため、両者のつながり等については不明である。

この砂層落ち込みの内側基底部には水磨した上丹礫や粗砂を含んだ屑が堆積しており、ある時期にはここに一定程度の水流=水路？があったことを推測させる。その対岸の位置や方向性を追究したが、他のトレンチ内では確認できず、不明確である。ただし、上層堆積の状況から、ある時期にはおよそ図60に破線で示したような方向で落ち込みがあった可能性が考えられる。

明確な遺構が確認できなかつた粘土層について、花粉分析・プラントオバール分析を行つたところ、水田耕作の可能性が指摘された（詳細は付編の報告を参照）。そのため、整理作業段階で改めて図面・写真により上層堆積を観察したが、畦畔等の施設は明らかにならなかつた。

トレンチ内出土遺物（図62、965～983）は概ね層位別に取り上げたが、大きく上中下の3層にまとめた。965～967は上層（1・2層）から、968～981は中層（略3～5層）から、982・983は下層（略19～21層）から出土したものである。965は白磁碗だが混入品であろう。以下、966の須恵器を除き總て上師器。973・983は坏部に突帯をもつ高环。979は南北トレンチ北半の黄褐色砂の高まり直上から出土した土器片錠。980はいわゆるS字状口縁台付甕の胴部片である。

また、984～998は中世遺構内より出土したものである。984～992は上師器、994～998は須恵器。992は手捏ね土器。993は滑石製の有孔円板。

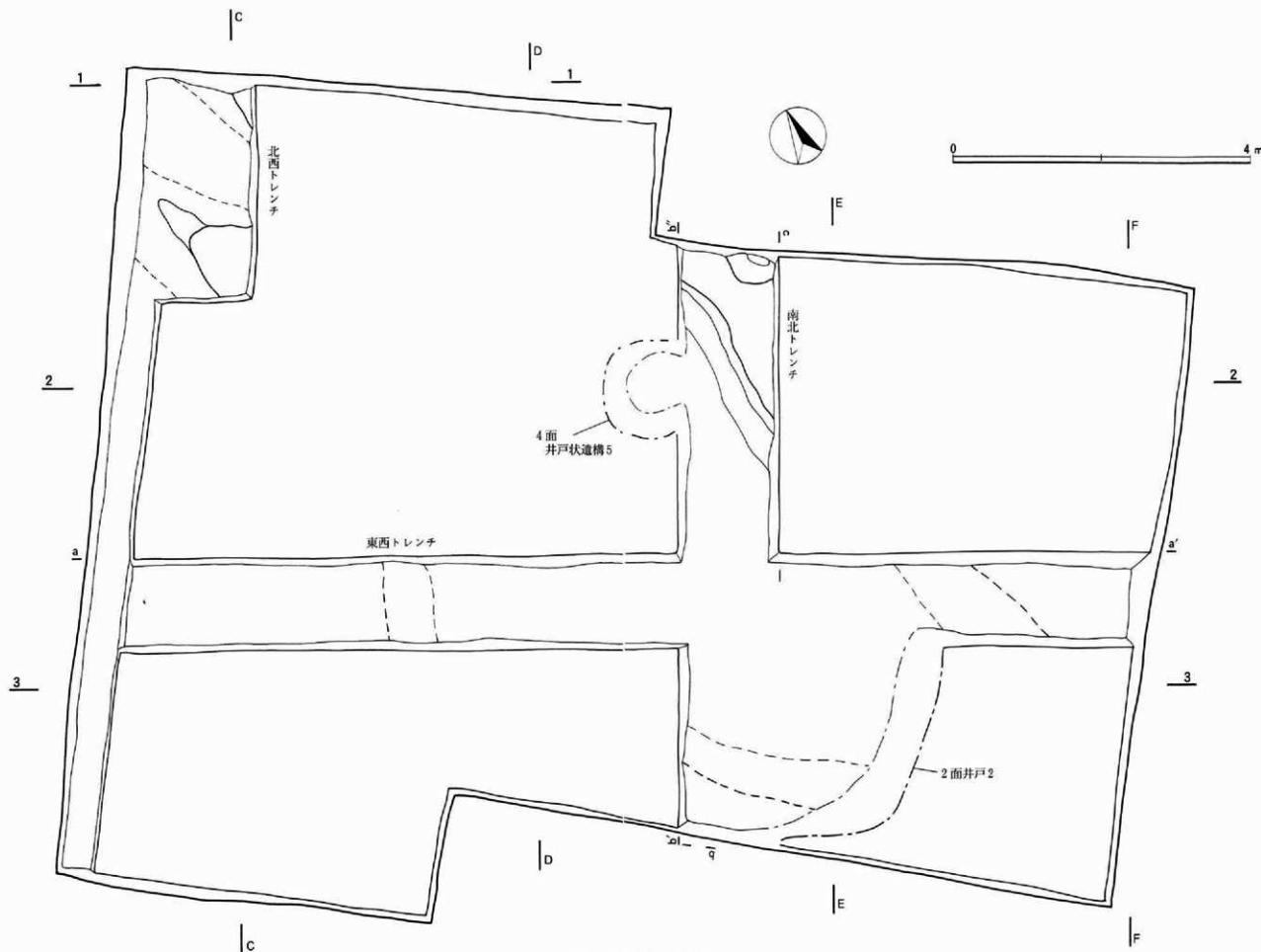
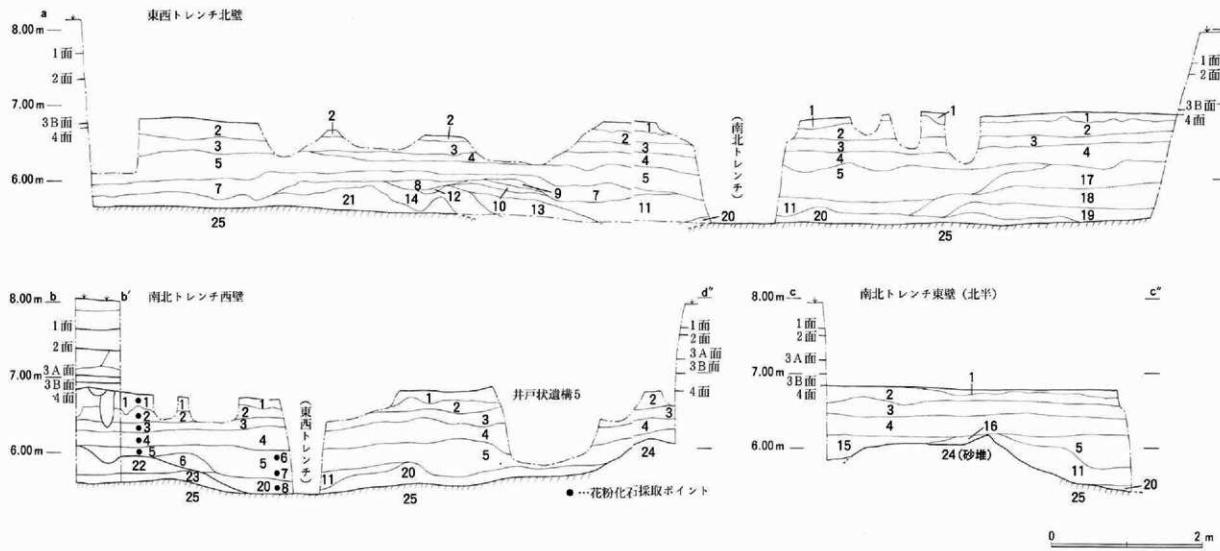


図60 中世以前確認トレンチ



- 土壤階級**
- 暗褐色砂質土 粘粒分を若干含む。しまりややあり。
 - 暗褐色細砂質土 粘粒分がやや多く、土糸粒・炭化物粒を少量含む。しまりややあり。
 - 黒褐色土 粘粒分・白粘土を少含む。しまりやや。
 - 暗褐色土 粘粒分・白粘土を少含む。しまりやや。
 - 暗褐色砂土 土糸粒・白色粘土を少含む。しまりややあり。
 - 暗褐色砂質土 土糸粒・炭化物粒を極少量含む。しまりなし。粘性ややあり。
 - 暗褐色砂質土 土糸粒を含む。しまりなし。粘性やや。
 - 暗褐色細砂土 黑褐色粘土ブロックを少含む。しまりやや。粘性強い。
 - 深褐色土 異色粘土ブロックを少含む。しまりやや。粘性強い。
 - 深褐色土 異色粘土ブロックを少含む。しまりやや。粘性強い。
 - 暗褐色土 やや青みを帯びる。土糸粒・炭化物粒を少含む。しまりやや。
 - 暗褐色砂質土 異色粘土ブロックを少含む。しまりやや。
 - 暗褐色砂質土 黑褐色粘土ブロックを少含む。しまりやや。粘性強い。
 - 暗褐色粘土 灰褐色土粒・炭化物粒を少含む。しまりやや。粘性強い。
 - 暗褐色砂質土 土糸粒・炭化物粒を少含む。しまりやや。
 - 暗褐色砂質土 土糸粒を含む。しまりやや。
 - 暗褐色砂質土 5割に弱する。粘粒がやや多い。しまりやや。
 - 暗褐色粘土 頭・黃褐色多孔質に變遷させる。しまりやや弱い。
 - 暗褐色粘土 黑褐色粘土ブロックを少含む。しまりやや。
 - 暗褐色粘土 黑褐色粘土ブロックを少含む。しまりやや。
 - 暗褐色粘土 炭化物粒をやや多く、土糸粒・水糸粒を少量含む。しまりややあり。
 - 暗褐色砂質土 3~10cm大土糸ブロック。水糸粒・土糸粒が多く、黒褐色粘土ブロックを少含む。しまり・粘性なし。
 - 暗褐色砂質土 黑褐色粘土ブロックを少含む。水糸粒・土糸粒を含む。
 - 黄褐色砂 黑褐色粘土ブロック。水糸粒を含む。
 - 黄褐色砂 黃褐色砂の層。
 - 黄褐色砂 各種粘土、炭化物を含まない。

図61 中世以前確認トレンチ土層図

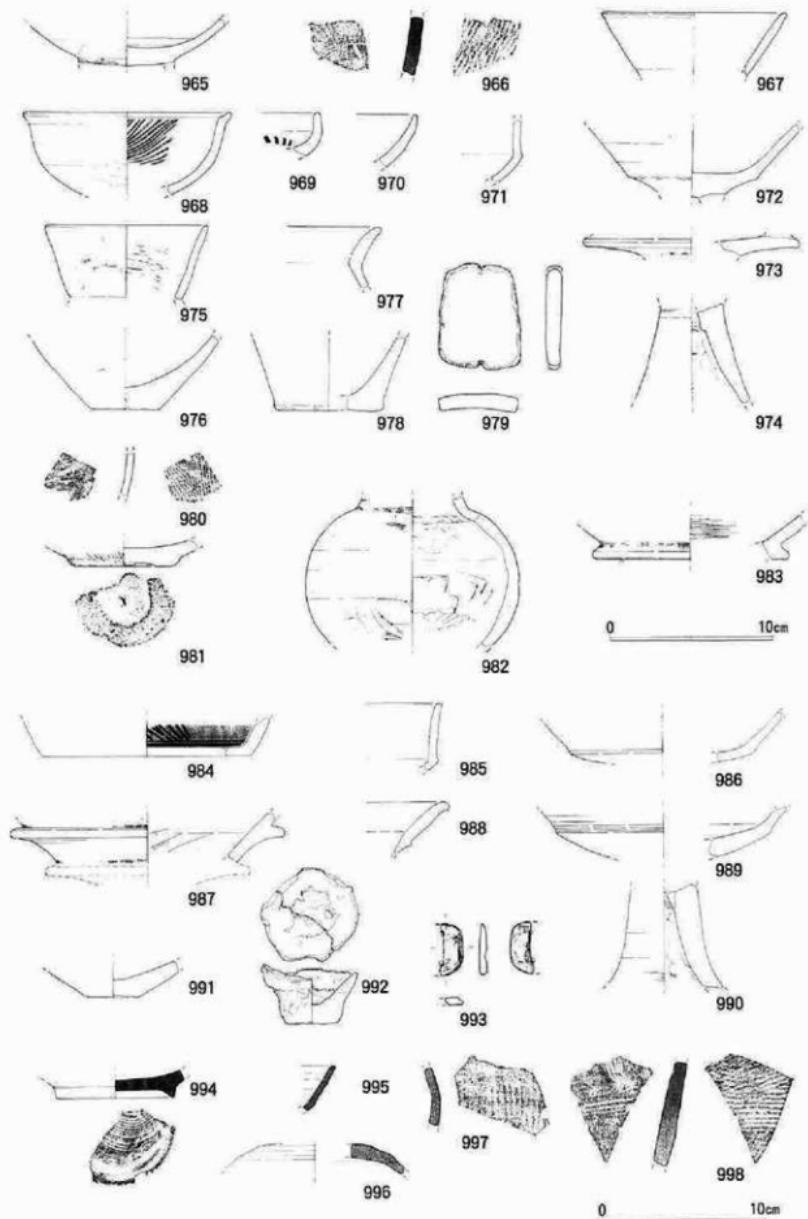


図62 中世以前の遺物

第四章 まとめ

第1節 中世

宇津宮辻子幕府跡の所在する遺跡内に位置した本調査地点は、約150m²と限られた範囲が調査対象であったが、当初の予想をはるかに上回る4時期にわたる生活面が検出された。調査地東側のトレンチ調査では小町大路の側溝の一部と考えられる溝、その西側域にあたる本調査区からは各時期において一定の軸方位を示した掘立柱建物や、井戸など多くの遺構の存在が明らかになった。

検出した造構については第三章に大別して1面～4面の様相を述べてきたが、各面ごとの造構についても層位的な若干の新旧が認められるものもあり、以下はそれらを踏まえて造構の変遷と年代観に触れることがある。

I. 遺構の変遷

ここでは、遺構の切り合い関係と各検出面、出土遺物を参考にして中世遺構の全体を4期に分けて概観してみたい。

〈1期〉 黒褐色粘質土の中世基盤層ないしは、その直上に生活面をもつ時期で、該当する遺構は、掘立柱建物3棟、井戸状遺構1基、柱穴などがあげられる。この時期には調査区東壁近辺が掘立柱建物や柱穴が認められず、これが建物の東限を示すものであろうか。建物の南北軸は現在の小町大路にほぼ平行しており、掘立柱建物8~10はN-33°-EからN-37°-Eの間にある。この他、円形の掘り方をもつ井戸状遺構5がこの時期に伴っている。

敷地内に溝や掘などの明瞭な区画が認められず、掘立柱建物の規模や建て替えが同じ位置で頻繁に行われていることから西側にさらに敷地が拡がる可能性が高く、大きな屋敷地の一部であることを窺わせる。

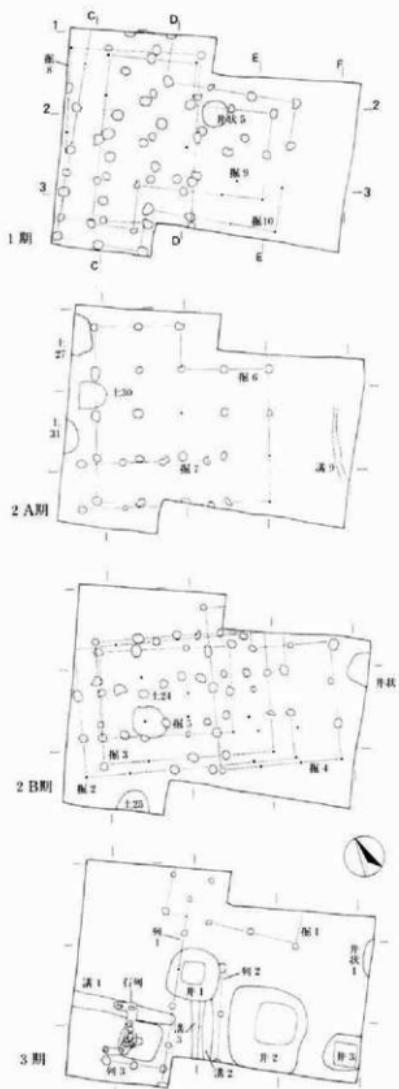


図63 主要構造変遷図

〈2A期〉 中世地山面で検出した遺構で、建物の位置関係は1期の様相を踏襲するものである。しかし、掘立柱建物6・7は南北軸が現在の若宮大路にはほぼ平行する建物配置をとっており、N-27°-Eと東に振れた方位を示している。土壇27・30・31や溝9がこの時期の遺構である。

掘立柱建物7は規模も小さく付属的な施設ではあるまい。これらは1期と2B期の過渡的な時期の建物であろうか。

〈2B期〉 1・2A期でみられた調査区西側に寄った建物の位置関係が無視される。建物の主軸方位は東西軸に変化しており（掘立柱建物2・3・5）、南北軸はN-21°-EからN-25°-Eの間でさらに東に傾いて、しかも調査区中央のほぼ同じ位置で頻繁に建て替えられている。井戸状遺構4や土壇24・25などがこの時期の遺構にある。

建物の配置や規模、同一位置の頻繁な建て替えなどの様子から敷地の使われ方が大きく替わる。

〈3期〉 全面に厚く破碎土丹を敷いて地業した生活面を構築している時期である。掘立柱建物1・井戸1・2・3、溝1・2・3などの遺構は現在の小町大路の軸線にはほぼ平行または直交した配置をとり、この時点で前代の区画は無視されて遺跡地の様相はがらりと変化する。井戸3基も掘られ、鎌倉石切石による建物基礎を思わせる石列、砾と覚しき柱穴列などもこの時期の遺構の特徴である。

該期は全体に柱穴が乏しく検出された遺構の時期やその様子から、調査区付近が町屋的な様相を思い浮かべることができるが確証はない。

II. 遺構の年代

上記は遺構の時期区分について総括してきたが、ここでは各期の出土遺物の組成から、その年代観を述べみたい。

1期は中世地山面上や井戸状遺構5、掘立柱建物柱穴より出土した遺物組成から、当期の年代は13世紀前半に比定される。

2A期は4面と3B面の遺構に伴うもので、かわらけ溜り、土壇、井戸状遺構および3A面包含層などより出土した遺物組成から、当期の年代は13世紀中葉から13世紀後半頃と考えられる。

2B期はかわらけ溜り、土壇、3A面包含層などから出土した遺物の組成から考えて、当期の年代はおよそ13世紀後半から14世紀前半頃に比定されよう。

3期は1・2面の遺構でそれに伴う出土遺物の組成から、当期の年代は15世紀前半に比定されよう。

本調査地点の各遺構・層位から出土した遺物の構成は、図65～69・表1～11に示した。中世およびそれ以前の遺物全体の破片点数は22,429点余りである。中世遺物は合計21,959点で内訳はかわらけが84%と圧倒的に多く、次に多いのが国産陶器で9%、貿易陶磁器は僅か1%であった。かわらけはロクロ成形が16,091点であり、出土かわらけの約88%と極めて高い割合であった。

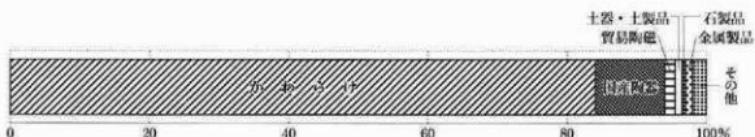
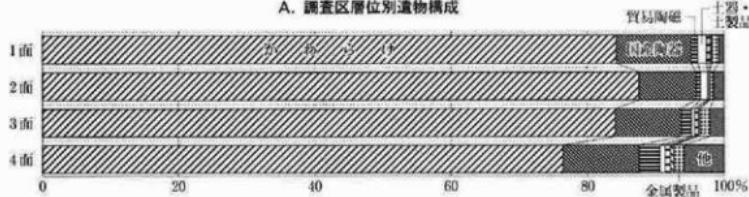
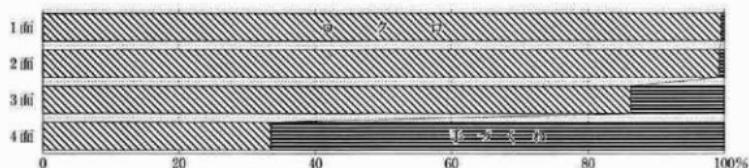


図64 調査区全体遺物構成

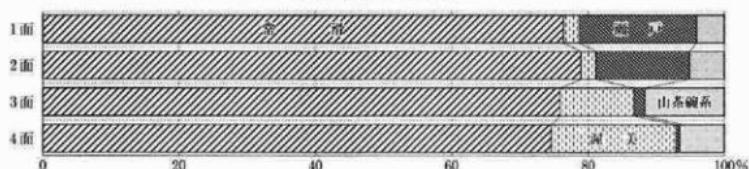
A. 調査区層位別遺物構成



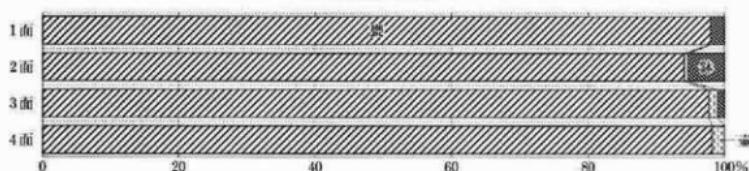
B. かわらけ技法別構成



C. 国産陶器産地別構成



D. 常滑器種別構成



E. 濑戸器種別構成

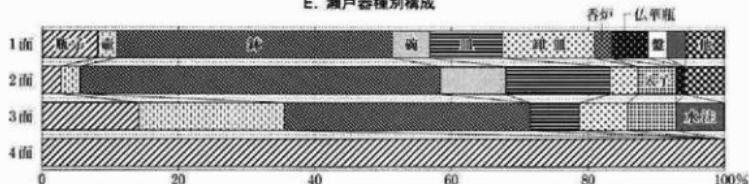
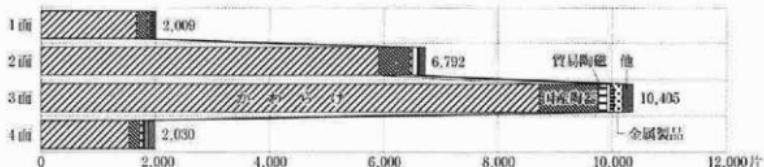
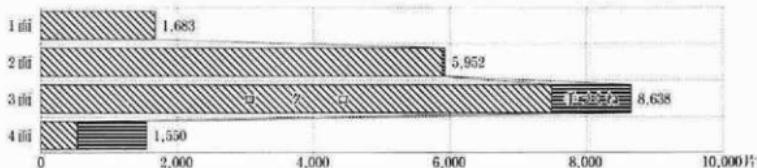


図65 遺物構成－中世(1)－

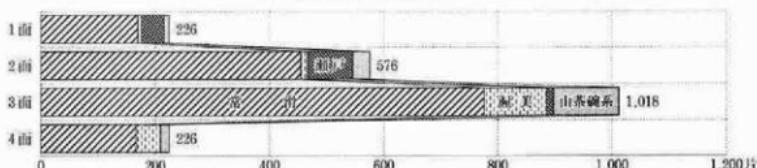
A. 調査区層位別遺物構成



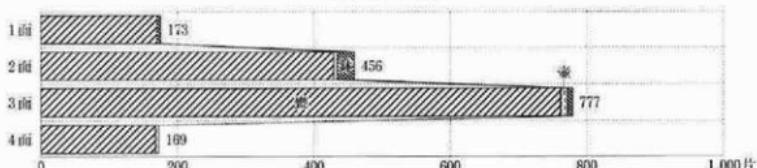
B. かわらけ技法別構成



C. 国産陶器产地別構成



D. 常滑器種別構成



E. 湯戸器種別構成

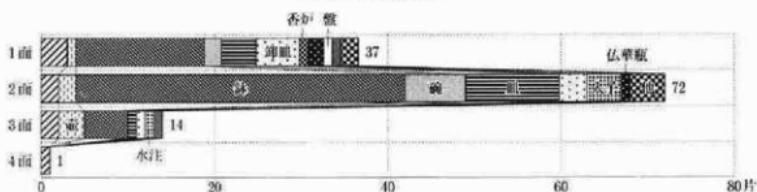
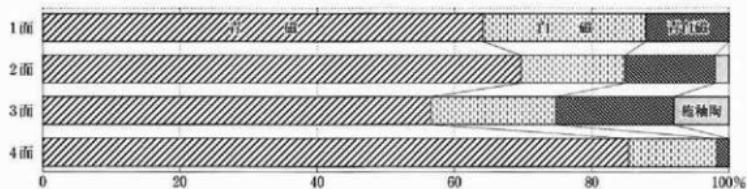
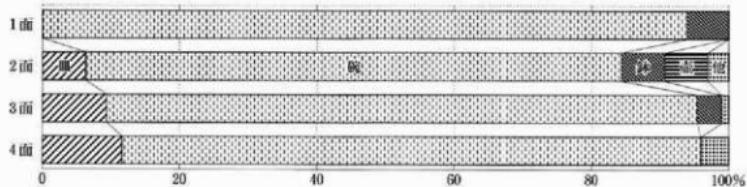


図66 遺物構成 —中世(2)—

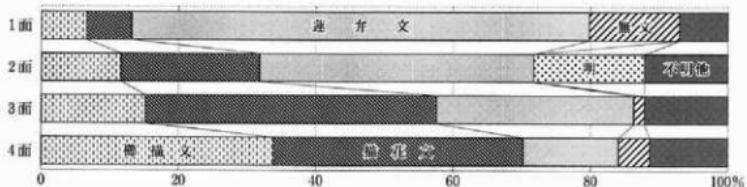
a. 貿易陶磁種別構成



b. 青磁器種別構成



c. 青磁碗種別構成



d. 白磁器種別構成

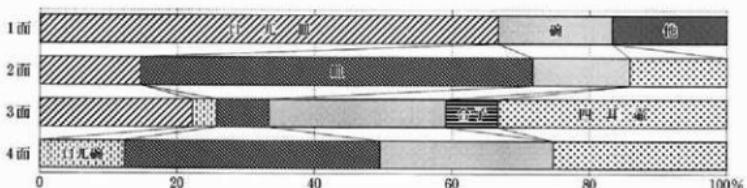
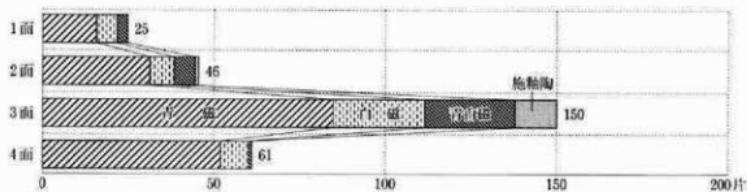
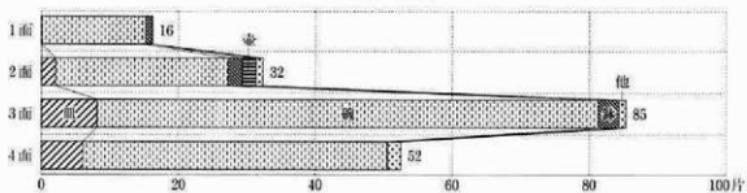


図67 遺物構成－中世(3)－

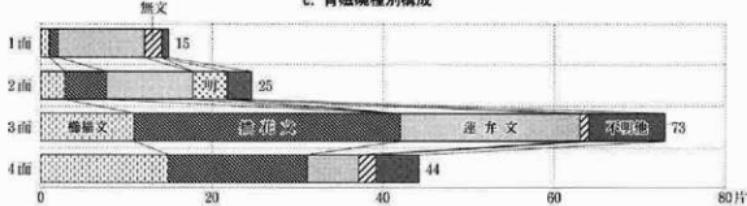
a. 貿易陶種別構成



b. 青磁器種別構成



c. 青磁碗種別構成



d. 白磁器種別構成

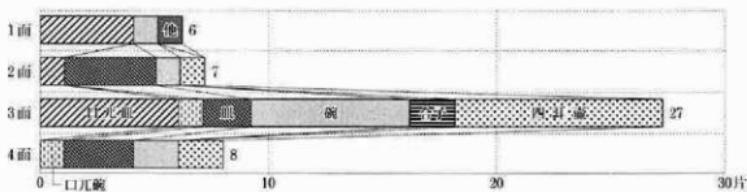


図68 遺物構成－中世(4)－

表1. 調査区全体・層別遺物構成

	かわらけ	国産陶器	貿易陶器	土・粘土	石製品	瓦	銭	金属製品	骨製品	木製品	その他	計
1面	点数	1,685	216	25	26	6	6	1	27	0	0	17 2,069
	百分率	83.87	10.75	1.24	1.29	0.30	0.30	0.05	1.34	0.00	0.00	0.85 100.00
2面	点数	5,954	576	46	74	13	6	1	27	0	4	91 6,792
	百分率	87.66	8.48	0.68	1.09	0.19	0.09	0.01	0.40	0.00	0.06	1.34 100.00
3面	点数	8,754	1,018	147	57	34	5	13	156	4	0	217 10,465
	百分率	84.13	9.78	1.41	0.55	0.33	0.05	0.12	1.56	0.04	0.00	2.09 100.00
4面	点数	1,555	226	61	16	16	5	1	33	0	1	116 2,030
	百分率	76.60	11.13	3.00	0.79	0.79	0.25	0.05	1.63	0.00	0.05	5.71 100.00
他	点数	545	128	17	7	6	1	1	4	1	0	13 723
	百分率	75.38	17.70	2.35	0.97	0.83	0.14	0.14	0.55	0.14	0.00	1.80 100.00
計	点数	18,493	2,164	296	180	75	23	17	247	5	5	454 21,959
	百分率	84.22	9.85	1.35	0.82	0.34	0.10	0.08	1.12	0.02	0.02	2.07 100.00

表2. 国産陶器産地別構成

	常滑	瀬戸	美濃	滋賀	山形	宮室	備前	東播	龜山	計
1面	点数	173	5	39	9	0	0	0	0	226
	百分率	76.55	2.21	17.26	3.98	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
2面	点数	456	13	79	27	1	0	0	0	576
	百分率	79.17	2.26	13.72	4.69	0.17	0.00	0.00	0.00	100.00
3面	点数	777	110	14	115	1	0	1	1,018	
	百分率	76.33	10.81	1.38	11.30	0.10	0.00	0.10	100.00	
4面	点数	169	41	1	15	0	0	0	0	226
	百分率	74.78	18.14	0.44	6.64	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
他	点数	89	5	20	3	0	1	0	0	118
	百分率	75.42	4.24	16.95	2.54	0.00	0.85	0.00	0.00	100.00
計	点数	1,664	174	153	169	2	1	1	1	2,164
	百分率	76.89	8.04	7.07	7.81	0.09	0.05	0.05	0.05	100.00

表3. 常滑器種別構成

	壺	甌	鉢	他	計
1面	点数	170	0	3	0 173
	百分率	98.27	0.00	1.73	0.00 100.00
2面	点数	430	2	24	0 456
	百分率	94.30	0.44	5.26	0.00 100.00
3面	点数	759	10	7	1 777
	百分率	97.66	1.29	0.90	0.13 100.00
4面	点数	166	3	0	0 169
	百分率	98.22	1.78	0.00	0.00 100.00
他	点数	81	1	7	0 89
	百分率	91.01	1.12	7.87	0.00 100.00
計	点数	1,806	16	41	1 1,664
	百分率	96.51	0.96	2.46	0.06 100.00

表4. かわらけ技法別構成

	ロクロ	手づくね	計
1面	点数	1,679	4 1,683
	百分率	99.76	0.24 100.00
2面	点数	5,925	27 5,952
	百分率	99.55	0.45 100.00
3面	点数	7,165	1,173 8,338
	百分率	86.42	13.58 100.00
4面	点数	532	1,018 1,550
	百分率	34.32	65.68 100.00
他	点数	490	55 545
	百分率	89.91	10.09 100.00
計	点数	16,091	2,277 18,368
	百分率	87.60	12.40 100.00

表5. 瀬戸器種別構成

	瓶	壺	鉢	碗	皿	鉢皿	香炉	入子	仏壇瓶	瓶	水注	その他	計
1面	点数	3	1	15	2	4	5	1	0	2	1	2	37
	百分率	8.11	2.70	40.54	5.41	10.81	13.51	2.70	0.00	5.41	2.70	2.70	100.00
2面	点数	2	2	38	7	11	3	0	4	1	0	4	72
	百分率	2.78	2.78	52.78	9.72	15.28	4.17	0.00	5.56	1.39	0.30	0.00	5.56 100.00
3面	点数	2	3	5	0	1	1	0	1	0	0	1	14
	百分率	14.29	21.43	35.71	0.00	7.14	7.14	0.00	7.14	0.00	0.00	7.14	0.00 100.00
4面	点数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	百分率	100.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00
他	点数	0	0	5	3	4	2	0	3	0	0	0	17
	百分率	0.00	0.00	29.41	17.65	23.53	11.76	0.00	17.65	0.00	0.00	0.00	0.00 100.00
計	点数	8	6	63	12	20	11	1	8	3	1	2	6 141
	百分率	5.67	4.26	44.68	8.51	14.18	7.80	0.71	5.67	2.13	0.71	1.42	4.26 100.00

表6. 貿易陶磁種別構成

	青磁	白磁	青白磁	施釉陶	計	
1面	点数	16	6	3	0	25
	百分率	64.00	24.00	12.00	0.00	100.00
2面	点数	32	7	6	1	46
	百分率	69.57	15.22	13.04	2.17	100.00
3面	点数	85	27	26	12	150
	百分率	56.67	18.00	17.33	8.00	100.00
4面	点数	52	8	1	0	61
	百分率	85.25	13.11	1.64	0.00	100.00
他	点数	14	3	0	0	17
	百分率	82.35	17.65	0.00	0.00	100.00
計	点数	199	51	36	13	299
	百分率	66.56	17.06	12.04	4.35	100.00

表7. 青磁器種別構成

	皿	碗	鉢	香炉	壺	その他	計	
1面	点数	0	15	1	0	0	0	16
	百分率	0.00	93.75	6.25	0.00	0.00	0.00	100.00
2面	点数	2	25	2	0	2	1	32
	百分率	6.25	78.13	6.25	0.00	6.25	3.13	100.00
3面	点数	8	73	3	0	0	1	85
	百分率	9.41	85.88	3.53	0.00	0.00	1.18	100.00
4面	点数	6	44	0	0	0	2	52
	百分率	11.54	84.62	0.00	0.00	0.00	3.85	100.00
他	点数	1	9	1	1	1	1	14
	百分率	7.14	64.29	7.14	7.14	7.14	7.14	100.00
計	点数	17	166	7	1	3	5	199
	百分率	8.54	83.42	3.52	0.50	1.51	2.51	100.00

表8. 青磁種別構成

	佛造文	描花文	蓬弁文	無文	明	不明他	計	
1面	点数	1	1	10	2	0	1	15
	百分率	6.67	6.67	66.67	13.33	0.00	6.67	100.00
2面	点数	3	5	10	0	4	3	25
	百分率	12.00	20.00	40.00	0.00	16.00	12.00	100.00
3面	点数	11	31	21	1	0	9	73
	百分率	15.07	42.47	28.77	1.37	0.00	12.33	100.00
4面	点数	15	16	6	2	0	5	44
	百分率	34.09	36.36	13.64	4.55	0.00	11.36	100.00
他	点数	2	2	4	1	0	0	9
	百分率	22.22	22.22	44.44	11.11	0.00	0.00	100.00
計	点数	32	55	51	6	4	18	166
	百分率	19.28	33.13	30.72	3.61	2.41	10.84	100.00

表9. 白磁器種別構成

	口元皿	口元碗	皿	碗	合子	四耳壺	その他	計	
1面	点数	4	0	0	1	0	0	1	6
	百分率	66.67	0.00	0.00	16.67	0.00	0.00	16.67	100.00
2面	点数	1	0	4	1	0	1	0	7
	百分率	14.29	0.00	57.14	14.29	0.00	14.29	0.00	100.00
3面	点数	0	1	2	7	2	9	0	27
	百分率	22.22	3.70	7.41	25.93	7.41	33.33	0.00	100.00
4面	点数	0	1	3	2	0	2	0	8
	百分率	0.00	12.50	37.50	25.00	0.00	25.00	0.00	100.00
他	点数	1	0	0	0	2	0	0	3
	百分率	33.33	0.00	0.00	0.00	66.67	0.00	0.00	100.00
計	点数	12	2	9	11	4	12	1	51
	百分率	23.53	3.92	17.65	21.57	7.84	23.53	1.96	100.00

第2節 中世以前

本調査地点では、中世遺構調査時の井戸2の掘り方壁面に中世以前にあたる、中世地山層の黒褐色粘質土から縄文時代海進期に形成された黄褐色砂層までの約1.5mほどの厚い堆積中に中世以前の遺物が認められていた。また中世遺構の覆土や各面包含層からも中世以前の遺物が散見されることから、遺構・遺物包含層の存在が推定されてので、トレンチを設定し層位別に掘り下げながら遺物の採集と、遺構確認をおこなった。その結果、粘質土層中からは明確な遺構は検出できず、南北トレンチ内から水路と覺しき砂層の落ち込みを確認するだけにとどまった。遺構の確認ができなかつた粘質土層について、花粉分析（プラントオーバル分析）を実施したところ、附編にあるような花粉化石分析の結果が得られ、水田耕作が行われていた可能性が指摘された。整理作業において改めて土層堆積の検討をしてみたが、水田跡や畔跡などの明確な遺構は観察することができなかった。

中世以前の遺物は、図69と表10・11に示したように破片数にして総数470点余り出土した。その内訳は土師器446点、須恵器23点、石製品1点である。遺物個々の特徴から古墳時代中期から平安時代までのものと思われるが、時期別に遺物量の多寡を確定するには至っていない。

遺物出土量の大多数を占めているのが土師器で全体の約95%にものぼり、残りの5%が須恵器であった。トレンチ内の出土層位別に遺物構成をグラフ化したのが図69-Bで、上層が15点・8%、下層が27点・15%と低い数値に比べて、中層からの出土遺物の割合が139点で95%と圧倒的に高い比率を示していることは非常に興味深い。

次に全体量の主流を占めている土師器の器種別組成について、各層位別にグラフ化したものが図69-Cである。トレンチ外の土師器を含めた全体の器種構成で最も多いのが壺で261点・59%、次いで高环が83点・19%、坏・碗が71点・16%、壺が25点・6%、この他に鉢が2点出土している。トレンチの層位別組成を見ると、出土比率は壺類が上層～下層ともあまり変化が認められないが、壺類は上層・下層からの比率が中層に比べ高い数値を示しており、逆に中層から出土した高环の占める割合が極めて高くなっている。

以上のように本調査地点では、中世以前の明確な遺構は検出できなかつたが、土師器には甲斐型系黑色土器と思われる坏、赤彩された高环や坏部に凸帶をもつ高环、S字台付壺、胴が球形を呈した壺などが見られた。出土遺物全体の傾向としては刷毛目や磨き、赤彩を施した古墳時代前期から中期を主体とする土師器類がもっとも多く認められた。

近年の調査で市域内から中世以前の遺構・遺物が多く発見されてきている。特に鎌倉郡衙と目される古代官衙遺構が発見された今小路西遺跡やその周辺地域から7世紀後葉から10世紀代に入る遺物がみられ、また海岸地帯を中心に古墳時代から平安時代にかけての堅穴住居や砂丘後背湿地堆積層に包含される遺物が確認されており、中世以前の海浜地域における人々の活動の痕跡を窺い知ることができるようになった。今後、本調査地点周辺の調査事例が増加すれば中世都市鎌倉の成立以前の様相が明らかになって来ることであろう。

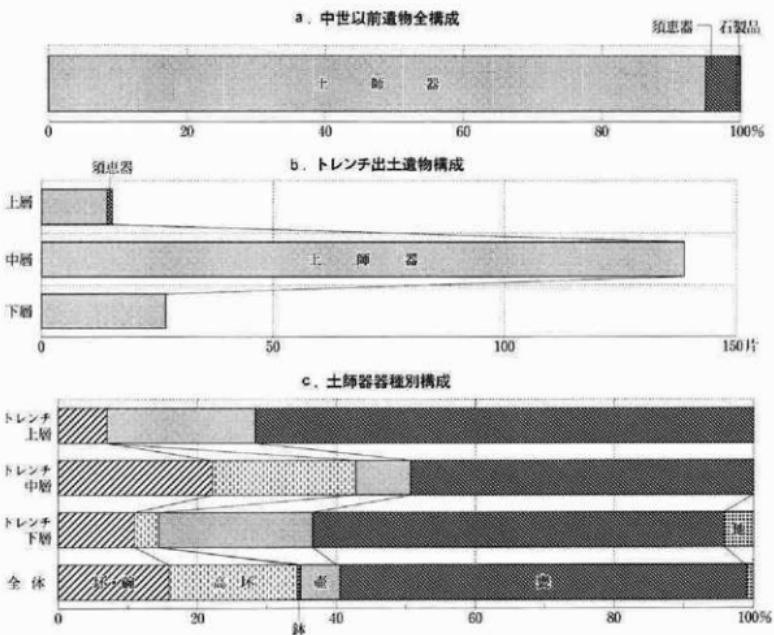


図69 遺物構成－中世以前－

表10. 中世以前遺物構成

	土師器	須恵器	石製品	計	
トレンチ 上層	点 数 百分率	14 93.33	1 6.67	0 0.00	15 100.00
トレンチ 中層	点 数 百分率	139 100.00	0 0.00	0 0.00	139 100.00
トレンチ 下層	点 数 百分率	27 100.00	0 0.00	0 0.00	27 100.00
他	点 数 百分率	266 92.04	22 7.61	1 0.35	289 100.00
計	点 数 百分率	446 94.89	23 4.89	1 0.22	470 100.00

表11. 土師器器種別構成

	环・碗	高环	鉢	壺	甕	その他	計	
トレンチ 上層	点 数 百分率	1 7.14	0 0.00	0 0.00	21.43 71.43	0.00 0.00	14 100.00	
トレンチ 中層	点 数 百分率	31 22.30	29 20.86	0 0.00	11 7.91	68 48.92	139 100.00	
トレンチ 下層	点 数 百分率	3 11.11	1 3.70	0 0.00	6 22.22	16 59.26	1 3.70	27 100.00
他	点 数 百分率	36 13.53	53 19.92	2 0.75	5 1.88	167 62.78	3 1.13	266 100.00
計	点 数 百分率	71 15.92	83 18.61	2 0.45	25 5.61	261 58.52	4 0.90	446 100.0

表12 出土遺物観察表 一中世一(1)

No	種別	観察項目						
1	かわらけ	法量	口径12.6cm	底径6.5cm	器高3.5cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	明褐色					微砂 雲母 白針 赤色粒
2	蔵石	法量	長径 1.8cm	短径 1.6cm	厚 0.5cm	色調	青黒色	
3	加工土丹	法量	長径 19.3cm	短径 7.5cm ~ 9.7cm	厚 6.9cm	備考	はねつるべの重り	
4	銘 元豐通宝	行書	北宋 初勝	1078年				
5	かわらけ	法量	口径 7.8cm	底径 5.1cm	器高 1.8cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡橙色					微砂 雲母 白針 赤色粒
6	かわらけ	法量	口径 11.7cm	底径 6.7cm	器高 3.2cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	橙色					微砂 雲母 白針 赤色粒
7	青磁無文碗	胎土	気孔多くややきめが粗い			色調	暗灰色	輪 灰緑色透明 貫入あり
8	瀬戸 磨	胎土	微砂	白色粒	色調	淡黃灰色	輪 緑黄色	貫入あり
9	かわらけ	法量	口径 12.8cm	底径 7.7cm	器高 3.6cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	橙色					微砂 雲母 白針 土丹粒
10	瀬戸 鉢皿	胎土	微砂	色調	黄白色	輪 緑黄色		
11	常滑 瓢	法量	縦帶幅 4.6cm			胎土	砂粒	長石粒 石英粒 色調 明赤褐色 芯 灰黑色
12	かわらけ	法量	口径 6.8cm	底径 4.8cm	器高 2.0cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	明橙色					微砂 雲母 白針 赤色粒
13	瀬戸	胎土	微砂	色調	淡灰色	輪 緑黄色		
14	かわらけ	法量	口径 7.9cm	底径 5.0cm	器高 1.7cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡明橙色					微砂 雲母 白針 赤色粒
15	かわらけ	法量	口径 7.0cm	底径 4.5cm	器高 1.6cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡褐色					微砂 雲母 白針 赤色粒
16	かわらけ	法量	口径 12.0cm	底径 7.1cm	器高 3.0cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	赤色					微砂 雲母 白針 土丹粒
17	かわらけ	法量	口径 12.2cm	底径 7.2cm	器高 3.6cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	明赤色					微砂 雲母 白針 土丹粒
18	かわらけ	法量	口径 12.3cm	底径 8.3cm	器高 3.3cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡赤色					微砂 雲母 白針 土丹粒
19	手焼き	胎土	砂粒	白針	白色粒	赤色粒	五質	色調 明淡赤褐色 芯 灰褐色
20	砥石 中砥	法量	残長 13.0cm	幅 3.5cm	厚 3.2cm	色調	費灰色 + 明黄赤褐色	備考 滅岩質
21	かわらけ	法量	口径 13.0cm	底径 5.9cm	器高 2.2cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	橙色					微砂 雲母 白針 小石
22	かわらけ	法量	口径 7.0cm	底径 4.9cm	器高 2.5cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡橙色					微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
23	手焼き	胎土	砂粒	雲母	小石	赤色粒	真質	色調 黒灰色 芯 灰色 備考 器表が荒れている
24	かわらけ	法量	口径 9.0cm	底径 6.2cm	器高 2.4cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡橙白色					微砂 雲母 白針 小石
25	かわらけ	法量	口径 6.6cm	底径 4.8cm	器高 2.6cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	淡橙色					微砂 雲母 白針 小石
26	山茶瓶窓跡	胎土	砂粒	石英粒	雲母	小石	色調	暗灰色
27	かわらけ	法量	口径 5.0cm	底径 4.9cm	器高 1.3cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	茶白色					微砂 雲母 白針 黒色粒
28	瀬戸香か?	胎土	微砂	色調	淡黄灰色	輪 緑黄色		
29	かわらけ	法量	口径 3.8cm	底径 3.5cm	器高 0.8cm	成形	ロクロ	胎土
		色調	橙灰色					微砂 雲母 白針 小石
30	瀬戸鉢皿	胎土	微砂	色調	淡黄灰色	輪 緑黄色		

(2)

No	種別	観察項目					
31	温石	法量	幅9.7cm	備考	幅中央に約0.6cmの穿孔	表面とも剥離	
32	香炉 脚	胎土	微砂 雲母 白針 黒色粒	かわらけ質	色調	淡褐色	
33	白磁 口元皿	胎土	緻密	色調	灰白色	胎	淡灰绿色半透明
34	かわらけ	法量	口径8.2cm 底径6.0cm	器高2.4cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 橙灰色
35	かわらけ	法量	口径6.2cm 底径3.9cm	器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡灰黄色
36	かわらけ	法量	口径7.0cm 底径4.3cm	器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡灰黄色
37	かわらけ	法量	口径6.9cm 底径5.1cm	器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 暗赤灰色 備考 灯明皿として使用か?
38	かわらけ	法量	口径9.8cm 底径6.7cm	器高2.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 暗黄灰色 備考 灯明皿として使用か?
39	青磁無文碗	胎土	ややきめが粗い	色調	灰白色	釉	明緑色半透明
40	青磁 瓢	胎土	微砂	色調	淡灰白色	釉	青緑色透明 備考 外面 通弁文
41	白磁 口元皿	胎土	緻密	色調	灰白色	胎	淡灰白色半透明
42	白磁 口元皿	胎土	気孔や多くきめが粗い	色調	灰白色	釉	淡青灰色半透明
43	瀬戸 瓢	胎土	堅滑	色調	暗灰色	胎	灰绿色
44	瀬戸鉄輪瓢	胎土	砂粒多い	色調	灰白色	胎	茶褐色～黒色
45	瀬戸 洗	法量	口径24.4cm	胎土	砂粒多くややきめが粗い	色調	黄灰色 胎 暗緑色
46	瀬戸 洗	法量	口径20.3cm	胎土	砂粒多くややきめが粗い	色調	暗黄褐色 胎 暗灰緑色 備考 内外面共にスヌが付着
47	手焼	胎土	砂粒 小石 長石粒	色調	赤色粒 瓦質	胎	赤味がかった暗灰色
48	砥石仕上瓶	法量	残長2.3cm 幅2.4cm 厚0.5cm	色調	暗桃色	備考	剥離しているため使用痕は上面のみ
49	砥石中紙	法量	残長11.9cm 幅4.4cm 厚3.4cm	色調	緑がかかった灰白色	備考	各面を使用 上面にやや深い切込み痕 泥岩質
50	かわらけ	法量	口径5.6cm 底径3.9cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
51	かわらけ	法量	口径5.8cm 底径4.2cm	器高1.65cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
52	かわらけ	法量	口径6.0cm 底径3.8cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
53	かわらけ	法量	口径6.1cm 底径3.9cm	器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
54	かわらけ	法量	口径6.2cm 底径4.4cm	器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡褐色
55	かわらけ	法量	口径6.6cm 底径4.4cm	器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡褐色
56	かわらけ	法量	口径7.0cm 底径4.0cm	器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
57	かわらけ	法量	口径6.8cm 底径5.0cm	器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
58	かわらけ	法量	口径8.5cm 底径5.4cm	器高2.5cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 褐色
59	かわらけ	法量	口径9.9cm 底径6.6cm	器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
60	かわらけ	法量	口径10.9cm 底径7.1cm	器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗褐色

(3)

No	種別	調査項目					
61	瀬戸縦輪皿	法量	口径9.8cm 底径3.8cm 器高2.1cm	胎土	砂粒	気孔や多いがきめ細かい	
		色調	黄灰色 軸 暗緑色				
62	瀬戸碗	胎土	きめ細かい	色調	灰白色	軸	灰緑色
63	常滑甕	法量	縦帶幅4.4cm	胎土	微砂 長石粒 石英粒	色調	淡赤褐色 色 灰褐色
64	かわらけ	法量	口径5.4cm 底径3.7cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 上丹粒
		色調	橙色				
65	かわらけ	法量	口径5.9cm 底径4.3cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	橙色				
66	かわらけ	法量	口径5.7cm 底径4.2cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 白色粒
		色調	淡橙色				
67	かわらけ	法量	口径7.0cm 底径4.6cm 器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	明橙色				
68	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.2cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	淡橙色				
69	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径5.5cm 器高2.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	明橙色				
70	かわらけ	法量	口径10.6cm 底径7.2cm 器高2.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	橙色				
71	かわらけ	法量	口径11.7cm 底径6.4cm 器高3.4cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	明橙色				
72	かわらけ	法量	口径12.4cm 底径7.5cm 器高3.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	橙色				
73	瀬戸折線鉢	法量	口径26.4cm	胎土	緻密	色調	灰白色 軸 淡灰緑色
74	瀬戸皿	法量	口径10.5cm	胎土	緻密	色調	暗灰色
75	常滑甕	法量	縦帶幅4.2cm	胎土	砂粒 長石 石英粒	色調	暗赤褐色 色 灰色
76	常滑甕	法量	縦帶幅4.7cm	胎土	砂粒 長石 英石英粒	色調	赤褐色 色 灰茶褐色
77	手焼り	法量	口径39.0cm 高台径33.0cm 底径32.4cm 器高15.4cm	胎土	黑色粒 白色粒 瓦質	色調	灰黒色 色 灰白色 備考 口縁下底部付近 上下沈線 連續菊文押印
78	瓦製品 灯明台	法量	口径4.5cm～4.8cm 孔径2.4cm～2.6cm	胎土	黑色粒 白色粒	色調	暗灰色 色 暗淡橙色
		備考	外縁に0.5cmのヘラミキ 黒色處理				
79	石白	厚	10.0cm				
80	かわらけ	法量	口径6.9cm 底径5.4cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	暗橙色				
81	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径5.1cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	淡橙色				
82	かわらけ	法量	口径6.9cm 底径5.1cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針
		色調	橙色				
83	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.9cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針
		色調	淡褐色				
84	かわらけ	法量	口径7.6cm 底径4.5cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針
		色調	橙色				
85	瀬戸 天目茶碗	法量	口径10.8cm	胎土	緻密	色調	灰白色 軸 茶褐色～黒色
86	瀬戸碗	胎土	きめ細かい	色調	灰白色	軸	灰緑色
87	瀬戸 縦輪皿	法量	口径11.5cm 底径5.9cm 器高2.8cm	胎土	砂粒や多いが緻密	色調	灰白色 軸 淡灰緑色～ 緑色 蘭胎部 暗黃褐色
88	瀬戸 折線鉢	胎土	砂粒多くやきめが粗い	色調	黄白色 軸 灰緑色 ムラがある		

(4)

No.	種別	観察項目					
89	山茶碗窯 鉢	胎土	砂粒	白色粒	色調	灰色	
90	山茶碗窯 鉢	胎土	砂粒	白色粒	色調	灰色	
91	常滑 瓢	法量	口径36.7cm	縁帶幅4.1cm	胎土	砂粒	長石粒 石英粒 鉄分 色調 明赤灰色 志 暗灰色
92	常滑 瓢	法量	縁帶幅4.3cm	胎土	砂粒	長石粒 石英粒	色調 明赤灰色 志 黄灰色+黒褐色
93	常滑 瓢	法量	縁帶幅4.1cm	胎土	砂粒	長石粒 石英粒	色調 明赤灰色 志 暗灰色
94	手焼り	胎土	砂粒	白色粒	瓦質	色調	黒褐色 志 灰白色 備考 口縁付近に菊花文スタンプ
95	手焼り	胎土	砂粒	瓦質	色調	黒褐色 志 灰白色 備考 外面 ノミ状工具ヨミガキ 口縁下不明線文様 押印 上下に一条の沈線 下に珠文	
96	転用滑石	法量	底長5.5cm	幅4.3cm	厚1.6cm	備考	側面に径0.4cmの穿孔 深0.2cmのV字状削痕 片面に不明刻印
97	砥 石 仕上げ砥	法量	底長4.2cm	幅3.0cm	厚0.7cm	色調	淡黄褐色
98	転用陶片	法量	長6.7cm	幅5.2cm	厚1.3cm	備考	常滑型を転用
99	かわらけ	法量	口径4.2cm	底径3.9cm	器高1.4cm	成形	ロクロ 内折れ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 淡明褐色
100	かわらけ	法量	口径6.4cm	底径4.3cm	器高2.1cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
101	かわらけ	法量	口径6.5cm	底径4.4cm	器高2.1cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 橙色
102	かわらけ	法量	口径6.6cm	底径4.8cm	器高2.7cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
103	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径4.9cm	器高2.1cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 白色粒 色調 橙色
104	かわらけ	法量	口径6.9cm	底径4.0cm	器高2.2cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 色調 淡橙色
105	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径4.5cm	器高2.0cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 色調 橙色
106	かわらけ	法量	口径6.1cm	底径4.1cm	器高2.3cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 色調 淡橙色
107	かわらけ	法量	口径11.6cm	底径8.3cm	器高2.85cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 淡黄褐色
108	瀬戸 折縁鉢	法量	口径34.0cm	胎土	緻密	色調	灰白色 輪 灰綠黄色
109	備前 摺鉢	法量	口径33.8cm	成形	外面タテヘラナデ	胎土	砂粒 白色粒 鉄分 色調 暗赤褐色 志 暗灰色
110	常滑 鉢	法量	底径11.2cm	成形	外面タテヘラナデ	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 色調 暗赤褐色 志 明赤褐色 備考 外底砂目
111	跨 瓢	胎土	微砂	白色粒	色調	淡黃褐色	
112	土 瓢	法量	口径13.1cm	胎土	粗砂	色調	淡黃褐色
113	かわらけ	法量	口径6.6cm	底径5.1cm	器高2.1cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 橙色
114	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径4.1cm	器高2.35cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 霧母 白針 赤色粒 色調 橙色

(5)

No.	種別	規 格	密 度	項 目
115	かわらけ	法量 色調 口径7.1cm 底径4.9cm 器高2.2cm 橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
116	かわらけ	法量 色調 口径7.0cm 底径4.7cm 器高2.2cm 淡橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
117	かわらけ	法量 色調 口径7.2cm 底径5.2cm 器高2.0cm 淡暗褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
118	かわらけ	法量 色調 口径7.1cm 底径4.4cm 器高2.2cm 橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
119	かわらけ	法量 色調 口径7.2cm 底径5.0cm 器高2.0cm 淡橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
120	かわらけ	法量 色調 口径7.2cm 底径4.8cm 器高2.4cm 淡明褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
121	かわらけ	法量 色調 口径7.3cm 底径4.7cm 器高2.2cm 淡棕色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
122	かわらけ	法量 色調 口径7.6cm 底径5.3cm 器高2.35cm 淡褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
123	かわらけ	法量 色調 口径7.8cm 底径5.2cm 器高2.5cm 褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
124	かわらけ	法量 色調 口径8.0cm 底径5.2cm 器高2.65cm 淡棕色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
125	かわらけ	法量 色調 口径8.0cm 底径4.5cm 器高2.6cm 淡黄褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
126	かわらけ	法量 色調 口径11.3cm 底径7.2cm 器高2.8cm 暗褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒
127	かわらけ	法量 色調 口径11.7cm 底径7.0cm 器高3.3cm 暗赤褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
128	かわらけ	法量 色調 口径10.9cm 底径7.6cm 器高3.2cm 暗褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
129	かわらけ	法量 色調 口径12.0cm 底径7.6cm 器高3.25cm 灰褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
130	かわらけ	法量 色調 口径11.5cm 底径7.7cm 器高3.5cm 淡棕色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
131	かわらけ	法量 色調 口径12.2cm 底径7.8cm 器高3.6cm 褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
132	青磁 瓶	法量 参考 高台径5.5cm 胎土 ややきめが粗い 内底面1.3cm幅で蛇ノ目状に釉が盛り取られる	色調 暗灰色 釉 淡灰綠色透明 買入あり	
133	土 瓶	法量 口径13.1cm	胎土 粗砂	色調 淡黃棕色
134	かわらけ	法量 色調 口径7.6cm 底径4.3cm 器高2.0cm 褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
135	かわらけ	法量 色調 口径7.4cm 底径4.6cm 器高2.3cm 明淡橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
136	かわらけ	法量 色調 口径7.3cm 底径5.0cm 器高2.6cm 橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
137	かわらけ	法量 色調 口径9.3cm 底径6.1cm 器高2.8cm 橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
138	かわらけ	法量 色調 口径11.4cm 底径7.2cm 器高3.4cm 淡橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
139	かわらけ	法量 色調 口径13.1cm 底径9.0cm 器高3.6cm 褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒

(6)

No.	種別	観察項目					
140	瀬戸 錦	法量	口径19.4cm	胎土	きめ細かい	色調	暗灰色
141	常滑 茶	成形	外面タテヘラナデ	胎土	砂粒	長石粒	石英粒
142	窯 瓷	胎土	粗砂	白色粒	赤色粒	色調	赤褐色
143	銘 開元通宝	楷書	唐	初説	621年		
144	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径5.0cm	器高2.2cm	成形	ロクロ
		色調	明褐色	備考	灯明皿	胎土	微砂
145	かわらけ	法量	口径6.6cm	底径4.3cm	器高2.4cm	成形	ロクロ
		色調	橙色			胎土	微砂
146	かわらけ	法量	口径7.5cm	底径4.6cm	器高2.3cm	成形	ロクロ
		色調	橙色			胎土	微砂
147	かわらけ	法量	口径12.4cm	底径8.3cm	器高2.8cm	成形	ロクロ
		色調	淡赤褐色			胎土	微砂
148	かわらけ	法量	口径12.0cm	底径7.8cm	器高2.9cm	成形	ロクロ
		色調	淡橙色	備考	内面に擦痕	胎土	微砂
149	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径5.2cm	器高1.7cm	成形	ロクロ
		色調	明褐色			胎土	微砂
150	かわらけ	法量	口径10.2cm	底径7.0cm	器高2.6cm	成形	ロクロ
		色調	淡明橙色			胎土	微砂
151	かわらけ	法量	口径11.7cm	底径6.5cm	器高3.2cm	成形	ロクロ
		色調	淡黄橙色			胎土	微砂
152	白磁 磁	法量	口径10.4cm	胎土	微砂	色調	白色～乳白色
							釉
153	青磁 磁	法量	口径14.0cm	胎土	微砂	色調	淡灰白色
		文					釉
						備考	淡灰綠色透明
							同安鑑系
							外面に掃描
154	常滑 豊	法量	縦帯幅2.7cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒
155	常滑 豊	法量	縦帯幅5.2cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒
156	かわらけ	法量	口径5.8cm	底径4.4cm	器高1.8cm	成形	ロクロ
		色調	暗赤灰色			胎土	微砂
157	かわらけ	法量	口径7.8cm	底径5.0cm	器高2.0cm	成形	ロクロ
		色調	赤灰色			胎土	微砂
158	かわらけ	法量	口径8.3cm	底径5.6cm	器高2.0cm	成形	ロクロ
		色調	赤灰色			胎土	微砂
159	かわらけ	法量	口径7.6cm	底径5.1cm	器高2.1cm	成形	ロクロ
		色調	赤灰色			胎土	微砂
160	かわらけ	法量	口径10.3cm	底径7.0cm	器高3.0cm	成形	ロクロ
		色調	黄味がかった淡赤灰色			胎土	微砂
161	かわらけ	法量	口径10.0cm	底径6.2cm	器高2.9cm	成形	ロクロ
		色調	赤灰色			胎土	微砂
162	かわらけ	法量	口径12.0cm	底径8.1cm	器高3.5cm	成形	ロクロ
		色調	淡赤灰色			胎土	微砂
163	かわらけ	法量	口径9.7cm	底径6.3cm	器高2.9cm	成形	ロクロ
		色調	淡赤灰白色			胎土	微砂
164	かわらけ	法量	口径13.8cm	底径9.0cm	器高3.9cm	成形	ロクロ
		色調	淡棕灰色			胎土	微砂
165	山茶碗窓 皿	法量	底径6.3cm	成形	底部糸切り	胎土	白色粒
						備考	南部系
166	萩 石	法量	長径1.65cm	短径1.6cm	厚0.7cm	色調	青黒色

(7)

No	種別	観察項目				
167	萩石	法量	長径1.6cm 厚0.7cm	色調	青黒色	
168	萩石	法量	長径1.7cm 短径1.2cm 厚0.4cm	色調	青黒色	
169	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径4.8cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 檬色
170	かわらけ	法量	口径7.6cm 底径4.8cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明褐色
171	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径5.2cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗赤灰色
172	かわらけ	法量	口径7.9cm 底径5.2cm 器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗淡橙色
173	かわらけ	法量	口径7.5cm 底径4.4cm 器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明橙色
174	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.1cm 器高2.25cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 土丹粒 色調 淡褐色
175	かわらけ	法量	口径10.8cm 底径5.8cm 器高3.15cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
176	かわらけ	法量	口径12.8cm 底径7.4cm 器高3.55cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 土丹粒 色調 淡赤灰色
177	かわらけ	法量	口径13.0cm 底径7.6cm 器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明橙色
178	かわらけ	法量	口径13.7cm 底径8.1cm 器高3.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡赤灰色
179	かわらけ	法量	口径13.7cm 底径8.1cm 器高3.2cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒 色調 檬色
180	手焼り	胎土	砂粒 小石 赤色粒 瓦質	色調	灰色	芯 灰白色
181	かわらけ	法量	口径6.1cm 底径3.9cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 檬色
182	常滑 磁	法量	輪帶幅4.5cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 小石	色調 灰色芯 灰白色
183	瀬戸 平瓶	法量	口径11.9cm	胎土	微砂 白色粒	色調 黄白色 軸 黑茶色
184	かわらけ	法量	口径6.6cm 底径4.5cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 檬色
185	かわらけ	法量	口径7.1cm 底径4.9cm 器高2.4cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
186	瀬戸 天目茶碗	法量	口径14.4cm	胎土	微砂 白色粒	色調 淡灰色 軸 緑黄色 参考 外面露胎部 赤褐色
187	瀬戸 盆	胎土	微砂	色調	淡灰色 軸 緑黄色	買入あり
188	かわらけ	法量	口径6.9cm 底径5.1cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 色調 黄灰色
189	山茶碗	法量	高台径4.7cm	成形	底部糸切り 貼付け高台	胎土 胎と夾雜物の無い精良土 色調 灰白色 参考 北部径 高台豈付部切ガラ裏
190	かわらけ	法量	口径7.5cm 底径4.5cm 器高2.4cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 外面 暗橙色 内面 糸灰色 参考 灯明皿として使用か
191	山茶碗	胎土	胎と夾雜物の無い精良土	色調	淡灰白色	参考 北部糸
192	かわらけ	法量	口径3.5cm 底径2.7cm 器高1.4cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 檬色
193	かわらけ	法量	口径6.7cm 底径5.2cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
194	かわらけ	法量	口径7.3cm 底径4.2cm 器高2.4cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 檬色

(8)

No.	種別	調査項目					
195	かわらけ	法量	口径7.5cm 底径4.4cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明橙色
196	かわらけ	法量	口径7.7cm 底径5.3cm 器高2.4cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗橙色
197	かわらけ	法量	口径5.4cm 底径4.3cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 橙色
198	かわらけ	法量	口径6.7cm 底径4.0cm 器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 棕灰色
199	かわらけ	法量	口径7.2cm 底径5.0cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 香味もった黄灰色
200	かわらけ	法量	口径7.2cm 底径4.4cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗橙色
201	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.1cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 暗橙色
202	かわらけ	法量	口径5.5cm 底径3.8cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 橙色
203	かわらけ	法量	口径6.8cm 底径5.0cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 黄灰色
204	かわらけ	法量	口径7.2cm 底径4.6cm 器高2.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 橙色
205	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径5.6cm 器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 淡茶灰色
206	かわらけ	法量	口径8.0cm 底径5.1cm 器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
207	かわらけ	法量	口径5.9cm 底径5.6cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 黒色粒 小石 色調 黄灰色
208	かわらけ	法量	口径6.9cm 底径4.8cm 器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗橙色
209	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径5.4cm 器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 黑色粒 小石 色調 黄灰色
210	かわらけ	法量	口径7.3cm 底径4.4cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙灰色
211	かわらけ	法量	口径7.5cm 底径4.5cm 器高2.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄橙色
212	かわらけ	法量	口径5.9cm 底径4.1cm 器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 橙色
213	かわらけ	法量	口径6.9cm 底径3.9cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
214	かわらけ	法量	口径7.2cm 底径4.6cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙白色
215	かわらけ	法量	口径7.6cm 底径5.4cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 黄灰色
216	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径6.0cm 器高2.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗橙色
217	かわらけ	法量	口径6.7cm 底径3.5cm 器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗橙色
218	かわらけ	法量	口径7.1cm 底径5.2cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 淡橙白色

(9)

No.	種別	観察項目					
219	かわらけ	法量 色調	口径7.6cm 淡橙色	底径5.4cm 底径4.7cm	器高1.6cm 器高2.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
220	かわらけ	法量 色調	口径7.8cm 淡灰灰色	底径4.7cm 底径4.5cm	器高2.2cm 器高2.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
221	かわらけ	法量 色調	口径8.7cm 淡桔灰色	底径5.5cm 底径5.3cm	器高2.4cm 器高2.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
222	かわらけ	法量 色調	口径9.3cm 赤灰色	底径6.0cm 底径5.8cm	器高2.9cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
223	かわらけ	法量 色調	口径9.6cm 黄灰色	底径6.0cm 底径5.9cm	器高2.9cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 黑色粒
224	かわらけ	法量 色調	口径11.0cm 暗橙色	底径6.4cm 底径6.2cm	器高3.2cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
225	かわらけ	法量 色調	口径11.7cm 黄灰色	底径7.0cm 底径6.8cm	器高3.0cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
226	かわらけ	法量 色調	口径9.3cm 赤灰色	底径5.9cm 底径5.7cm	器高2.6cm 器高2.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
227	かわらけ	法量 色調	口径9.8cm 赤灰色	底径5.7cm 底径5.5cm	器高2.8cm 器高2.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
228	かわらけ	法量 色調	口径10.6cm 暗橙色	底径5.5cm 底径5.3cm	器高3.0cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
229	かわらけ	法量 色調	口径11.7cm 淡桔灰色	底径6.7cm 底径6.5cm	器高3.0cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
230	かわらけ	法量 色調	口径10.7cm 淡桔灰色	底径6.8cm 底径6.6cm	器高3.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
231	かわらけ	法量 色調	口径10.7cm 淡橙色	底径5.3cm 底径5.1cm	器高2.7cm 器高2.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
232	かわらけ	法量 色調	口径11.3cm 暗橙色	底径7.3cm 底径7.1cm	器高3.2cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
233	かわらけ	法量 色調	口径11.3cm 橙色	底径6.9cm 底径6.7cm	器高3.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
234	かわらけ	法量 色調	口径11.9cm 橙色	底径7.2cm 底径7.0cm	器高3.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 黑色粒
235	かわらけ	法量 色調	口径11.7cm 茶白色	底径6.1cm 底径5.9cm	器高3.6cm 器高3.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
236	かわらけ	法量 色調	口径12.1cm 黄灰色	底径7.6cm 底径7.4cm	器高3.5cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
237	かわらけ	法量 色調	口径12.7cm 淡黄灰色	底径7.5cm 底径7.3cm	器高3.0cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
238	かわらけ	法量 色調	口径12.8cm 桔色	底径6.5cm 底径6.3cm	器高3.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
239	かわらけ	法量 色調	口径12.6cm 明赤灰色	底径8.0cm 底径7.8cm	器高3.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
240	かわらけ	法量 色調	口径13.1cm 淡橙色	底径8.2cm 底径8.0cm	器高2.9cm 器高2.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
241	かわらけ	法量 色調	口径13.0cm 淡黄灰色	底径8.2cm 底径8.0cm	器高3.6cm 器高3.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
242	かわらけ	法量 色調	口径13.6cm 明橙色	底径8.7cm 底径8.5cm	器高3.7cm 器高3.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石

(10)

No.	種別	観察項目						
243	かわらけ	法量	口徑13.7cm 底径7.3cm 高さ3.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石	色調 暗黄灰色
244	かわらけ	法量	口徑13.9cm 底径7.6cm 高さ3.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石	色調 淡赤灰色
245	かわらけ	法量	口徑13.7cm 底径6.8cm 高さ4.1cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄褐色
246	青磁 碗	法量	底径5.6cm 胎土 繊密 精良土	色調	暗灰色	釉	淡灰綠色失透	備考 内底に草花文 明
247	青磁 碗	胎土	微砂	色調	淡灰色	釉	淡灰綠色透明	備考 刻文花 府草文とおぼしき文様
248	青磁 碗	胎土	繊密	色調	灰白色	釉	灰綠色透明	貫入あり
249	青磁 無文碗	胎土	ややきめが粗い	色調	灰白色	釉	淡青色失透	
250	白磁 瓢	胎土	繊密	色調	黃白色	釉	白色失透 贯入あり	備考 口縁部が波状になる 内面の口縁直下に珠文が壓押しきれる
251	白磁 口丸皿	法量	底径7.6cm 胎土 繊密	色調	白色	釉	灰白色半透明	備考 外底 釉削り取り
252	瀬戸 天目茶碗	胎土	砂粒多くきめが粗い	色調	黃白色	釉	黒褐色	
253	瀬戸 瓢	胎土	砂粒多くややきめが粗い	色調	灰色	釉	暗緑黄色	
254	瀬戸 緑釉皿	胎土	砂粒やや多いきめが細かい	色調	黃灰色	釉	明灰緑色	
255	瀬戸 瓢	胎土	繊密	色調	暗灰色	釉	灰綠色	
256	瀬戸 瓢	法量	底径5.2cm 胎土 繊密	色調	暗黃灰色～暗灰色	釉	暗灰綠色	
257	瀬戸 折縁鉢	法量	口徑27.6cm 胎土 砂粒多くややきめが粗い	色調	淡黃灰色	釉	灰綠色	備考 内面に若干擦き痕か?
258	瀬戸 折縁鉢	法量	口徑27.0cm 胎土 繊密	色調	灰褐色	釉	淡黃灰色	
259	瀬戸 折縁鉢	胎土	砂粒多くきめが粗い	色調	淡橙色	無釉		
260	瀬戸 折縁鉢	胎土	砂粒 大きくきめが粗い	色調	黃灰色	釉	黃白色	
261	瀬戸 鉢	法量	口徑27.4cm 胎土 砂粒やや多いきめが細かい	色調	黃灰色～灰色	釉	灰綠色	
262	瀬戸 盆	法量	底径12.0cm 胎土 繊密	色調	黃灰色	釉	暗灰綠色	備考 内底面に雜な搔き取り痕
263	瀬戸 加皿	胎土	砂粒やや多いきめが細かい	色調	灰白色	釉	明灰綠色	
264	瀬戸 入子	法量	底径6.2cm 胎土 砂粒やや多いきめが細かい	色調	暗灰色	釉	暗灰綠色	
265	瀬戸 入子	法量	口徑6.3cm 底径4.0cm 高さ2.6cm	胎土	繊密	色調	暗灰白色	無釉
266	瀬戸 入子	法量	底径3.8cm 胎土 繊密	色調	暗乳白色	無釉		
267	深美 鉢	胎土	砂粒 雲母 赤色粒	色調	暗灰色			
268	常滑 鉢	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	色調	茶灰色	芯	暗灰色	
269	常滑 鉢	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 小石	色調	暗茶灰色	芯	暗灰色	
270	常滑 鉢	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	色調	白色粒	無釉		
271	常滑 鉢	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 雲母 小石	色調	暗赤褐色	芯	暗灰色	
272	常滑 鉢	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 雲母 小石	色調	褐色			
273	常滑 鉢	成形	外面タヘラナデ	胎土	砂粒 石英粒 白色粒	色調	褐色 芯 暗黃灰色	備考 外底砂目

(11)

No	種別	観察項目						
274	常滑鉢	法量	底径13.0cm	成形	外面タテヘラナデ	胎土	砂粒	長石粒 石英粒 白色粒
		芯	灰色					色調 淡褐色
		備考	外底砂目					
275	常滑鉢	法量	底径13.4cm	成形	外面タテヘラナデ	胎土	砂粒	白色粒(最大0.8cmくらい) 精良土
		色調	暗赤褐色	芯	暗褐色			
		備考	外底砂目					
276	常滑甕	法量	縁帶幅5.0cm	胎土	砂粒	長石粒 石英粒	雲母	色調 暗赤灰色 芯 暗灰色
277	常滑甕	法量	縁帶幅5.4cm	胎土	砂粒	白色粒		色調 赤褐色 芯 暗灰色
278	常滑甕	法量	縁帶幅4.3cm	胎土	砂粒	雲母	白色粒	色調 暗赤灰色 芯 暗褐色
279	山茶觀音鉢	胎土	砂粒	長石粒	白色粒			色調 灰色~暗灰色
280	山茶觀音鉢	法量	12.0cm	胎土	砂粒	白色粒		色調 灰色
281	圓美鉢	胎土	砂粒	雲母	白色粒	精良土		色調 灰色
282	常滑甕	法量	口径43.8cm	縁帶幅4.5cm	胎土	砂粒	長石粒 石英粒	雲母 色調 茶色 芯 暗灰色
283	常滑甕	法量	縁帶幅4.7cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	色調 赤褐色 芯 暗灰色
284	常滑甕	法量	縁帶幅4.5cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	雲母 色調 赤褐色 芯 暗灰色
285	常滑甕	法量	縁帶幅4.4cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	色調 赤褐色 芯 暗灰色
286	常滑甕	法量	縁帶幅5.2cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	雲母 色調 赤褐色 芯 暗灰色
287	常滑甕	法量	縁帶幅5.5cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	白色粒 色調 赤褐色 芯 暗灰色
288	常滑甕	法量	縁帶幅4.5cm	胎土	砂粒	長石粒	雲母	赤色粒 小石 色調 暗赤灰色 芯 暗褐色
289	常滑甕	法量	底径24.0cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	雲母 色調 暗赤褐色 芯 暗灰色 備考 外底砂目
290	常滑甕	法量	底径19.8cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	雲母 色調 橙灰色 芯 暗褐色 備考 外底砂目
291	手焼り	胎土	砂粒	小石	黑色粒	瓦質		色調 やや赤味がかった灰白色
292	手焼り	胎土	砂粒	小石	瓦質			色調 灰色
293	手焼り	法量	口径19.9cm	成形	内面上方より外面にかけてヨコヘラナデ	胎土	砂粒	小石 白色粒 瓦器質
		色調	灰黑色	芯	赤味がかった灰白色			
294	土鍤	法量	長3.0cm	最大径1.2cm				
295	鏡	法量	幅4.7cm	厚1.2cm	色調	暗赤褐色	備考	粘板岩製
296	転用滑石	法量	厚2.2cm		備考	深さ0.5cm程度のV字状切り込み数本		
297	碁石	法量	径2.0cm	厚0.4cm	色調	青黒色		
298	碁石	法量	長径1.7cm	短径1.3cm	厚0.45cm			色調 青黒色
299	碁石	法量	長径2.9cm	短径2.5cm	厚0.7cm			色調 青黒色
300	銭 皇宋通宝	篆書	北宋	初鑄	1039年			
301	かわらけ	法量	口径5.8cm	底径4.3cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色					
302	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径5.9cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	暗黃灰色					
303	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径4.7cm	器高2.1cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	暗黃灰色					
304	かわらけ	法量	口径6.8cm	底径5.0cm	器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	暗黃灰色					
305	かわらけ	法量	口径7.1cm	底径5.4cm	器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙灰色					

(12)

No	種別	観察項目						
306	かわらけ	法量	口径7.2cm	底径4.4cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	黄灰色					
307	かわらけ	法量	口径7.2cm	底径5.7cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
		色調	淡黄灰色					
308	かわらけ	法量	口径7.2cm	底径5.4cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	淡黄褐色					
309	かわらけ	法量	口径7.2cm	底径5.3cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	黄灰色					
310	かわらけ	法量	口径7.2cm	底径4.8cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	橙色					
311	かわらけ	法量	口径7.4cm	底径4.6cm	器高2.3cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 土丹粒
		色調	橙色					
312	かわらけ	法量	口径7.3cm	底径5.6cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	淡橙灰色					
313	かわらけ	法量	口径7.7cm	底径5.0cm	器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	淡褐色					
314	かわらけ	法量	口径7.7cm	底径5.5cm	器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	黄味がかった赤灰色					
315	かわらけ	法量	口径7.6cm	底径5.0cm	器高1.65cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
		色調	淡黄灰色					
316	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径5.1cm	器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙灰色 備考 灯明皿					
317	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径6.5cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	暗黄灰色					
318	かわらけ	法量	口径8.2cm	底径6.0cm	器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	赤味がかった暗黄灰色					
319	かわらけ	法量	口径8.2cm	底径6.3cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	淡橙灰色					
320	かわらけ	法量	口径8.3cm	底径6.5cm	器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	橙灰色					
321	かわらけ 砂質	法量	口径8.9cm	底径7.7cm	器高1.7cm	成形	ロクロ	内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	淡橙白色					
322	かわらけ	法量	口径3.9cm	底径3.0cm	器高0.8cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	明橙灰色					
323	かわらけ	法量	口径7.6cm	底径6.3cm	器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色					
324	かわらけ	法量	口径10.9cm	底径6.6cm	器高3.1cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白色粒 赤色粒
		色調	淡橙白色 備考 灯明皿					
325	かわらけ	法量	口径11.8cm	底径7.4cm	器高3.2cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
		色調	黄灰色					
326	かわらけ	法量	口径11.8cm	底径7.6cm	器高3.0cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	暗橙灰色					
327	かわらけ	法量	口径11.9cm	底径5.9cm	器高3.2cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
		色調	暗橙灰色					
328	かわらけ	法量	口径11.9cm	底径5.0cm	器高3.7cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
		色調	暗黄灰色 備考 灯明皿					
329	かわらけ	法量	口径11.8cm	底径7.4cm	器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
		色調	赤味がかった黄灰色					

(13)

No	種別	観察項目				
330	かわらけ	法量 色調	口径11.9cm 橙色	底径6.9cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒
331	かわらけ	法量 色調	口径12.5cm 淡橙灰色	底径7.5cm 器高3.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
332	かわらけ	法量 色調	口径12.7cm 黄灰色	底径6.5cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
333	かわらけ	法量 色調	口径12.8cm 淡橙色	底径8.1cm 器高3.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石
334	かわらけ	法量 色調	口径12.9cm 暗橙白色	底径8.2cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
335	かわらけ	法量 色調	口径13.2cm 黄褐色	底径8.8cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針
336	青磁 箕	法量 備考	口径13.9cm 外面蓮弁文	胎土 緻密	色調 輪	淡灰白色 青白色透明 貫入あり
337	瀬戸 三					
338	瀬戸 折締皿					
339	山茶碗窓鉢	法量	口径18.0cm	胎土 砂粒 白色粒 雲母	色調 灰色	
340	山茶碗窓鉢					
341	山茶碗窓鉢					
342	山茶碗窓鉢					
343	山茶碗窓鉢					
344	常滑 鉢	胎土 砂粒 白色粒 雲母 小石			色調 暗灰色	
345	常滑 鉢	法量	縁帶幅4.5cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母	色調 赤褐色 芯	暗灰色
346	常滑 鉢	法量	口径33.3cm	縁帶幅2.4cm 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母	色調 赤味がかった灰色	
347	常滑 鉢					
348	常滑 鉢	法量 備考	底径12.0cm 外底砂目	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 黑色粒 小石	色調 暗赤茶色 芯	暗灰色
349	常滑 鉢	成形 備考	外面タテヘラナデ 外底砂目	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母	色調 暗赤褐色 芯	暗灰色
350	常滑 鉢					
351	瀬美 鉢	法量	底径13.5cm	胎土 砂粒 精良土	色調 暗灰色	
352	亀山 鉢	法量	口径22.7cm	胎土 砂粒 精良土	色調 暗灰色	
353	土鍋	胎土 砂粒 白色粒				
354	手焼り	胎土 砂粒 白色粒 土器質			色調 暗灰色	
355	砥石 仕上砥	法量	残長4.4cm 幅3.3cm 厚0.9cm		色調 赤味がかった黃白色	備考 泥岩質
356	硯	法量	厚1.5cm	色調 灰黒色	備考 粘板岩製	
357	碁石	法量	直徑1.5cm	厚0.5cm	色調 黒	
358	釘	法量	残長6.8cm			
359	釘	法量	残長6.4cm			
360	かわらけ	法量 色調	口径7.9cm 明礬色	底径4.9cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒

(14)

No.	種別	観察項目					
361	かわらけ	法量	口径7.6cm 底径4.9cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗橙色
362	かわらけ	法量	口径12.1cm 底径8.0cm 器高2.65cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 白色粒 色調 明褐色
363	かわらけ	法量	口径13.2cm 底径8.6cm 器高3.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 上丹粒 色調 明褐色
364	山茶碗窓跡	胎土	微砂 白色粒 鉄分	色調	灰色		
365	常滑 豊	胎土	微砂 長石粒 石英粒	色調	灰色		
366	常滑 踵	胎土	砂粒 白色粒	色調	暗灰色		
367	かわらけ	法量	口径7.2cm 底径5.6cm 器高1.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
368	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.9cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
369	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径6.2cm 器高1.45cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明褐色
370	かわらけ	法量	口径7.9cm 底径5.7cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 上丹粒 色調 褐色
371	かわらけ	法量	口径8.1cm 底径5.6cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 明褐色
372	瀬戸 四耳壺	胎土	微砂	色調	淡灰白色	袖	淡綠黃色(灰袖)
373	鉄製品	鉄鍋の口縁部か?					
374	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径5.5cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 白色粒 土丹粒 色調 明褐色
375	かわらけ	法量	口径7.4cm 底径5.8cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明褐色
376	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径6.0cm 器高1.55cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
377	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.6cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 土丹粒 色調 淡灰褐色
378	かわらけ 砂質	法量	口径7.9cm 底径5.5cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 黑色粒 色調 檀木灰色
379	かわらけ 砂質	法量	口径8.4cm 底径6.5cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 色調 淡茶灰褐色
380	かわらけ 砂質	法量	口径8.8cm 底径5.9cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃灰色
381	かわらけ 砂質	法量	口径8.7cm 底径6.8cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 色調 淡黃褐色
382	かわらけ 砂質	法量	口径8.9cm 底径6.4cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針 色調 灰褐色
383	かわらけ	法量	口径12.1cm 底径7.3cm 器高3.4cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗小灰色
384	かわらけ	法量	口径12.4cm 底径8.5cm 器高3.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡褐色
385	かわらけ	法量	口径12.1cm 底径7.8cm 器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃褐色
386	かわらけ	法量	口径12.3cm 底径8.4cm 器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 赤灰色

(15)

No	種別	観察項目						
387	かわらけ	法量 色調	口径12.7cm 淡橙色	底径8.7cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒
388	かわらけ	法量 色調	口径12.4cm 淡黄赤灰色	底径9.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒 土丹粒
389	かわらけ 砂質	法量 色調	口径11.8cm 淡黄灰色	底径7.9cm 器高4.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
390	かわらけ 砂質	法量 色調	口径11.9cm 赤味がかった淡黄灰色	底径6.7cm 器高3.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
391	青磁碗	法量	口径14.0cm	胎土 緻密	色調 白色	釉 青緑色半透明	備考 蓮弁文	
392	かわらけ	法量 色調	口径7.3cm 淡黄橙色	底径5.2cm 器高1.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
393	かわらけ	法量 色調	口径7.5cm 淡黄橙色	底径5.3cm 器高1.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
394	かわらけ	法量 色調	口径7.8cm 暗淡赤灰色	底径5.2cm 器高1.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	白色粒
395	かわらけ	法量 色調	口径7.4cm 黃褐色	底径4.6cm 器高1.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	白色粒
396	かわらけ	法量 色調	口径8.0cm 暗橙色	底径5.4cm 器高1.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
397	かわらけ	法量 色調	口径8.3cm 暗橙色	底径6.5cm 器高1.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒
398	かわらけ	法量 色調	口径12.1cm 赤灰色	底径7.3cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒 土丹粒
399	かわらけ	法量 色調	口径12.6cm 淡黄橙色	底径7.6cm 器高3.25cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	土丹粒
400	山茶煎烹 小壺	胎土 砂粒	白色粒	色調 暗灰色	備考 南部系			
401	かわらけ 砂質	法量 色調	口径8.1cm 明暗灰色	底径6.7cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒
402	かわらけ	法量 色調	口径11.8cm 棕色	底径8.4cm 器高2.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒
403	かわらけ	法量 色調	口径11.9cm 暗茶灰色	底径8.4cm 器高2.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	小石
404	かわらけ	法量 色調	口径11.9cm 淡赤灰色		成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
405	かわらけ	法量 色調	口径12.0cm 淡黄灰色	底径7.8cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒
406	かわらけ	法量 色調	口径11.9cm 明赤灰色	底径6.85cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
407	かわらけ 砂質	法量 色調	口径10.9cm 淡赤灰色		成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
408	かわらけ 砂質	法量 色調	口径10.8cm 淡赤白色		成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
409	かわらけ 砂質	法量 色調	口径11.9cm 赤味がかった肌色		成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	
410	かわらけ 砂質	法量 色調	口径13.0cm 淡茶白色	底径7.0cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	赤色粒
411	かわらけ	法量 色調	口径7.4cm 淡橙灰色	底径4.5cm 器高1.75cm	成形 ロクロ	胎土 微砂	雲母 白針	

(16)

No.	種別	観察項目					
412	かわらけ	法量	口径7.9cm	底径6.2cm	器高1.6cm	成形	ロクロ
		色調	淡橙白色			胎土	微砂 雲母 白針
413	かわらけ	法量	口径8.8cm	底径6.4cm	器高1.8cm	成形	ロクロ
		色調	茶白色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
414	かわらけ	法量	口径7.7cm	底径5.6cm	器高1.7cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶白色			胎土	微砂 雲母 白針
415	かわらけ	法量	口径7.5cm	底径5.5cm	器高1.7cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針
416	かわらけ	法量	口径8.1cm	底径5.5cm	器高1.9cm	成形	ロクロ
		色調	黄灰色			胎土	微砂 雲母 白針
417	かわらけ	法量	口径11.0cm	底径7.5cm	器高3.5cm	成形	ロクロ
		色調	棕色			胎土	微砂 雲母 白針 黒色粒
418	かわらけ	法量	口径12.4cm	底径7.7cm	器高3.2cm	成形	ロクロ
		色調	明褐色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
419	針	法量	残長7.0cm				
420	かわらけ	法量	口径6.7cm	底径5.4cm	器高1.4cm	成形	ロクロ
		色調	淡黄灰色			胎土	微砂 雲母 白針
421	かわらけ	法量	口径8.2cm	底径6.2cm	器高1.6cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針
422	かわらけ	法量	口径6.7cm	底径4.8cm	器高1.5cm	成形	ロクロ
		色調	暗黄灰色			胎土	微砂 雲母 白針
423	かわらけ	法量	口径7.9cm	底径5.2cm	器高1.9cm	成形	ロクロ
		色調	淡黃灰色			胎土	微砂 雲母 白針
424	かわらけ	法量	口径7.8cm	底径5.7cm	器高1.7cm	成形	ロクロ
		色調	淡橙灰色			胎土	微砂 雲母 白針
425	かわらけ	法量	口径8.4cm	底径6.3cm	器高1.6cm	成形	ロクロ
		色調	暗黃灰色			胎土	微砂 雲母 白針
426	かわらけ	法量	口径8.4cm	底径7.2cm	器高1.4cm	成形	ロクロ
		色調	橙白色			胎土	微砂 雲母 白針
427	かわらけ	法量	口径11.8cm	底径8.0cm	器高3.1cm	成形	ロクロ
		色調	黄色			胎土	微砂 雲母 白針
428	かわらけ	法量	口径10.7cm	底径6.3cm	器高2.9cm	成形	ロクロ
		色調	淡橙白色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
429	かわらけ	法量	口径11.7cm	底径7.8cm	器高3.5cm	成形	ロクロ
		色調	暗橙灰色			胎土	微砂 雲母 白針
430	かわらけ	法量	口径12.0cm	底径7.9cm	器高3.2cm	成形	ロクロ
		色調	淡橙灰色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
431	かわらけ	法量	口径12.3cm	底径7.8cm	器高2.9cm	成形	ロクロ
		色調	暗茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
432	かわらけ	法量	口径8.8cm	底径7.9cm		成形	手づくね
		色調	橙色			胎土	微砂 雲母 白針
433	かわらけ	法量	口径11.0cm	底径8.9cm		成形	手づくね
		色調	淡黃灰色			胎土	微砂 雲母 白針
434	かわらけ	法量	口径7.2cm	底径5.3cm	器高1.8cm	成形	ロクロ
		色調	暗茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
435	かわらけ	法量	口径8.0cm	底径5.5cm	器高1.9cm	成形	ロクロ
		色調	暗黃灰色			胎土	微砂 雲母 白針
436	かわらけ	法量	口径7.8cm	底径5.3cm	器高1.9cm	成形	ロクロ
		色調	暗橙色			胎土	微砂 雲母 白針 小石

(17)

No.	種別	観察項目					
437	かわらけ	法量 色調	口径9.8cm 橙色	底径5.1cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
438	かわらけ	法量 色調	口径10.3cm 橙白色	底径6.5cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
439	かわらけ	法量 色調	口径10.8cm 暗黄色	底径5.9cm 器高2.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
440	かわらけ	法量 色調	口径10.7cm 淡橙色	底径6.8cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
441	かわらけ	法量 色調	口径11.5cm 暗橙灰色	底径6.1cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
442	かわらけ	法量 色調	口径11.7cm 淡橙灰色	底径6.9cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石	
443	かわらけ	法量 色調	口径12.8cm 橙色	底径7.3cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
444	かわらけ	法量 色調	口径11.6cm 赤味がかった黄灰色	底径8.3cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
445	かわらけ	法量 色調	口径11.8cm 暗橙灰色	底径6.4cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
446	かわらけ	法量 色調	口径12.8cm 淡橙灰色	底径7.8cm 器高3.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
447	かわらけ	法量 色調	口径11.7cm 橙色	底径6.6cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
448	かわらけ	法量 色調	口径12.1cm 暗橙灰色	底径7.1cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石	
449	かわらけ	法量 色調	口径12.7cm 淡黄灰色	底径8.6cm 器高3.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
450	かわらけ	法量 色調	口径12.1cm 淡橙灰色	底径7.7cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
451	かわらけ	法量 色調	口径12.1cm 暗橙灰色	底径7.5cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
452	かわらけ	法量 色調	口径12.8cm 橙色	底径8.3cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
453	かわらけ	法量 色調	口径12.2cm 黄灰色	底径8.3cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
454	かわらけ	法量 色調	口径11.6cm 淡黄灰色	底径7.5cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
455	かわらけ	法量 色調	口径12.7cm 暗黄灰色	底径7.4cm 器高3.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
456	かわらけ	法量 色調	口径12.3cm 赤味がかった黄灰色	底径7.5cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
457	かわらけ	法量 色調	口径12.7cm 黄灰色	底径7.6cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	
458	山茶碗窯跡		胎土 砂粒 雲母 白色粒 黑色粒	色調 灰色			
459	山茶碗窯跡		胎土 砂粒 雲母 白色粒 黑色粒	色調 灰綠色			
460	山茶碗窯跡		胎土 砂粒 雲母 白色粒や多い	色調 灰色			

(18)

No	種別	國 斎 項 目					
461	常滑 霽	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 黑色粒 小石	色調	暗赤褐色	芯	暗灰色	備考 外底砂目
462	常滑 小壺	法量 底径8.0cm 胎土 砂粒 雲母 白色粒	色調	暗赤褐色	芯	灰色~暗灰色	
463	釘	法量 残長4.8cm					
464	釘	法量 残長9.0cm	備考	上位に木質付着			
465	釘	法量 残長5.7cm					
466	釘	法量 残長5.3cm					
467	かわらけ	法量 口徑8.2cm 底径5.9cm 器高1.6cm 色調 檗色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	
468	かわらけ	法量 口徑7.9cm 底径5.6cm 器高2.0cm 色調 檻灰色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	
469	かわらけ	法量 口徑8.8cm 底径6.2cm 器高1.7cm 色調 檻灰色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	
470	かわらけ	法量 口徑11.8cm 底径8.5cm 器高3.5cm 色調 檻灰色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	
471	かわらけ	法量 口徑12.9cm 底径8.2cm 器高2.9cm 色調 黄灰色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	
472	かわらけ	法量 口徑12.8cm 底径7.5cm 器高3.1cm 色調 檻灰色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	
473	かわらけ	法量 口徑12.8cm 底径8.0cm 器高3.2cm 色調 淡檻灰色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	
474	青白磁 皿	胎土 ややきめが粗い 色調 白色 軸 淡水青色透明	備考	内面に花弁状の文様			
475	かわらけ	法量 口徑7.3cm 底径4.9cm 器高2.0cm 色調 淡桜色	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	
476	白かわらけ	法量 口徑8.4cm 底径7.2cm 器高1.7cm 色調 淡灰白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
477	白かわらけ	法量 口徑8.9cm 底径7.6cm 器高1.6cm 色調 乳白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
478	白かわらけ	法量 口徑9.4cm 底径8.0cm 器高1.4cm 色調 淡黄白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
479	白かわらけ	法量 口徑8.8cm 底径6.6cm 器高1.3cm 色調 白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
480	白かわらけ	法量 口徑8.6cm 底径7.7cm 器高1.7cm 色調 淡黄白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白色粒	
481	白かわらけ	法量 口徑8.8cm 底径8.0cm 色調 淡黄白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
482	白かわらけ	法量 口徑9.8cm 底径7.1cm 器高1.3cm 色調 淡灰白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
483	白かわらけ	法量 口徑11.4cm 底径9.3cm 器高2.8cm 色調 淡黄白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
484	白かわらけ	法量 口徑8.7cm 底径7.8cm 器高1.3cm 色調 淡黄白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
485	白かわらけ	法量 口徑13.4cm 底径11.3cm 器高2.8cm 色調 淡黄白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
486	白かわらけ	法量 口徑10.0cm 底径8.8cm 色調 淡灰白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	
487	白かわらけ	法量 口徑8.1cm 底径6.5cm 色調 淡灰白色	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母	

(19)

No.	種別	観察項目					
488	常滑 製	法量	縦帶幅1.6cm	胎土 砂粒 白色粒 小石	色調 暗褐色	芯 灰色	
489	釘	法量	長8.6cm				
490	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.5cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石			
491	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径6.0cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針			
492	かわらけ	法量	口径7.1cm 底径5.9cm 器高1.9cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針			
493	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径6.3cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針			
494	かわらけ	法量	口径9.0cm 底径7.5cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針			
495	かわらけ	法量	口径9.8cm 底径7.9cm 器高1.9cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 小石			
496	かわらけ 砂質	法量	口径6.9cm 底径5.9cm 器高1.3cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針			
497	かわらけ 砂質	法量	口径7.9cm 底径4.8cm 器高1.3cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母			
498	かわらけ 砂質	法量	口径8.2cm 底径6.1cm 器高1.5cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母			
499	かわらけ 砂質	法量	口径8.5cm 底径6.4cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
500	かわらけ 砂質	法量	口径9.0cm 底径5.9cm 器高1.5cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白色粒			
501	かわらけ 砂質	法量	口径8.0cm 底径5.2cm 器高2.0cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針			
502	かわらけ	法量	口径11.8cm 底径7.3cm 器高3.4cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石			
503	かわらけ	法量	口径12.2cm 底径6.9cm 器高3.5cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針			
504	かわらけ	法量	口径12.6cm 底径8.0cm 器高3.3cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針			
505	かわらけ	法量	口径12.3cm 底径8.0cm 器高3.1cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石			
506	かわらけ	法量	口径12.8cm 底径8.3cm 器高3.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石			
507	青磁 瓶	法量	口径15.5cm	胎土 微砂 織密 色調 淡灰白色 軸 緑灰色透明	備考 外面蓮弁文		
508	白磁 口丸皿	法量	口径10.0cm	胎土 きめ細かい 若干の気孔	色調 淡灰白色 軸 緑がかかった灰白色半透明		
509	白磁 瓶	法量	高台径6.0cm	胎土 織密	色調 淡灰白色 軸 灰白色半透明		
510	緑釉 盤	胎土	夾雜物多く粗い	色調 黄褐色 軸 緑色	銀化現象がやや進み殆ど光沢を失う		
511	瀬戸 入子	法量	口径7.1cm 底径3.4cm 器高2.8cm	胎土 夾雜物無く精良土	色調 黄褐色		
512	山茶碗	胎土	微砂 白色粒	色調 灰色			
513	山茶碗窯 跡	胎土	砂粒 雲母 白色粒 小石	色調 灰白色	備考 内面磨耗		
514	源美 茵	胎土	砂粒 雲母 白色粒 精良土	色調 暗灰色			

(20)

No	種別	観察項目					
515	かわらけ質土器	法量	底径4.6cm	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調	橙色 備考 器形不明
516	常滑甕	法量	口径20.0cm	縁帶幅2.2cm	胎土 砂粒 石英粒 雲母 白色粒 黒色粒	色調	暗褐色 芯 暗灰色
517	磁石 仕上磁	法量	底径4.7cm	幅2.2cm 厚0.9cm		色調	暗灰色
518	刀子	法量	長径7.8cm	刃長1.7cm			
519	釣	法量	残長8.7cm				
520	釣	法量	残長7.5cm				
521	薪石	法量	長径1.9cm	短径1.6cm 厚0.4cm		色調	灰黑色
522	かわらけ	法量	口径7.7cm	底径6.2cm 器高1.8cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
523	かわらけ	法量	口径8.6cm	底径6.6cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 淡茶灰色
524	山茶碗窓跡	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 雲母 小石		色調	灰色	
525	かわらけ	法量	口径8.8cm	底径7.0cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗褐色
526	かわらけ	法量	口徑6.1cm	底徑7.3cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 色調 橙色
527	かわらけ	法量	口径8.3cm	底径6.3cm 器高1.6cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 明黄褐色
528	かわらけ	法量	口径12.2cm	底径7.5cm 器高3.4cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗褐色
529	かわらけ	法量	口径8.2cm	底径6.2cm 器高1.5cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃褐色
530	かわらけ	法量	口徑9.2cm	底徑8.2cm 器高2.5cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡棕色
531	山茶碗窓跡	法量	底径13.4cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 小石	色調	灰褐色	
532	常滑甕	胎土	砂粒 長石粒 雲母	色調	明褐色	芯	灰色
533	山茶碗窓跡	法量	底径15.6cm	胎土 砂粒 長石粒 雲母 小石	色調	灰色	
534	かわらけ	法量	口徑11.3cm	底徑6.3cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明褐色
535	かわらけ	法量	口徑12.6cm	底徑9.5cm 器高2.8cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明褐色
536	かわらけ	法量	口徑10.0cm	底徑8.0cm 器高2.0cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 赤色粒 色調 淡黃褐色
537	かわらけ	法量	口徑11.3cm	底徑7.1cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 明黃褐色
538	かわらけ	法量	口徑11.8cm	底徑9.8cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡棕色
539	白磁 口丸皿	法量	底径9.2cm	胎土 気孔やや多いが緻密	色調	灰白色	胎 青味がかった灰白色半透明
540	かわらけ	法量	口徑7.1cm	底徑6.0cm 器高1.4cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗褐色
541	かわらけ	法量	口徑7.9cm	底徑5.1cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗褐色

(21)

No	種別	観察項目						
542	常滑 梶	法量 緑帶幅3.6cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 赤色粒	色調 暗灰褐色				
543	白 磁 口丸碗	胎土 細密 色調 灰色 鈍灰色失透 気泡多						
544	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径7.3cm 器高2.0cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色					
545	かわらけ	法量 口径11.9cm 底径5.8cm 器高3.5cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗褐色					
546	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.7cm 器高2.3cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色					
547	かわらけ 砂質	法量 口径8.0cm 底径6.0cm 器高1.4cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙白色					
548	常滑 梶	胎土 砂粒 長石粒 石英粒	色調 暗灰色					
549	瀬戸 瓶子	法量 口径5.6cm	胎土 砂粒 色調 灰色 鈍	緑黄色				
550	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 小石	色調 灰色					
551	かわらけ	法量 口径7.7cm 底径6.7cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 淡橙色					
552	青白磁 梅瓶	胎土 細密 色調 灰白色 鈍	水青色透明 貫入 気泡や多					
553	かわらけ	法量 口径7.6cm 底径5.8cm 器高1.7cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黃褐色					
554	かわらけ 砂質	法量 口径8.8cm 底径6.0cm 器高1.7cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡赤灰色					
555	かわらけ	法量 口径8.4cm 底径6.4cm 器高1.5cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 檀色					
556	山茶碗	胎土 微砂 白色粒	色調 灰色	備考 南部系				
557	常滑 梶	法量 緑帶幅1.5cm	胎土 砂粒 長石粒 雲母	色調 赤茶色 芝 暗灰色				
558	かわらけ 砂質	法量 口径6.7cm 底径5.0cm 器高1.4cm	成形 ロクロ 内面無調整 胎土 微砂 雲母 白針 色調 檀白色					
559	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径5.0cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 暗褐色					
560	かわらけ	法量 口径7.4cm 底径5.7cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色					
561	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径5.5cm 器高1.7cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 淡明褐色					
562	かわらけ	法量 口径8.3cm 底径5.5cm 器高1.7cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡暗褐色					
563	かわらけ	法量 口径11.8cm 底径7.8cm 器高2.9cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡明檀色					
564	かわらけ 砂質	法量 口径8.5cm 底径6.0cm 器高1.4cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白針 色調 暗檀灰色					
565	かわらけ 砂質	法量 口径9.7cm 底径5.0cm 器高3.5cm	成形 ロクロ 内底無調整 胎土 微砂 雲母 白色粒 色調 淡檀白色					
566	かわらけ	法量 口径11.8cm 底径8.1cm 器高3.0cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡檀色					
567	かわらけ	法量 口径11.4cm 底径7.0cm 器高3.1cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡明檀色					
568	碁 石	法量 長径1.3cm 短径1.2cm 厚0.4cm	色調 青黒色					

(22)

名	種別	規 格 整 項 目					
569	かわらけ	法量	口徑8.2cm 底徑5.0cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
570	かわらけ	法量	口徑8.7cm 底徑6.3cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
571	かわらけ	法量	口徑8.9cm 底徑7.2cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針
572	かわらけ	法量	口徑8.9cm 底徑5.7cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
573	かわらけ	法量	口徑9.4cm 底徑6.8cm 器高1.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
574	かわらけ	法量	口徑12.0cm 底徑10.8cm 器高3.1cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針
575	かわらけ	法量	口徑14.4cm 底徑12.8cm 器高4.0cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
576	山茶碗黒鉢	胎土	微砂 白色粒	色調	暗灰色	備考	南部系
577	山茶碗黒鉢	胎土	微砂 白色粒 鉄分	色調	灰色	備考	南部系
578	擦り石	法量	長10.7cm 幅8.9cm 厚2.6cm	色調	灰色	備考	ほぼ全体を使用
579	加工土円?	法量	長12.5cm 幅6.9cm 厚4.3cm	備考	加工板、使用痕不明瞭		
580	鉄製品	法量	残長10.8cm 身部径0.5cm 柄部幅0.4cm	備考	火害の可能性が高い		
581	釘	法量	残長8.8cm				
582	かわらけ	法量	口徑7.3cm 底徑5.4cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 白色粒
583	かわらけ	法量	口徑9.3cm 底徑8.0cm 器高2.3cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針
584	山茶碗	胎土	微砂 白色粒	色調	暗灰色		
585	山茶碗黒鉢	胎土	砂粒 白色粒	色調	濃灰色		
586	かわらけ	法量	口徑7.9cm 底徑6.3cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針
587	かわらけ	法量	口徑8.2cm 底徑7.3cm 器高1.4cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針
588	かわらけ	法量	口徑9.3cm 底徑7.0cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
589	かわらけ	法量	口徑12.8cm 底徑8.5cm 器高3.4cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
590	かわらけ	法量	口徑14.0cm 底徑12.1cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
591	かわらけ	法量	口徑15.1cm 底徑12.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針
592	青磁 皿	法量	口徑9.8cm 胎土 微砂 壓織上	色調	淡灰白色 糯 泡青綠色透明	備考	刻花文
593	常滑 麦	法量	縫帶幅1.2cm 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調	暗赤褐色 志 暗灰色		
594	かわらけ	法量	口徑12.3cm 底徑8.0cm 器高2.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 白色粒
595	かわらけ	法量	口徑12.9cm 底徑11.8cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針
		色調	淡黄褐色				

(23)

No	種別	観察項目					
596	青磁 瓶	胎土	微砂 堅緻土	色調	淡灰色	釉	淡灰綠色透明
						備考	割花文 内面口縁下に一本の条線、その下に唐草と思われる文様
597	常滑 鉢	成形	外面タチヘラナデ	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調	暗赤褐色 芯 暗灰色
598	常滑 製	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	色調	暗黃赤褐色	芯	暗灰色
599	常滑 製	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	精良上	色調	暗赤褐色～明茶色	芯 黄灰色
600	常滑 製	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	鉄分	色調	暗赤褐色	芯 暗灰褐色
601	碁石	法量	長径 1.9cm	短径 1.8cm	厚 0.45cm	色調	青黒色
602	かわらけ	法量	口径 7.5cm	底径 5.2cm	器高 1.4cm	成形	ロクロ
		色調	黄灰色			胎土	微砂 雲母 白針
603	かわらけ	法量	口径 8.0cm	底径 4.6cm	器高 2.2cm	成形	ロクロ
		色調	黄灰色			胎土	微砂 雲母 白針
604	かわらけ	法量	口径 11.8cm	底径 7.2cm	器高 2.6cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針
605	かわらけ	法量	口径 11.6cm	底径 7.6cm	器高 3.0cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針
606	かわらけ	法量	口径 11.9cm	底径 7.4cm	器高 2.8cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針
607	かわらけ	法量	口径 11.7cm	底径 7.4cm	器高 3.0cm	成形	ロクロ
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
608	かわらけ	法量	口径 12.0cm	底径 8.5cm	器高 3.2cm	成形	ロクロ
		色調	橙白色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
609	かわらけ	法量	口径 9.0cm	底径 8.0cm	器高 1.9cm	成形	手づくね
		色調	明黄灰色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
610	かわらけ	法量	口径 11.3cm	底径 9.9cm	器高 2.8cm	成形	手づくね
		色調	淡茶灰色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
611	かわらけ	法量	口径 7.3cm	底径 5.7cm	器高 1.4cm	成形	ロクロ
		色調	暗褐色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
612	かわらけ	法量	口径 7.8cm	底径 5.1cm	器高 1.7cm	成形	ロクロ
		色調	暗褐色			胎土	微砂 雲母 白針
613	青磁 瓶	法量	口径 14.7cm	胎土	微砂 堅緻土	色調	白色 釉 淡灰綠色透明
						備考	外面櫛描 同安窯系
614	女瓦	凸面	平行条線の叩き目	離れ砂少量	凹面	離れ砂や少量	胎土 砂粒 小石 白色粒
		色調	黄褐色	芯	灰褐色		
615	常滑 製	法量	縫帶幅 1.7cm	胎土	砂粒 長石粒 雲母 白色粒	小石	色調 暗緑灰色 芯 暗灰色
616	山茶碗室鉢	胎土	砂粒	白色粒	色調	灰色	備考 口回部玉縁状
617	かわらけ	法量	口径 7.2cm	底径 5.0cm	器高 2.0cm	成形	ロクロ
		色調	暗暗橙色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
618	かわらけ	法量	口径 7.1cm	底径 5.8cm	器高 1.6cm	成形	ロクロ
		色調	淡明褐色			胎土	微砂 雲母 白針 小石
619	かわらけ 砂質	法量	口径 7.9cm	底径 4.7cm	器高 1.7cm	成形	ロクロ 内底無調整
		色調	橙灰色			胎土	微砂 雲母 白針
620	かわらけ	法量	口径 9.2cm	底径 7.8cm	器高 1.9cm	成形	手づくね
		色調	暗橙色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒
621	かわらけ	法量	口径 11.8cm	底径 6.6cm	器高 3.5cm	成形	ロクロ
		色調	暗橙色			胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石
622	板状土丹	用途不明	表面	細かい削痕	側面	擦痕	

(24)

No.	種別	観察項目					
623	かわらけ 砂質	法量	口径7.9cm 底径4.4cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
624	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.5cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 淡褐色
625	かわらけ	法量	口径7.5cm 底径5.6cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 淡黃灰色
626	青磁 瓶	法量	高台径4.3cm 胎土 微砂 磁密上	色調	灰白色	釉	綠青色透明 備考 外面に蓮弁文
627	常滑 製	胎土	砂粒 白色粒 雲母	色調	緑灰色	芯	淡茶灰色
628	かわらけ	法量	口径8.2cm 底径6.6cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡暗褐色
629	砥石 仕上砥	法量	残長4.6cm 幅3.2cm 厚1.0cm	色調	緑黃灰色	備考	両面に細かい擦痕
630	かわらけ	法量	口径7.6cm 底径4.9cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗褐色
631	かわらけ	法量	口径10.7cm 底径8.4cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 色調 淡褐色
632	かわらけ 砂質	法量	口径8.3cm 底径4.9cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡茶灰色
633	かわらけ	法量	口径6.8cm 底径4.9cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
634	山茶碗煮 跡	法量	底径14.4cm 胎土 砂粒 雲母 白色粒 黒色粒	色調	灰色		
635	かわらけ	法量	口径8.6cm 底径6.8cm 器高1.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 黒色粒 色調 明赤灰色
636	かわらけ	法量	口径9.9cm 底径9.0cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 明赤灰色
637	フイゴ 羽口	法量	直徑13.4cm 中央孔4.3cm	備考	上部に黒緑色の溶けた漬滓が付着		
638	かわらけ	法量	口径7.6cm 底径5.4cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 褐色
639	かわらけ	法量	口径9.2cm 底径6.1cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 色調 暗黃褐色
640	常滑 製	胎土	砂粒 雲母 黒色粒	色調	灰黑色	芯	暗灰色
641	常滑 製	胎土	砂粒 白色粒	色調	暗茶色	芯	緑灰色
642	白磁 碗	法量	口径11.8cm 胎土 磁密	色調	淡紅色氣味の白	釉	灰色がかった白色 貫入多い 備考 口縁直下に雷文帯
643	るっぽ	胎土	かわらけ質	鉛滓が厚く付着			
644	常滑 製	法量	緑帶幅1.6cm 胎土 砂粒 長石粒 白色粒 小石	色調	暗赤灰色	芯	黒灰色
645	釘	法量	残長6.5cm				
646	かわらけ	法量	口径9.8cm 底径7.8cm 器高2.1cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃褐色
647	かわらけ	法量	口径11.0cm 底径7.0cm 器高2.7cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 淡褐色
648	かわらけ	法量	口径13.2cm 底径11.8cm 器高4.0cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 暗褐色
649	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.5cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 晴褐色

(25)

No	種別	観 察 項 目					
650	かわらけ	法量	口径8.0cm 底径5.4cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明黄褐色
651	常滑 漆	胎上	砂粒 石英粒 雲母	色調	茶色	芯	黃灰色
652	かわらけ	法量	口径8.8cm 底径7.0cm	成形	手づくね	胎上	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡明橙色
653	かわらけ	法量	口径9.0cm 底径7.5cm 器高1.9cm	成形	手づくね	胎上	微砂 雲母 白針 白色粒 色調 橙色
654	かわらけ	法量	口径11.5cm 底径7.7cm 器高3.0cm	成形	ロクロ	胎上	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡暗橙色
655	かわらけ	法量	口径11.7cm 底径10.0cm 器高2.5cm	成形	手づくね	胎上	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 橙色
656	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径7.5cm	成形	手づくね	胎上	微砂 雲母 白針 色調 明褐色
657	瀬美 漆	胎土	砂粒 白色粒 小石	色調	灰褐色		
658	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.9cm 器高2.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡暗褐色
659	土 鍋	胎上	砂粒 白色粒	色調	淡黄褐色	備考	伊勢系
660	かわらけ	法量	口径7.9cm 底径5.9cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 暗褐色
661	かわらけ	法量	口径10.6cm 底径7.1cm 器高2.6cm	成形	ロクロ	胎上	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黄褐色
662	土 鍋	法量	長5.2cm 幢1.8cm	色調	淡暗褐色		
663	釘	法量	残長8.5cm				
664	錢	錢種不明					
665	瀬美 漆	法量	底径16.5cm	胎土	砂粒 精良土	色調	灰白色~暗灰色
666	かわらけ 砂質	法量	底径5.6cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎上 微砂 雲母 白針 小石 色調 增添灰色
667	かわらけ	法量	口径11.7cm 底径7.9cm 器高3.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡暗橙色
668	かわらけ	法量	口径7.7cm 底径5.7cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 小石 色調 暗橙色
669	縁物 蓋	胎上	砂質精良土	色調	黄灰色	釉	綠色
670	釘	法量	残長8.5cm				
671	かわらけ	法量	口径7.9cm 底径5.5cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
672	かわらけ 砂質	法量	口径8.0cm 底径5.8cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎上 微砂 雲母 白白粒 赤 色粒 淡黄灰色
673	かわらけ 砂質	法量	口径8.0cm 底径5.8cm 器高1.7cm	成形	ロクロ	内底無調整	胎土 微砂 雲母
674	かわらけ	法量	口径9.6cm 底径6.7cm 器高2.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 增褐色
675	青磁 罫	法量	口径9.8cm	胎土	微砂 白色粒 織密上	色調	灰白色 釉 淡灰青色透明 備考 刺文
676	常滑 漆	胎土	砂粒 白色粒多量	色調	黄褐色		
677	瀬美 漆	胎土	砂粒 白色粒 小石	色調	灰褐色		
678	山茶碗	胎土	微砂 白色粒	色調	淡灰色		
679	かわらけ	法量	口径8.8cm 底径7.0cm 器高1.9cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石 色調 增橙色 備考 灯明皿

(26)

No.	種別	観察項目					
680	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径7.9cm 器高2.0cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡橙白色	
681	白 磁 口元彫	法量 口径15.8cm 胎土 ややきめが粗い	色調	灰白色	釉	淡灰緑色半透明	
682	手焼り	胎土 砂粒 小石 白色粒 赤色粒 瓦質	色調	淡肌色			
683	かわらけ 砂質	法量 口径6.8cm 底径4.8cm 器高1.3cm	成形 ロクロ 内底無調整	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡黄灰色	
684	薪 石	法量 長径1.5cm 短径1.4cm 厚0.4cm	色調	青黒色			
685	青磁 鏡	胎土 磁南土	色調	淡灰白色	釉	淡緑黄色透明	貫入 備考 刻花文 内面に蓮華・唐草の一部と思われる文様
686	かわらけ	法量 口径11.6cm 底径8.8cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 暗褐色	
687	山茶碗窓 鉢	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 小石	色調	淡暗橙色			
688	かわらけ	法量 口径7.9cm 底径6.7cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 小石	色調 黄褐色	
689	かわらけ	法量 口径6.7cm 底径6.3cm 器高1.9cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石	色調 暗褐色	
690	渥美 磁	胎土 砂粒 白色粒 黒色粒	色調	暗灰緑色	芯	暗灰色	
691	常滑 鉢	胎土 砂粒 白色粒 赤色粒	色調	暗灰色	芯	暗赤灰色	
692	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.6cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母		
693	かわらけ	法量 口径13.7cm 底径10.9cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 暗黃褐色	
694	常滑 磁	胎土 砂粒 白色粒 小石	色調	暗褐色	芯	暗灰色	
695	かわらけ	法量 口径6.8cm 底径4.9cm 器高1.4cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石	色調 暗橙色	
696	山茶碗窓 鉢	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母 小石	色調	暗灰色			
697	常滑 磁	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 雲母	色調	黄褐色	芯	灰色	
698	常滑 磁	胎土 砂粒 長石粒 白色粒 小石	色調	焦げ茶	芯	灰色	
699	青白磁 面	法量 口径7.4cm 胎土 ややきめが粗い	色調	淡灰白色	釉	淡水青色透明	
700	かわらけ	法量 口径9.9cm 底径8.9cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母		
701	かわらけ 砂質	法量 口径6.9cm 底径5.3cm 器高1.6cm	成形 ロクロ 内底無調整	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡茶灰色	
702	かわらけ	法量 口径4.8cm 底径3.4cm 器高1.1cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 黑白粒 赤色粒	色調 淡橙色	
703	山茶碗窓 鉢	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 白色粒	色調	暗灰色			
704	かわらけ	法量 口径9.6cm 底径9.0cm	成形 手づくね	胎土	微砂 雲母 赤色粒	色調 黄灰白色	
705	かわらけ	法量 口径9.4cm 底径7.6cm 器高1.9cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄灰色	
706	かわらけ	法量 口径11.8cm 底径6.4cm 器高3.5cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡褐色	
707	常滑 鉢	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 赤色粒	色調	暗灰緑色			
708	かわらけ	法量 口径8.2cm 底径6.2cm 器高1.8cm	成形 ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 小石	色調 暗褐色	

(27)

No	種別	調査項目					
709	かわらけ 色調 明橙色	法量 口径9.2cm 底径7.2cm 器高1.8cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 小石			
710	かわらけ 色調 暗褐色	法量 口径11.6cm 底径9.4cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針			
711	かわらけ 色調 淡黄灰色	法量 口径11.6cm 底径5.3cm 器高2.0cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 小石			
712	かわらけ 砂質	法量 口径13.8cm 底径7.5cm 器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 内底無調整 微砂 雲母 白針			
713	常滑 磁	法量 口径20.0cm 縁帶幅1.8cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒	小石 色調 赤褐色 芯 暗灰色			
714	かわらけ 色調 燈色	法量 口径7.7cm 底径5.4cm 器高1.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
715	かわらけ 褐色	法量 口径7.8cm 底径6.3cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
716	常滑 磁	法量 縁帶幅1.3cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒	色調 暗赤褐色 芯 暗灰色			
717	砥石 仕上紙	法量 残長3.4cm 幅3.9cm 厚0.9cm	色調 緑がかった灰白色	備考 泥岩製			
718	砥石 中砥	法量 残長8.3cm 幅5.1cm 厚3.7cm	色調 灰色				
719	かわらけ 砂質	法量 口径7.3cm 底径3.9cm 器高1.9cm	成形 ロクロ 内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針			
720	かわらけ 砂質	法量 口径8.0cm 底径5.6cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
721	かわらけ 砂質	法量 口径8.8cm 底径6.7cm 器高1.4cm	成形 ロクロ 内底無調整	胎土 微砂 雲母 白色粒			
722	かわらけ 色調 黄灰色	法量 口径7.9cm 底径6.0cm 器高1.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
723	かわらけ 色調 淡棕色	法量 口径7.3cm 底径5.4cm 器高1.8cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
724	かわらけ 色調 淡黃褐色	法量 口径7.5cm 底径5.3cm 器高1.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
725	かわらけ 色調 淡黃褐色	法量 口径7.7cm 底径7.0cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
726	かわらけ 色調 暗黃橙色	法量 口径7.8cm 底径5.2cm 器高1.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
727	かわらけ 色調 明黃橙色	法量 口径7.9cm 底径4.9cm 器高1.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒			
728	かわらけ 色調 淡黃橙色	法量 口径7.9cm 底径6.0cm 器高1.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
729	かわらけ 色調 橙色	法量 口径7.9cm 底径6.0cm 器高1.9cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
730	かわらけ 色調 淡黃褐色	法量 口径7.8cm 底径5.9cm 器高1.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
731	かわらけ 色調 淡黃褐色	法量 口径8.0cm 底径6.7cm 器高1.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針			
732	かわらけ 色調 淡棕色	法量 口径7.9cm 底径5.3cm 器高1.75cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			
733	かわらけ 色調 淡黃褐色	法量 口径8.0cm 底径6.3cm 器高1.5cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒			

(28)

No	種別	観察項目						
734	かわらけ	法量	口径7.9cm 底径5.7cm 器高1.8cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄橙色
735	かわらけ	法量	口径8.0cm 底径5.4cm 器高1.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 橙色
736	かわらけ	法量	口径8.2cm 底径6.3cm 器高1.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄橙色
737	かわらけ	法量	口径8.5cm 底径7.3cm 器高1.6cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 橙色
738	かわらけ 砂質	法量	口径10.9cm 底径5.9cm 器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土	内底無調整	胎土 微砂 雲母 白色粒
739	かわらけ	法量	口径12.3cm 底径8.0cm 器高3.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄褐色
740	かわらけ	法量	口径12.7cm 底径8.4cm 器高3.4cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 橙色
741	かわらけ	法量	口径13.2cm 底径9.2cm 器高3.0cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡橙色
742	かわらけ	法量	口径13.3cm 底径9.2cm 器高3.2cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 橙色
743	かわらけ	法量	口径12.4cm 底径7.9cm 器高3.3cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡橙色
744	かわらけ	法量	口径12.9cm 底径8.5cm 器高3.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡橙色
745	かわらけ	法量	口径13.6cm 底径8.6cm 器高3.5cm	成形	ロクロ	胎土	微砂 雲母 白針	色調 黄橙色
746	かわらけ	法量	口径7.8cm 底径5.9cm 器高1.6cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 橙色
747	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径8.1cm 器高1.6cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 黄橙色
748	かわらけ	法量	口径9.1cm 底径7.3cm 器高1.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡黄褐色
749	かわらけ	法量	口径8.8cm 底径8.2cm 器高2.1cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄褐色
750	かわらけ	法量	口径8.8cm 底径7.8cm 器高1.8cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡橙色
751	かわらけ	法量	口径13.3cm 底径11.2cm 器高2.9cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針 赤色粒	色調 淡黄褐色
752	かわらけ	法量	口径13.4cm 底径11.3cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡黄褐色
753	かわらけ	法量	口径14.9cm 底径12.7cm	成形	手づくね	胎土	微砂 雲母 白針	色調 淡橙色
754	青磁 碗	法量	口径15.3cm 胎土 微砂 磁密土 口縁下に一本の条線、蓮華文少々	色調	淡灰白色	釉	淡黄緑色透明	備考 刻花文 内面
755	青磁 碗	法量	口径14.3cm 胎土 微砂 磁密土 同安窯系	色調	淡灰白色	釉	淡黄緑色透明	備考 内外面に脚描
756	青磁 碗	胎土	微砂 磁密土 色調 淡黃白色 釉 暗黄緑色透明 茎入	備考	刻花文	内面口縁下に四本の 条線、唐草と思われる文様		
757	青磁 碗	法量	高台径4.4cm 胎土 微砂 色調 淡灰白色 釉 薄青色透明	備考	外面に蓮華文			

No	種別	観察項目				
758	青磁 無文鏡	法量 高台径4.2cm	胎土 気孔や多、きめ粗い	色調 暗灰色	釉 淡灰綠色透明	貫入
759	白磁 口几皿	法量 口径9.7cm	胎土 ややきめがあ粗い	色調 淡灰白色	釉 灰白色半透明	貫入
760	青白磁 梅瓶	法量 底径10.6cm	胎土 やや気孔多いが緻密	色調 灰白色	釉 淡青灰色透明	貫入
761	青白磁 合子蓋	法量 口径4.6cm	胎土 細密	色調 黄白色	釉 青白色半透明	
762	山茶碗	胎土 微砂 白色粒		色調 灰褐色		
763	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒		色調 灰色		
764	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒 鉄分		色調 暗灰色		
765	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒 鉄分		色調 淡灰色		
766	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒		色調 灰白色		
767	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒 鉄分		色調 灰白色		
768	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒 鉄分		色調 濃灰色		
769	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒 白針		色調 暗灰色		
770	山茶碗窯 鉢	胎土 砂利 白色粒		色調 灰黑色		
771	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒		色調 灰色		
772	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒		色調 灰茶褐色		
773	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒 赤褐色粒		色調 淡灰色		
774	山茶碗窯 鉢	胎土 砂粒 白色粒		色調 淡灰色		
775	山茶碗窯 鏡	胎土 砂粒 白色粒		色調 灰色		
776	山茶碗窯 鉢	法量 高台径12.1cm	胎土 砂粒 白色粒 鉄分	色調 暗灰色		
777	山茶碗窯 鉢	法量 高台径11.7cm	胎土 砂粒 砂利 白色粒	色調 灰色		
778	常滑 鉢	法量 口径27.7cm	成形 外面タテヘラナデ 胎土 砂粒 長石粒 石英粒	色調 明赤褐色 芯 暗灰色+淡黃橙色		
779	常滑 鉢	胎土 砂粒 白色粒	色調 暗赤灰色	芯 暗黃橙色		
780	常滑 鏊	法量 緑帶幅0.8cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調 淡赤灰色	芯 暗灰色	
781	常滑 鏊	法量 緑帶幅1.3cm	胎土 微砂 長石粒 石英粒 鉄分	色調 明赤褐色	芯 暗褐色	
782	常滑 鏊	法量 緑帶幅0.9cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調 暗赤褐色	芯 灰褐色	
783	常滑 鏊	法量 緑帶幅1.1cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒	色調 暗赤褐色	芯 晴灰色	

(30)

No	種別	観察項目				
		法量	縁帶幅	胎土	砂粒	色調
784	常滑 瓢	法量	縁帶幅1.2cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 精良土	色調 暗赤褐色 芯 暗褐色
785	常滑 瓢	法量	縁帶幅1.3cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 赤褐色粒	色調 暗灰色~明赤褐色 芯 暗黃褐色
786	常滑 瓢	法量	縁帶幅2.7cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 鉄分 土丹粒	色調 暗赤褐色 芯 暗灰色
787	常滑 瓢	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調	暗赤灰色	芯 暗灰色
788	常滑 瓢	法量	縁帶幅2.4cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調 暗赤褐色 芯 暗灰色
789	常滑 瓢	法量	縁帶幅2.4cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	色調 赤灰褐色 芯 暗灰色
790	常滑 瓢	法量	口径20.8cm	縁帶幅2.9cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調 暗赤褐色 芯 灰色
791	常滑 瓢	法量	口径22.0cm	縁帶幅2.2cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分	色調 暗赤褐色 芯 暗灰色
792	常滑 瓢	法量	底径12.7cm	胎土 微砂 長石粒 石英粒 鉄分	色調 赤褐色 芯 黄赤褐色	備考 外底砂目
793	常滑 瓢	法量	底径14.1cm	胎土 微砂 長石粒 石英粒 鉄分	色調 暗赤灰色 芯 灰色	
794	手焼り	法量	底径21.3cm	胎土 砂粒 白色粒 瓦質	色調 淡赤灰色	
795	かわらけ	法量	口径9.1cm 底径7.3cm 器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母	
		色調	淡灰白色			
796	瓦器碗	法量	口径10.3cm	成形 外面ヨコヘラミガキ	胎土 微砂 白色粒	色調 黒色 芯 淡灰白色
797	手焼り	法量	口径24.0cm	胎土 砂利 白色粒 赤褐色粒 瓦質	色調 灰褐色+淡桃色 芯 灰白色	備考 外面山口線下に菊花スタンプ押印
798	手焼り	胎土	砂粒 砂利 白色粒	土器質	色調 外面 淡黄褐色 内面 灰褐色	芯 黑灰色
799	手焼り	法量	口径38.8cm	胎土 砂粒 白色粒 赤褐色粒 瓦質	色調 淡橙色 芯 灰色	
800	手焼り	法量	口径40.8cm 底径29.1cm 器高9.7cm	胎土 砂粒 白針 白色粒 赤褐色粒 瓦質	色調 淡橙色 芯 灰色	備考 内底面に灰色の燒痕
801	転用滑石	法量	縫長5.2cm 幅幅3.6cm 厚0.8cm~1.3cm		備考 硬に転用	
802	硬石 中磁	法量	縫長4.7cm 幅3.6cm 厚3.1cm		色調 赤褐色+灰白色	
803	薪石	法量	長径1.5cm 短径1.1cm 厚0.5cm		色調 青黒色	
804	薪石	法量	長径1.8cm 短径1.5cm 厚0.5cm		色調 青黒色	
805	薪石	法量	径1.8cm 厚0.3cm		色調 青黒色	
806	薪石	法量	長径1.7cm 短径1.5cm 厚0.7cm		色調 青黒色	
807	薪石	法量	長径1.4cm 短径1.3cm 厚0.4cm		色調 青黒色	
808	釘	法量	長14.0cm			
809	釘	法量	残長7.8cm			
810	火打金	法量	残長7.8cm 高2.6cm 厚0.2cm~0.4cm			
811	錢	法量	錢種不明			
812	骨製品	法量	残長19.0cm 幅0.5cm~1.6cm	成形 上面に細い縞が格子状に配される		
813	骨製品 賽子	法量	一边0.7cm 僅かに添みあり	賽目1.5mm	色調 暗黃灰色	
814	かわらけ	法量	口径13.6cm 残径11.8cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	
		色調	黄灰色			
815	かわらけ	法量	口径11.4cm 底径8.2cm 器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒	
		色調	暗橙色			
816	石	法量	長径11.0cm 短径7.8cm 厚2.8cm	色調 黄灰色	備考 砂岩	

(31)

No.	種別	報察項目					
817	青磁皿	法量	口径9.6cm	胎土 気孔多 ややきめが粗い	色調 灰白色	釉 淡灰綠色透明	
818	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径6.8cm 器高1.7cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色			
819	青磁無文碗	法量	口径17.9cm	胎土 磨擦	色調 暗灰色	釉 暗綠色透明	やや気泡多
820	深美甕	胎土	砂質 精良土	色調 暗灰色			
821	常滑甕	胎土	砂粒 長石粒 石英粒 黒色粒 小石	色調 緑灰色~茶色	芯 暗灰色		
822	かわらけ	法量	口径9.1cm 底径8.1cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 淡暗褐色			
823	かわらけ	法量	口径9.7cm 底径7.7cm 器高2.6cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃褐色			
824	かわらけ	法量	口径14.8cm 底径13.5cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 明赤灰色			
825	山茶碗	胎土	微砂 白色粒	色調 灰色			
826	山茶甕	法量	口径14.4cm 底径6.9cm 器高5.2cm	胎土 微砂 白色粒	色調 灰褐色		
827	かわらけ	法量	口径8.8cm 底径7.5cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黃灰色			
828	かわらけ	法量	口径8.8cm 底径7.2cm 器高2.0cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 明赤灰色			
829	かわらけ	法量	口径8.7cm 底径7.2cm 器高2.1cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 小石 色調 淡赤灰色			
830	かわらけ	法量	口径10.0cm 底径8.5cm 器高2.6cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡赤灰色			
831	青磁瓶	法量	口径14.9cm	胎土 微砂 堅礫土	色調 淡灰白色	釉 淡綠灰色透明	備考 外面櫛描 内面口縁下一本の条線 同安窯系
832	深美鉢	胎土	砂質 精良土	色調 暗灰色			
833	石	法量	長径4.2cm 短径4.1cm 厚4.2cm	色調 暗灰色			
834	常滑甕	胎土	砂粒 白色粒	色調 暗赤褐色	芯 灰黄色		
835	加工石	法量	長10.8cm 幅5.3cm 厚3.8cm	色調 灰色	備考 擦り石として使用か?		
836	かわらけ	法量	口径8.3cm 底径6.8cm 器高1.9cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 白黄灰色			
837	かわらけ	法量	口径9.1cm 底径6.2cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黃褐色			
838	かわらけ	法量	口径9.8cm 底径7.7cm 器高2.1cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃褐色			
839	かわらけ	法量	口径8.9cm 底径5.6cm 器高1.8cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黃褐色			
840	かわらけ	法量	口径12.4cm 底径8.5cm 器高3.1cm	成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙灰色			
841	かわらけ	法量	口径13.9cm 底径11.9cm 器高3.7cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 明黃褐色			
842	かわらけ	法量	口径14.2cm 底径12.4cm 器高4.3cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 赤色粒 色調 橙色			
843	かわらけ	法量	口径15.0cm 底径13.1cm 器高3.9cm	成形 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 白色粒 色調 淡黃褐色			
844	青磁無文碗	法量	口径15.1cm	胎土 磨擦	色調 暗灰色	釉 暗灰綠色半透明	
845	常滑甕	胎土	砂粒 長石粒 石英粒	色調 暗赤褐色	芯 灰色		

(32)

No.	種別	観 察 項 目						
846	常滑 瓶	胎土 砂粒 長石粒 石英粒	色調 黄茶褐色	芯 灰白色				
847	瓦器 梗	法量 口径10.8cm 成形 外面ヨコヘラミガキ	胎土 微砂 白色粒	色調 黑色	芯 淡黃白色			
848	かわらけ	法量 口径7.9cm 底径5.8cm 器高1.4cm 色調 橙色 備考 内外面スス付着(灯明皿か?)	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
849	かわらけ	法量 口径9.9cm 底径8.7cm 色調 淡橙褐色 備考 内外面スス付着(灯明皿か?)	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
850	かわらけ	法量 口径10.2cm 底径9.1cm 器高2.6cm 色調 淡棕灰色 備考 内外面スス付着(灯明皿か?)	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
851	かわらけ	法量 口径13.5cm 底径11.8cm 器高3.6cm 色調 淡黃褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
852	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径7.0cm 器高1.9cm 色調 淡黃褐色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒				
853	かわらけ	法量 口径9.5cm 底径8.5cm 色調 淡褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
854	かわらけ	法量 口径9.3cm 底径8.4cm 色調 淡黃褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
855	かわらけ	法量 口径12.8cm 底径9.2cm 器高3.0cm 色調 淡棕色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒				
856	かわらけ	法量 口径14.8cm 底径12.6cm 器高3.0cm 色調 明黄褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒				
857	青磁 瓶	法量 口径16.4cm 胎土 細砂 繊密 色調 淡灰白色	釉 淡綠色透明	備考 刻花文 内面に唐草らしき文様				
858	かわらけ	法量 口径8.7cm 底径7.5cm 器高1.6cm 色調 淡黃褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
859	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径8.9cm 器高3.1cm 色調 暗橙色	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒				
860	かわらけ	法量 口径13.8cm 底径12.1cm 色調 明褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母				
861	かわらけ	法量 口径14.5cm 底径12.1cm 器高2.25cm 色調 淡赤灰色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
862	青 磁 無文鏡	法量 高台径5.4cm 胎土 繊密	色調 暗灰色	釉 暗灰綠色透明				
863	かわらけ	法量 口径10.5cm 底径9.5cm 色調 橙色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
864	かわらけ	法量 口径14.8cm 底径13.1cm 器高3.0cm 色調 淡棕色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
865	かわらけ	法量 口径9.0cm 底径8.7cm 色調 淡黃褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
866	かわらけ	法量 口径9.8cm 底径8.8cm 器高1.6cm 色調 明褐色	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針				
867	青 磁 鏡	法量 口径14.7cm 胎土 繊密 口縁下 条線 同安窯系	色調 灰白色	釉 淡灰綠色透明	備考 内外面 楽描			
868	青 磁 鏡	法量 口径16.2cm 胎土 繊密	色調 淡灰白色	釉 淡黃綠色透明	備考 内面 刻花文 唐草の一部か?			
869	かわらけ 砂質	法量 口径12.0cm 底径6.5cm 器高2.9cm 色調 橙白色	成形 ロクロ 内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒				
870	山茶碗窓 跡	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 小石	色調 暗灰色					

(33)

No.	種別	観察項目					
871	磨り石	色調 暗灰色	備考 伊豆石				
872	常滑 麦	法量 緑帶幅1.6cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 黒色粒	色調 明灰色			
873	青磁 無文碗	法量 高台径4.0cm	胎土 織密	色調 茶灰色	釉 茶色味を帯びた灰緑色半透明		
874	かわらけ 砂質	法量 口径8.9cm 底径5.2cm 器高2.0cm	成形 ロクロ 内底無調整	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒	茶色味を帯びた灰緑色半透明	
875	かわらけ	法量 口径9.7cm 底径8.0cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色半透明	
876	青磁 碗	法量 口径13.6cm	胎土 織密	色調 灰白色	釉 淡灰緑色灯明	備考 外面一本の条線	備文
877	青磁 盆	法量 口径10.2cm	胎土 気孔や多くきめが粗い	色調 灰白色	釉 茶色味を帯びた淡灰緑色透明	買入あり	
878	かわらけ	法量 口径10.7cm 底径8.7cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色半透明	
879	青磁 碗	胎土 織密	色調 淡灰白色	釉 淡灰緑色透明	備考 内外面 備文 同安窯系		
880	常滑 麦	法量 緑帶幅1.0cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 小石	色調 黄灰色	心 暗灰色		
881	常滑 麦	法量 緑帶幅1.0cm	胎土 砂粒 長石粒 石英粒 小石	色調 黄緑灰色	心 暗灰色		
882	常滑 麦	法量 緑帶幅1.5cm	胎土 砂粒 小石	色調 灰灰色～灰色			
883	かわらけ	法量 口径9.7cm 底径8.8cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒	茶色味を帯びた灰緑色半透明	
884	白磁 端反り碗	法量 口径15.4cm	胎土 織密	色調 灰白色	釉 灰色失透	気泡が多い	
885	フイゴ 羽口	法量 直径12.8cm 中央孔5.6cm	備考 表面に砂粒が多く付着				
886	常滑 麦	法量 緑帶幅1.7cm	胎土 砂粒 長石粒 小石	色調 暗赤灰色	心 暗灰色		
887	宇瓦	成形 瓦当面 唐草とまわりに珠文 女瓦部 やや粗い離れ砂 布目痕	胎土 砂粒 小石多量	粗土			
888	女瓦	成形 四面 縦ナデ 凸面 布目痕 斜め方向に糸引き痕	胎土 砂粒 白色粒	精良土			
889	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径6.4cm 器高1.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	
890	かわらけ	法量 口径8.0cm 底径6.3cm 器高1.6cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒	茶色味を帯びた灰緑色	
891	かわらけ	法量 口径13.7cm 底径9.0cm 器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針	赤色粒	黄灰色	
892	かわらけ	法量 口径7.8cm 底径7.4cm 器高1.15cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	
893	かわらけ	法量 口径8.8cm 底径7.1cm 器高1.9cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	
894	かわらけ	法量 口径10.0cm 底径8.4cm 器高1.9cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	
895	かわらけ	法量 口径9.4cm 底径8.8cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	
896	かわらけ	法量 口径8.9cm 底径7.6cm 器高1.5cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	
897	かわらけ	法量 口径10.3cm 底径8.6cm	成形 手づくね	胎土 微砂 雲母 白針		茶色味を帯びた灰緑色	

(34)

No	種別	観察項目					
898	かわらけ	法量 口径8.1cm 底径8.5cm 器高4.1cm 成形 内折れ 手づくね 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色 備考 赤彩を施した形跡あり					
899	青磁 瓢	法量 口径16.8cm 胎土 微砂 繊密 色調 灰色 軸 暗緑黄色透明 備考 蓮弁文					
900	白 磁 口丸皿	法量 口径10.0cm 胎土 繊密 色調 淡灰白色 軸 灰白色透明					
901	青白磁 杓	法量 高台径11.3cm 胎土 繊密 色調 淡灰白色 軸 水青色半透明 気泡多					
902	青白磁 合子蓋	法量 口径8.0cm 胎土 繊密 色調 淡灰白色 軸 淡灰綠色透明 貫入					
903	山茶碗窓 鉢	胎土 砂粒 白色粒 色調 灰褐色					
904	山茶碗窓 鉢	胎土 砂粒 白色粒 色調 灰色					
905	常滑 瓢	法量 底径15.1cm 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 色調 橙色					
906	常滑 瓢	法量 底径15.4cm 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 色調 暗赤灰色 心 暗灰色					
907	常滑 瓢	法量 底径15.1cm 胎土 砂粒 長石粒 石英粒 鉄分 色調 灰色 備考 外底砂目					
908	土製品 鬼 形	法量 口径2.4cm 底径3.4～3.8cm 最大径5.3cm 高さ5.6cm 成形 粘土紐輪積み 全体に丁寧なナデ、顔面は刻み出す 胎土 微砂 磁粒少量 かわらけ質 色調 橙褐色、顔面灰黒色 備考 目・鼻・口は貫通、底部に僅5mm程の穿孔 E3山上					
909	鎌 瓦	瓦頭形(推定) 左回り三巴文を主文、外区に3個1セットの珠文が違う。主文の巴の頭は丸味を帯びる 胎土 砂粒 黒灰色 心 灰褐色					
910	砥石 中砥	法量 残長6.4cm 幅3.7cm 厚2.8cm 色調 灰白色 備考 泥岩製					
911	土丹丸	法量 径2.2cm 厚1.7cm					
912	釘	法量 残長16.5cm					
913	釘	法量 残長16.6cm					
914	錢 元豐通宝	行書 北宋 初鑄 1078年					
915	かわらけ	法量 口径6.2cm 底径4.2cm 器高2.1cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色					
916	かわらけ	法量 口径6.9cm 底径4.3cm 器高1.65cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色					
917	かわらけ	法量 口径7.3cm 底径4.6cm 器高1.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 色調 橙色					
918	かわらけ	法量 口径10.65cm 底径6.8cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 暗橙色					
919	かわらけ	法量 口径12.2cm 底径8.1cm 器高3.3cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡黃橙色					
920	かわらけ	法量 口径12.7cm 底径7.2cm 器高3.9cm 成形 ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色					
921	青磁 香炉	法量 口径16.3cm 胎土 微砂 若干の気孔 繊密 色調 白色 軸 淡青緑色透明 貫入多 備考 口部斜削取り					
922	瀬戸 瓢	胎土 微砂 白色粒 色調 黄白色 軸 黄色(灰釉)					
923	瀬戸 碗	胎土 微砂 気孔 色調 灰白色 軸 黑茶色(鉄釉)					
924	瀬戸 皿?	法量 底径4.8cm 胎土 微砂 白色粒 色調 黄白色 備考 内外底面にスス付着					

(35)

No.	種別	観察項目					
925	常滑鉢	成形	外面タテヘラナデ	胎土	砂粒	長石粒	石英粒
926	常滑甕	胎土	砂粒	長石粒	石英粒	鉄分	色調 暗褐色 芯 暗灰色 備考 外底砂目
927	常滑甕	胎土	砂粒	長石粒	石英粒		色調 黒灰色 芯 灰色
928	骨製品	色調	茶色	備考	用途不明	切断面に直径0.3cmの孔が穿たれる	加工途中か?
929	砥石荒砥	法量	残長11.3cm	約5cm角の方柱形	色調	赤灰白色	備考 各面使用 深いVの切り込みと細かい擦痕
930	かわらけ	法量	口径6.9cm	底径3.9cm	器高1.6cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 赤色粒
931	かわらけ	法量	口径7.8cm	底径5.2cm	器高1.7cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
932	かわらけ	法量	口径7.7cm	底径5.7cm	器高1.8cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
933	かわらけ	法量	口径7.9cm	底径7.0cm	器高1.7cm	成形	手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
934	かわらけ	法量	口径12.4cm	底径8.4cm	器高3.2cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
935	かわらけ	法量	口径13.1cm	底径7.4cm	器高3.5cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
936	瀬戸入子	胎土	微砂	精良上	色調	灰白色	備考 内外面下位にスス付着
937	瀬戸折縁皿	胎土	微砂	白色粒	色調	灰白色	釉 緑黄色(灰釉)
938	東播系鉢	胎土	微砂	白色粒	色調	暗赤褐色	芯 灰色
939	瀬美甕	胎土	微砂	白色粒	色調	灰色	釉 暗緑色
940	伝用陶片 常滑	法量	長7.5cm	短4.5cm	厚1.4cm	胎土	砂粒 長石粒 石英粒
		備考	割れ口3面擦り使用				色調 暗赤褐色 芯 暗灰色
941	かわらけ	法量	口径6.7cm	底径4.5cm	器高2.3cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	淡褐色				
942	かわらけ	法量	口径6.9cm	底径3.8cm	器高2.15cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色				
943	かわらけ	法量	口径7.4cm	底径4.3cm	器高2.1cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色				
944	かわらけ	法量	口径7.4cm	底径4.1cm	器高1.9cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	淡黃褐色				
945	かわらけ	法量	口径7.8cm	底径5.6cm	器高1.9cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	淡黃褐色				
946	かわらけ	法量	口径10.8cm	底径8.4cm	器高2.7cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色				
947	かわらけ	法量	口径12.0cm	底径8.2cm	器高3.3cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色				
948	かわらけ	法量	口径12.3cm	底径7.6cm	器高3.3cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	暗橙色				
949	かわらけ	法量	口径13.7cm	底径11.4cm		成形	手づくね 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	暗黃褐色				
950	常滑甕	法量	底径13.0cm	胎土	砂粒	長石粒	石英粒
		色調	淡黃褐色				
951	かわらけ	法量	口径5.8cm	底径4.1cm	器高2.1cm	成形	ロクロ 胎土 微砂 雲母 白針
		色調	橙色				

(36)

No.	種別	観察項目					
		法量	口径	底径	器高	成形	胎土
952	かわらけ	法量	口径7.0cm	底径4.0cm	器高2.4cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
953	かわらけ	法量	口径7.6cm	底径5.9cm	器高2.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙色
954	かわらけ	法量	口径10.7cm	底径5.9cm	器高3.1cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡黄橙色
955	かわらけ	法量	口径10.9cm	底径6.2cm	器高3.3cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 淡橙色
956	かわらけ	法量	口径11.5cm	底径7.2cm	器高3.2cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 赤色粒 色調 橙色
957	かわらけ	法量	口径11.7cm	底径6.9cm	器高3.7cm	成形 ロクロ	胎土 微砂 雲母 白針 色調 淡橙色
958	潮戸 天日茶碗	法量	口径12.0cm	胎土	微砂 白色粒	色調 淡黄白色	釉 黑茶色(鉄釉)
959	潮戸 天日茶碗	法量	口径14.9cm	胎土	微砂 白色粒	色調 灰白色	釉 緑黄色(灰釉)
960	潮戸 折縁皿	胎土	微砂 精良土	色調 淡灰白色	釉 緑黄色(灰釉)		
961	常滑鉢	法量	底径12.0cm	成形	外面タテヘラナデ	胎土 砂粒 長石粒 石英粒	色調 赤褐色 芯 暗灰色
962	常滑鉢	胎土	砂粒	長石粒 石英粒	色調	暗赤褐色	芯 暗灰色
963	手培り	胎土	砂粒	雲母 瓦質	色調	黒褐色	芯 灰白色 備考 口縁下に穿孔あり
964	石製品 鉢	色調	暗淡赤灰色	備考	残存内底面によく磨耗		

表13 出土遺物観察表 一中世以前(1)

No.	種別	観察項目
965	白磁碗	法量 高台径5.8cm 胎土 黒粉・微気孔や多 色調 素地明灰色、釉淡灰緑色 出土位置 東西トレ西上層 備考 高台は故意に打ち欠かれている
966	須恵器壺	胸部小片 文様 外面平行文、内面同心円文 胎土 白粒極少量 色調 灰色 出土位置 東西トレ西上層(2層)
967	土師器壺(埴)	法量 口径11.0cm 胎土 微砂・輝粒少量、精良 色調 淡褐色 内外面赤彩 出土位置 東西トレ西上層(2層)
968	土師器壺	法量 口径12.6cm 成形 体部下半ヨコヘラケズリ、上半ヨコナデ 胎土 微砂・輝粒や多 色調 橙褐色 出土位置 東西トレ西中層(7層) 備考 内面に斜行放射状暗文
969	土師器壺	胎土 砂粒・小石少量 成形 ヨコナデ 色調 表面明褐色、胎芯灰褐色 出土位置 南北トレ北中層(5層) 備考 内面に放射状暗文
970	土師器壺	成形 外面下半ヘラケズリ? 胎土 微砂少量、精良 色調 黄橙色 内外面赤彩 出土位置 東西トレ東中層
971	土師器壺	成形 体部外面下半ヘラケズリ 胎土 赤褐色粒少量 色調 表面淡橙~黄橙色、胎芯橙白色 出土位置 南北トレ北中層(5層)
972	土師器高壺	法量 積部径7.8cm 成形 内外面ナデ(外面ミガキか) 胎土 輝粒・白針少量、精良 色調 淡黃白色、胎芯橙~灰色 内外面赤彩 出土位置 井戸2掘り方南壁中層(4層)
973	土師器高壺	法量 窄带径13.2cm 成形 壺下端にハケ目 胎土 微砂少量 色調 淡褐色 胎芯黒色 内外 赤彩 出土位置 東西トレ東中層
974	土師器高壺	成形 磨滅し不明瞭 胎土 砂粒・輝粒・白針少量、きめ細か 色調 淡橙~淡褐色 外面赤彩 出土位置 南北トレ北中層(4層)
975	土師器壺(埴)	法量 口径9.8cm 成形 外面縦ハケ目+ヨコナデ、内面横ハケ目 胎土 微砂・輝砂・白針少量 色調 淡褐色 内外面赤彩 出土位置 東西トレ東中層
976	土師器壺	法量 底径4.2cm 成形 外面ヘラナデ? 胎土 微砂・輝粒少量、きめ細か 色調 淡褐色 出土位置 南北トレ北中層(4層)
977	土師器壺	成形 ヨコナデ 胎土 砂粒・輝粒や多 色調 淡橙色 出土位置 井戸2掘り方南壁中層(4層)
978	土師器壺	法量 底径6.2cm 成形 磨滅し不明 胎土 黒色輝粒(径0.5~1.0mm)、砂粒多し 成形 磨滅し不 明 色調 淡橙~淡褐色 出土位置 東西トレ西中層(7層)
979	土器片鉢	法量 長さ6.4cm 幅5.0cm 厚さ1.0cm 重量43g (參)胎土 微砂・輝粒多し 色調 淡褐色 出土位置 南北トレ北砂堆(24層)直上
980	土師器壺	胸部小片 成形 外面ハケ目、内面ナデ 胎土 微砂・輝粒・白針や多 色調 淡褐色 出土位置 井戸2掘り方南東隅中層(4層) 備考 S字状口縁付櫛
981	土師器壺	法量 底径6.2cm 成形 外面ハケ目 胎土 砂粒・白针・輝粒や多 色調 外面赤褐色、内面灰 褐色 出土位置 井戸2掘り方南東隅中層(4層) 備考 外底中央に粘土粒付着
982	土師器壺	法量 脊部最大径13.1cm 成形 外面上半ハケ目+ナデ、下半横ヘラナデ(ケズリ?) 内面上半ナデ、下 半ヘラナデ(カキ) 胎土 微砂・白針・赤褐色粒少量、精良 色調 淡黄褐色 外面・頭部内面赤彩 出土位置 東西トレ東下層(19層)
983	土師器高壺	法量 窄帶径12.0cm 成形 外面ハケ目+ナデ、内面粗いヘラミガキ 胎土 微砂・白針極少量、精良 色調 淡褐色 内外赤彩 出土位置 南北トレ北下層(20層)
984	土師器壺	法量 底径12.8cm 成形 外面ヘラケズリ? 胎土 赤褐色粒・白針少量、精良 色調 淡橙色 内面墨彩 出土位置 3面 備考 内面に斜行放射状暗文、内底外周に沈線 甲斐型系黒色土器(或 いはその模倣)か
985	土師器壺	成形 外面下半ヘラケズリ、上半ヨコナデ、口縁部ヘラ? 胎土 赤褐色粒・白色粒・黒色輝粒 色調 明橙褐色 出土位置 井戸2掘り方下層
986	土師器高壺	法量 積部径11.4cm 成形 内外面ヨコナデ? 胎土 微砂・小石極少量 色調 淡褐色・内外面 赤彩 出土位置 井戸2掘り方土層

(2)

No	種別	観 察 項 目
987	土師器 高 环	法量 突帯部径16.8cm 成形 ヨコナデ+ハケ目 胎土 微砂・石英少量、精良 色調 極白色 胎芯灰黒色 内外面赤彩 出土位置 井戸2振り方下層
988	土師器 高 环	成形 ヨコナデ 胎土 微砂極少量、精良 色調 極白～橙色 内外面赤彩 出土位置 井戸2振り方下層
989	土師器 高 环	法量 突部径13.2cm 成形 外面下半ヘラケズリ? 上半～内面ヨコナデ 胎土 砂粒・赤褐色粒・白色粒・黒色輝紋 色調 淡褐～褐色 出土位置 井戸2振り方下層
990	土師器 高 环	成形 ヨコナデ 胎土 微砂粒・輝粒・白針 色調 淡橙褐色 外面赤彩 出土位置 3B面
991	土師器 壺	法量 底径2.8cm 成形 ナデ? 胎土 微砂・赤褐色粒・黒色輝粒 色調 橙色 外面赤彩(内面僅か) 出土位置 土塁33
992	土師器 手捏ね土器	法量 口径約5.9cm 底径3.2cm 高さ約3.4cm 成形 内底指痕無 外底無調整 上半1段輪積みヨコナデ 胎土 微砂極少量、精良 色調 淡褐色 外表面半分黒変 出土位置 土塁20
993	石製品 有孔円板	法量 直径3.1cm 厚さ0.45cm 材質 滑石(绿泥片岩?) 色調 暗緑色 出土位置 井戸状遺構5
994	須恵器 碗	法量 高台径7.2cm 成形 外底糸切り無調整 胎土 夾雜物の少ない精良土 色調 表面灰色、胎芯淡橙褐色 出土位置 2面上包含層
995	須恵器 环	成形 ヨコナデ 胎土 微砂少量 色調 明灰色 出土位置 4面
996	須恵器 环・蓋	成形 ヨコナデ 上面ヘラケズリ 胎土 微砂極少量 色調 灰色 出土位置 小町大路確認トレ東1面
997	須恵器 瓶・壺	成形 外面平行文+ヨコナデ、内面ナデ 胎土 白色粒少量 色調 表面灰色 胎芯暗赤褐色 出土位置 井戸2底面切石直下
998	須恵器 壺	成形 外面平行文、内面同心円文+横ヘラケズリ 胎土 砂粒少量 色調 灰色 出土位置 3B面ビット

宇津宮辻子幕府跡の花粉化石

鈴木 茂 (パレオ・ラボ)

鎌倉市小町二丁目389番1の宇津宮辻子幕府跡において発掘調査が行われ、検出された遺構・遺物から古墳時代中期?以降の堆積層が観察される。これまで市内において盛んに行われてきた発掘調査の中心はやはり鎌倉時代(中世)であり、花粉分析など自然科学分析も鎌倉時代以降が主体で、それ以前についてはあまり行われていない。こうしたことから、ここでは古墳時代中期頃?の堆積層を中心に花粉分析を行い、この頃の遺跡周辺の古植生について検討した。

1. 試料

花粉分析は南北トレンチ西壁(図1)の2地点(A、B)より採取した柱状試料より分割した8点(図2)について行った。なお、図1、2に示した層位番号については、資料として頂いた断面図に使用されていたものを用いた。各土層の詳しい記載については本論の土層の章を参照して頂き、以下には試料を採取した土層を中心に簡単な記載を示した。

1層は暗灰色の砂質シルト～粘土で、赤褐色の酸化鉄の集積が認められる。2層は暗灰～黒灰色の砂質粘土～シルトで、赤褐色の酸化鉄の集積が縦方向に観察される。本層には炭片が認められ、土丹小片が点在し、風化スコリアとみられる白色粒子が散在している。3層は黒～黒灰色の粘土で、2層より少ないが赤褐色の酸化鉄の集積が縦方向に認められる。また、風化スコリアとみられる白色粒子が散在し、一部層状に認められる。4層は褐色を帯びた暗灰色砂質粘土で、赤褐色の酸化鉄の集積が枝状や根状に観察される。また、黄色の土丹小片(最大径12mm)や白色微粒子(風化スコリア?)が点在している。5層は黒灰色の砂質粘土で、白色微粒子(風化スコリア?)が散在している。また、最大径16mmの土丹

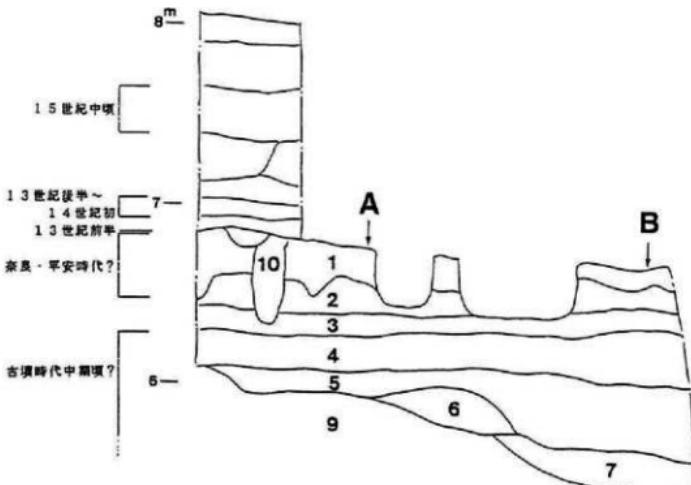


図1 試料採取地点付近の断面図(南北トレンチ西壁)

片や砂塊（径15mm前後）が点在し、小レキや炭片も認められる。6層は褐色を帯びた暗灰色砂質粘土で、径60mmの砂塊が認められる。7層は青色を帯びた黒色の砂質粘土で、草本の植物遺体が縦方向に認められ、材片も点在している。この材片について藤根（パレオ・ラボ）が樹種同定を行ったところ、ヤマグワとアオキであった。9層は、上部が黒灰色粘土塊の点在する黄褐色細粒砂、その下が土丹塊（最大径170mm）が散在する黒灰色粘土の多い黄褐色細粒砂、最下部が黄色細粒砂となっている。

これらの上層について出土遺物・遺構から、1層上面が13世紀前半、1層が奈良・平安時代？、4層より下位が古墳時代中期頃？と考えられている。

2. 分析方法

上記した2地点、8試料について、次のような手順にしたがって花粉分析を行った。

試料（湿重約2~5g）を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え20分間湯煎する。水洗後、0.5mmの筒にて植物遺体などを取り除き、傾斜法を用いて粗粒砂分を除去する。次に46%フッ化水素酸溶液を加え20分間放置する。水洗後、重液分離（比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離）を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトトリシス処理（無水酢酸9:1濃硫酸の割合の混酸を加え3分間湯煎）を行う。水洗後、残渣にグリセリンを加え保存用とする。検鏡はこの残渣より適宜プレパラートを作成して行い、その際サフラニンにて染色を施した。

3. 分析結果

検出された花粉・胞子の分類群数はA、B両地点を合わせて、樹木花粉40、草本花粉32、形態分類を含むシダ植物胞子4の計76である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、また主要な花粉・シダ植物胞子の分布を図3（A地点）、図4（B地点）に示したが、試料1については検出できた樹木花粉数が非常に少なく分布図として示すことができなかった。なお、これらの分布図における樹木花粉は樹木花粉総数を基準に、草本花粉・シダ植物胞子は全花粉・胞子総数を基準として百分率で示してある。表および図においてハイフンで結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示し、クワ科・バラ科・マメ科の花粉は樹木起源と草本起源のものとがあるがそれぞれに分けることが困難なため便宜的に草本花粉に括して入れてある。また花粉化石の単体標本（花粉化石を一個体抽出して作成したプレパラート）を作成し、各々にPLC.SS番号を付し、形態観察用および保存用とした。

検鏡の結果、A、B両地点において大きな違いは認められず、スギ属とコナラ属アカガシ亜属が20~30%の出現率を示し最も多く検出されている。その他はいずれも5~10%で、モミ属、ツガ属、マツ属複雑管束亜属（アカマツやクロマツなどのいわゆるニヨウマツ類）、イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科、

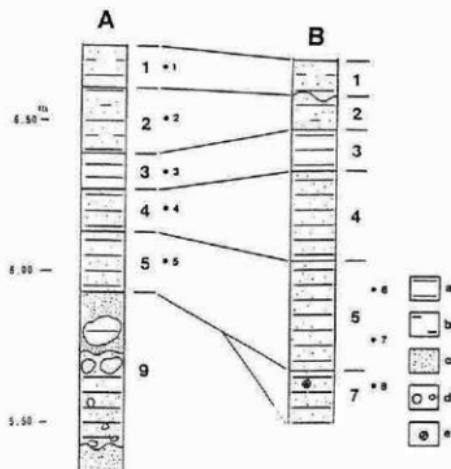


図2 A・B両地点の地質柱状図および試料採取層準
a:粘土 b:シルト c:砂 d:レキ e:木本

表1 宇津宮辻子墓跡の産出花粉化石一覧表

種名	学名	年代							
		1	2	3	4	5	6	7	8
第四紀									
マツ属	<i>Podocarpus</i>	-	3	-	1	2	2	2	3
ヒノキ属	<i>Abies</i>	1	9	1	3	6	13	3	3
ツガ属	<i>Tsuga</i>	2	15	4	2	9	17	3	1
トウヒ属	<i>Picea</i>	1	-	-	-	-	1	-	-
マツ属	<i>Pinus subgen. <i>Diploxylon</i></i>	-	-	-	-	-	2	-	-
マツ属	<i>Pinus subgen. <i>Diploxylon</i></i>	1	10	15	3	4	5	2	1
マツ属(不明)	<i>Pinus (Unknown)</i>	-	1	6	1	1	3	-	-
コカシキ属	<i>Sciadopitys</i>	-	1	6	1	1	3	-	1
スギ属	<i>Cyprisophora</i>	4	68	23	17	74	49	81	94
イチイ属-イヌガヤ科-ヒノキ科	<i>T. C.</i>	1	17	4	11	27	12	24	21
ヤナギ属	<i>Salix</i>	-	-	-	1	1	-	1	1
ヤマモモ属	<i>Myrica</i>	-	2	1	-	1	-	3	1
クルミ属	<i>Juglans</i>	-	3	1	1	2	3	-	1
クルミ科-アサガオ属	<i>Corylus - Ostrya</i>	-	5	2	2	7	14	9	20
カバノキ属	<i>Betula</i>	-	2	1	2	3	2	2	2
ハンノキ属	<i>Alnus</i>	-	3	-	1	2	2	-	4
ブナ属	<i>Fagus</i>	-	1	-	1	2	8	1	2
コナラ属-カラナリ属	<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	-	15	6	8	10	16	13	11
コナラ属-カガシ属	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	1	46	32	31	61	49	62	77
クリ属	<i>Castanea</i>	-	3	2	-	1	3	-	6
シナノキ属-マテバシイ属	<i>Castanopsis - Passiflora</i>	3	12	7	2	5	3	15	11
シナノキ-ケヤキ属	<i>Ulmus - Salix</i>	-	8	8	8	8	13	5	6
エノキ属-ムクノキ属	<i>Celtis-Aphananthe</i>	-	-	-	1	17	7	8	4
クワ属	<i>Liquidambar</i>	-	-	-	-	-	2	-	-
フジ属近似種	<i>cf. Wistaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
サンショウ属	<i>Zanthoxylum</i>	-	1	-	-	-	-	-	1
キハダ属	<i>Phellodendron</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
スズラン属	<i>Daphne</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
カヌマ属	<i>Acer</i>	-	-	-	-	-	-	-	2
トネリノリ属	<i>Aesculus</i>	-	-	2	-	-	-	-	-
ムクロジ属	<i>Sapindus</i>	-	-	-	-	-	-	-	2
サカキ属-ヒサキ属近似種	<i>Cleyera-Surya</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
ウコギ属	<i>Araliaceae</i>	-	-	2	-	-	-	1	1
オキナガラ属	<i>Acacia</i>	-	-	-	-	-	-	1	1
ミズタマ属	<i>Cormus</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
エゴノキ属	<i>Syrinx</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
イボガノ木属	<i>Ligustrum</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
ティカカカラ属	<i>Trachelospermum</i>	-	-	-	-	-	-	1	1
ムラサキシキブ属	<i>Callicarpa</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
ニワトコ属	<i>Sambucus</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
スイカズラ属	<i>Lonicera</i>	-	-	-	1	3	-	-	-
第三紀									
ガマ属	<i>Typea</i>	-	-	5	1	4	1	1	1
ヒルムシロ属	<i>Polygonatum</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
ヤシオモチカ属	<i>Alliaria</i>	-	3	-	6	14	14	43	201
オモダカ属	<i>Sagittaria</i>	-	3	1	6	14	14	-	-
スブタケ属-ミズオオバコ属	<i>Elymus - Ostelea</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
イネ科	<i>Gramineae</i>	34	441	256	213	392	356	269	201
カヤノリグサ科	<i>Cyperaceae</i>	3	85	40	74	41	41	36	24
タクサ科	<i>Coumoina</i>	-	-	1	-	-	-	-	-
ミズアオイ属	<i>Monochoria</i>	-	1	-	1	1	17	71	-
クワ科	<i>Moraceae</i>	-	1	5	5	14	4	7	18
ゲンギョウ属	<i>Rumex</i>	-	-	-	-	2	-	2	3
サナエリ属-ウナギカエデ属	<i>Polygonum sect. Persicaria-Echinocaulon</i>	-	1	6	2	1	4	1	4
イタドリ属	<i>Polygonum sect. Reynaudia</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
アカザリ-ヒユ科	<i>Chenopodiaceae - Amaranthaceae</i>	-	8	9	5	6	3	3	3
アザレア属	<i>Caryopeltis</i>	-	4	1	-	6	4	1	3
カラマツク属	<i>Taxodium</i>	-	-	-	-	-	-	-	2
後のキンボウゲ科	<i>other Bannanaceae</i>	1	13	3	1	4	3	2	2
アブリナ科	<i>Crassifoliales</i>	3	14	8	8	6	7	9	2
バラ科	<i>Rosaceae</i>	1	2	1	-	-	-	-	-
マメ科	<i>Leguminosae</i>	-	1	-	1	2	-	4	2
フウロソウ属	<i>Geranium</i>	-	1	-	-	-	-	-	-
ツブニク属	<i>Impatiens</i>	-	-	-	-	-	1	1	1
アリノリクサ属	<i>Hedysarum</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
セリ科	<i>Umbelliferae</i>	-	1	5	2	-	-	-	2
シリ科	<i>Labiatae</i>	-	-	-	-	-	-	-	-
オオバコ属	<i>Plantago</i>	-	1	-	-	-	1	2	1
ヘクソカカラ属	<i>Pandaria</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
オミナエシ属	<i>Patrinia</i>	-	-	1	-	-	-	-	-
ゴキヅル属-アマチャヅル属	<i>Actinostemma - Gynostemma</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
ヨモギ属	<i>Artemisia</i>	17	78	124	7	28	19	20	28
ヨモギ属	<i>Other Aromaticas</i>	2	13	20	6	8	-	-	4
ラン科	<i>Liliaceae</i>	12	21	24	0	9	8	-	1
第三紀後半									
シナノキ属	<i>Salvinia natans</i>	-	-	-	1	1	4	-	-
アカウカササ属	<i>Asplenium</i>	-	-	-	-	-	-	-	1
単子葉類	<i>Monocot spores</i>	12	41	81	10	6	13	16	17
三葉葉類	<i>Trilete spores</i>	3	3	2	-	-	-	-	3
裸子植物	<i>Archaeal pollen</i>	14	231	114	100	250	222	244	253
被子植物	<i>Monocot pollen</i>	13	687	510	341	337	480	420	870
シダ植物	<i>Spores</i>	13	44	54	13	7	18	17	21
花粉-微生物	<i>Total Pollen & Spores</i>	100	962	678	454	794	709	681	944
不明花粉	<i>Unknown pollen</i>	8	43	44	17	17	9	24	9

T. - C. H Taxaceae-Cephaelanthaceae-Cupressaceaeを示す

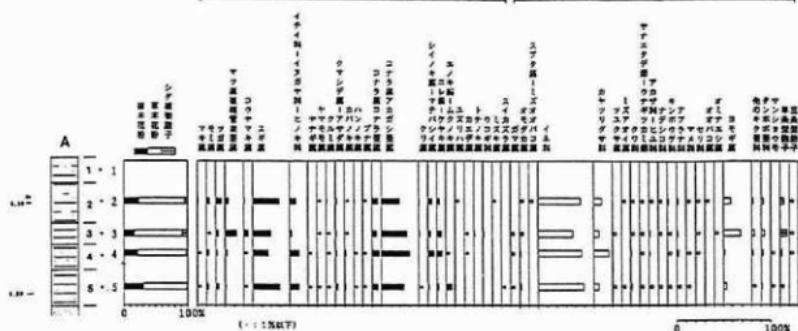


図3 宇津宮辻子墓府跡A地点の花粉化石分布図
(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉、胞子は花粉・胞子総数を基準として百分率で算出した)

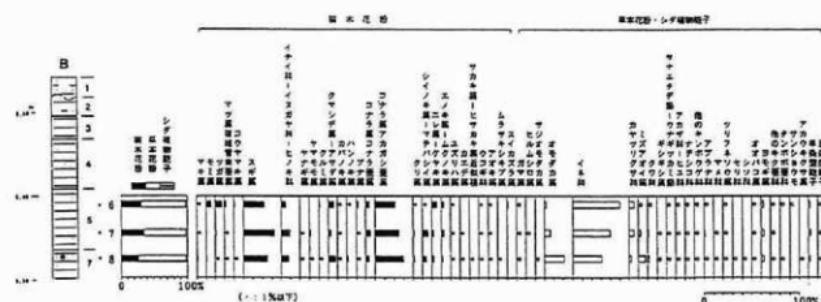


図4 宇津宮辻子墓府跡B地点の花粉化石分布図
(樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉、胞子は花粉・胞子総数を基準として百分率で算出した)

クマシデ属ーアサガ属、コナラ属コナラ亜属、シノキ属ーマテバシイ属、ニレ属ーケヤキ属などが検出されている。草本類ではイネ科が最も多く検出されており、最下部（試料8）では出現率30%であるが、上位に向かい急増し、50%近い出現率を示している。カヤツリグサ科も上部に向かい次第に増加している。反対にオモダカ属は最下部で20%と高い出現率を示すが、上位に向かい急減している。また、ミズアオイ属も同様の傾向を示している。ヨモギ属は下部試料では低率であるが、上部の試料2、3では10%前後に増加している。その他、アカザ科ーヒユ科、キンボウゲ科、アブラナ科などが全試料より得られ、水生シダ植物のサンショウモやアカウキクサ属も検出されている。

4. 遺跡周辺の古植物

古墳時代中期頃の遺跡周辺ではスギ属を主体にイチイ科ーイヌガヤ科ーヒノキ科やモミ属、ツガ属、ニヨウマツ類などの針葉樹林が優勢であった。また、アカガシ亜属を中心にシノキ属ーマテバシイ属

やユズリハ属、アオキなどが生育する照葉樹林も広く分布していた。その他、クマシデ属ーアサダ属やコナラ亜属、ニレ属ーケヤキ属、エノキ属ームクノキ属などの落葉広葉樹類も普通にみられた。後述するが、この頃試料採取地点付近は水田稲作が営まれていたと考えられ、針葉樹林や照葉樹林などはこの水田周辺の主に丘陵部にみられたのであろう。この水田部分や湿地的な環境のところにはオモダカ属やミズアオイ属などの水生植物（抽水植物）や、後述するプラント・オバール分析にみられるヨシ属などが生育していた。また、これらの周囲にはアカザ科ーヒュ科、キンポウゲ科、アブラナ科、オオバコ属、ヨモギ属やタンボポ亜科などのキク科といった雑草類が生育していたであろう。

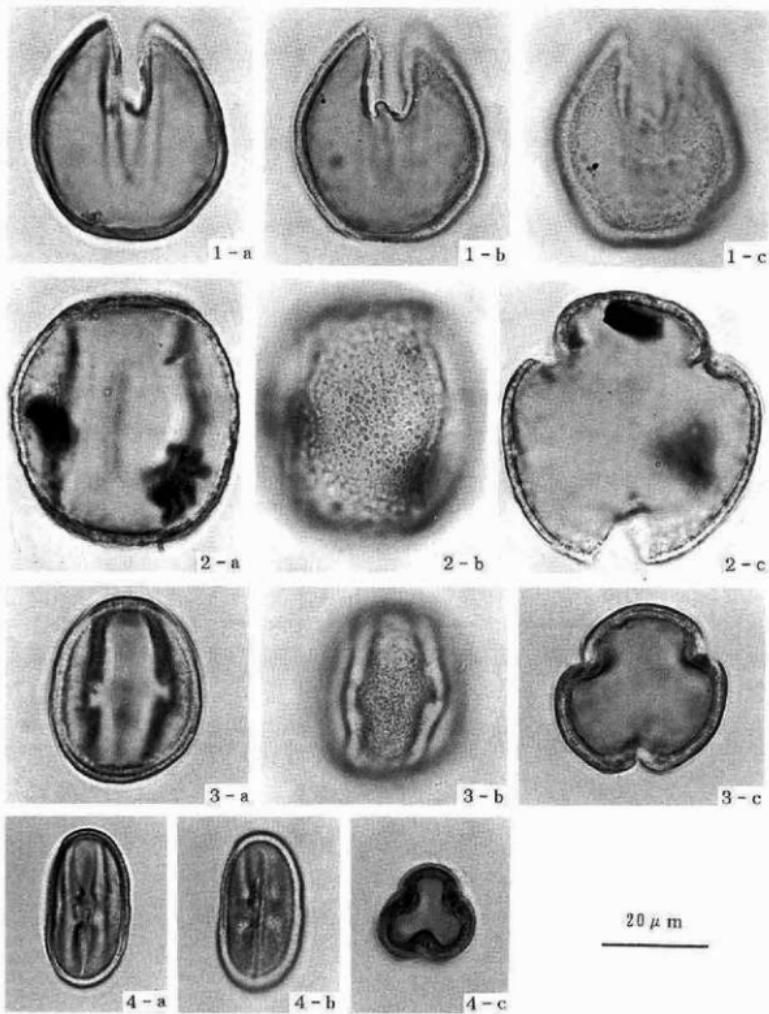
奈良・平安時代（試料1）については、樹木花粉の検出数が非常に少なく周辺植生については不明である。しかしながら、検出された分類群をみると古墳時代中期頃？の植生と違いはなかったように思われる。

5. 稲作について

イネ科花粉が非常に多く検出されており、そのなかにはイネ属とみられる花粉化石も多くみられる。イネ科以外では、現在の水田において普通にみられるコナギ（ミズアオイ属）、オモダカ（オモダカ属）などの抽水植物や、水生シダ植物のサンショウモやアカウキクサ属などの水田雑草類を含む分類群も産出している。また、稲作の検証に有効なプラント・オバール分析を試料1～5および8について試み、その結果を表2と図5に示した。イネについてみると、試料1を除き試料1g当たり約10,000個以上と多く検出されている。稲作の検証として、イネのプラント・オバールが試料1g当たり5,000個以上検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性は高いと判断されている（古環境研究所 1989）。これにしたがえば、試料1を除く各試料において稲作の可能性は高いと推測され、花粉分析結果から古墳時代中期頃？において水田稲作が行われていたと判断される。水田稲作については市内常盤字殿下入の北条政村屋敷跡においても古墳時代から古代にかけての時期にその可能性が示されている（鈴木 1994）。このように、古墳時代については水田稲作が行われていた可能性が高いが、奈良・平安時代（試料1）については検出個数が少なく、その可能性は低いと予想される。しかしながら、少ないながらもイネのプラント・オバールは検出されており、この時期における水田稲作についてはさらに検討が必要であろう。

引用文献

- 古環境研究所（1989）プラント・オバール、練馬区弁天池低湿地遺跡の調査、東京都住宅局・練馬区遺跡調査会、P.133-154。
鈴木 茂（1994）北条政村屋敷跡の花粉化石、鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10 平成5年度発掘調査報告（第2分冊）、鎌倉市教育委員会、P.38-48。



図版1 宇津宮辻子墓跡の花粉化石 (試料8)

- 1:スギ属 PLC, SS 1460
- 2:コナラ属コナラ亜属 PLC, SS 1477
- 3:コナラ属アカガシ亜属 PLC, SS 1479
- 4:シノキ属—マテバシイ属 PLC, SS 1483

表2 試料1g当りのプラント・オパール個数

試料番号	イネ	ネザサ属型	クマザサ属型	他のタケ亞科	ヨシ族	キビ族	ウシクサ族	不明
	(個/g)	(個/g)	(個/g)	(個/g)	(個/g)	(個/g)	(個/g)	(個/g)
1	2,400	133,000	10,800	0	4,800	2,400	21,600	15,600
2	9,700	259,200	25,400	2,400	6,100	0	31,500	37,500
3	10,300	110,300	30,900	0	5,900	0	26,500	25,000
4	12,000	92,200	18,700	1,300	8,000	0	8,000	16,000
5	9,800	88,100	14,000	0	7,000	1,400	16,800	15,400
8	22,500	283,000	33,800	8,000	12,900	3,200	22,500	33,800

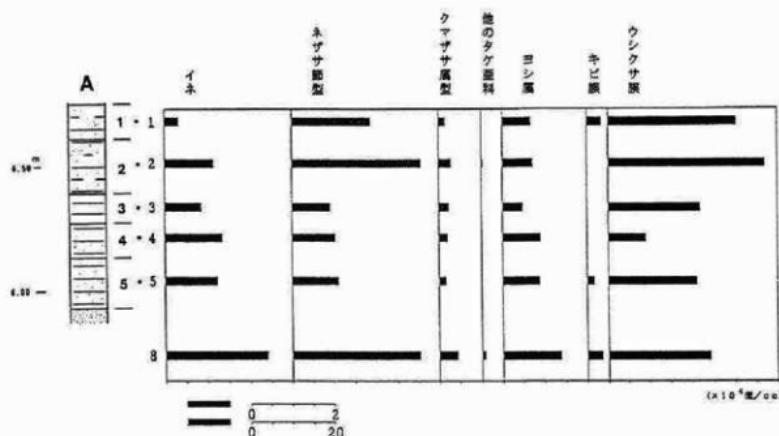
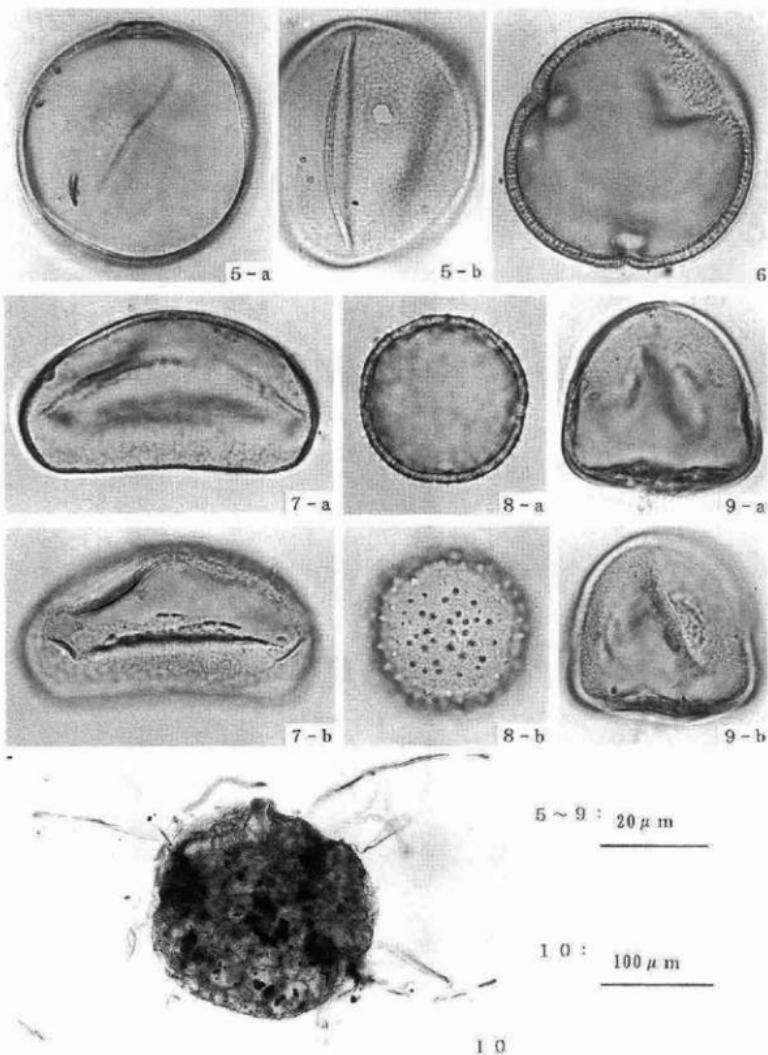


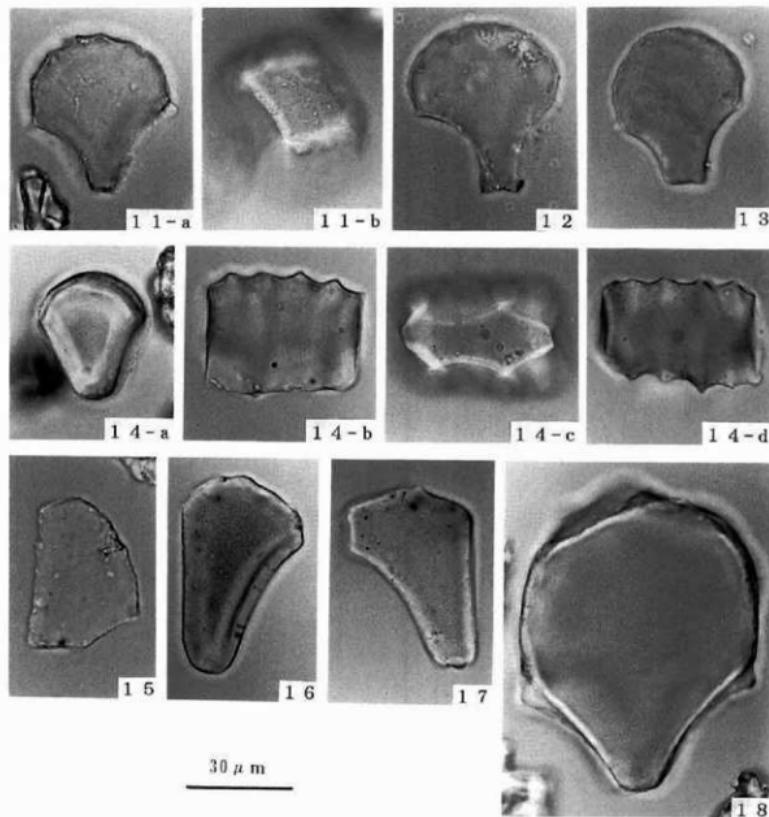
図5 宇津宮辻子幕府跡のプラント・オパール分布図



図版2 宇津宮辻子幕府跡の花粉化石 (試料8)

5: イネ科 PLC.SS 1485
 6: オシギン属 PLC.SS 1482
 7: ミズアオイ属 PLC.SS 1478

8: オモダカ属 PLC.SS 1476
 9: カヤツリグサ科 PLC.SS 1486
 10: アカウキクサ属 PLC.SS 1481



図版3 宇津宮辻子墓府跡のプラント・オパール

- 11~13: イネ (11-a, 12, 13:断面, 11-b:側面) 11:試料2, 12:試料4, 13:試料8
- 14: ネザサ節型 (a:断面, b:側面, c:表面, d:裏面) 試料4
- 15: クマザサ属型 (断面) 試料4
- 16, 17: ウシクサ族 (断面) 試料4
- 18: ヨシ属 (断面) 試料2

写 真 図 版

図版1



A. 空撮遠景（上が北）

若宮大路と小町大路の間が宇都宮辻子幕府跡（No.239）の推定範囲。



B. 空撮遠景（上が南）

幕府南側の「小町口」のあたりを望む。



C. 空撮中景（上が北）

A. 調査前の状況（東から）



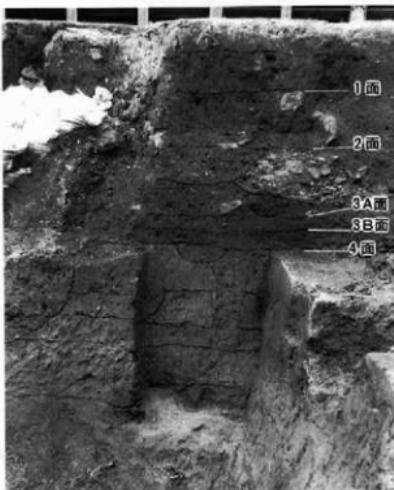
B. 表土掘削風景（西から）

向こうに見える森は日蓮社説
法跡。



C. 調査区内土層堆積

中世以前確認南北トレンチの南端から調査区南壁を見た
様子。



図版3



A. 土壌 11 (東から)



B. 貝砂面 (東から)



C. 獣骨 (西から)



図版5



A. 井戸1(西から)



B. 井戸1南東隅の石積み状況
(北西から)



C. 井戸1木枠検出状況(西から)

A. 井戸1 東壁木枠（西から）

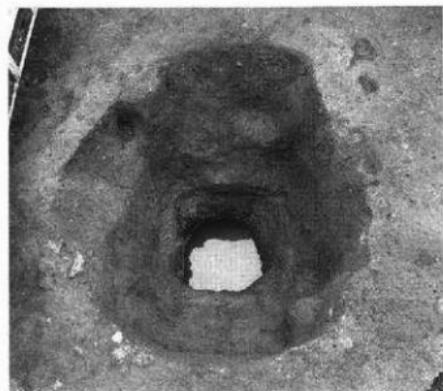


B. 井戸1 南壁木枠（北から）

杭を打って補強している。



C. 井戸1 掘り方検出状況
(西から)



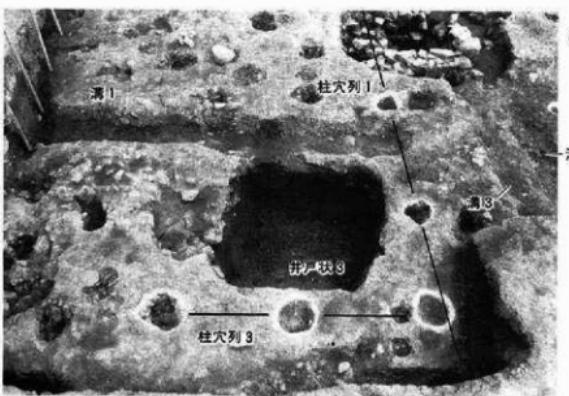
図版7



A. 2面全景（東から）
ポール式高所撮影装置による。

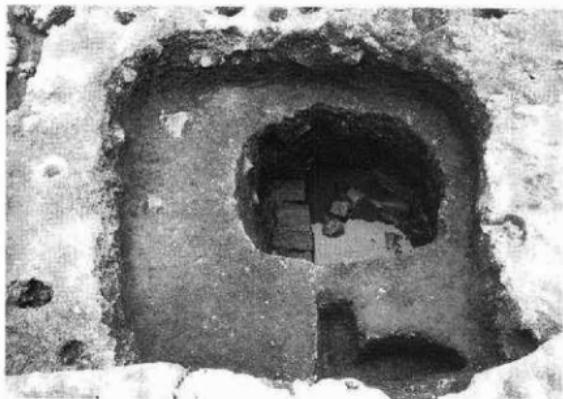


B. 捏立柱建物 1（西から）



C. 柱穴列 1・3, 井戸状遺構 3,
溝 1～3（南から）

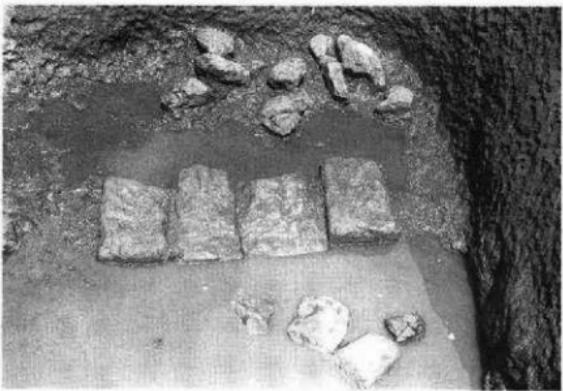
A. 井戸 2 (南から)



B. 井戸 2 振り方完振状況
(南から)



C. 井戸 2 底面に敷き並べられた
鎌倉石切石 (東から)



図版9



A. 井戸3(南から)



B. 井戸3 西壁(東から)



C. 井戸3 挖り方完掘状況
(東から)

A. 3A面（北半・西から）



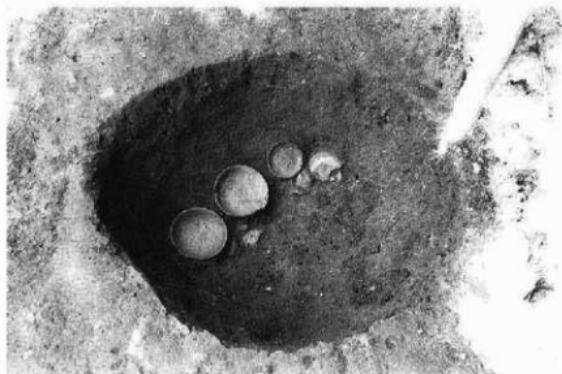
B. かわらけ溜り遺構 1 (北から)



図版11



A. かわらけ濁り遺構 2 (東から)



B. かわらけ濁り遺構 3 (東から)



C. かわらけ濁り遺構 4 (東から)

A. かわらけ漏り遺構 5 (西から)

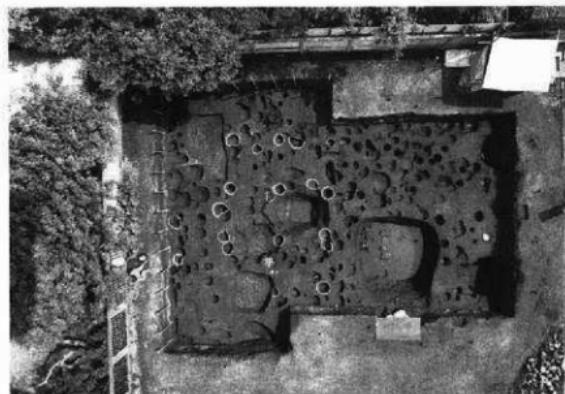


B. 土壙 36 (南から)



C. 土壙 36 完墳状況 (南から)

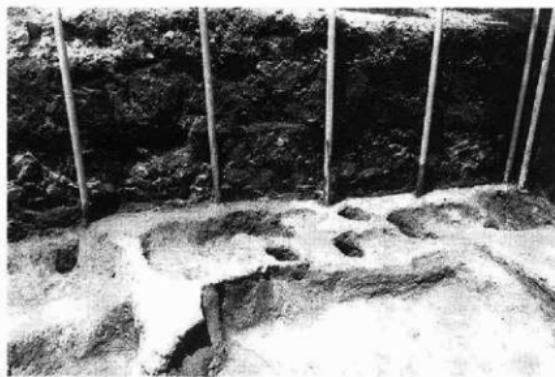




A. 3B面全景（上が北）
約80m上空よりの気球撮影。



B. 捕立柱建物2（北から）

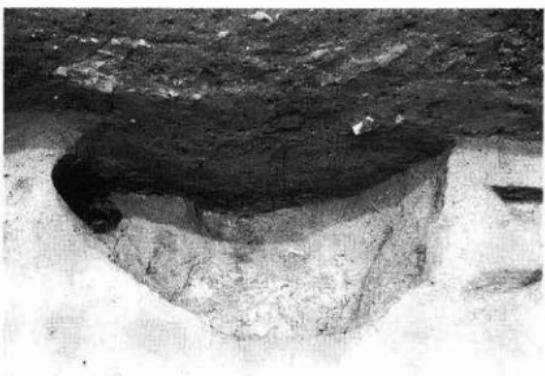


C. 3B面北西隅版築状況
(東から)
調査区北西部付近は細粒土層による。密な版築面が広がる。

A. 井戸状遺構4（西から）



B. 土壙25（北から）



C. かわらけ濁り遺構8（南から）





A. 4面全景 (上が北)



B. 据立柱建物 6 - 実線 -・同10 - 破線 - (北から)

実線は現若宮大路に、破線は現小町大路にはほぼ平行している。



C. 据立柱建物 6・P-3



D. 同左 P-14

A. 井戸状遺構 5（西から）



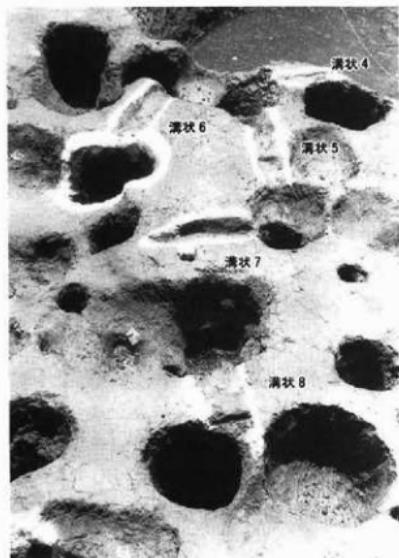
B. 同上 土層堆積（西から）



C. 土壙27（西から）



図版17



A. 溝状遺構 4~8 (北から)



B. 溝状遺構 9 (北から)

A. 3面 P-430 山茶碗出土状況



B. 4面 P-550 かわらけ出土状況



C. 4面 P-610 宇瓦出土状況



D. 4面 井戸状遺構 5 出土炭化茎





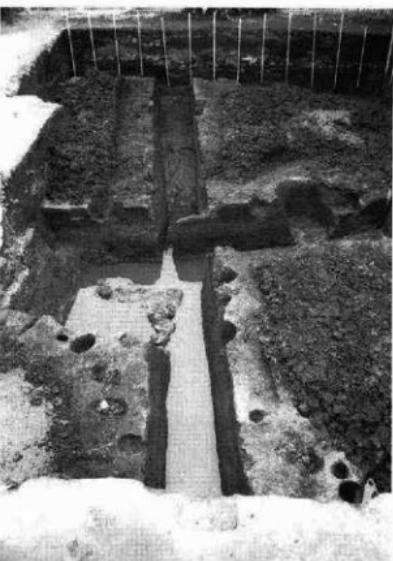
A. 小町大路確認トレンチ（東から）



B. 同上 中央落ち込み（南東から）

左手に見える土丹塊は溝肩？の護岸、あるいは調査区2面相当の地業かと思われる。

A. 中世以前確認トレンチ全景（東から）



B. 南北トレンチ西壁土層堆積
(南東から)



図版21



A. 南北トレンチ南半土層堆積
(東から)
花粉化石資料は、この断面より採取した。



B. 南北トレンチ北半東壁土層堆積
(北西から)
黄褐色砂の高まりが中央に見える。



C. 花粉化石試料採取風景

A. 東西トレンチ全景（南西から）



B. 東西トレンチ北壁東半土層
堆積（南西から）



C. 東西トレンチ東半第19層土
師器塗出土状況



図版23

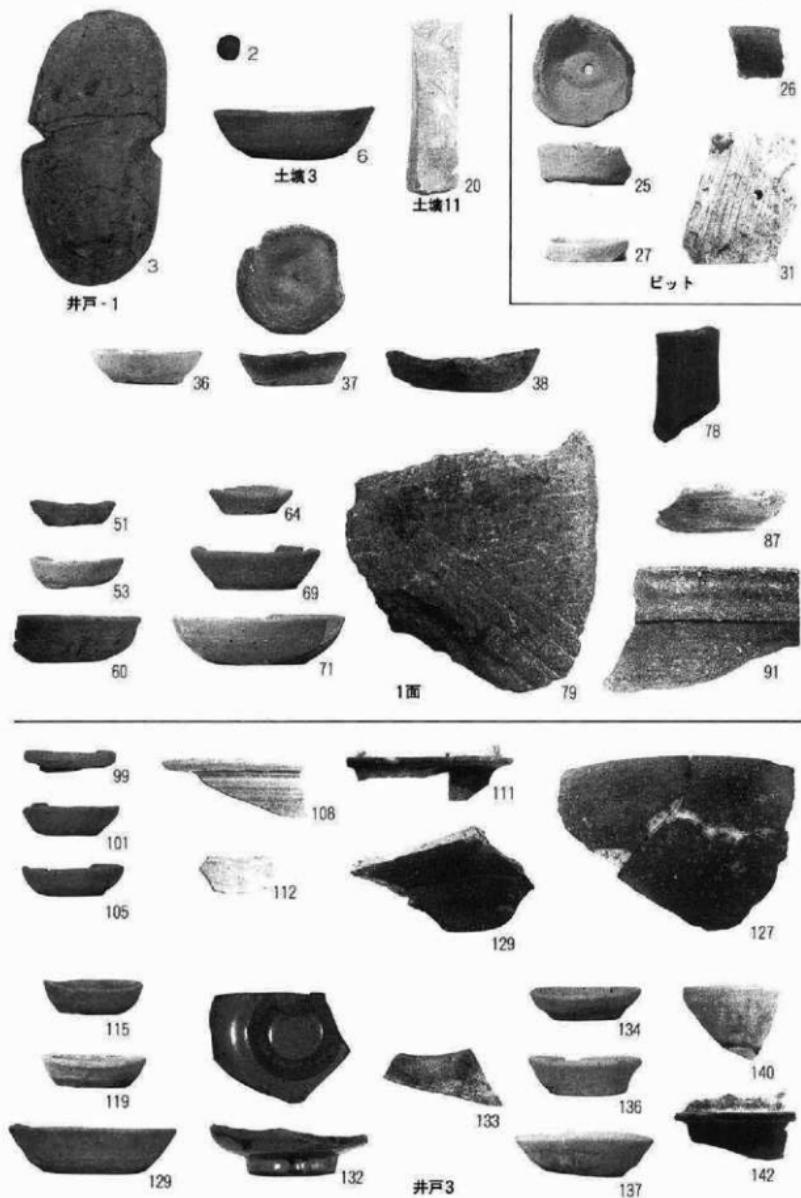


A. 北西トレンチ（北から）

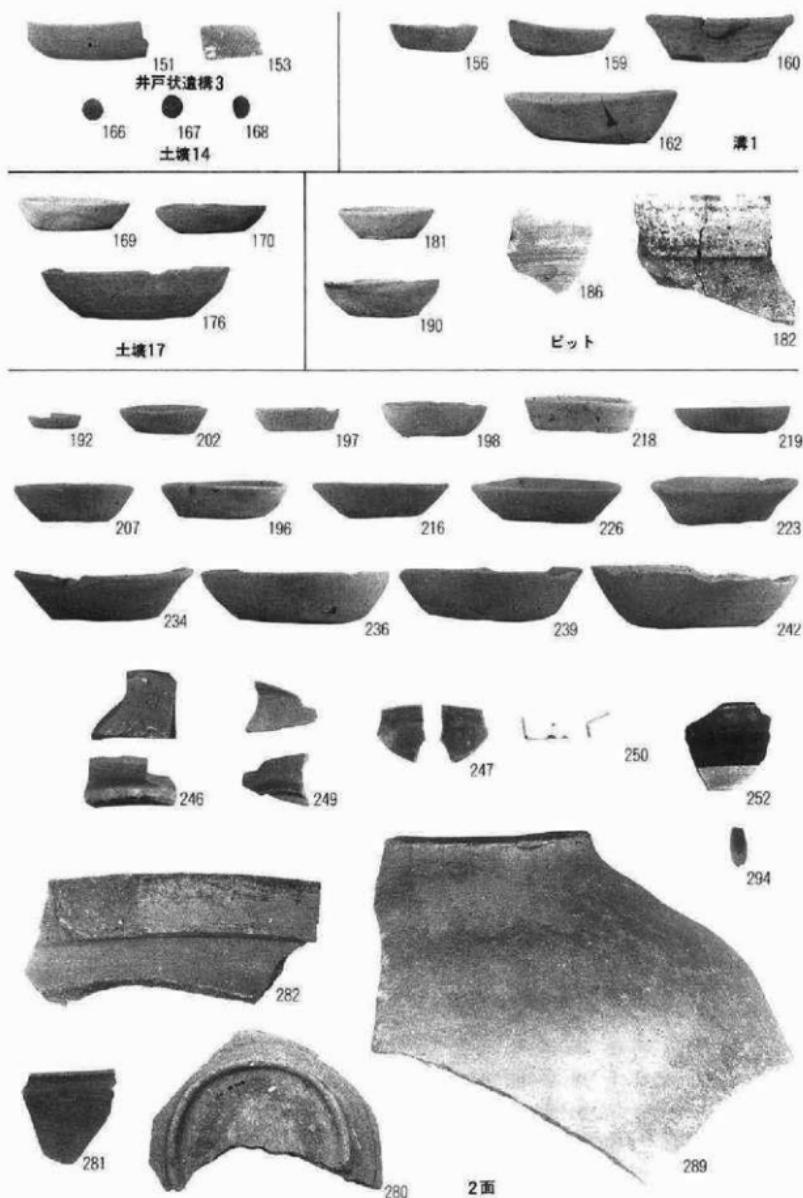


B. 井戸2 挖り方南東第22層出土
自然木（北西から）

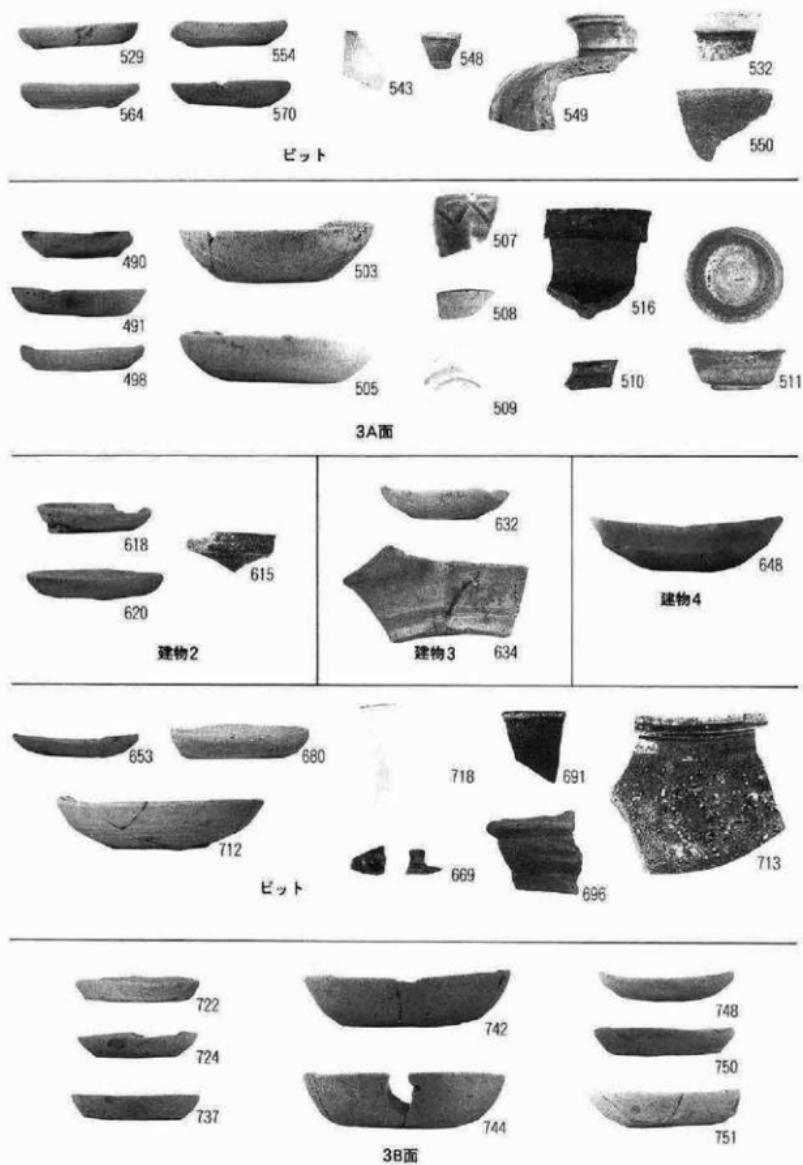
図版24

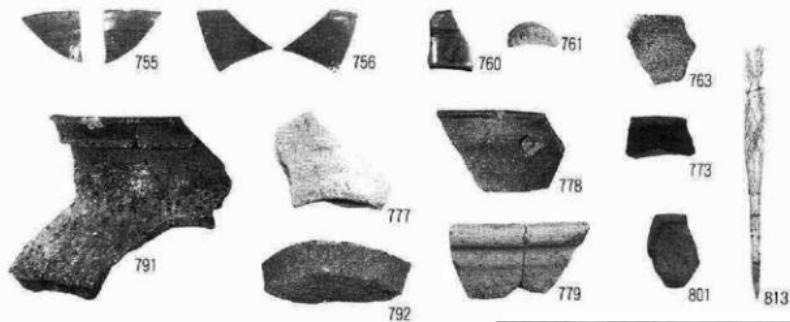


図版25









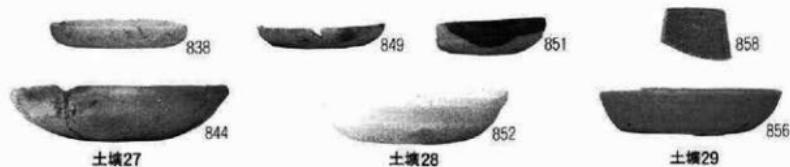
38面



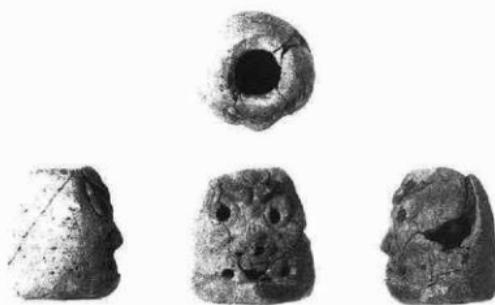
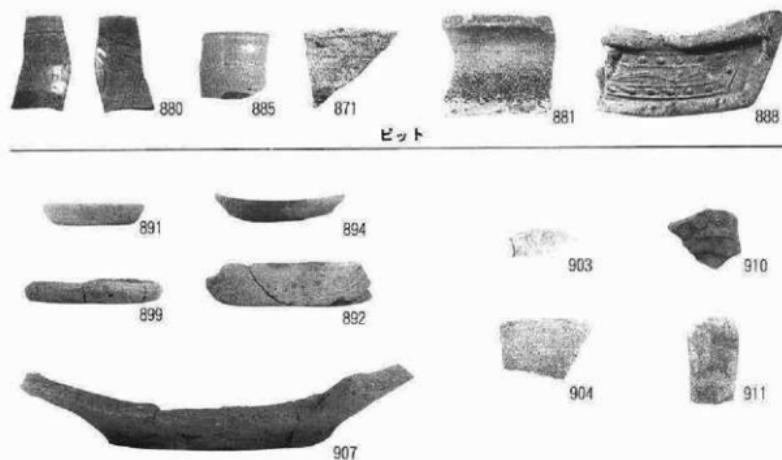
建物9



建物10



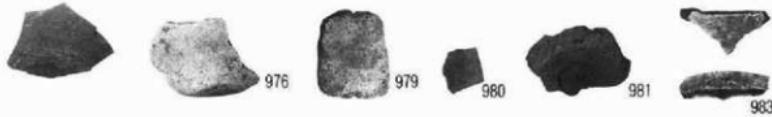
図版29



4面



小町大路確認トレンチ



中世以前



報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
シリーズ番号	12							
編集者名	原廣志							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248 神奈川県鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦1996年3月							
ふりがな 所収遺跡	しょざいち 所 在 地	コード		北緯 市町村 遺跡番号	東緯 ***	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うつのみやすしばくふ あと 宇津宮辻子幕府跡	神奈川県鎌倉市小町 二丁目389番1	204	239			940328～ 940628	150	自己住宅建設 に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
宇津宮辻子幕府跡	官衙	古墳時代・鎌倉時代～室町時代	彫立柱建物 井戸 井戸状遺構 土壙 溝 溝状遺構 石列 柱穴列 振臺 からわけ溜 柱穴	4 3 5 26 4 6 1 2 1 6 720	中世以前 ・土器器 ・滑石製模造品 ・土器片疊 中世 ・かわらけ ・常滑窯製品 ・瀬戸窯製品 ・渥美窯製品 ・青磁 ・青白磁 ・白磁 ・瓦質製品 ・土製品 ・石製品 ・鉄製品等	現小町大路から西6.5m前後で中世小町大路西側溝と思われる落ち込みを発見。 4面～3面は建物規模からみて屋敷地の主要な一角を占め、その間に建物の軸線を一新する二期が想定される。2・1面は大規模な地業によって一変、井戸や溝をもつ屋敷裏手の様相を見せる。		

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12

平成 7 年度 発掘調査報告（第 1 分冊）

発行日 平成 8 年 3 月

編集発行 鎌倉市教育委員会

印刷 中川印刷株式会社